

森原神田川遺跡 下ノ原地区

2021年

国土交通省浜田河川国道事務所
島根県教育委員会

(見返し)

(白)

(白)

森原神田川遺跡 下ノ原地区

2021年

国土交通省浜田河川国道事務所
島根県教育委員会

(白)

序

江の川は、広島県の阿佐山に水源を発し、日本海に注ぐ中国地方最大の一級河川です。江の川流域は昭和47年7月の梅雨前線による洪水など歴史上度々水害に見舞われ、日常生活はもとより地域の経済活動に少なからず支障をきたしてきました。国土交通省では、緊急時の安全の確保、地域経済の振興、及び生活圏域の連携を促進することを目的として、江の川水系河川整備計画を策定し、これに基づいて、江の川の河川改修事業を進めています。河川改修にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することができない埋蔵文化財については、河川改修事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、事業地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

本報告書は、平成30年度に実施した江津市松川町に所在する森原神田川遺跡（下ノ原地区）の調査成果をとりまとめたものです。今回の調査では、古墳時代の江の川の岸辺で祭祀に関わる出土品が発見され、当時の人々の文化を考える上で貴重な成果となりました。

本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の河川整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査及び調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

令和3年3月

国土交通省中国地方整備局

浜田河川国道事務所長 前田文雄

序

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、平成30(2018)年度に実施した一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本報告書で報告する森原神田川遺跡（下ノ原地区）では、弥生時代～古墳時代に流れていた江の川の跡と、中世～近世の川・水路の跡が発見され、大量の遺物も出土しました。

このうち、古墳時代に使われた様々な道具は、江の川の岸辺で水に関わる祭祀が行われたことを物語っています。また、水路跡は、農業のための用水路であったと見られます。中国地方最大の河川である江の川は、古くから人々の生活や生業と深く関わっていますが、その川沿いに祈りの場、生産のための施設があったことが明らかになり、当時の人々の暮らしを考える上で、貴重な発見となりました。本報告書が、この地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の作成にあたりご協力をいただきました国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所をはじめ、江津市、森原地区の方々、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

島根県教育委員会

教育長 新田英夫

例 言

1. 本書は、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成 30 年度に実施した一級河川江の川直轄河川事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。
2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

平成 30 年度 森原神田川遺跡下ノ原地区（江津市松川町八神 241 外）
令和元・2 年度 整理等作業・報告書作成

なお、調査時には調査区名を森原神田川遺跡 2 区としていたが、本報告書では調査区本来の小字名から、「下ノ原地区」として取り扱う。
3. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については株式会社堀工務店に再委託した。
4. 発掘調査は島根県埋蔵文化財調査センターが実施し、宮本正保、今福拓哉、柳浦俊一が担当した。
5. 現地調査及び報告書作成に当たっては、以下の方々・機関から有益な御指導・御協力をいただいた。
(五十音順・肩書きは当時)

調査指導
中村唯史（島根県立三瓶自然館調整幹）
調査協力
伊藤 創（江津市教育委員会主任）、渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）、松平地域
コミュニティ交流センター
6. 本調査に伴う石器類の石材鑑定については中村唯史氏に依頼した。自然科学分析は次の機間に委託して実施し、その成果は第 4 章にまとめて掲載した。
自然科学分析（花粉分析・植物珪酸体分析）：文化財調査コンサルタント株式会社
製鉄関連遺物分析：日鉄テクノロジー株式会社
7. 発掘調査に伴い出土した鉄器の保存処理は次の機間に委託した。
一般財団法人大阪市文化財協会
8. 本書に掲載した遺構は調査担当者が撮影し、遺物の写真は今福・柳浦が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員・会計年度任用職員調査員・同調査補助員・同整理作業員が行ったほか、遺物の分類や鑑定等について埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。
9. 本書の執筆は、第 1・2 章は宮本、第 3・5 章は宮本・今福・柳浦が協力して行った。第 4 章については各節ごとに執筆者を明記し、同章第 3 節については島根県古代文化センター原田敏照・岩本真実（所属は当時）の協力を得て柳浦が執筆した。
10. 註は、各章ごとに連番を振り、参考文献とともに当該章末に各章末にまとめて示した。第 4 章については節ごとに末尾に示した。
11. 写真、挿図及び表の番号は全体の通し番号により表示した。
12. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町 33 番地）にて保管している。

凡 例

1. 本書で用いた土器の分類及び編年観は、下記の論文・報告書に依拠している。

1) 繩文土器

小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』 アム・プロモーション

千葉 豊編 2010 『西日本の縄文土器』後期 真陽社

柳浦俊一 2017 「山陰地方における縄文後期土器の概要」『山陰地方における縄文文化の研究』雄山閣

2) 弥生土器

松本岩雄 1992 「石見地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社

3) 土師器・須恵器

九州前方後円墳研究会実行委員会・九州国立歴史博物館誘致推進本部 2002 『古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性—』

田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店

松山智弘 1991 「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」『島根考古学会誌』第8集

柳浦俊一 2019 「出雲における古墳時代中・後期の玉作遺跡とその特徴」『古墳時代の玉類の研究』島根県古代文化センター

岩本真実 2019 「石見地域における須恵器の編年と地域性—「石見型須恵器」再考—」『國家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第22集

4) 中近世陶磁器

上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会

森田勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」 同上

小野正敏 1982 「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」 同上

岡山県備前市教育委員会 2013 『備前焼詳細分布調査報告書』

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会

国立歴史民俗博物館 1994 『日本出土の貿易陶磁 東日本編2』

太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡XV』

東京大学埋蔵文化財調査室 1997 『東京大学構内遺跡調査研究年報I』

2. 本文、挿図、挿表、写真図版で使用した遺構記号は次のとおりである。

SR：自然河道・水路

3. 挿図中の北は測量法に基づく平面直角第III系X軸方向を示し、座標系XY座標は世界測地系による。レベルは海拔高を示す。

4. 本書で使用した第7図は国土地理院発行1/25,000地形図を、第3・5・8・9図は国土交通省浜田河川国道事務所が作成した計画平面図、第4図は国土交通省浜田河川国道事務所から提供を受けた地層推定断面図を使用して作成したものである。

5. 本書に掲載する土層等の土色は『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に従って表記した。

本文目次

序

序

例 言

凡 例

第1章 調査の経過

　　第1節 調査に至る経緯 1

　　第2節 発掘調査と整理作業の経過 4

　　第3節 調査体制 8

第2章 遺跡の位置と環境

　　第1節 地理的環境 10

　　第2節 歴史的環境 12

第3章 調査方法と成果

　　第1節 調査の方法 17

　　第2節 基本層序 20

　　第3節 検出遺構とその遺物 20

　　1. 調査の概略と検出遺構 20

　　2. 検出遺構と出土遺物 22

　　SR01 22

　　SR02 29

　　SR03 39

　　SR04 43

　　SR05 46

　　SR07 46

　　SR10 47

　　4. 遺構外出土遺物 84

　　5. 小結 111

第4章 自然科学分析

　　第1節 森原神田川遺跡出土製鉄～鍛冶関連遺物の分析調査 112

　　第2節 森原神田川遺跡下ノ原地区の花粉分析・植物珪酸体分析 120

　　第3節 土器付着の種子圧痕について 130

第5章 総括

　　第1節 遺構と出土遺物について 132

　　第2節 まとめ 135

挿図目次

第1図 遺跡の位置	1
第2図 江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所	2
第3図 調査区配置図 (S=1:2,500)	5
第4図 ポーリング調査結果と地質模式図	6
第5図 調査グリッドの設定 (S=1:2,500)	7
第6図 遺跡周辺の地形分類図 (S=1:50,000)	11
第7図 周辺の遺跡 (S=1:50,000)	14
第8図 調査区位置図及び周辺地形 (S=1:1,000)	18
第9図 調査区グリッド (S=1:500)	19
第10図 遺構配置図 (S=1:400)	21
第11図 基本土層模式図	22
第12図 中近世の遺構配置図 (S=1:400)	23
第13図 SR01平面図 (S=1:200)	24
第14図 SR01土層図 (S=1:80)	25
第15図 SR01出土遺物 (1)	27
第16図 SR01出土遺物 (2)	28
第17図 SR02・SR03平面図 (S=1:200)	29
第18図 SR02・SR03土層図 (S=1:80)	30
第19図 SR02-2 磬群実測図 (S=1:40)	31
第20図 SR02-3 磬群実測図 (S=1:40)	31
第21図 SR02出土遺物 (1)	32
第22図 SR02出土遺物 (2)	33
第23図 SR02出土遺物 (3)	35
第24図 SR02出土遺物 (4)	36
第25図 SR02出土遺物 (5)	37
第26図 SR03出土遺物 (1)	40
第27図 SR03出土遺物 (2)	41
第28図 SR04・05平面図・土層図 (平面図 S=1:200, 土層図 S=1:60)	44
第29図 SR04・05・07出土遺物	45
第30図 SR10平面図 (S=1:200)	48
第31図 SR10土層図 (S=1:80)	49
第32図 SR10出土遺物 (1)	52
第33図 SR10出土遺物 (2)	53
第34図 SR10出土遺物 (3)	54
第35図 SR10出土遺物 (4)	56
第36図 SR10出土遺物 (5)	57
第37図 SR10出土遺物 (6)	58
第38図 SR10出土遺物 (7)	59
第39図 SR10出土遺物 (8)	60
第40図 SR10出土遺物 (9)	61
第41図 SR10出土遺物 (10)	62
第42図 SR10出土遺物 (11)	63
第43図 高坏接合部模式図	64
第44図 SR10出土遺物 (12)	66
第45図 SR10出土遺物 (13)	67
第46図 SR10出土遺物 (14)	69
第47図 SR10出土遺物 (15)	70
第48図 SR10出土遺物 (16)	71
第49図 SR10出土遺物 (17)	74
第50図 SR10出土遺物 (18)	75
第51図 SR10出土遺物 (19)	76
第52図 SR10出土遺物 (20)	77
第53図 SR10出土遺物 (21)	78
第54図 SR10出土遺物 (タタキ痕・当具痕)	79
第55図 SR10出土遺物 (22)	82
第56図 SR10出土遺物 (23)	83
第57図 SR10出土遺物 (24)	84
第58図 遺構外出土遺物 (1)	85
第59図 遺構外出土遺物 (2)	86
第60図 遺構外出土遺物 (3)	87
第61図 遺構外出土遺物 (4)	90
第62図 遺構外出土遺物 (5)	91
第63図 遺構外出土遺物 (6)	92
第64図 遺構外出土遺物 (7)	93
第65図 遺構外出土遺物 (8)	94
第66図 遺構外出土遺物 (9)	96
第67図 遺構外出土遺物 (10)	98
第68図 遺構外出土遺物 (11)	99
第69図 遺構外出土遺物 (12)	100
第70図 遺構外出土遺物 (13)	102
第71図 遺構外出土遺物 (14)	103
第72図 遺構外出土遺物 (15)	104
第73図 遺構外出土遺物 (16)	107
第74図 遺構外出土遺物 (17)	108
第75図 遺構外出土遺物 (18)	109
第76図 遺構外出土遺物 (19)	110
第77図 製鍊滓・鉄塊の顕微鏡写真	116
第78図 鉄塊 EPMA 調査結果・ 含鉄鉄滓の顕微鏡写真	117
第79図 梶形鉄滓の顕微鏡写真	118
第80図 試料採取地点	120
第81図 試料採取位置	120
第82図 花粉ダイアグラム (第1地点)	122
第83図 花粉含有量ダイアグラム (第1地点)	122

第 84 図 花粉ダイアグラム（第2地点）	123	第 87 図 植物珪酸体ダイアグラム（第2地点）	124
第 85 図 花粉含有量ダイアグラム（第2地点）	123	第 88 図 鉄製品製作工程想定図	134
第 86 図 植物珪酸体ダイアグラム（第1地点）	124		

挿表目次

第 1 表 SRO1 中世陶磁器集計表	28	第 21 表 石斧集計表	95
第 2 表 SRO1 近世陶磁器集計表	28	第 22 表 剥片石器・剥片等集計表	95
第 3 表 SRO2 中世陶磁器集計表	38	第 23 表 遺構外中世陶磁器集計表	106
第 4 表 SRO2 近世陶磁器集計表	38	第 24 表 遺構外近世陶磁器集計表	106
第 5 表 SRO3 中世陶磁器集計表	42	第 25 表 出土鉄器集計表	110
第 6 表 SRO3 近世陶磁器集計表	42	第 26 表 供資材の履歴と調査項目	119
第 7 表 SRO4 中世陶磁器集計表	46	第 27 表 供資材の化学組成	119
第 8 表 SRO5 中世陶磁器集計表	46	第 28 表 出土遺物の調査結果のまとめ	119
第 9 表 SRO7 中世陶磁器集計表	46	第 29 表 同定対象分類群	121
第 10 表 SR10 出土土師器（甕）集計表	65	第 30 表 微化石概查結果	121
第 11 表 SR10 出土土師器（高环）集計表	65	第 31 表 花粉化石組成表	124
第 12 表 SR10 出土土師器（碗）集計表	65	第 32 表 植物珪酸体化石組成表	126
第 13 表 SR10 出土須恵器（环蓋）集計表	72	第 33 表 SR01 出土遺物観察表	137
第 14 表 SR10 出土須恵器（高环）集計表	72	第 34 表 SR02 出土遺物観察表	138
第 15 表 SR10 出土須恵器（壺・甕）集計表	73	第 35 表 SR03 出土遺物観察表	140
第 16 表 SR10 出土須恵器（甕当具痕）集計表	73	第 36 表 SR04 出土遺物観察表	142
第 17 表 SR10 出土ミニチュア土器集計表	81	第 37 表 SR05 出土遺物実観察表	142
第 18 表 繩文土器型式別集計表	88	第 38 表 SR07 出土遺物観察表	143
第 19 表 繩文櫛り集計表	88	第 39 表 SR10 出土遺物観察表	143
第 20 表 繩文時代後期無文土器集計表	88	第 40 表 遺構外出土遺物観察表	155

本文写真目次

写真1 資料1（縄文土器）のレプリカ作成箇所と走査（型）電子顕微鏡（SEM）写真	130
写真2 資料2（土師器）のレプリカ作成箇所と走査（型）電子顕微鏡（SEM）写真	130

写真図版目次

図版表紙 SR10 出土遺物

- 図版 1** 1. 下ノ原地区 遠景（南上空から）
2. 下ノ原地区 遠景（北上空から）
- 図版 2** 1. 下ノ原地区 全景（上空から）
2. 下ノ原地区 全景（南から）
- 図版 3** 1. SRO1（南西から）
2. SRO1 土層（北西から）
3. SRO2・03・07 検出状況（南東から）
- 図版 4** 1. SRO2 完掘後（東から）
2. SRO2-2 石積検出状況（西から）
3. SRO2-3 石積検出状況（西から）

4. SR02・03 土層（南東から）

- 図版 5** 1. SR03 完掘後（東から）
2. SR04・05 完掘後（東から）
3. SR04 土層（東から）
- 図版 5** 4. SR05 土層（東から）
- 図版 6** 1. SR10 完掘後（北から）
2. SR10 土層1（北西から）
3. SR10 土層2（北東から）
4. SR10 土層3（北から）
5. SR10 挖削作業風景
6. 小学生による発掘体験（SR10 挖削作業）

図版 51	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 73	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 52	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 74	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 53	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 75	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 54	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 76	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 55	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 77	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 56	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 78	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 57	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 79	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 58	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 80	1. 造構外出土遺物 / 鉄器集合（鉄素材・未成品・小札） 2. SR01・02 出土遺物
図版 59	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物	図版 81	1. SR02 出土遺物 2. SR02・03 出土遺物
図版 60	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物	図版 82	1. SR03 出土遺物 2. SR03・05・07 出土遺物
図版 61	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物	図版 83	1. SR10 出土遺物 2. SR10 出土遺物
図版 62	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物	図版 84	1. SR10 出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 63	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物	図版 85	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物
図版 64	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物	図版 86	1. SR02・造構外出土遺物 2. SR02・造構外出土遺物
図版 65	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		
図版 66	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		
図版 67	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		
図版 68	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		
図版 69	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		
図版 70	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		
図版 71	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		
図版 72	1. 造構外出土遺物 2. 造構外出土遺物		

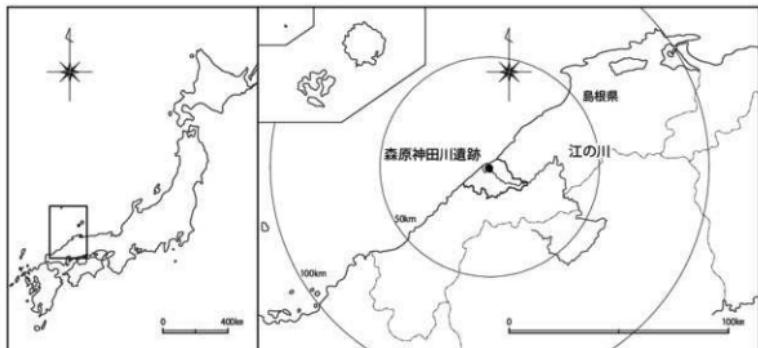
第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

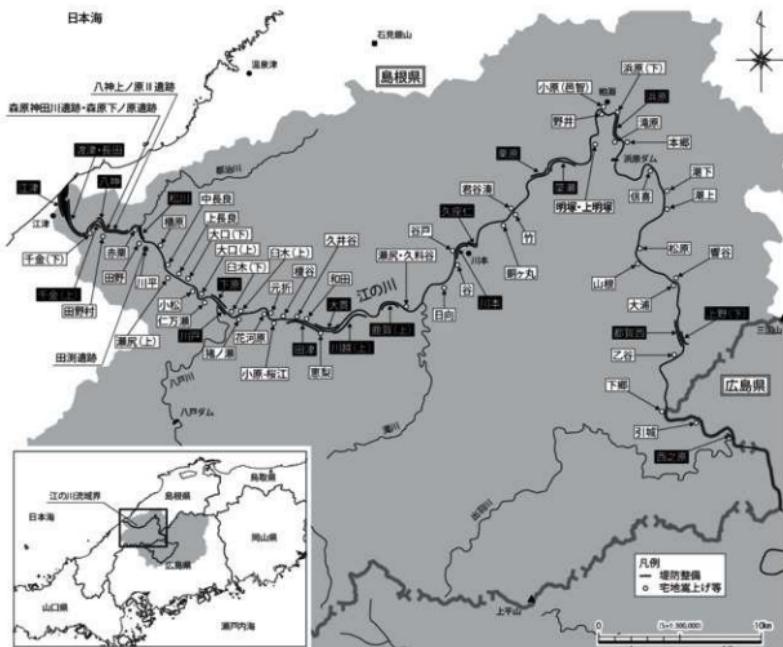
1. 事業計画の概要

江の川は、阿佐山（広島県北広島町）に端を発し、島根県江津市で日本海に注ぐ一級河川である。流域面積は約 3,900km²、幹川流路延長 194.0km を誇る中国地方最大の河川であり、「中国太郎」の別名を持つ。江の川は 3 支流が合流して盆地を形成する上流域と、山間の狭隘部を流れる中・下流域で構成されており、その構造から口（河口）が狭く、底（盆地）が広い「ひょうたん形河川」とも呼ばれている。こうした特性から、上流部の盆地では流れ込んだ雨水が下流に抜けにくく、中・下流域では増水時に水位が一気に跳ね上がるなど、常に洪水の危険をはらんでいる。記録によれば、1620～1945 年の間で 133 回の洪水が知られており、近年では平成 22（2010）年 7 月の豪雨で浸水家屋 57 戸、平成 30（2018）年 7 月の豪雨では島根県内の流域だけでも 290 棟以上の家屋に浸水被害が生じている。

太平洋戦争終結後間もない昭和 20（1945）年 9 月、日本列島を襲った枕崎台風は各地に甚大な被害をもたらし、江の川流域においても死者・行方不明者 2,091 人、家屋全・半壊及び流失 8,183 戸、床上・床下浸水 68,536 戸の大災害となった。これを受けて、昭和 28（1953）年から上流部を中心に直轄河川改修事業が着手され、昭和 41（1966）年には「江の川水系工事実施基本計画」が策定された。この計画によって流域の護岸整備や堤防の拡築が進められ、昭和 49（1974）年には土師ダムが完成した。この間、昭和 47（1972）年には、梅雨前線に伴う集中豪雨により各所で堤防の決壊や越水が発生した。三次盆地中心部の大半が水没し、流域の死者・行方不明者 28 人、家屋全半壊・一部破損 3,960 戸、床上・床下浸水 14,063 戸、国鉄三江線船瀬第一橋梁流出など、未曾有の被害を出した。この洪水を契機として、昭和 48（1973）年には基本計画が改定され、新たな基本高水流量に基づく治水対策が進められることとなった。この中では、宅地・家屋の嵩上げと築堤を同時に施工する、土地利用一体型水防災事業が全国に先駆けて盛り込まれた点が特筆される。



第1図 遺跡の位置



第2図 江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所

平成 19（2007）年 11 月、河川法の改定をふまえて「江の川水系河川整備基本方針」が策定され、平成 28（2016）年 2 月には向こう 20～30 年間の治水事業計画として「江の川水系河川整備計画」が整備された。現在はこれらの計画に基づき、築堤の構築や水防災事業が進められている（第 2 圖）。

遺跡の所在する江津市八神地区は江の川下流(4.7~7.0km間右岸)にあたる。現堤防の高さや断面の不足を解消し、河川の氾濫防止に努めるための堤防整備が計画されており、計画高水位までの整備を第一段階、計画堤防高までの整備を第二段階とした段階施工による実施が予定されている。本事業により、100年に一度というような洪水が発生した場合にも、浸水面積の減少、人的被害の防止が図られることとなっている。

2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整

平成 26（2014）年 7 月、国土交通省浜田河川国道事務所から江津市教育委員会に対し、江の川直轄河川改修事業予定地内（八神地区）の埋蔵文化財の有無について照会があった。この際、島根県教育委員会文化財課を経由しなかったため、浜田河川国道事務所と市教育委員会の間で対応が協議され、市教育委員会が平成 27 年度中に実掘確認調査を実施することとなった。

平成27(2015)年7月、「江の川水系河川整備計画」策定にかかる第1回連絡調整会議が開催され、国土交通省より県関係部局へ事業内容の説明会があった。これを受け同年9月、関係する浜田河川国道事務所、県教育委員会（文化財課・埋蔵文化財調査センター）、市教育委員会の三者で協議

が行われ、国事業である河川整備事業に関する調査は埋蔵文化財調査センターが対応することを確認した。また、これまでの経緯を考慮し、市教育委員会が試掘確認調査を実施した一部の遺跡については、市教育委員会がそのまま発掘調査を実施することなど、当面の調整が図られた。同年11月、県土木部河川課を通じ、県教育委員会に対して「江の川水系河川整備計画（案）」の意見照会があり、埋蔵文化財については事前協議が必要な旨を回答した。

平成27（2015）年11月、浜田河川国道事務所から県教育委員会に事業予定地内（江津市松川町太田～邑智郡美郷町竹）の埋蔵文化財の有無について照会（平成27年11月26日付け国中整浜河管第72号）があった。県教育委員会は、市教育委員会に照会の上、状況の明らかな江津市八神地区内の4遺跡について回答するとともに、他の地区については、分布調査及び試掘確認調査が必要な旨を付した（平成28年1月26日付け島教文財第818号）。これを受け、平成28（2016）年2月には関係三者による協議がもたれ、今後各地区の事業進捗にあわせて分布調査と試掘確認調査を進めていくこととなった。江津市川平地区では平成28年3月～6月にかけて県教育委員会と市教育委員会が共同で分布調査及び試掘確認調査を行って田淵遺跡を発見し、平成29年度には県埋蔵文化財調査センターが田淵遺跡の発掘調査を実施した。

八神地区では、市教育委員会により平成26年度から平成27年度にかけて試掘確認調査が実施され、八神上流工区で八神上ノ原遺跡（県営農地環境整備事業）と八神上ノ原II遺跡、八神下流工区で森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡の4遺跡が発見された。これらは関係三者の協議に基づき、事業地内の八神上ノ原II遺跡を市教育委員会、森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡を県教育委員会が対応することとなった。

各遺跡の発掘調査は平成28年度から開始され、市教育委員会により八神上ノ原II遺跡が調査された。森原神田川遺跡は用地買収等の条件が整った箇所から調査することとなり、平成29年度に森原神田川遺跡大津地区、平成30年度に森原神田川遺跡下ノ原地区の発掘調査を県埋蔵文化財調査センターが実施した。

3. 法的手続き

森原神田川遺跡下ノ原地区は、平成30（2018）年3月9日付け国中整浜河管第83号で文化財保護法第94条第1項の規定による通知が国土交通省浜田河川国道事務所長から島根県教育委員会教育長あてに提出された。それに対して県教育委員会は、試掘調査の結果を踏まえ、平成30年3月26日付け島教文財第49号の131で記録作成のための発掘調査の実施を勧告した。

下ノ原地区的発掘調査は県埋蔵文化財調査センターが実施することとなり、文化財保護法第99条第1項の規定による通知を、平成30（2018）年5月7日付け島教理第15号で島根県埋蔵文化財調査センター所長から島根県教育委員会教育長あてに提出した。現地調査終了後、遺跡は記録保存することとなり、平成30年12月27日付け島教文財第410号の4で島根県教育委員会教育長から浜田河川国道事務所長あてに終了報告を提出した。

第2節 発掘調査と整理作業の経過

1. 試掘確認調査と調査区の設定

前述したように、森原神田川遺跡は江津市教育委員会が平成26～27年度に実施した試掘確認調査で発見された（第3図）。平成26年度調査は県営農地環境整備事業に伴うもので、平野部の中央付近を横断するようにトレンチを20箇所設定して実施した。結果、TR24・TR29・TR32（H26TR24・29・32）の表土下1.5mで水田跡とみられる粘土と砂層が入り混じった土層を確認し、TR24・TR29では同一層上面で足跡を検出するなど、対象地の広い範囲で遺構面の広がりを確認した。続いて平成27年度に本事業地内の試掘確認調査を実施し、前年度調査対象地の西側隣接地にトレンチを11箇所設定（H27TR10～21）した。結果、TR10・TR11の地表下1mの砂質土で土器片が出土するなど遺物包含層を確認し、TR16やTR18では地表下2mで水田跡とみられる遺構面が検出された。この結果を受け、26年度調査対象地に加えTR10・TR11及びTR16・TR18を含むエリアが森原神田川遺跡の範囲とされた。遺跡の面積は約23,000m²である。なお、平成29（2017）年10月には島根県埋蔵文化財調査センターが試掘確認調査を実施した（第3図 H29TR1～4）。この調査により、地表下1～2mで遺物包含層の存在を確認したため、下ノ原地区的調査面積を確定した。

今回の本事業に伴う発掘調査は、H27TR10・11周辺の南側調査区と、H27TR16・18周辺の北側調査区の2箇所を調査対象箇所とし、用地買収等の条件が整った箇所から本調査を実施することとなった。なお、調査対象箇所の間には国土交通省浜田河川国道事務所が外部委託して実施したボーリング及びスウェーデン式サウンディングにより粘土層が堆積していることが判明している。森原神田川遺跡はこの粘土層の周辺に堆積する砂層に形成された遺跡であると考えられる（第4図）。調査時には便宜的に北側を1区、南側を2区とした。しかし、各調査区本来の小字名が、地域の歴史や実態をより反映していることから、1区を大津地区、2区を下ノ原地区として取り扱うこととした。調査にあたっては、両調査区で座標系に基づく座標軸を合わせた共通のグリッドを設定した（第5図）。調査対象面積は、大津地区が2,500m²、下ノ原地区が3,000m²である。

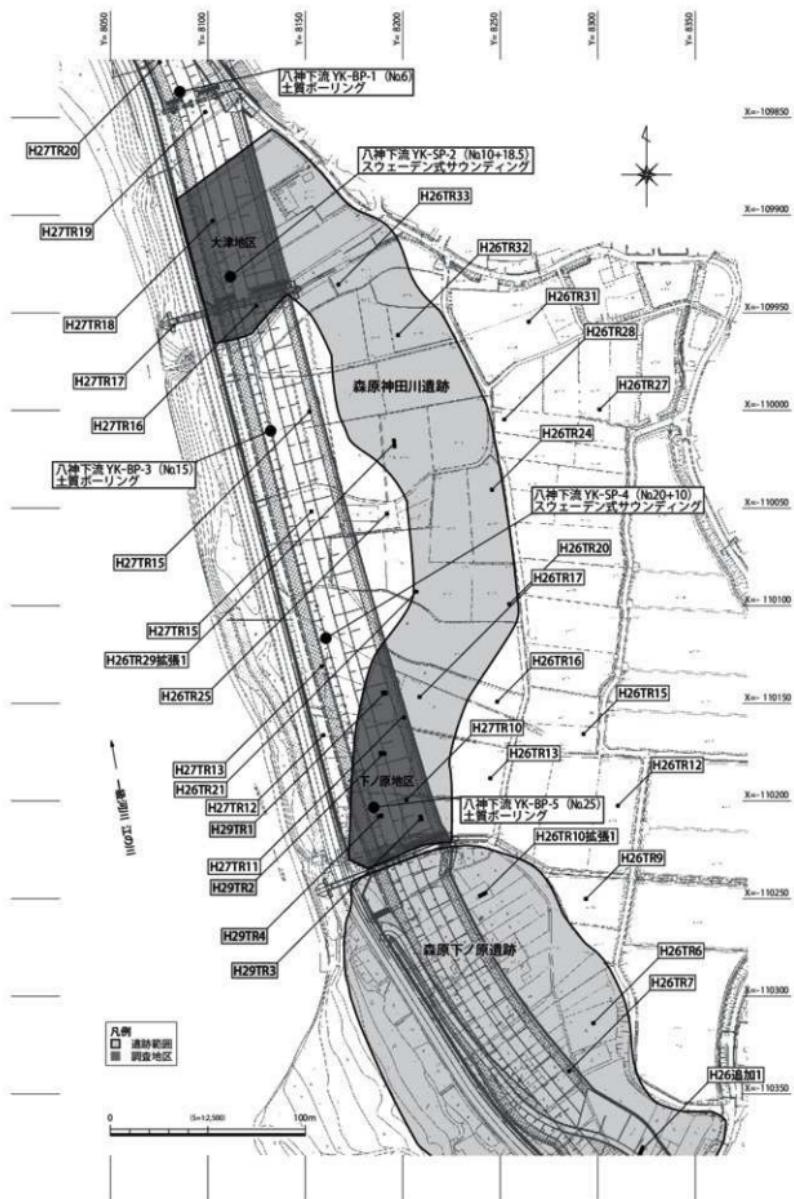
なお、本報告書では、下ノ原地区的調査成果について報告することとし、大津地区的調査成果については『森原神田川遺跡大津地区』（島根県教育委員会2020）を参照していただきたい。

2. 発掘作業

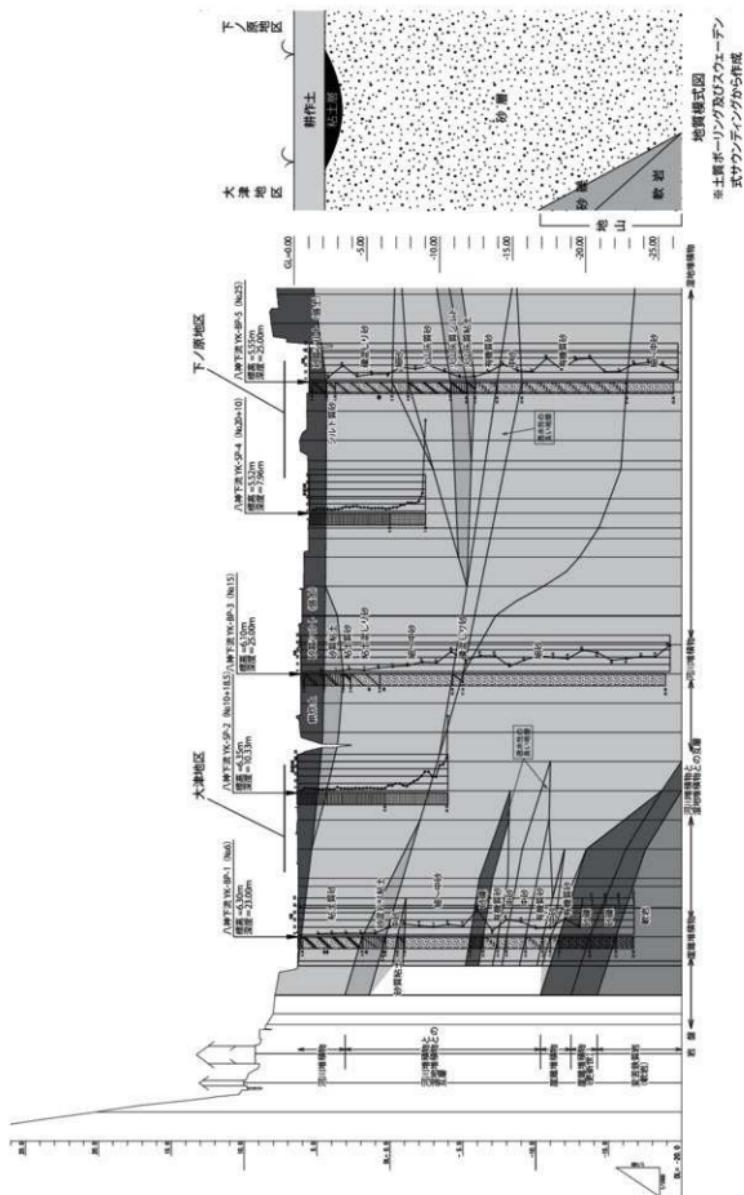
調査対象地は、大津地区と同じ平野の南部に位置する。下ノ原地区的南側には、小河川を挟んで森原下ノ原遺跡が存在する微高地が存在する（第3図）。調査区は事業区画に合わせて設定し、平成30（2018）年5月21日から発掘作業に着手した。調査区には近現代の水田耕作土が堆積しており、これを重機で掘削したのち、6月4日から人力による包含層掘削を開始した。

調査区東側では地表下約1.2mでほぼ水平に堆積する粘質土層を確認した。この粘質土層は、後述するSR10によって形成された自然堤防の最上位に堆積していることがわかった。また、粘質土層上面で東から西へ流れるSR01～05・07の6つの自然流路、水路を確認した。なお、SR06・08・09については、遺構番号を整理した結果、欠番とした。

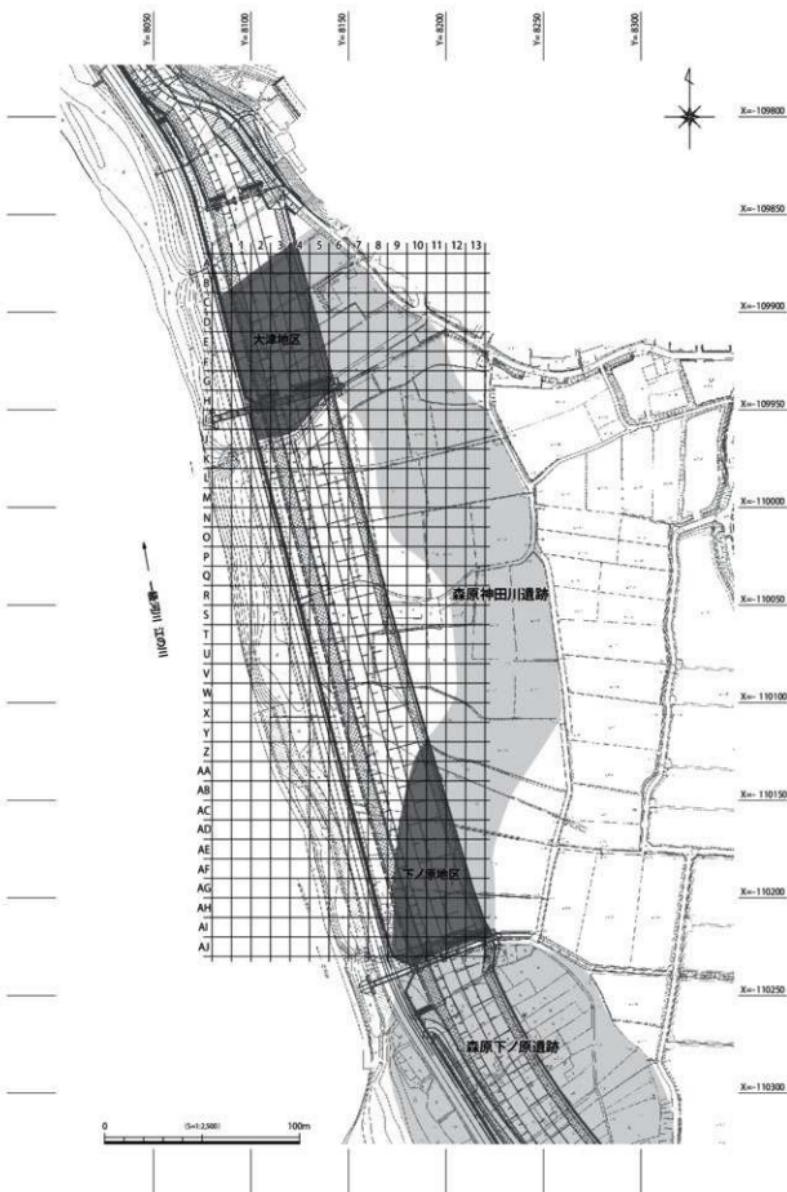
その後、SR01～05・07の調査を行い、中世後期から近世のものであることがわかった。この



第3図 森原神田川遺跡の調査区配置図 (S=1:2,500)



第4図 ボーリング調査結果と地質模式図



第5図 調査グリッドの設定 (S=1:2,500)

うちSR01については第3章2節で後述するが、所属時期も考慮し部分的な調査にとどめた。

SR01ほか自然流路、水路の調査を終えた後、10月15日から調査区西側の包含層掘削を開始した。包含層は西側に行くほど深くなつており、現在の江の川に平行するように南北方向に流れる大きな河道の埋土であることが判明したため、この河道をSR10とした。SR10の最深部からは古墳時代後半の土器片が大量に出土したほか、滑石製勾玉（第56図8）などの祭祀関連遺物も確認された。

11月4日には遺跡の現地公開を行い、地元を中心に約30名の参加があった。

11月13日には中村唯史氏の調査指導を受け、2つの自然堤防に挟まれ、淵状になった旧河道に洪水でオーバーフローした砂が堆積して埋没したことなどを教示を受けた。また、古環境復元のため文化財調査コンサルタント株式会社に委託し、SR10の堆積土から花粉分析及び珪酸体分析用の資料を採取した。

11月15日には空中写真撮影を実施した。その後11月19日に完了検査を受け、作業が終了した。その後調査区の埋め戻しを行い、国土交通省に引き渡しを行った。

なお、この間、全国に大きな被害をもたらした平成30（2018）年7月豪雨が発生した。当地域においても7月6日夜～7月7日早朝にかけて江の川が氾濫した。調査区が水没し、土砂も流入したため発電機など発掘用の機材にも被害が出た。復旧作業には10日余りを要し、作業再開は7月19日であった。

3. 整理作業

遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬季は埋蔵文化財調査センターにて復元・実測等の整理作業を行った。このほかに、現地調査時に採取した土壤サンプルを基に、遺跡周辺の古環境復元のための分析を実施した。分析結果は第4章第2節で報告する。また、出土鉄滓・鉄塊などの鍛冶関連遺物及び鉄素材の一部についても分析を実施した。結果は第4章第1節に記載した。

令和元・2年度には、現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類について引き続き総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレス、遺物の写真撮影、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等にはAdobe社のソフトを使用した。

第3節 調査体制

発掘調査・報告書作成は次の体制で行った。

調査主体 島根県教育委員会

平成30年度

事務局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループGL 神田康夫、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一
埋蔵文化財調査センター

所長 植 真治、総務課長 石橋 聰、高速道路調査推進スタッフ調整監 今岡 操、
管理課長 守岡正司、調査第二課長 角田徳幸

(担当者) 調査第二課調査二係長 宮本正保、同主事 今福拓哉、
嘱託職員 柳浦俊一、臨時職員 幸村康子・無川美和子

令和元年度

事務局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループ GL 桑谷昭年、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一
埋蔵文化財調査センター

所長 植 真治、総務課長 和田 諭、高速道路調査推進スタッフ調整監 角田徳幸、
管理課長 守岡正司

(担当者) 調査第二課長 宮本正保、嘱託職員 柳浦俊一、臨時職員 角森玲子

令和2年度

事務局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループ GL 桑谷昭年、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一
埋蔵文化財調査センター

所長 植 真治、総務課長 和田 諭、高速道路調査推進スタッフ調整監 角田徳幸、
管理課長 守岡正司

(担当者) 高速道路調査推進スタッフ企画幹 宮本正保

【参考文献】

国土交通省 2007『江の川水系河川整備基本計画』

島根県 2014『江の川水系下流支流域河川整備計画』

国土交通省 2016『江の川水系河川整備計画 国管理区間』

国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所ホームページ

江津市教育委員会 2018『八神上ノ原II遺跡』

島根県教育委員会 2018『田渕遺跡』

島根県教育委員会 2020『森原神田川遺跡大津地区』

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

森原神田川遺跡は、島根県江津市松川町太田～八神に所在する。遺跡は中国地方最大の河川である江の川下流域右岸に位置し、急峻な山塊が囲う約 16ha ほどの沖積平野に形成された自然堤防とその後背低地に立地する（第6図）。現状で自然堤防は国道や竹林となっている。後背低地は水田あるいは畑地として利用され、集落は平野部東側の山地の麓に展開する。自然堤防は江の川の流路と並行して発達しているが、標高は 8m 程度であり、集中豪雨の際には自然堤防を越流し氾濫原として低地に河川堆積物がもたらされたことがうかがえる。今回調査地の標高は約 5～6 m であり、江の川の氾濫形態による影響を直接的に受けた立地といえる。

1. 江の川と流域の成り立ち

江の川は、広島県北広島町の阿佐山に源を発し、三次市、邑南町、江津市など 8 市 7 町を経て日本海に注ぐ一級河川である。流域面積は約 3,900km²、幹川流路延長 194.0km と中国地方最大の河川であり、「中国太郎」の別名をもつ。「江の川」の名称は、昭和 41（1966）年の一級河川指定に際し定められたものであり、旧河川法時代には「江川」（島根県：昭和 5 年告示）、「郷川」（広島県：大正 8 年告示）とされていた。

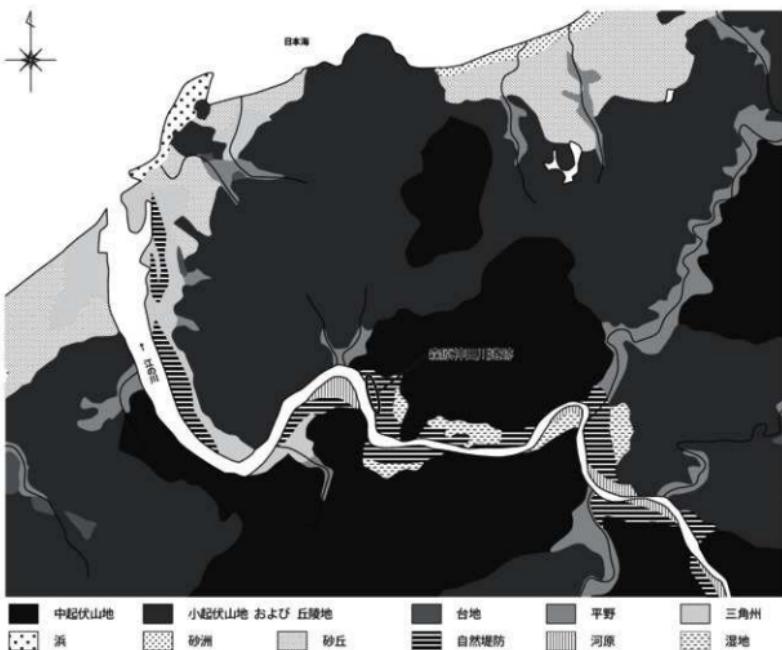
江の川は全国的に珍しい、山地を横断する「先行河川」である。新生代第三紀末葉に起きた地盤隆起にもかかわらず、江の川の流れはそれ以上のスピードで下刻浸食を続け、結果として中国山地を断ち切って日本海へと流れ下る、長大な水系が形成された。上流域には中生代白亜紀の溶結性凝灰岩質岩石帯が広がる。流域の大部分が山間の狭隘部にあたり、西城川や馬洗川などが合流する広島県三次盆地付近を除き、規模の大きな平坦地は存在しない。

こうした地勢的条件のもと、人々は急峻な山と川に挟まれた狭小地に居を構え、古くから生活を営んできた。流域の土地利用状況を見ると、山林が約 92%、水田や畑地等が約 7%、宅地等の市街地は僅か 1% である（国土交通省 2016）。平坦な土地が限られるため、流域には比較的小規模な集落が数多く分散、点在している。流域内人口は約 18.4 万人である。

2. 江の川と水運

江の川では水運が古くから盛んであった。これまで発掘調査例はほとんどないが、江の川を横断する横舟（渡し舟）だけでなく、上り下る荷舟が立ち寄る船津が各地に存在したことは間違いない。古記録によれば、少なくとも中世後半には上流域から河口までを走破する物資輸送も行われていたようである。江の川沿岸には中世の山城が点在しており、江の川が戦略上の理由だけでなく物流の動脈としても意識されていたことがうかがえる。

一般に荷舟による物資輸送は、河川整備が進められた近世から発達するが、江の川においては少し事情が異なっていた。上流域では、広島藩による津留統制（藩外交易の禁止措置）によって越境輸送が制限されていたため、舟運は短距離を主体とするものが中心であったらしい。一方、中・下



第6図 遺跡周辺の地形分類図 (S=1:50,000)

流域では東岸に石見銀山を中心とする天領が置かれると、流域には荷抜けや抜け売りを防ぐため川舟番所（口番所）が各地に設置された。積み荷のある舟は、番所で荷の内容に応じ運上金を支払い通行する必要があった。記録によれば、江の川流域の口番所の運上金額は、日本海沿岸のそれを大きく上回っており、江の川舟運の繁榮がうかがわれる。近世後半の江の川流域では銅製鉄が盛んに行われており、操業に必要な砂鉄や木炭をはじめ、生産された銑鉄などの輸送はもっぱら舟運が担っていた。木炭は灰吹き法を用いる銀精錬においても必要不可欠であり、各地におかれた御立山由来の木炭の輸送も江の川に支えられていた。江の川河口に位置する郷津（江津）は、北前船の寄港地として栄え、同時に江の川を介した山間部への中継基地でもあった。そのため郷田村（現江津町付近）は江の川西岸に位置しながら、永らく石見銀山領とされていた。中・上流域からは銑鉄や木炭のほか木材や和紙などの特産物が、沿岸部からは塩や米などが運ばれた。

明治時代の幕開けとともに津留統制が解かれると、舟運はさらに発展した。明治20年代には800隻を超える荷舟が稼働し、流域の船着き場は50か所を数えたという。江津—三次間約120kmを「下り2日、上り5日」で結んだ。便数は柏淵—郷田間が月平均50往復、都賀—柏淵間が同70往復に達した。大正時代にはプロペラ船も投入され、江津—柏淵間を1日2往復した。しかし、発電所の取水堰建設により三次への航路が分断されたこと、沿岸の道路網整備の進展などにより、物流の中心は陸上輸送へと転換してゆき、舟運は急速に衰退をはじめた。大正15（1926）年から始まった国鉄三江線（2018年全線廃止）の建設工事は、昭和5（1930）年の石見江津—川戸間開

業を皮切りに順次延伸し、昭和12（1937）年には当初計画の浜原までが全通した。こうして流域の物流を担ってきた江の川の舟運は、終焉を迎えることとなった。

第2節 歴史的環境

江の川は広島県北部の中国山地に源を発し、三次盆地を経て中国山地脊梁部を貫流して日本海に注ぐ。上流域にあたる広島県側では支流河川が合流する三次盆地が形成され、低丘陵上に大規模な古墳群など数多くの遺跡が密集する。一方、中・下流域では、山間の峡谷化した流域の両岸に形成された小規模な河岸段丘や自然堤防上に遺跡が孤立的に点在するところに特徴があり、現状で大規模な集落跡や古墳等は知られていない。従って、江の川沿岸部の遺跡の様相は不明瞭な点が多いといえるが、森原下ノ原遺跡（第7図2）では、縄文時代から江戸時代前期にかけての遺物が多数出土し、遺構面も複数確認するなど、同一箇所で生産活動が継続して営まれる様子が明らかになつた。ここでは、日本海沿岸部も含めた江の川下流域における遺跡の変遷や概要を述べる。

1. 旧石器・縄文時代

江の川流域においては、旧石器時代の遺跡は現在のところ確認されていない。縄文時代の遺跡は海浜部に多く、後期に入ってから内陸部にもみられるようになる。主な縄文時代の遺跡としては、尾浜遺跡（49）、埋築遺跡（63）が知られており、尾浜遺跡では縄文時代後期のクロスナ層からまとまった遺物が出土した。埋築遺跡では、晚期の突帯文土器が確認されている。また、波子遺跡（江津市波子町）は中期の遺跡として古くから知られている。

2. 弥生時代

弥生時代の遺跡は、江の川以東では埋築遺跡と波来浜遺跡（60）、江の川以西では古八幡付近遺跡（江津市敬川町）などがあり、時期が下るにつれて遺跡数が増加し一円に広がっていく。

集落遺跡としては、埋築遺跡、高津遺跡（65）が知られている。埋築遺跡では、前期の土器を伴う溝状遺構が調査された。また、包含層からは中期の土器も出土している。高津遺跡では、後期の住居が確認されている。

波来浜遺跡では、中期から後期にかけての貼石をもつ墳丘墓が確認されている。特に中期の墳丘墓は、特徴的な貼石の様子から四隅突出型墳丘墓の祖型ではないかという指摘もある。後期の墳丘墓には副葬品や規模などに差異がみられ、階層差を示しているとの指摘もされている。

3. 古墳時代

古墳時代の集落遺跡としては、高津遺跡で古墳時代初頭から中期の住居が確認されている。また、後期の粘土探掘坑と思われる土坑群が発見されており、人々が古墳時代を通じてこの周辺で生活をしていたことがうかがえる。尾浜遺跡では前期の土師器が数点表採されており、波来浜遺跡では集落の全容は把握できないものの、土師器、須恵器、鉄斧などが出土している。

この地域では大型の古墳は知られていないが、古墳時代後期になると、高野山古墳群（江津市千田町・二宮町）や佐古ヶ岡横穴墓群（59）などが築かれる。これらは、横穴式石室を持つ前者と、

横穴墓からなる後者で異なった様相をみせている。

4. 古代

律令時代には、中央政府が地方支配を円滑に進めるための道路網の整備が求められ、全国で地方主要道が設定されていく。山陰地方にも山陰道が設けられ、さらに一定の距離ごとに駅馬を備えた駅家が置かれた。『延喜式』によれば、石見地方では、波柿・託農・樟道・江東・江西・伊甘の6駅が設置された。

江津市内における古代山陰道の経路は、歴史地理学の推定作業によると、江の川以東は幅6～14mの道路痕跡が、畿内の方向へは室山神（浅利富士）を正面に、石見国府方面には大崎鼻を目がけてほぼ一直線につながるという。また江の川両岸には、江東駅・江西駅が設置されていたとされる。現状で駅家といえる遺跡は確認されていないが、江の川沿いの長田遺跡（29）、東部の高津遺跡、波来浜遺跡は、推定されている古代山陰道の経路付近に位置しており、関係性が考えられている。長田遺跡では、奈良から平安時代にかけての土師器片・須恵器片が採集されている。また、高津遺跡では、「郡」のヘラ描き須恵器环が出土している。波来浜遺跡では、同時期の須恵器片が数百点出土しており、その他にも製塙土器・土錘や須恵器・石帶を伴った火葬墓が調査されている。

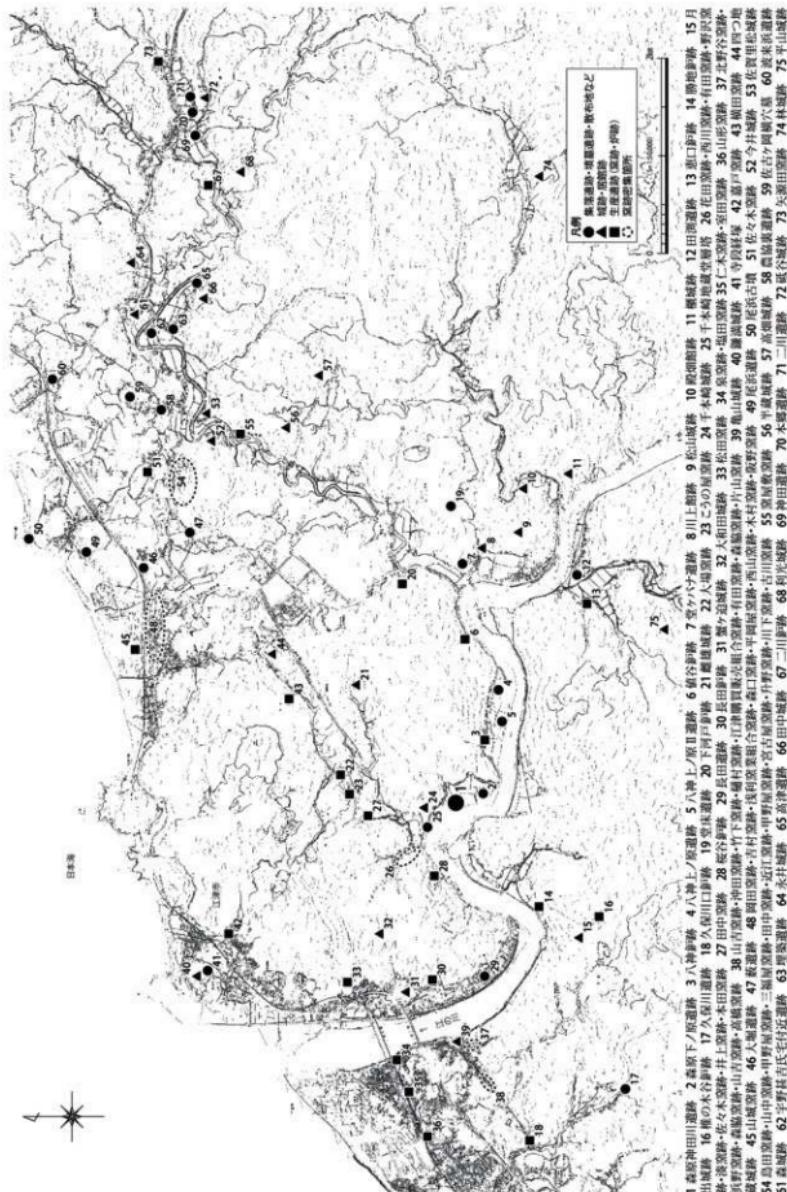
なお、『日本書紀』（720年成立）に「素戔嗚尊下至於安藝國可愛之川上也」¹⁾との記載がある。広島県域では江の川上流を「可愛川（えのかわ）」と呼ぶことから、江の川を「可愛川」に比定する説もある。

5. 中世

中世前期の江の川の様相は、資料が乏しく不明な点が多い。しかし、江の川は古くから水運が盛んであり、この頃には遠く三次周辺まで往来していたという。詳細は不明ながら、江の川下流域にも多くの船着き場が存在していたことは確実であり、山陰道、温泉津道や福光道とともに地域内交通の要として機能していたと考えられる。江の川左岸の田淵遺跡（12）は、松川を経て跡市へ続く街道筋に位置し、12～13世紀を中心とする柱穴列や小鍛冶炉が確認された。江の川右岸に位置する八神上ノ原遺跡（4）でも、ほぼ同時期の建物や遺物が見つかっており、当時交通の要衝として栄えていた一端がうかがえる。

南北朝期の動乱の際に、当時の地頭であった中原氏をはじめ石見の諸将の多くが南朝方に与しており、度々北朝方と争っていた。江の川右岸の松山城跡（9）は、南北朝期に地頭として近江国から入部した中原氏（河上氏）により築城されたと伝えられており、建武3（1336）年に北朝方の攻撃を受け、翌4年にも城付近で戦闘が行われたとの記録が残る。詳細は不明だが、森原神田川遺跡の北側丘陵には千本崎城跡（24）があり、丘陵先端には千本崎地蔵堂層塔（25）が1基存在する。森原神田川遺跡内には小字名として「大津」が認められるなど、周辺は江の川水運の拠点的地域の一つであったことがうかがえる。

また16世紀半ばから17世紀には、金や銀が国内外の貿易において重要な位置を占めるようになる。日本列島の各地で、鉱物資源の開発が競って進められ、数多くの鉱山や鉱山町が出現した。石見においても、博多の豪商神屋寿貞が大永7（1527）年に石見銀山（大田市大森町）を再発見した。石見銀山では、灰吹法による銀精錬が早くから行われ、銀生産が本格的になると人々の来往や物資



第7図 周辺の遺跡 (S=1:50,000)

の搬入が進み、鉱山一帯は都市的様相を示すようになる。石見銀山で生産された銀は、国内での流通のみならず朝鮮半島や中国へ輸出され、東アジアの交易に大きな影響を与えた。そのため、銀山は中国地方支配のための焦点となり、大内氏、毛利氏、尼子氏ら戦国大名に加え、石見地方の各領主たちの領地争いも交えた争奪戦となる。

永禄4（1561）年、福屋氏が同じく地方領主であった小笠原氏と所領に関する争いから、毛利方を離反した。松山城は櫛城（11）を支城とし、福屋氏の拠点として機能していたため、毛利氏と福屋氏の対立の激戦地となる。永禄5（1562）年、毛利氏の軍勢により櫛城とともに落城し、福屋氏は滅亡。後に松山城は小笠原氏や、毛利氏の一族である吉川氏の領有となったという。

6. 近世・近代

慶長5（1600）年、徳川家康が石見国の7ヶ村に禁制を出し、江戸時代に石見銀山を中心とした地域は幕府直轄の領地となる。海陸交通の要衝であった郷田村を除き、江の川西岸の村は元和5（1619）年以降は浜田藩に属する。東岸は一部が西岸と同じく浜田藩の領地となるが、替地により幕府領に復し、石見銀山領として幕末まで継続した。また、全国各地の幕府領では、奉行や代官により盛んに新田開発が行われていた。森原神田川遺跡大津地区（1）では、大規模な近世水田と畠が確認されている。時期的に各地の新田開発に関連する可能性がある。

江戸時代中期から明治時代にかけて、江の川流域やその支流近くの村で、恵口鉛跡（13）、桜谷鉛跡（28）、備谷鉛跡（6）など銑鉄を中心とした銑製鉄の経営が盛んになる。恵口鉛は、浜田藩の御手鉛であった高丸鉛が、安永元（1772）年、「恵口御手鑪所」として移築されたものである。原料となる砂鉄は水運によって運ばれ、薪炭の供給も周辺の森林資源により豊富であった。江戸後期に最盛期を迎え、明治まで経営が継続された。

またこの時期には、石見地方における主要な地場産業の一つである石見焼の窯業も盛んに行われるようになり、瓦窯と丸物窯を主体とする窯跡が各地に点在している。江の川流域の松川町では花田窯跡（26）や田中窯跡（27）、こうの屋窯跡（23）、日本海沿岸部の都治町・浅利町では岡田窯跡（48）、島田窯跡（54）など多数の窯跡が存在するなど、石見において江津市域は石見焼生産の中心地として広く認知されている。

【註】

1)『日本書紀』卷第一第八段一書第二

【参考文献】

- 伊藤 則 2017「江津市における石見焼生産の特徴」『近世・近代の石見焼の研究』島根県古代文化センター研究論集 第17集
- 角田徳幸 2011「たたら吹き製鉄の地域的展開」『山陰におけるたたら製鉄の比較研究』島根県古代文化センター
- 角田徳幸 2014「たたら吹製鉄の成立と展開」清文堂出版
- 門脇俊彦 1973「波来浜遺跡発掘調査報告書」江津市
- 黒田明憲 1999「江の川の舟運と川舟」『広島県立歴史民俗資料館研究紀要』第2集
- 江津市 1982『江津市誌 上巻』
- 江津市教育委員会 1982『平成3年度埋蔵文化財調査報告書』
- 江津市教育委員会 2002『埋蔵遺跡』

- 江津市教育委員会 2005『高津遺跡』
江津市教育委員会 2012『波来浜遺跡－保存・活用のための確認調査報告書－』
江津市教育委員会 2018『八神上ノ原遺跡・森原上ノ原遺跡』
江津市教育委員会 2018『八神上ノ原Ⅱ遺跡』
国土交通省 2016『江の川水系河川整備計画 国管理区間』
島根県 2014『江の川水系下流支流域河川整備計画』
島根県教育委員会 1997『石見の城館跡』
島根県教育委員会 2002『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』
島根県教育委員会 2005『倶谷斜跡発掘調査報告書』島根県古代文化センター調査研究報告書 26
島根県教育委員会 2008『中祖遺跡・ナメラ追遺跡』
島根県教育委員会 2016『考古基礎資料調査にかかる生産遺跡調査報告書 在地陶磁器集成1（石見部・陶器編）』
島根県古代文化センター調査報告書 52
島根県教育委員会 2018『田洞遺跡』
高屋茂男編 2017『石見の山城 山城50選と明らかにされた城館の実像』ハーベスト出版
広島県立歴史民俗資料館編 1984・1985・1991『江の川の漁労』
平凡社地方資料センター編 1995『日本歴史地名体系第33巻 島根県の地名』平凡社
三浦史峰ほか 2003『江津の籠跡』『石見潟』第22号 江津市文化財研究会
『江の川ものがたり』各号 山陰中央新報社

第3章 調査方法と成果

第1節 調査の方法

1. 発掘調査区の立地

調査対象地は、江の川右岸に開けた小規模な氾濫原の南部に位置する標高約6mの平地で、調査前は水田として利用されていた（第8図）。調査区南側には小規模な河川を挟んで森原下ノ原遺跡が立地する微高地がある。この微高地は、後背に江の川に張り出す山塊が存在しており、この下流側に形成された砂州に由来すると考えられる。また、調査区北側約200mには森原神田川遺跡大津地区が位置する。

2. 発掘調査区とグリッドの設定

本発掘調査の対象範囲は、平成29年度に鳥根県教育委員会が実施した試掘確認調査の結果に基づいて決定し（詳細は第1章第2節参照）、遺跡の範囲と工事対象範囲から平面形が三角形となる調査区を設定した（第9図）。調査にあたっては、世界測地系の第III座標系に基づき座標軸を合わせた10m四方のグリッドを設定した。また、調査区内に設定した土層観察用の畦を基準にした区画も補助的に使用して調査を行った。

3. 調査の方法

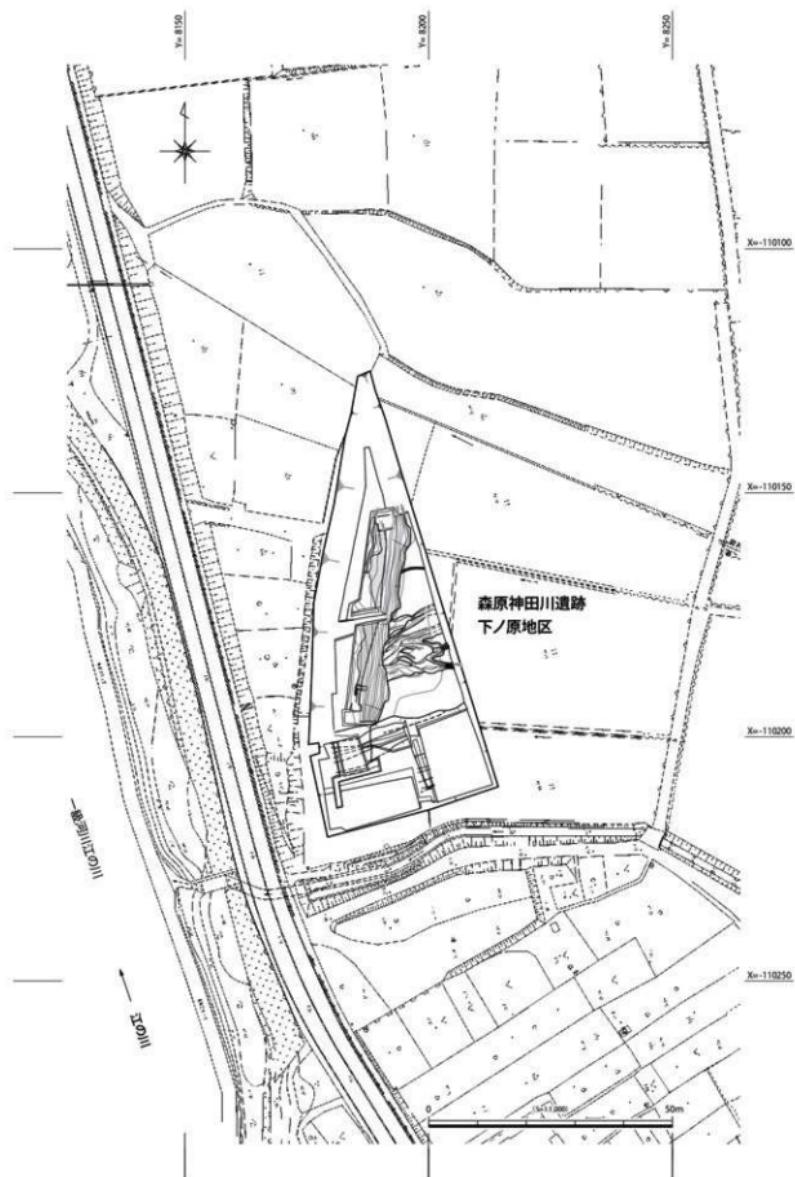
調査前の現地の状況は沖積平野に広がる水田であった。試掘確認調査で確認された遺物包含層までは耕作土が厚く堆積するため、バックホーを用いて耕作土を取り除く必要があった。重機掘削はパケットに平爪を装着し、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。併せて土層観察を行ながら、遺物包含層まで余裕を持たせて掘削を停止した。

その後はベルトコンベアを設置し、スコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。遺物包含層についてはスコップを用いて人力で掘り下がたが、出土する遺物の粗密に応じて適宜移植ゴテ等の道具を併用し、取り上げに際しては地点と層位の記録を行った。遺構検出にはジョレン・草削りを使用した。

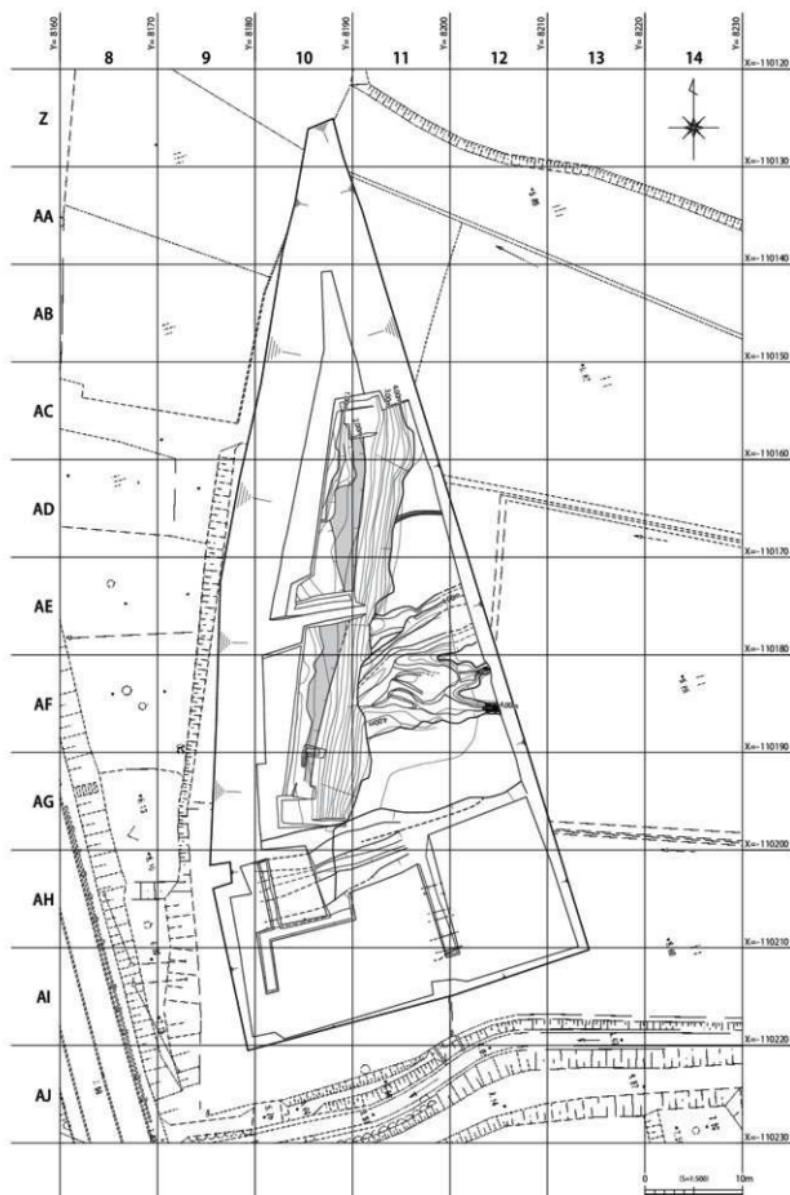
水路・流路の埋土掘削では、移植ゴテ・草削りを使用したが、大形の流路・水路ではスコップを併用した。掘削にあたっては適宜ベルトを設定し、土層観察を行いつつ掘り下げた。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構からの出土遺物については、出土状況を記録した後、必要に応じて取り上げNoを与え、取り上げを実施した。

遺構の平面図は、株式会社CUBIC社の遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行った。遺構等の写真は、原則としてデジタルカメラで撮影を行い、報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）でも撮影を行った。

現地調査期間は平成30年5月21日から11月14日、調査面積は3,000m²である。



第8図 下ノ原地区的調査区位置図及び周辺地形 (S=1:1,000)



第9図 下ノ原地区調査グリッド (S=1:500)

第2節 基本層序

地表面から標高4.5m付近までは、近年までの水田耕作土（I層）と縄文時代から近世にかけての遺物包含層（II層）が堆積する。標高4.5m付近では、調査区東側で粘質土（黄褐色系粘質土）が検出され、場所によっては厚さ40～50cmに達する堆積も認められる（第19図4～6層・第20図5層）。この粘質土層はSR10の自然堤防を形成する土層と考えられる。また、この標高で河道や流路が検出されており、それら河道・流路の埋土をIII層とした。III層は調査区西側では、SR01を検出した南部を除き、SR10の埋土となる。III層の下は先述した粘質土や砂質土となり、さらにその下で粒子の粗い砂（青灰色砂）を確認した（第31図土層A:44層・土層B:41層など）。この青灰色砂はいずれの土層断面でも認められており、SR10が形成される以前の堆積土であるとみられる。粘質土や青灰色砂はSR10の自然堤防を形成する土層として認識できるため、これらの土層をIV層とした。なお、IV層中には古墳時代前期の土器が含まれており、SR10の形成時期は早くともこの時期以降であることが判明している。

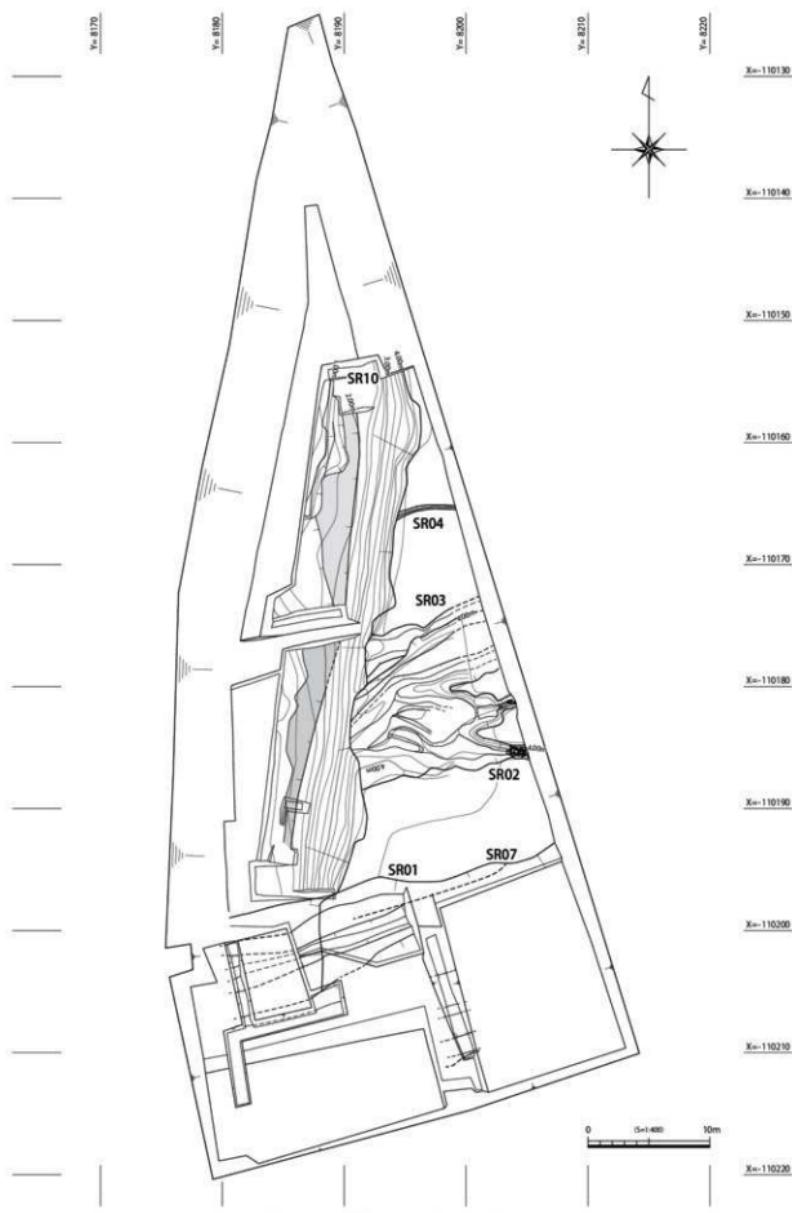
第3節 検出遺構とその遺物

1. 調査の概略と検出遺構

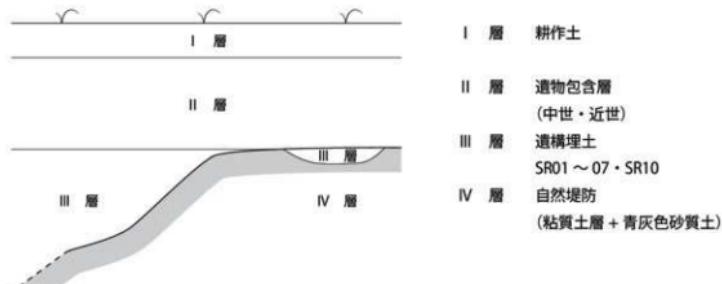
森原神田川遺跡下ノ原地区は、江の川下流右岸に面した標高約6mの平野部に位置する。現状は水田となっており、試掘確認調査の結果から最上位には近年まで利用された水田の耕作土が存在するほか、その下位にもそれより古い時期の水田耕作土が厚く堆積することがわかつっていた。本発掘調査に伴いこれらの耕作土を除去したところ、調査区東側では標高4.5～4.7mで黄褐色系の粘質土層が平面的に検出された。この粘質土層の検出と同じレベルで、東から西へ流れる水路、流路を確認し、SR01・02・03・04・05・07とした。このうちSR02は複雑な切り合いを持っていたため、枝番号をつけて細分した。

最も南側に位置するSR01は、南端を確認できなかったが、検出した範囲で幅約20m、深さは検出面から約2mの大形の水路である（第13・14図）。現在、調査区のすぐ南側には江の川に向かって流れる水路が存在するが、この過去の流路がSR01とみられる。時期は、出土遺物から江戸時代前期に属すると考えられる。また、SR07はSR01に重複して検出されている。

SR02～05は調査区中央付近で検出されたもので、粘質土層が平面的に確認できる調査区東側ではこの粘質土層を切っている。SR02は、調査区東端では比較的幅が狭い水路に分かれているが、それらが合流して複雑な切り合いをもつ幅広な水路となる。このうち、SR02-2、SR02-3は調査区東側で幅が狭くなっている、この部分の埋土から大形の石材が積み重なった状態で検出されている。このことから、人工的に堰を設け、水量調整などを行ったことがうかがえる。時期は、いずれも江戸時代前期（17世紀後半）と考えられる。SR03は、幅6.3mの大形の水路である。東端をSR02に切られているが、東側で幅が狭くなるように見え、SR02-2、SR02-3と同様な性格の水路であった可能性が考えられる。SR03の時期は、切り合い関係からSR03がSR02より古いことがわかるが、出土遺物からはSR02との時期差はそれほど認められず、江戸時代前期（17世紀後半）に属するものである。



第10図 遺構配置図 (S=1:400)



第11図 基本土層模式図

これらの水路の調査を終え、粘質土層が存在しない調査区西側の掘削を実施したところ、南北方向に流れる大形の河道を確認し、SR10とした。確認した規模は長さ40m、幅6~9m、深さ3.2m以上である。部分的ではあるものの、この自然河道の落ち込みに沿って粘質土が堆積しており、調査区東側で検出された粘質土は、この河道の東岸に形成された自然堤防を形成する土層であると考えられる。SR10は明らかに調査範囲の西側に広がっており、幅は確認したものよりかなり大きくなるものと見られる。出土遺物は古墳時代中期から後期を中心とした、土師器・須恵器のほか、ミニチュア土器や瓶・甌といった土製品、勾玉も確認されている。

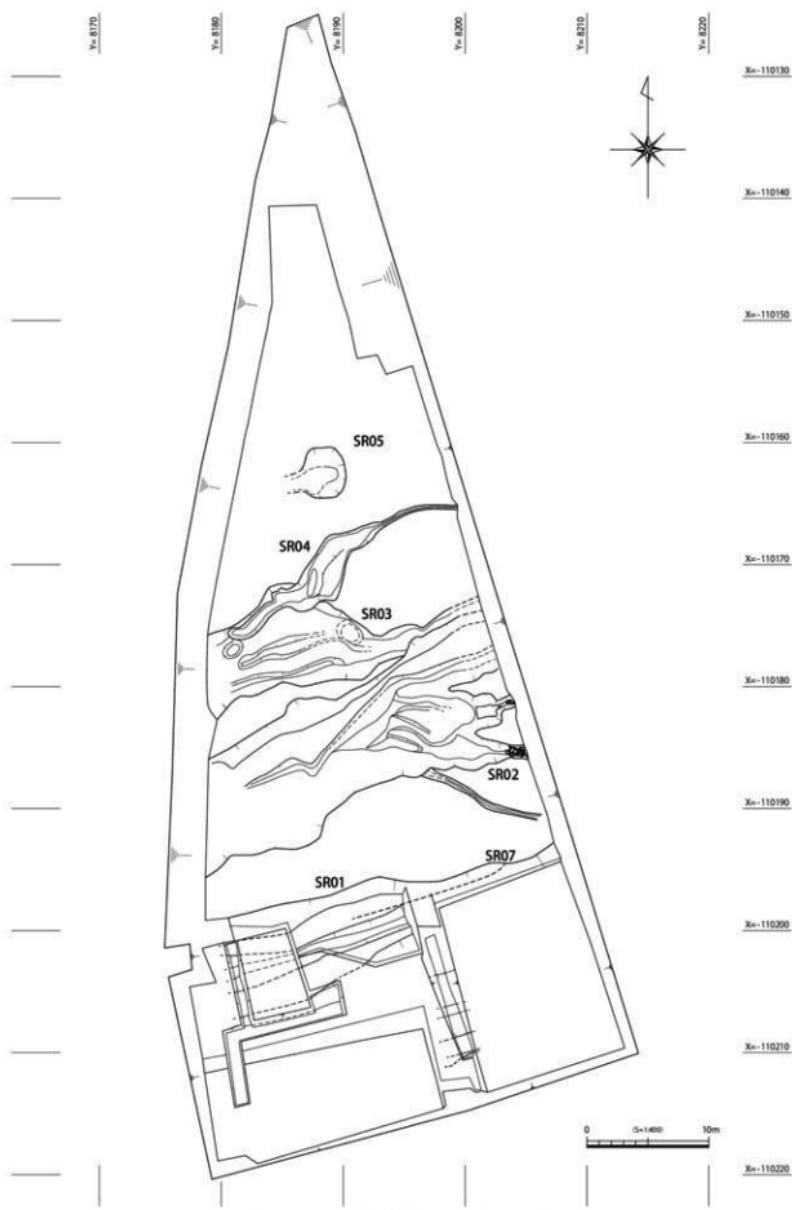
2. 検出遺構と出土遺物

下ノ原地区では、河道2(SR01・10)、流路4(SR02~05)が検出された(第10・12図)。これらは、自然堤防を形成する粘質土(第11図IV層の上面)を精査した段階で平面プランを検出した。SR10が現在の江の川に沿って南北方向に検出されたのに対し、SR01~05・07はそれに直行するように東西方向に検出された。時期的にはSR10が古墳時代前~後期、その他が中世後半から近世中期の遺物を包含し、SR10が埋没したのちにSR01~05が形成されている。なお、SR01~05はいずれも近世に形成されていると推測できるが、SR03(古)→SR02・04(新)の新旧関係を土層の切り合いや平面プランでの重複状況も確認している。

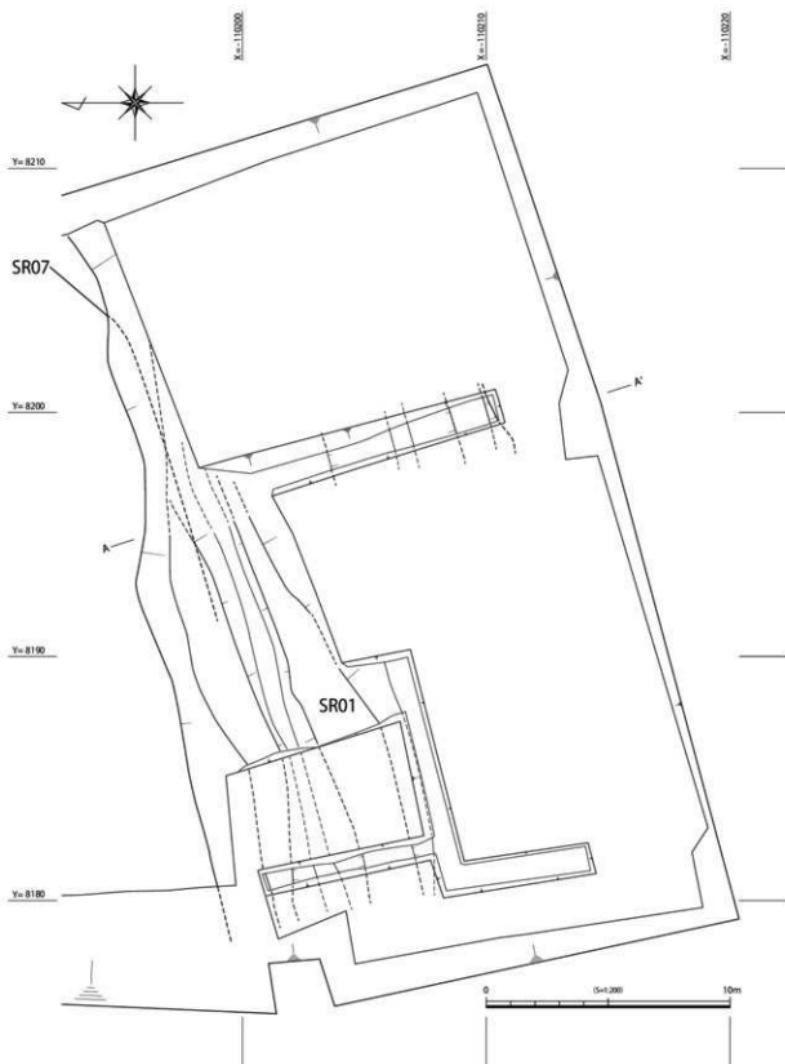
出土遺物は、SR10を除いたいずれの遺構(河道・水路)も縄文時代から近世のものがある。SR10についても縄文時代から古墳時代の遺物が含まれている。SR01~05は中近世の陶磁器がまとまって出土しており、これが遺構に関連するものと考えられる。そのため、遺構出土の遺物としては中近世の遺物のみを取り上げる。それ以前の遺物については、SR10や近隣の遺跡からの二次的な堆積と判断されることから、遺構出土遺物と同一に扱い、一括して後述することにする。

SR01(第13~16図、図版3・7・80)

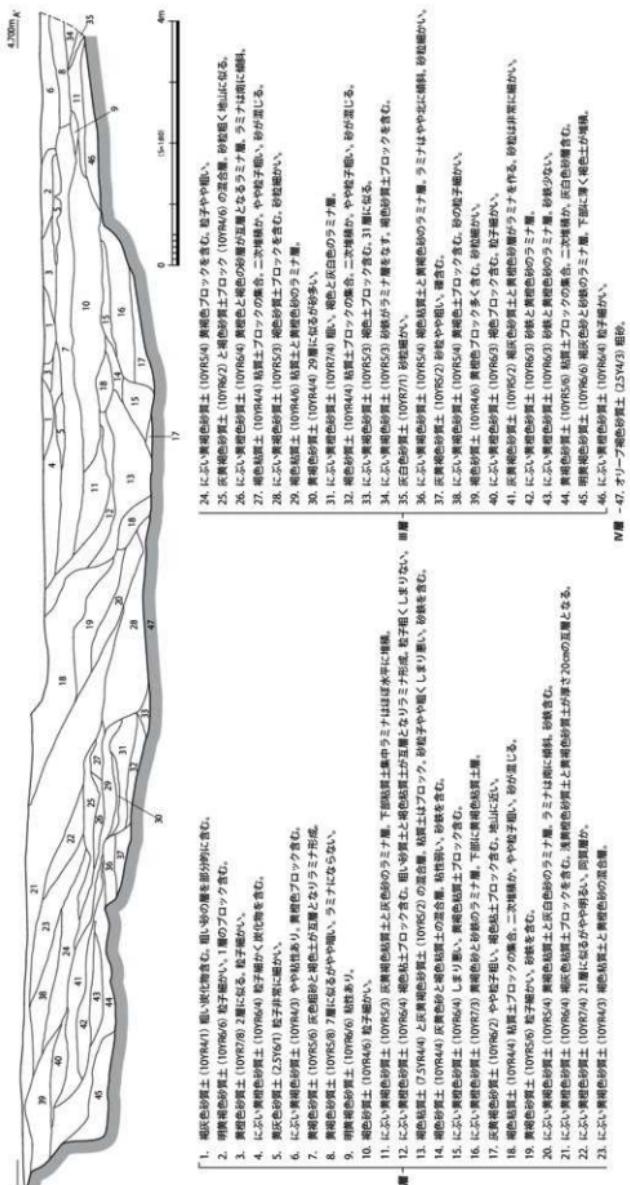
調査区の南端に位置する河道路跡で、平面で確認できた面積は約700m²である。SR01の調査では、廃土の搬出が困難であるなどの問題が生じたこと、SR01の時期が近世に属するといった要因から、詳細な時期や規模が把握できる資料が得られる範囲に発掘調査をとどめた。そのため、部分的な調査となっている。ただし、SR01の幅を確認するため東西のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。なおかつ、河岸形状が残る西北側の一部を拡張して、全形復元に必要な資料が得られるよう努めた。



第12図 中近世の遺構配置図 (S=1:400)



第13図 SR01 平面図 (S=1:200)



第14図 SR01 土層図 (S=1:80)

確認できた SRO1 の範囲は南北約 20 m、東西約 42 m である。最深部は検出面より約 2m（標高約 2.6m 付近）を測る。平面形が確認できた面（第IV層上面）は第 14 図 21 層上面だが、大部分は基盤層（第 14 図 47 層：オリーブ褐色砂質土）を削り込んで形成されていた。底面の高さは、東部最深部と西端最深部とで約 0.6 m の高低差があり、西に向かうにしたがって緩やかに低くなっている。このことから、水は東から西に向かって流れていたと考えられる。断面形状は、北岸が比較的急傾斜に削り込まれており、北岸より南約 13 m で最深部に達し、底面はそこから南側が徐々に高くなっていた。これは、南岸に向かう傾斜と考えられた。南岸は検出することができなかつたが、調査区外南側にあると推測される。現在 SRO1 と並行して流れている水路と連続する可能性もある。

土層（第 14 図・図版 3-2）は、基本的には灰色系砂質土と褐色系砂質土が互層に堆積していた。これらの多くには粘質土がブロック状に含まれる。また、調査区の南側が水平に近く堆積していたのに対し、北側は傾斜して堆積している状況がうかがえた。とくに中程の 12 ~ 15 層付近、21・28 層北側層境界、45 層北側層境界では傾斜が急になっている。これは、河川が繰り返し移動した痕跡と推測される。

SRO1 内からは、縄文時代から近世に至るまでの各時期の土器、陶磁器、石器、石製品などが出土している。これらの遺物は、層位的、平面分布的にまとまりが見られず、小片が多いことから、いずれも河川の埋没過程での二次堆積と考えられた。このうち近世陶磁器は、17 世紀代のものが最も多い。年代の新しい陶磁器から考えると、SRO1 は遅くとも 17 世紀後葉～18 世紀前葉には埋没していたと考えられる。なお、第 15 図 25・26 は最下層から出土した肥前系磁器皿である。25 は 1630 年前後、26 は 1630 ~ 1650 年代と比較的古い年代である。

出土遺物（第 15・16 図、図版 7・80）

図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第 1 表に、近世陶磁器は第 2 表に集計した。いずれも破片を 1 点と数えており、個体数を表すものではない。

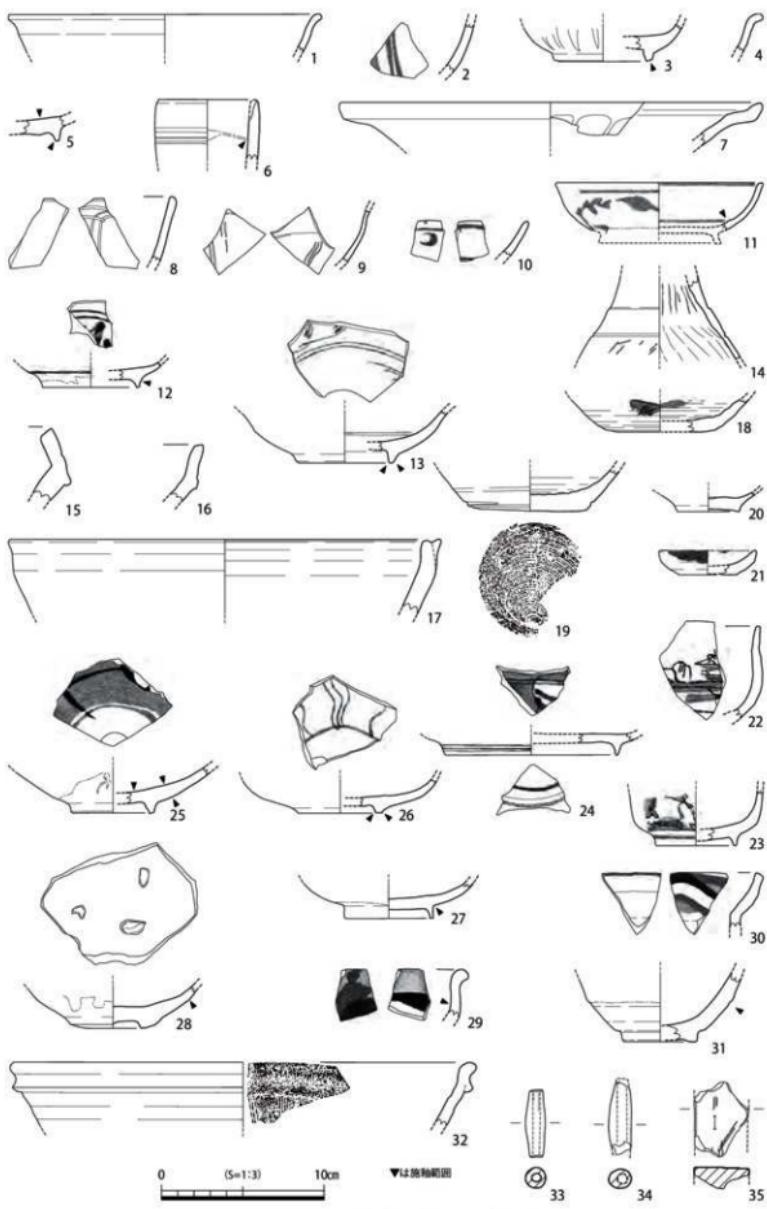
陶磁器（第 15 図 1 ~ 32、図版 7） 中世前半の中国製陶磁器は、同安窯系青磁（同図 2・9）、内面に飛雲文が描かれた龍泉窯系青磁碗大宰府 1 類（同図 8）、褐釉陶器瓶細片などが少数出土している。この時期の国産陶磁器としては、越前系鉢（同図 17）、焼された瓦質土器（火鉢）などわずかである。

中世後半の貿易陶磁は、中国製がピローカ？白磁皿（第 15 図 1）、龍泉窯系青磁の片彫蓮弁文碗（同図 3）、同碗・皿（同図 4・5）などがある。龍泉窯系香炉（同図 6）や同盤（同図 7）などもこの時期であろうか。朝鮮製としては、褐釉瓶（同図 14）が出土している。日本産陶磁器は、備前焼擂鉢（同図 15・16）がこの時期に当たる。土師質土器は、褐色系、灰白色系とともに出土しているが、褐色系が多い。同図 19 は底径の大きい环形、同図 20・21 は煤が付着した燈明皿である。

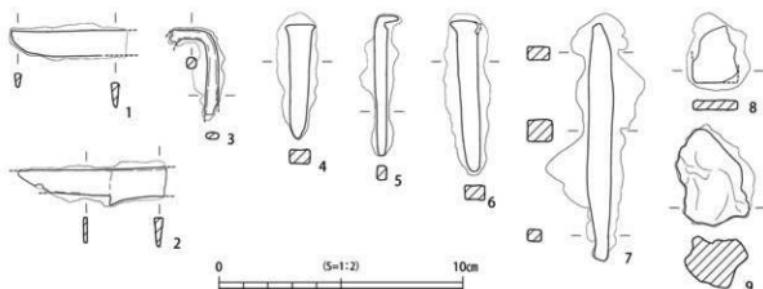
16 世紀末～17 世紀初頭は、中国漳州窯系青花（第 15 図 10 ~ 13）や肥前系陶器（同図 28）が出土している。

17 世紀から 18 世紀前半は肥前系陶磁器が多くなり、須佐焼（擂鉢：第 15 図 32）、瀬戸焼（天目）が若干混じる。器種は磁器が碗（同図 23）、皿（同図 24 ~ 26）、陶器が碗（同図 22・27）、皿、香炉（同図 29）、鉢（同図 30）、壺・甕、片口である。

石製品（第 15 図 35、図版 7） 第 15 図 35 は砥石残片である。3 面に使用痕が認められる。きめ



第15図 SRO1 出土遺物 (1) ▼は施釉範囲



第16図 SRO1出土遺物(2)

第1表 SRO1中世陶磁器集計表

出土地点	產地	種別	器種	分類	頭数	数量
SRO1	中国	白磁	皿	C-2? ?	1	
			碗		1	
		中世簡單	圓底環盤片		1	
			大寧府碗	I	2	
		同安窯系青磁	碗	大寧府碗 I	1	
			碗	大寧府碗 I 鏊	1	
		經東窯系青磁	碗	上田鉢	1	
			碗	上田D鉢	1	
		皿	皿	分類不明	1	
			盤		1	
		盤	香炉		1	
			盤	15~16世紀半	1	
		漳州窯系青花	碗		2	
			皿		2	
		不明	不明		2	
			瓶		2	
朝鮮	日本	船形陶器	瓶		2	
			鉢		1	
		越前	鉢鉢	V字形	3	
			盤		2	
		備前	盤鉢		2	
			盤		2	
		不明	不明	1		
			瓦質土器(燒)	不明(火鉢?)	1	
		土師器	坪・皿	褐色系	31	
			坪・皿	灰白色系	5	

の細かい石材で、仕上げ砥石であろうか。

土製品(第15図33・34、図版7) 第15図33・34は土錘である。ともに小型・細身で、紡錘形をしている。

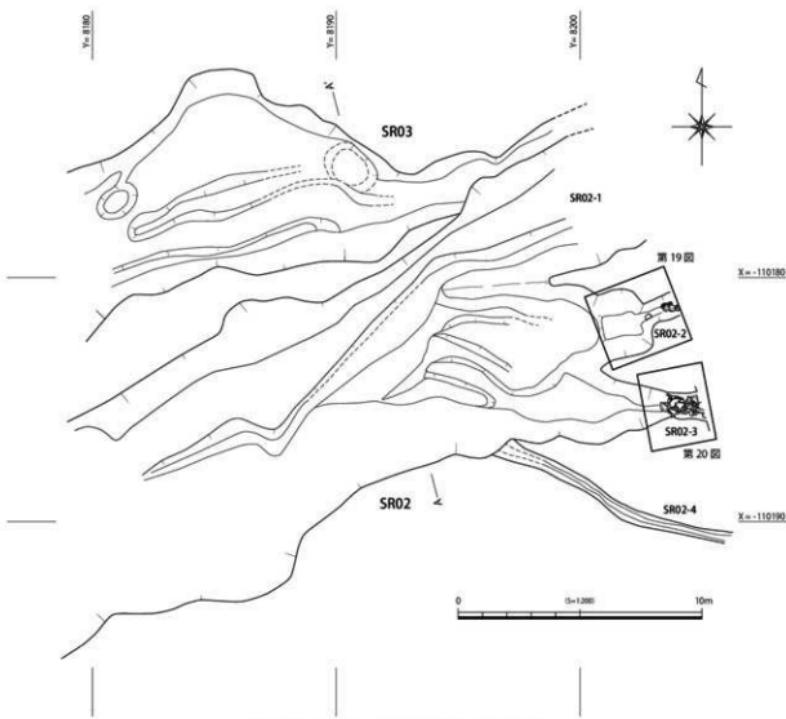
鉄器(第16図、図版80) 刀子、釘、金具などの鉄製品及び鉄素材とした鉄塊、棒状鉄、未成品と考えられる板状鉄が出土した。ここでは製品と未成品を区分するため、明らかに完成品として認められるものを鉄製品とし、未成品や鉄塊については鉄素材として報告する。なお、鉄製品及び鉄素材とも流れ込みの可能性が否定できないが、構造から出土したものはここで報告する。また、非掲載のものを含めた集計表は第25表に示す。

鉄製品(第16図1~6、図版80) 第16図1・2は刀子で完形で遺存するものはない。刃部は断面三角形を呈し、関の形状は2が直角関である。1・2とも刃部の幅は1cmであり、小型の刀子であると考えられる。同図3は金具片である。断面は楕円形を呈し、本来は隅丸長方形の鑑状金具であると考えられる。同図4~6は和釘である。4・6は平釘、5は折鉤釘となる。

鉄素材(第16図7~9) 棒状鉄、板状鉄、鉄塊が出土している。第16図7は矽に近い形状であるが、両先端が不整形であることから棒状鉄とした。板状鉄(同図8)は厚さ0.4cmであり、SR03などで

第2表 SRO1近世陶磁器集計表

出土地点	產地	種別	器種	器形	数量
SRO1	肥前系(B)	磁器(J)	碗(1)	丸形U字高台	4
			碗(1)	丸形U字高台低(e)	1
		陶器(T)	碗(2)	切削輪万葉(a)	1
			碗(2)	平形(初期伊万里)	2
		磁器(J)	碗(3)	丸形(e)カ	1
			碗(3)	平形(k)	2
		陶器(T)	碗(4)	丸形手(a)	3
			碗(4)	丸形薄手	1
		磁器(J)	碗(5)	丸形疣	2
			碗(5)	輪足目	5
		陶器(T)	碗(6)	京焼風(c)	1
			碗(6)	切削目(a)	2
		磁器(J)	香炉	火入れ(9)	1
			香炉	格子目	1
		土器	壺	束口(15)	1
			壺	その他	1
		土器	片口(23)	灰釉	1
			片口(23)	不明	5
		土器	壺	須佐	2
			壺	壺鉢(29)	2



第17図 SR02・SR03平面図 (S=1:200)

出土した板状鉄同様に鉄製品製作過程のものと判断した。同図9は鉄塊である。周辺で行われていた鉄製品製作や鉄素材の生産に供されたものと考えられる。

SR02 (第17～25図、図版3・4・8～12・80・81・86)

調査区の中央をほぼ東西に横断するように検出された（第17図）。検出した範囲では長さ約30m、幅約8.5～13mである。全体の幅は約10mを測るが、これは4つの溝（SR02-1～4）が一つに合流あるいは重複した結果の規模と考えられる。底面の高さは東端より西端が低く、最深部の比高差は約0.6mであることから、東から西に向けて水が流れていると考えられる。また、東部ではSR03と重複していたが、土層観察によりSR02がSR03を削り込んで形成されたことが確認できた（第18図）。土層は、基本的に砂層と粘質土層の互層堆積で、下位はレンズ状に、上位は水平に近く堆積している。

SR02-1～4は、調査区東端から約5m西で合流している。各流路がこの地点で合流し、以西は1条の流路となっていたのか、あるいは時期的な差異があり重複を繰り返していたのかは不明である。土層（第18図、図版4）では、上位に堆積する①（第20～22層）と、②（第7・8・11層）が流路内の堆積と想定できるが、平面的には確認できなかった。この他にも、③（24～28層）、



第18図 SR02・SR03 土層図 (S=1:80)

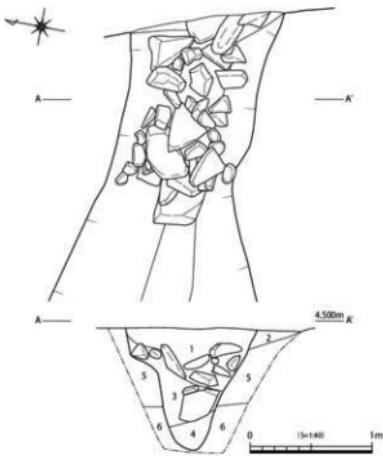
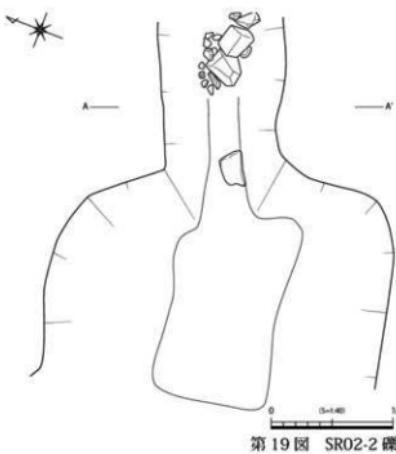
④(17～19層)、⑤(9～14・18層)の3回の削り込み痕跡が見られ、北から南に向かって流路が移動した様子がうかがえる。土層の堆積からは、古い順に ⑤→④→③→②→①と流路が形成されたと考えられる。また、底面には凹凸があり、幾度も流路が移動したような印象をうけた。

SR02-1とSR02-2はほぼ並行して配置しているように見えるが、SR03・04はやや南側から合流している。そのため、全体としては合流点を起点に放射状の平面配置にみえる。

SR02からは縄文時代から近世まで各種の遺物が出土している。どの時期も細片がほとんどで、層位的に時期区分できるような状況はない。また、細別した流路ごとに時期的なまとまりがあるようには見られなかった。なお、第22図22は最下層で出土した肥前系陶器皿で、1594～1610年代の製造とされている。また、同図26は18世紀前半代製造と、SR02出土陶磁器でもっとも新しいものと考えられた堺・明石系陶器捕鉢である。

SR02-1 もっとも北に位置する流路で、SR02-1に特定できる規模は長さ幅約6.3m、深さ1～1.1mを測る。北岸は多少の乱れがあるものの、そのまま西端に向けて伸びており、SR02北岸として検出したラインは、すべてSR02-1北岸と考えていいかもしない。

SR02-2(第19図、図版4) SR02-1の南2.5mの位置にある。調査区東端では幅が約1mと狭い



- オリーブ褐色砂質土 (2SY4/3) 粒子やや粗い。粘性ややあるがしまり悪い。炭化物少量含む。
- 灰黄色砂質土 (2SY6/2) 粒子細い。
- にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4) 5層の崩落か。5層よりやや暗い。
- 暗灰黄色砂質土 (2SY5/2) 黄褐色砂質土ブロック含む。灰色砂と暗茶色砂質土が互層になるラミナ層。徐々に広がっていく。
- 明黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粒子細かい。やや粘性あり。しまり悪い。
- にぶい黄褐色砂質土 (10YR6/4) 粒子細かい、やや粘性あり。しまり悪い。

SR02-3 (第20図、図版4) SR02-2 の南約7mに位置する。SR02-2 とは平行ではなく、プランは東側がやや開く形で検出された。東端では幅1.2m、深さ1mと幅が狭いが、西に向かうに従って

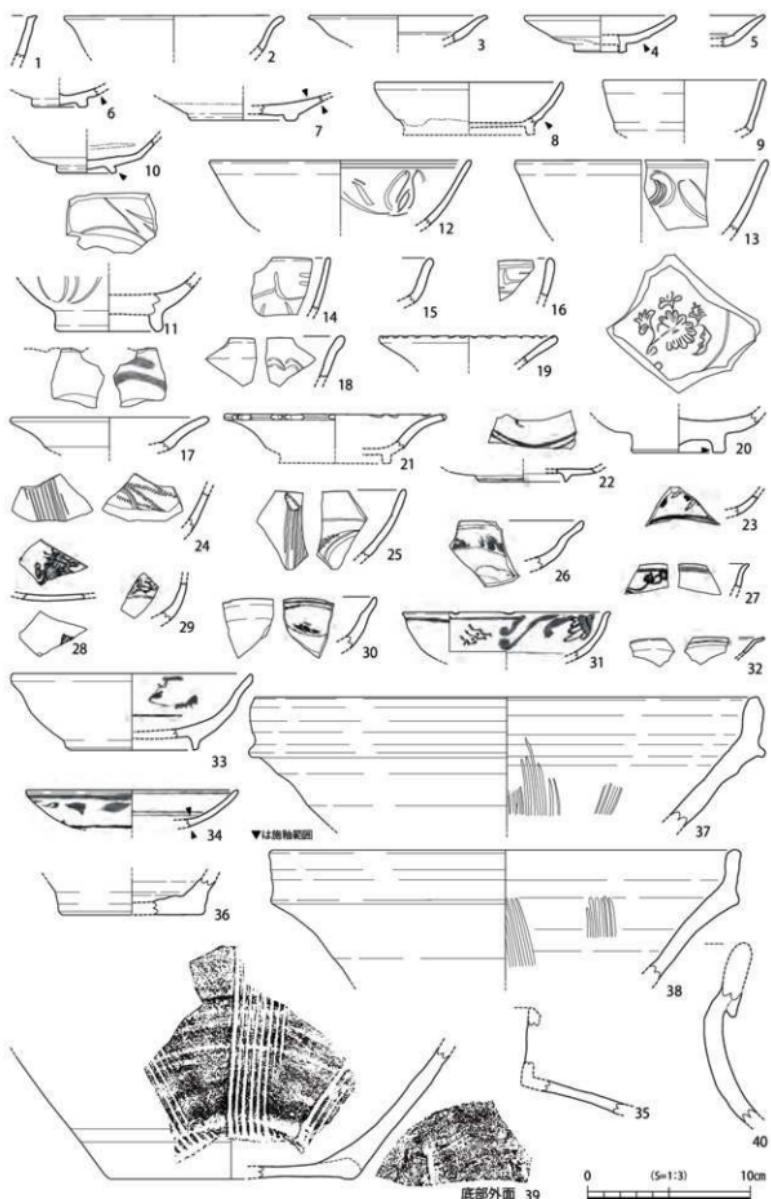


流路で、長さ1.2mほど西に延びたのちに急に幅1.7mに広がる。この部分の広がりと形状から、自然の営為によるものではなく人為的な加工と思われる。この広がりは西に向かうに従って広くなっていくようである。深さは検出面から約1mを測る。東端では磕群が検出された。水利調節のために設置されたもの一部と思われたが、これらの磕群は上位層に堆積していることから、原位置を保っていない可能性がある。

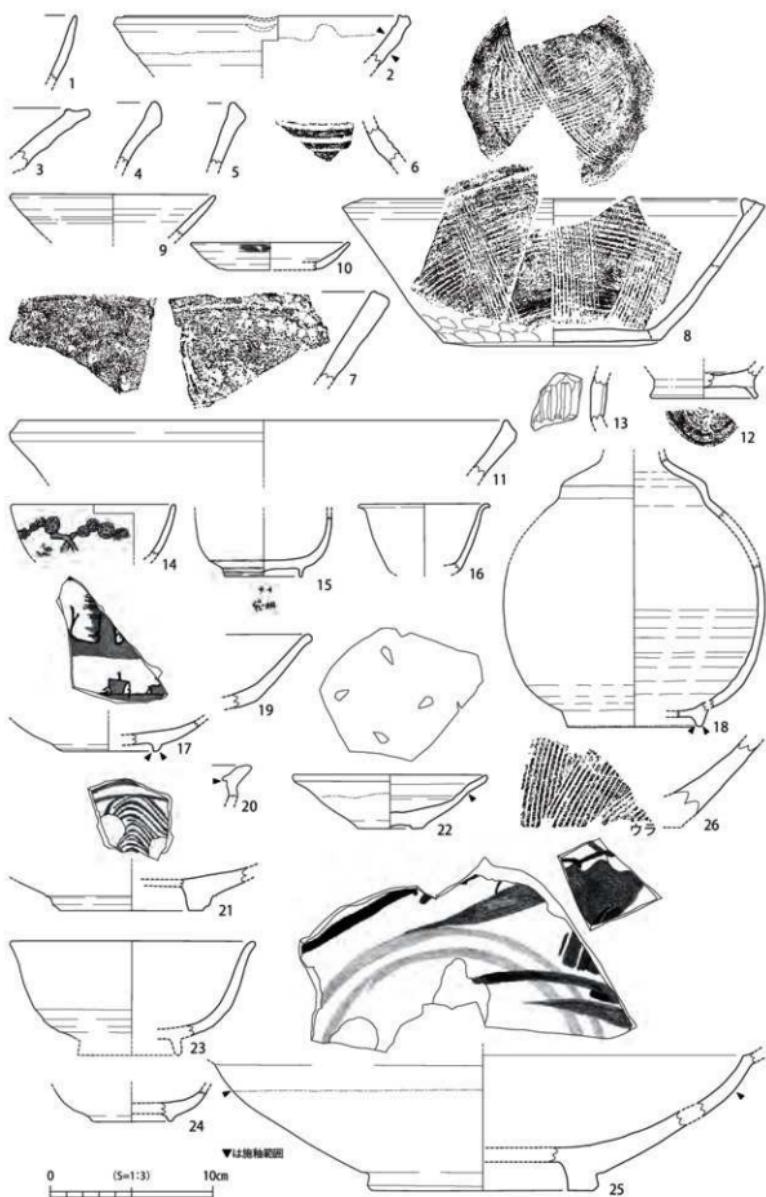
SR02-4 (図版4) 長さ10m、幅0.5～0.8m、深さ0.06～0.25mと、浅く細長い溝状の遺構である。SR02に斜行して取りつき、SR02-3とはほぼ平行に配置されている。

出土遺物 (第21図～第25図、図版8～12・80・81・86)

図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第3表に、近世陶磁器は第4表に集計した。



第21図 SR02 出土物(1)



第22図 SRO2出土遺物(2)

陶磁器（第21・22図） 中世前半の中国製陶磁器は、大宰府CD期の白磁（第21図1・5）、同安窯系青磁（同図24・25）、龍泉窯系青磁碗大宰府I類（同図12・13）、褐釉陶器四耳壺（同図35）、同壺（同図36）などが少数出土している。この時期の国産陶磁器には、東播系須恵器（第22図4・5）、土師質土器（鉢：同図11）のほか、壺器系陶器（第21図40）などがある。

中世後半の貿易陶磁は、中国製かピロ-式と思われる白磁皿（第21図7）、龍泉窯系雷文帶青磁碗（第21図14・16）、同稜花皿（同図17・19・21）、同壺（同図15）などがある。第21図18は内面に人形手文様がつけられた玉縁口縁の碗、同図20は見込みに印花文が施された碗である。この時期の国産陶器は、備前焼擂鉢（第21図37～39）、防長系瓦質土器（第22図8）、瓦質土器鉢（同図7）・同火鉢（同図6）である。土師質土器は、褐色系のみが出土している。図示した同図10は燈明皿である。

16世紀末～17世紀初頭は、中国漳州窯系青花（第21図22・26～30・33・34）、景德鎮窯系（同図23・31・32）や肥前系陶器（第22図22）が出土している。第21図31は龍泉窯系輪花皿である。

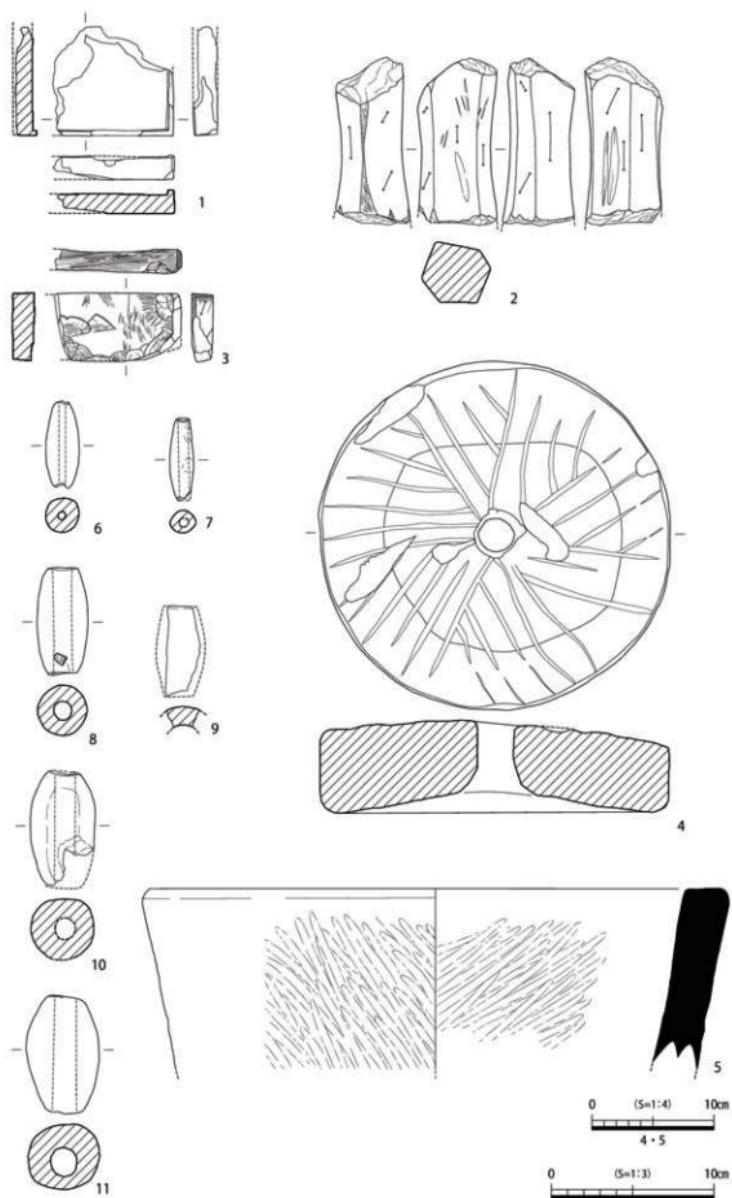
17世紀から18世紀前半は肥前系陶磁器がほとんどで、堺・明石系陶器擂鉢（第22図26）、が若干混じる。器種は磁器が碗（同図14・15）、皿（同図17）、壺（同図16）、那須形瓶（同図18）、陶器が碗、皿（同図22）、香炉・火入れ（同図20）、鉢（同図19・21・25）、片口鉢（同図23）、壺・甕がある。第22図24は高取系の鉢である。

石製品（第23図、図版11・12） 第23図1～3は砥石である。1は石硯を転用したもので、図の右辺と下辺に硯縁が低く残る。2は断面形が六角形を呈す砥石で、各面ともわずかに凹面をなす。一面に深いくぼみがあるものの全体として平滑で、ところどころ非常に細かい研磨痕が観察できる。上端は研磨痕や加工痕は観察できないが、丸く磨滅しているのでこれが本来の形状と考えられる。3は平面形長方形を呈す平板な砥石である。左端は欠損しており、本来は細長い形状だったと思われる。左端以外は各面で研磨痕が観察できるが、一部には剥離面が痕跡的に残っている。これらの砥石はいずれもきめ細かい石材を使用しており、仕上げ砥石と考えられる。同図4は石臼（下臼）である。主溝は6分割され、副溝は3～5条である。同図5は石製手水鉢である。内外面に細かな加工痕が観察できるが、口唇部から口縁内面にかけて、及び外面の一部に磨滅がみられる。使用痕跡かもしれない。

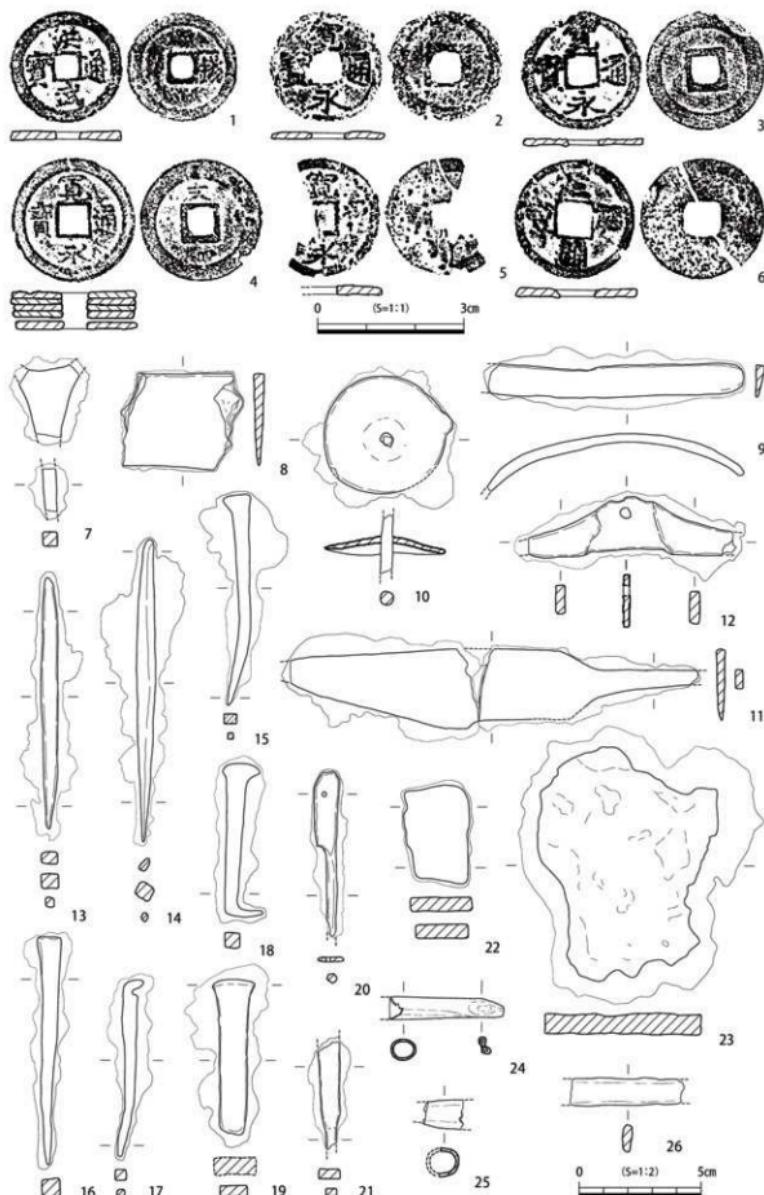
土製品（第23図、図版11） 第23図6～11は土錘である。いずれも中膨らみの形状であるが、細身の小型品（I類：6・7）と中型品（II類：8～11）の2タイプがある。

銅製品（第24図、図版86） 古銭、煙管などが出土している。古銭は10点確認されており、初鑄年が古いものから、洪武通寶、寛永通宝であり、不明のものも含まれる。第24図1の洪武通寶は背面に「錢」が鋳込まれている。同図4は古銭が5枚固定して出土している。本来は紐で束ねられていたものと考えられ、5枚目背面には「文」が鋳込まれていることから寛永通宝の「文錢」であることがわかる。2～4枚目の銘は不明であるが、寛永通宝が束ねられていると推測される。同図24・25は煙管である。24では鍛接部分の観察ができる。同図26は器種不明である。

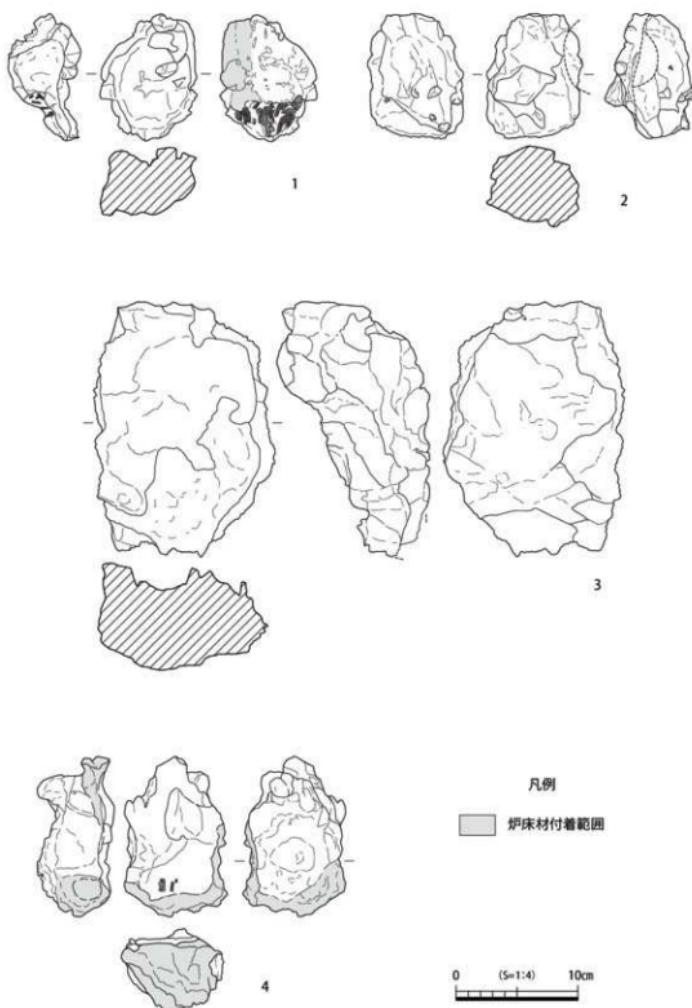
鉄器（第24図、図版80・81） 鉄鎌や刀などの武具が出土するほか、刀子、包丁、火打金、鎌などの日常生活品や、紡錘車や鉈などの生業に関する鉄製品が出土している。また、鉄素材及び鉄滓も出土している。他の遺構同様に、鉄製品、鉄素材に区分し、鉄滓については鍛冶関連遺物として報告する。なお、鉄製品及び鉄素材とも流れ込みの可能性が否定できないが、遺構から出土したも



第23図 SRO2出土遺物(3)



第24図 SR02出土遺物(4)



第25図 SR02出土遺物（5）

のはここで報告する。また、非掲載のものを含めた集計表は第25表に示す。

鉄製品 (第24図7~21, 図版80・81) 第24図7・21は鉄鎌である。7は雁股形の有茎の鉄鎌で、茎部の断面は方形となる。21は長頸鎌の頸部及び茎部の一部が遺存している。関部の形状はナデ関である。同図8は断面長三角形の刀の身部片である。同図9は断面形状から刀子とした。ただし、身は湾曲しており、先端は丸みを帯びている。木材などの削りに用いられた大工道具である可能性がある。同図10は紡錘車で、軸が遺存する。同図11は包丁とした。関部は両側で刃側が二段に切れこむ形状を呈している。同図12は山形の火打金で、打撃部両端が厚くなり、頭部には孔がある。同図13・14は両端が細くなることから矯とした。13・14ともに断面は方形を呈す。同図15

第3表 SRO2 中世陶磁器集計表

出土地名	産地	種別	器種	分類	数量
SRO2	中国	白磁	碗	大宰府碗V-4盤	6
				大宰府碗吉字7	1
				不明	1
				大宰府C-D期	5
			皿	森田D群	1
				E D-2ヶ皿?	1
				不明	1
			坪	森田D群	3
				自由D群	2
				不明	1
			碗皿坪	9	
				同安窯系青磁	4
			碗	大宰府碗I期	2
				大宰府碗I-2盤	2
				大宰府碗I期	2
				大宰府碗IV期	1
				上田碗C II期	8
				上田B群	0
				上田D群	1
				印文花	2
			坪		1
				模花皿	3
				碗皿繩片	15~16C前半
		景德鎮窯系 青花	皿		2
			碗皿繩片		2
			輪花皿		1
			碗皿繩片		2
		漳州窯系青花	皿		5
			坪?		1
			小坪		1
			不明		1
			碗皿繩片		4
		褐胎陶器	四耳壺		1
			壺		1
			不明		1
		網胎陶器	壺		3
	日本	瀬戸・美濃	天目碗		1
			圓錐錠		1
			不明		2
		備前	唐鉢	V A	5
				V B	5
				銅底部	6
		瓷器系陶器	壺		1
			不明	直口	3
		樂器系須恵器	鉢		2
		防長系	唐鉢		1
		瓦質土器	火鉢		6
		瓦質土器	鉢		6
		須恵器			3
		土師器坪・皿	褐色系	皿	3
				坪	1

第4表 SRO2 近世陶磁器集計表

出土地名	種別	產地	器種	基形	数量
SRO2	磁器 (J)	肥前系 (B)	碗 (1)	丸形U字高台	1
				丸形U字高台低 (e)	1
		皿 (2)	切脚碗万里 (a)	1	
			平形 (切脚伊万里)	1	
			平形 (k)	2	
			船形 扇形	1	
			その他	1	
			不明	5	
	陶器 (T)	肥前系 (B)	碗 (1)	丸形墨灰	1
				丸形薄手	1
			直脚手 (a)	4	
			その他	2	
		皿 (2)	施土目	9	
			砂目 (b)	14	
			鐵輪組	1	
		钵 (5)	明毛目 (a)	2	
			三島 (b)	1	
			その他	4	
			香炉・火入れ (9)	3	
			鐵軸火入れ	3	
		壺・	青花	1	
		甕・	裏 (15)	その他	2
			片口 (23)	1	
			不明	3	
		壺・	明石系 (E)	畫鉢 (29)	5

～19は釘で、平釘、皆折釘が出土している。同図20は簪とした。頭部は扁平で孔が施される。差し込み部は断面が円形に近い形状となる。差し込み部には鍛接の痕跡が確認できることから、扁平な板状の鉄板を折り返して鍛接していると考えられる。

鉄素材（第24図22・23、図版81）板状鉄、鉄塊が出土している。第24図22は板状鉄でしたが、不整形であり鉄素材ではない可能性も残る。同図23は鉄塊で、形状は不整形であるが、断面は長方形となる。なお、分析の結果、鑄鉄塊（斑鑄鉄）であることが判明している。

鍛冶関連遺物（第25図1～4、図版86）鍛冶関連遺物として鉄滓が出土している。分析の結果、第25図2は砂鉄製鍊滓、同図3は鍛錬鍛冶滓であることが判明している。

SR03（第17・18・26・27図、図版3・4・5・12～14・81・82）

SR02から分岐するように西に延びる流路で、SR02の北岸に接して重複している。土層の観察で、SR03はSR02によって切られていることが確認された。また、北側ではSR04と重複しており、平面プランの観察でSR03が古いことがわかった。SR03は自然堤防を形成する明黄褐色粘質土（第11図IV層の上面）上面およびこれと同一レベルで検出した。その後の調査の結果、西半はSR10上位埋土層を削り込んで形成されたことが判明した。

SR03の平面形は東側が細く西側が広がる形状をし、確認できた範囲では長さ約15m、幅は東端で2.5m、西端で6.3mを測る。深さは東側で約0.3m、西端で約0.6m、東西底面の比高差は約0.3mで、東から西に水が流れていることがわかる。西側半分の底面中央には帯状の高まりがあり、流路が移動したか2本の流路が合流した可能性が考えられる。土層は、上位層が砂層、下位に暗褐色系で粘土ブロックを含む砂質土が堆積していた。大部分は水平に近く堆積していたが、南岸際では傾斜堆積していた。

出土遺物（第26・27図 図版12～14・81・82）

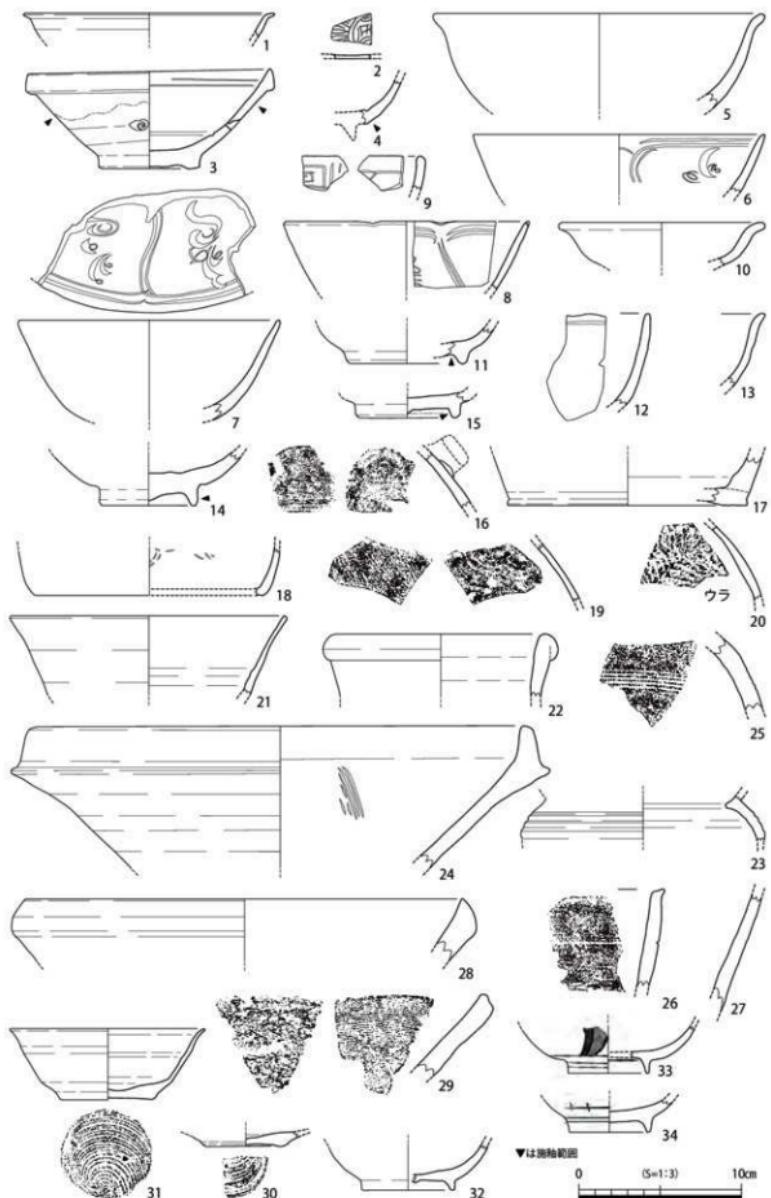
図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第5表に、近世陶磁器は第6表に集計した。

出土遺物は、縄文時代から近世までの各時期の遺物が出土しているが、いずれも細片である。ここでは中世の陶磁器が比較的多く出土したが、近世陶磁器も混在していることから、SR03が中世までさかのぼる可能性は低いと思われる。第26図9は最下層から出土した15世紀の龍泉窯系青磁である。第27図7・8・11は下位の層から出土した肥前系陶磁器で、7・8が17世紀前半、11が17世紀後半とされる。また、最も新しい年代の陶磁器は第27図10で18世紀前葉の製造とされる。

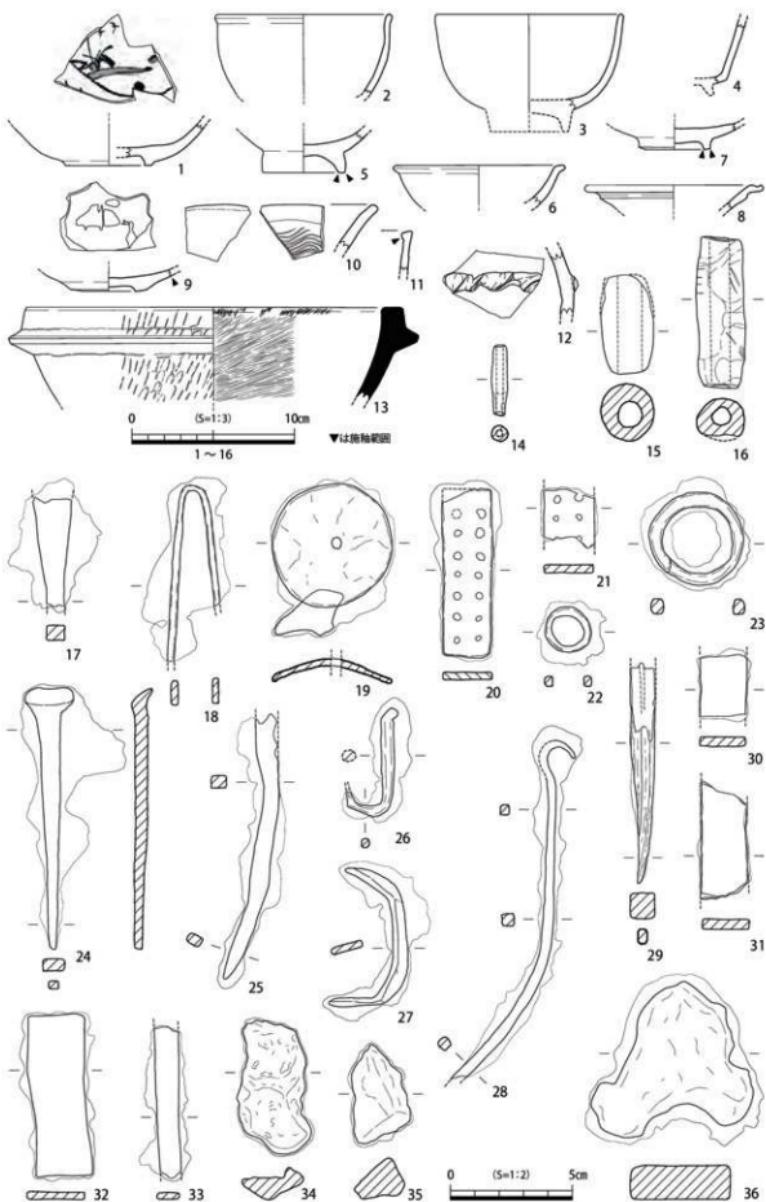
陶磁器（第26・27図、図版12～14）中世前半の中国製陶磁器は、大宰府C期の白磁碗IV類（第26図3）をはじめとして、龍泉窯系青磁（大宰府碗I類：第26図6～8）などが出土している。この時期の国産陶器としては、東播系須恵器鉢（同図26・27）、須恵器鉢（同図28）がある。

中世後半の貿易陶磁は、中国製が龍泉窯系雷文帶碗（第26図9）、同杯（同図10）、同稜花皿（同図15）などがある。朝鮮製陶器は、耳壺（同図16）、褐釉瓶（同図18・19）、灰青沙器碗（同図21）が認められる。この時期の国産陶器は、備前播鉢（同図24）、同壺（同図22・23・25）、瓦質土器鉢（同図29）である。土師質土器は褐色系15片、灰白色系5片と、前者が多い。同図30・31は、灰白色系壺または皿である。

17世紀から18世紀前半は肥前系陶磁器がほとんどで、須佐播鉢がわずかに混じる。肥前系磁器・



第26図 SR03出土遺物(1)



第27図 SRO3出土遺物(2)

陶磁器は、第26図32・33（碗）、第27図1（皿）が磁器、第26図34、第27図2～12が陶器である。第26図34、第27図4・5が碗、第27図3・6～9が皿、10が鉢、11が香炉、12が甕である。製造年代は17世紀前半のものが多く、17世紀後半～末葉は少ない。

石製品（第27図、図版14） 第27図13は、滑石製鍋である。外面には削り痕が明瞭に残り、内面には細かな擦痕が観察できる。この擦痕は、使用痕か加工痕か不明である。

土製品（第27図、図版14） 第27図14～16は土錘である。いずれも土師質で、14、15がやや中膨らみ、16が円柱形を呈す。14が小型（I類）、15が中型（II類）、16が大型（III類）である。

鉄器（第27図、図版81・82） SRO3からは鉄鎌や小札などが出土するほか、釣針、紡錘車、金具、簪などの日常生活品や生業に関する鉄製品が出土している。また、鉄素材や鍛冶関連遺物も出土している。他の遺構同様に、鉄製品、鉄素材、鍛冶関連遺物に区分して報告する。なお、遺構から出土したものはここで報告し、非掲載のものを含めた集計表は第25表に示す。

鉄製品（第27図17～29、図版81・82） 第27図17は方頭形の鉄鎌とした。鎌身部先端は欠損しているが、茎部の形状は無闇である。同図18・25・28は簪（鑷子状）とした。18は差込み部が二股の簪であり、先端は欠損している。25・28は先端に向かって曲がり、頭部形状は確認できる28では鉤状を呈する。同図19は紡錘車であり、軸は遺存していない。同図20・21は小札であり、遺存状況のよい20では孔が2列14力所に施されていることが認められる。同図22・23は鎖状金具であり、断面は隅丸方形状となる。23では鍛接箇所が観察できる。同図24・29は和釘であり、24は幅広の頭部が確認できる。29は頭部が欠損しているが、木質が付着している。同図26は釣

第5表 SRO3 中世陶磁器集計表

出土地点	度	地	種	別	器	種	分	類	数量
SRO3	中国	白磁	碗		大平府碗V-1頭		1		
					大平府碗V-2頭		1		
					銅分類不明		1		
					中世前半		1		
					碗	不明	6		
					袋物	不明	1		
					縦泉窯系青磁				
					大平府碗I頭		4		
					上BC II頭		1		
					上BD頭		4		
					上田匠頭		1		
					碗不明	銅分類不明	1		
					皿	青白磁	1		
					坏	坏	1		
朝鮮					坏	坏	1		
					坏	坏	1		
					被花皿	青白磁	1		
					被花皿	青白磁	1		
					破坏皿端片	15～16C前半	12		
					昭和陶器	青	3		
					昭和陶器	瓦豎か	1		
					昭和陶器	瓦	2		
					昭和陶器	不明	1		
					青灰沙	碗	1		
日本	備前				窓	V/A期	1		
					窓	不明	4		
					窓	V/B期	2		
					鉢		1		
					鉢	不明	0		
					東播系須恵器	鉢	2		
					不明陶器	窓	5		
					瓦質土器	鉢	2		
					瓦質土器（焼）	火鉢	1		
					土師器	灰白色系	坏	1	
					褐色系灰皿	小片	15		
					灰白色系灰皿	小片	5		

第6表 SRO3 近世陶磁器集計表

出土地点	種	別	度	地	器	種	形	数量
SRO3	磁器 (J)	肥前系 (B)			網 (1)	初期伊万里 (a)	2	
					丸形V字高台 (c)	3		
					丸形U字高台 (d)	4		
					その他	3		
					皿 (2)	初期伊万里 (a)	4	
					平形 (初期伊万里)	2		
					その他	2		
					坪 (6)	楕圓形 (b)	2	
					坪	2		
					陶器 (T)	肥前系 (B)	天目形	1
					陶器	丸形薄手	2	
					陶器	長手 (a)	15	
					陶器	陶胎染付 (f)	3	
					陶器	青緑釉 (i)	1	
					陶器	その他	1	
SRO3					皿 (2)	熟土目 (b)	2	
					陶器	砂目 (b)	6	
					陶器	透き甲跡 (砂目) (d)	1	
					鉢 (5)	刷毛目 (a)	2	
					鉢	その他	1	
					香炉・火入れ (9)	圓形香炉	1	
					香炉・火入れ (9)	青海波叩き	1	
					香炉・火入れ (9)	その他	2	
					片口 (23)	青海波叩き	1	
					片口 (23)	その他	2	
					酒井	壺體 (29)	1	

針とした。針先は欠損しているが、外方に折れるチモトが確認できる。断面は胴・フトコロとともに楕円形となる。同図27は鎌の可能性もあるが、折り返しが甘く、鎌としては機能しないことから縮め金具であると考えられる。

鉄素材（第27図30～33・35・36、図版82） 棒状鉄、板状鉄、鉄塊が出土している。第27図30～32は板状鉄であり、遺存状況のよい32では中央付近がやや細くなるものの、同図20・21の小札と形状が類似するようにも見える。同図33は棒状鉄としたが、他の遺構出土の棒状鉄とは厚みが異なるため、鉄製品の可能性が残る。同図35・36は鉄塊である。分析を実施していないが、割鉄と考えられる。

鍛冶関連遺物（第27図34、図版82） 鍛冶関連遺物として鉄滓が出土している。図示した34のほかにもSR03からは鉄滓が出土している。銹化しており詳細は不明である。

SR04（第28・29図、図版5・15）

SR03の北約8mに位置し、やや湾曲して南に延びる流路で、長さ約21.5mの範囲で検出した。東端では幅0.4mと狭いが、中程で約3.5m、西端で約1mの幅を測る。西端はSR03と重複しており、平面観察によりSR04が埋没後のSR03を削り込んで形成されていることを確認した。深さは0.3～0.4mである。検出面より高い位置では土層は水平に堆積しSR04を被覆しているので、流路本来の上部は削平されている可能性がある。底面は東端が高く西端が低くなり、その比高差は約0.3mである。内部には砂質土が傾斜して堆積していた。

ここでは主に中世陶磁器が出土し、近世陶磁器は1点（第29図9）のみの出土だが、切り合いでSR03がSR04に先行していることは明らかなので、SR04はSR03より新しいと考えてよい。

出土遺物（第29図1～12、図版15）

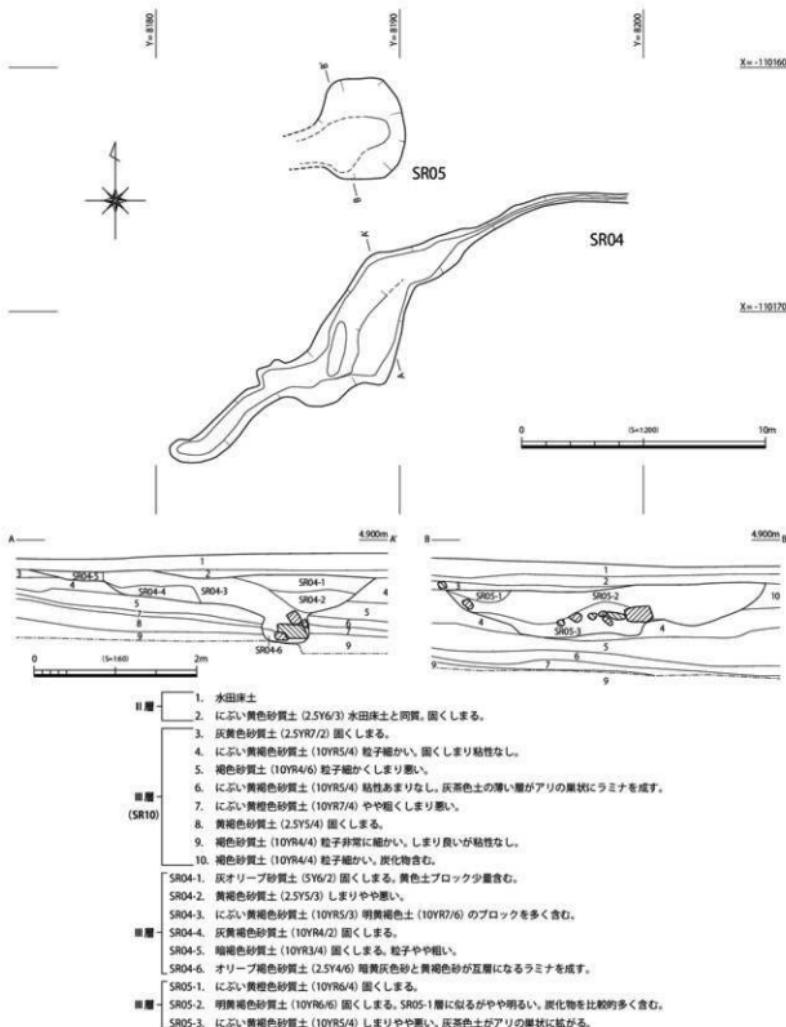
図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第7表に集計した。

陶磁器（第29図、図版15） 中世前半の中国製陶磁器は、同窯系青磁碗I類（第29図3）が最も古く、瓦質土器（同図8）がそれに続く。同図1・2・4は龍泉窯系青磁で、いずれも15～16世紀のものである。7は瀬戸・美濃系陶器（卸目大皿）で、15世紀と考えられる。6は漳州窯系青花皿で、16世紀後半とされる。9は肥前系二彩皿で、17世紀後葉と考えられる。

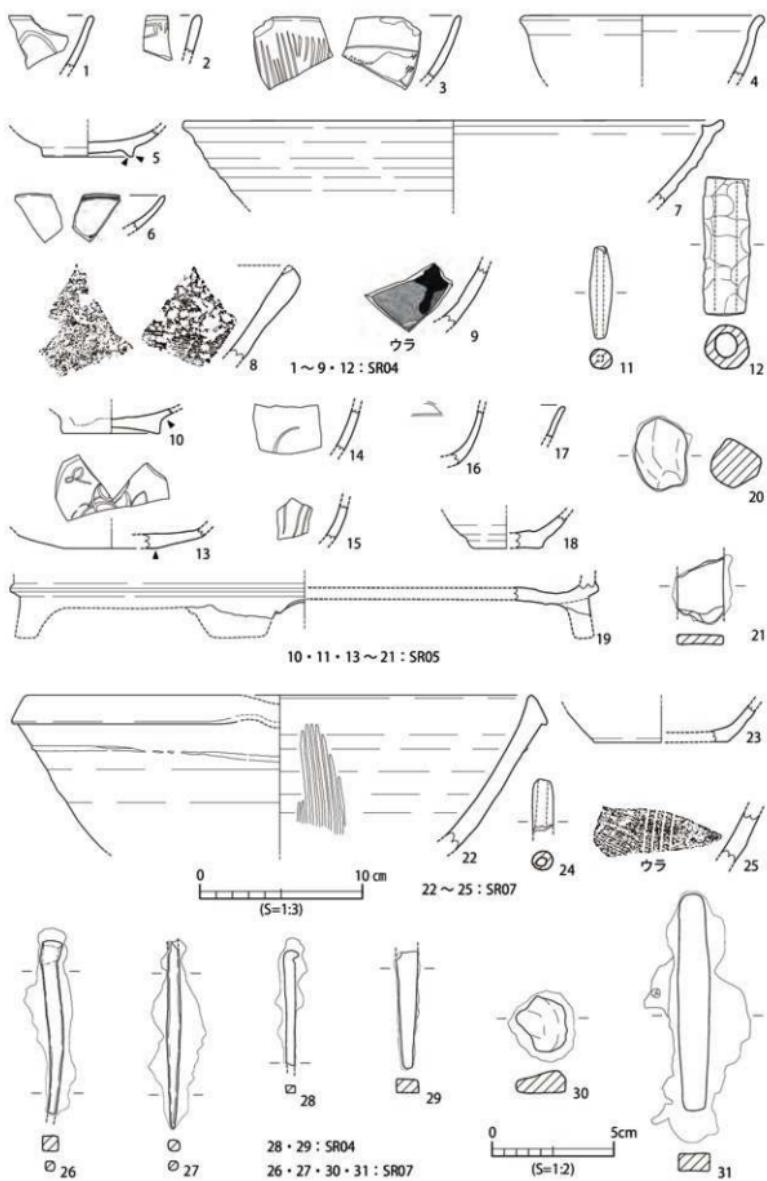
このほか、図示しなかったが備前壺IV A期や、瓦質土器の火鉢などが出土している。

土製品（第29図、図版15） 第29図12は土錘である。円柱形を呈する大型（II類）のものである。両端部を刃物で切断しているとみられる。

鉄器（第29図、図版82） SR04からの鉄器出土は少ないが、鉄鎌、和釘、棒状鉄、鉄塊が出土している。他の遺構同様に明らかに完成品として認められるものを鉄製品として報告する。また、遺構から出土したものはここで報告する。なお、鉄素材については遺存状況が悪いものの、莖部は無闇を呈する。28は和釘であり、形状から皆折とした。このほかにも図示していないが、平釘が数点出土している。



第28図 SR04・05 平面図・土層図（平面図 S=1:200, 土層図 S=1:60）



第29図 SRO4・05・07出土遺物

SRO5 (第28・29図、図版5・15・82)

SRO4 の北約3mの位置で検出された、底面付近が一部だけ残る流路である。平面形は0.4×0.4mの不整な円形を呈し、深さは0.3m、底面はレンズ状である。検出面より高い第28図1層(水田耕作土)がSRO5を被覆していることから、流路本来の上部は削平されていると考えられる。SRO4とほぼ同じ高さで検出されたこと、ともに上部が削平を受けていると考えられることから、SRO4とSRO5はほぼ同時期の流路かもしれない。

出土遺物で時期が判明したものは中世の年代を示すものばかりだが、層位的な所見からはSRO5が中世までさかのぼるとは考えにくい。

出土遺物 (第29図、図版15・82)

図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第8表に集計した。

陶磁器 (第29図、図版15) もっとも古い第29図13が白磁皿(大宰府C・VI類)で、中世前半までさかのぼるものである。他はいずれも中世後半期である。同図14～16は龍泉窯系青磁で、14・16は雷文がつく碗、15は蓮弁文が線描される碗である。同図10は徳化窯系の白磁碗である。ほかに朝鮮製灰青沙器小皿(同図17)、瓦質土器火鉢(同図19)、褐色系土師器坏(同図18)などが出土している。

土製品 (第29図、図版15) 第29図11は土錘である。やや中膨らみで、小型(I類)のものである。

鉄器 (第29図、図版82) SRO5からの鉄器出土は少なく、鉄素材が数点出土するのみである。なお、集計表を第25表で示す。

鉄素材 (第29図20・21、図版82) 第29図20は鉄塊である。分析は未実施のため詳細は不明である。同図21は板状鉄と判断した。遺存状況が悪いものの、断面は長方形を呈している。

SRO7 (第29図、図版3・15・82)

SRO1の北岸東側部分に接して川岸のラインが検出されたため、SRO1とは別の流路が存在すると考え、SRO7として調査を進めた。調査の結果、南側では、北岸で検出した川岸に対応するものが検出されず、またSRO1との重複関係がうかがえる土層の切り合いも確認できなかった。SRO1

第7表 SRO4 中世陶磁器集計表

出土地名	産地	種別	器種	分類	頭数	数量
SRO4	中国	白磁	碗	大宰府C・D期	1	
			皿		1	
		同安窯系青磁	碗	碗I期	1	
			上田焼BII期		2	
		龍泉窯系青磁	上田焼D期		1	
			碗皿細片	15～16世紀前半	2	
		澤州系青花	不明		1	
			皿		1	
	日本	瀬戸・美濃	直線鉢		1	
			壺	IV-A	0	
		瓦質土器	直鉢		1	

第8表 SRO5 中世陶磁器集計表

出土地名	産地	種別	器種	分類	頭数	数量
SRO5	中国	白磁	皿	大宰府C・VI期	1	
			徳化窯	皿	1	
		龍泉窯系青磁	碗	碗I期	1	
			上田焼BII期		1	
		中國製?	上田焼C・II期		2	
			碗皿細片	15～16世紀前半	1	
		朝鮮	碗		1	
			青灰沙	小皿		1
	日本	瓦質土器	火鉢			2
			土師器	壺・皿		4

第9表 SRO7 中世陶磁器集計表

出土地名	産地	種別	器種	分類	頭数	数量
SRO7	日本	直鉢	直鉢	IV-A期	1	
			壺		1	
		防長系 瓦質土器	直鉢		1	
			壺		0	
		土師器	壺・皿	褐色系	1	

北岸際に傾斜堆積した層を別の遺構と誤認した可能性が高いが、これがSR01の一部である確信も得られなかつたので、ここでは出土遺物を「SR07出土遺物」として提示しておく。

出土遺物（第29図、図版15・82） 図示しなかつたものも含めて、中世陶磁器は第9表に集計した。

陶磁器（第29図、図版15） 第29図22は備前擂鉢IV A期、同図25は瓦質土器擂鉢である。前者はSR07出土の備前ではもっとも古く、14C後半とされる。後者は中世後半と考えられる。23は土師質土器環で、褐色系である。

このほか図示できなかつたものとして、防長系瓦質土器擂鉢（15～16世紀）、産地不明の壺あるいは壺片が出土している。これらもおむね中世後半と思われる。

土製品（第29図、図版15） 第29図24は小型土錘（I類）で円柱形を呈す。

鉄器（第29図、図版82） SR07からの出土遺物は少ないが、和釘、矯、棒状鉄、鉄塊が出土している。他の遺構同様に鉄製品、鉄素材に区分して報告する。また、流れ込みの可能性が否定できないが、遺構から出土したものはここで報告し、非掲載のものを含めた集計表を第25表で示す。

鉄製品（第29図26・27、図版82） 第29図26は和釘、同図27は矯である。26は先端が欠損しているが頭部の形状から平釘とした。図示した和釘以外にも数点の出土が認められる。27は上端部が欠損しているが、断面が隅丸方形を呈していることから矯とした。

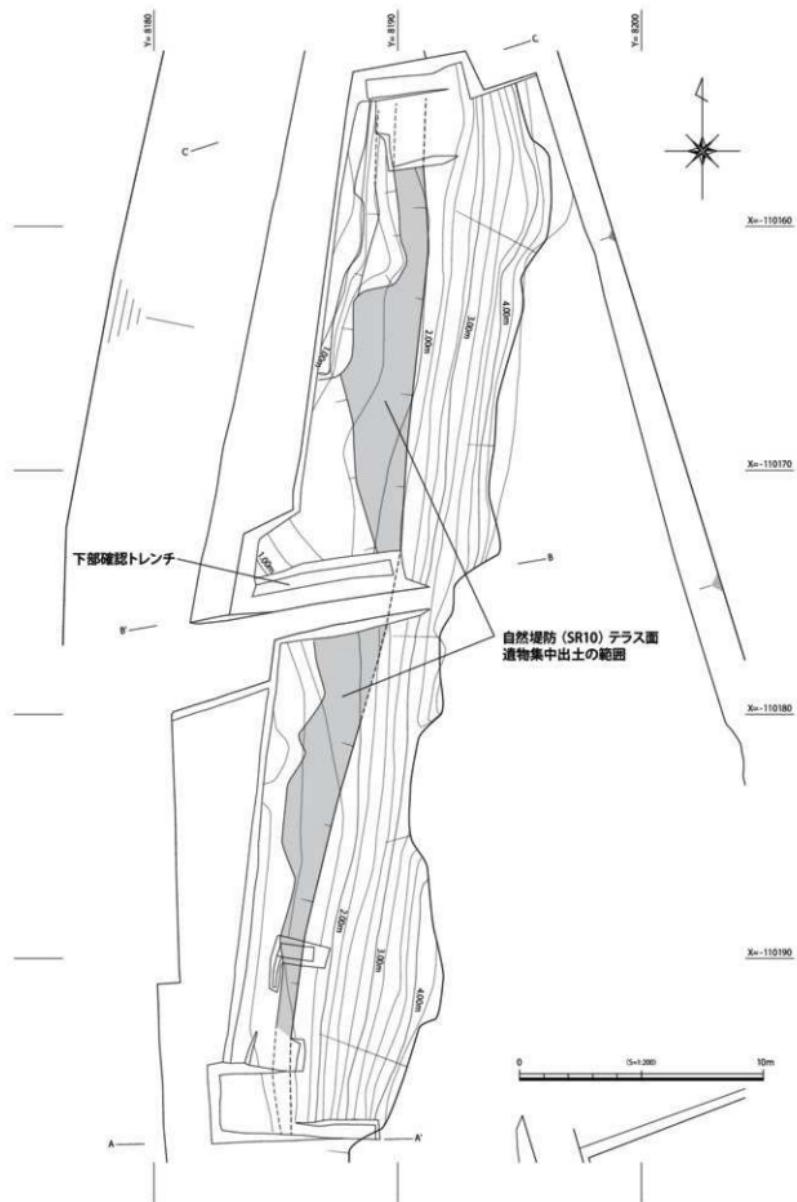
鉄素材（第29図30・31、図版82） 棒状鉄、鉄塊が出土した。第29図31は棒状鉄で、両端部が丸みを帯びるもの、断面は長方形を呈し、他の遺構から出土した棒状鉄と類似する。同図30は鉄塊としたが、銹化が著しく様相は不明瞭である。

SR10（第30～57図、図版6・16～59・83・84）

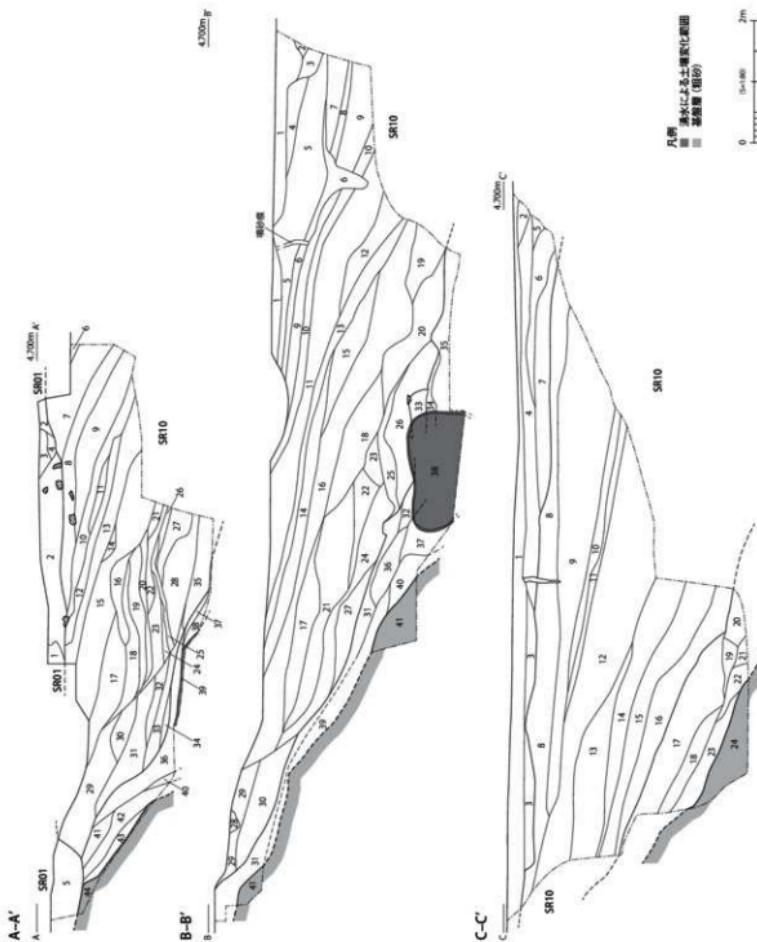
調査区のほぼ西側半分を占める流路で、方向は現在の江の川とほぼ平行している。SR10は、東河岸が平面プランで長さ約45mの範囲で検出された。既述のSR01～05・07はSR10の上部堆積土（遺構埋土）を削り込んで形成されている。

調査当初に実施した土層確認用のための調査で、東河岸から多くの土師器が出土することが確認されたことから、調査は東河岸付近を中心に行い、あわせて流路底面の検出を試みた。安全勾配を考慮しつつ調査を進めた結果、幅約8mの範囲で流路内堆積土を完掘することができた。東岸は20～30度の傾斜を持ち、東端から約3mの位置で平坦面をなすが、西端でさらに下降しているようである。

検出面は、粘質土（第31図土層B-31層など）上面である。土層は上部層（第31図土層C：1～7層）がSR10埋没後の土層（第11図II層）、その下位の①（土層A：6～28層、土層B：1～19層、土層C：8～12層）・②層（土層A：29～35層、土層B：20～30層、土層C：13～16層）がSR10内の堆積土（第11図III層）と考えられる。流路内の土層はいずれも基盤層の傾斜に沿って堆積しており、流れを徐々に西へ移しながら埋没していく様子がうかがえる。上位の①層は厚さ50cm前後の土層が互層に堆積していたが、遺物の出土は少ない。それより下位の②層は20～30cmの厚さで黄褐色系の砂層と黒褐色系の砂質土がやや乱れて互層に堆積していた。②層では黒褐色系の土層から古墳時代の土器が大量に出土し、土器溜り状を呈していた。この層位は数層に分層されたが、出土遺物に大きな年代差は認められなかった。遺物は河岸斜面に集中して出土していたことから、河岸上から投棄されたものと思われる。



第30図 SR10 平面図 (S=1:200)



第31図 SR10 土層図 (S=1:80)

②層の下部（③層：土層B:31～40層）では古墳時代の遺物は出土せず、③層上面が古墳時代中・後期の底面と思われたが、土層Bで下位の状況を確認したところ、同32～38層で弥生時代後期から古墳時代前期の土器（第32図8～16）がまとまって出土したことから、土層B-32～38層は古墳時代前期以降の堆積と考えられる。

その下には青灰色細砂層と黄褐色砂質土とのラミナ層（土層B:35層下層）が確認され、さらに古い底面が下位に存在すると思われた。下部の様相を確認するため中央部（土層B）を部分的に深掘りしたが、遺物の出土は認められず、これ以上深く掘り下げることは危険と判断して調査を停止した。

出土遺物（第32図～57図、図版16～59・83・84）

SR10では、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、ミニチュア土器、鉄器、鍛冶関連遺物、石製品、石器が出土した。とくに②層から古墳時代の土師器がまとまって出土したことから、②層出土の土師器、須恵器を中心に図示した。ミニチュア土器・鉄器・鍛冶関連遺物についても古墳時代に属する可能性が高いため、ここで扱う。また、その下位層では古墳時代中期の土師器を混じえずに弥生土器を中心として土器が出土した。SR10の自然堤防を形成する土層であるが、第11図II層で示した包含層とは性格が異なるため、ここで扱う。

これ以外の縄文土器、石器については、SR10形成に関係ない二次的な堆積と考えられたため遺構外出土遺物として後述する。

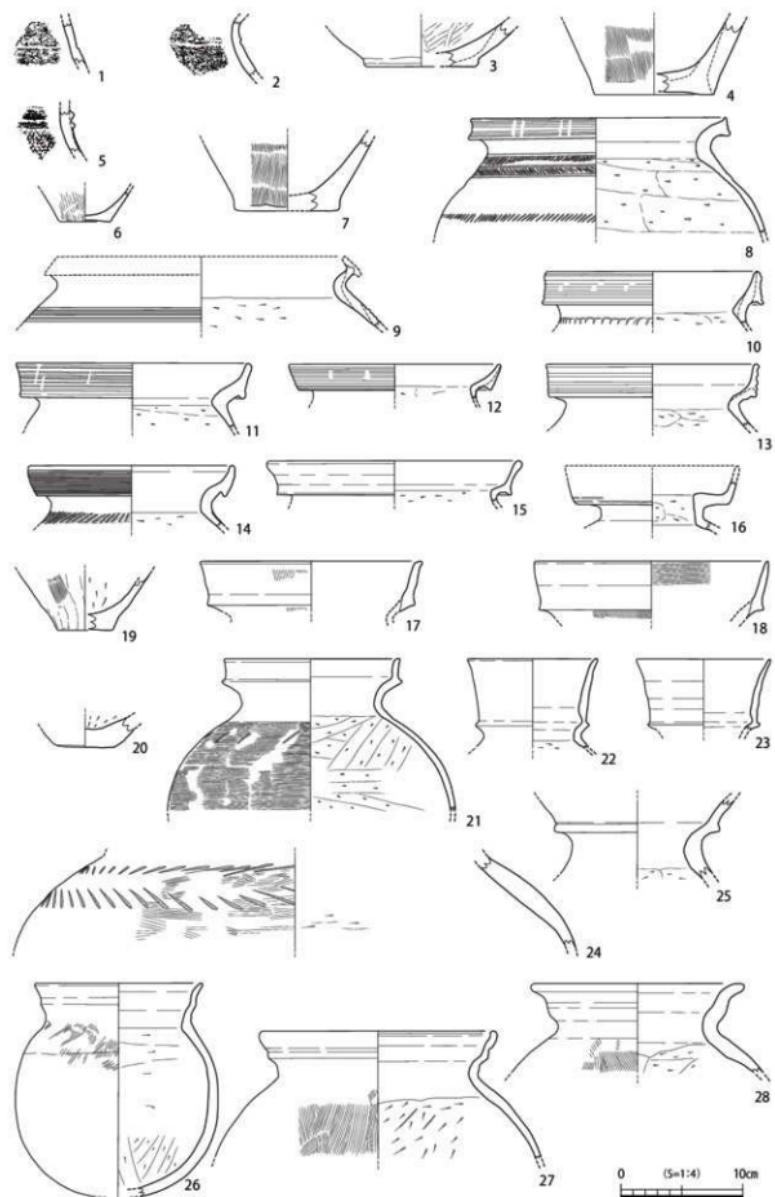
土層B（32～38層）出土土器

弥生土器（第32図1～16・19・20、図版16・17） 第32図1・2はI様式の壺である。1は上向き、2は下向きの段がつけられている。同図3は壺底部で、I様式の可能性がある。同図4・7はI様式の甕底部である。同図5は壺頸部片で、突帶2条と櫛状工具による刺突文が施される。III-1様式である。同図6は内面にケズリ調整がみられない底部で、外面に縱方向のヘラミガキが観察でき、中期と考えられる。同図8・9は口縁部が内傾するV-1様式の甕である。8の口縁部には凹線文、肩部には有軸羽状文、9の肩部にはクシ描沈線文が描かれている。同図10～14はV-2様式の甕で、口縁部には擬凹線文が描かれている。14の肩部には、口縁部と同一原体による押引き状の刺突文が施されている。同図19・20は、内面にケズリ調整が見られるIV～V様式の底部であるが、小片のためいずれの時期か決定できない。

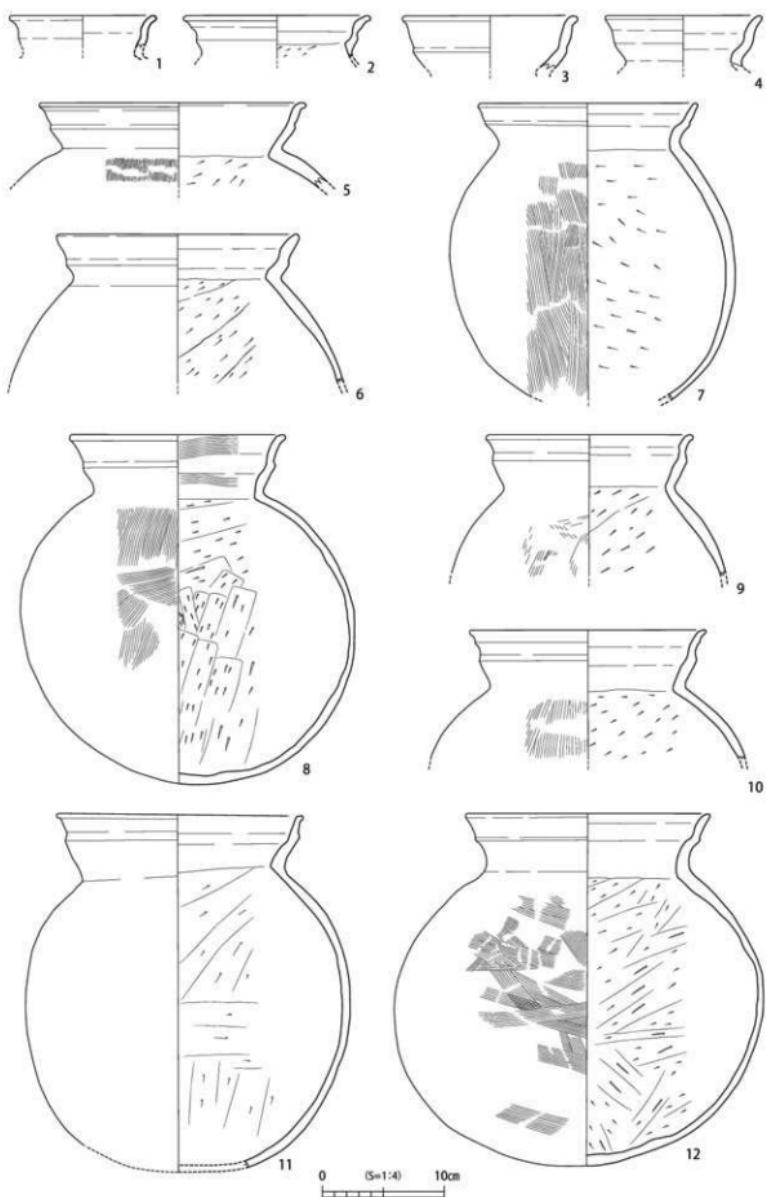
土師器（第32図17・18・21～24、図版16・17） 第32図17・18・21は古墳時代前期の甕である。いずれも複合口縁だが、21は口縁部がやや短く直立気味である。同図22・23は複合口縁の小型丸底甕で、口縁部は長く直立気味に外反する。同図24は甕または甕の肩部で大型品である。肩部に板状工具による羽状文が施されている。

第②層土器だまり出土遺物（第32図～第57図、図版16～59・83・84）

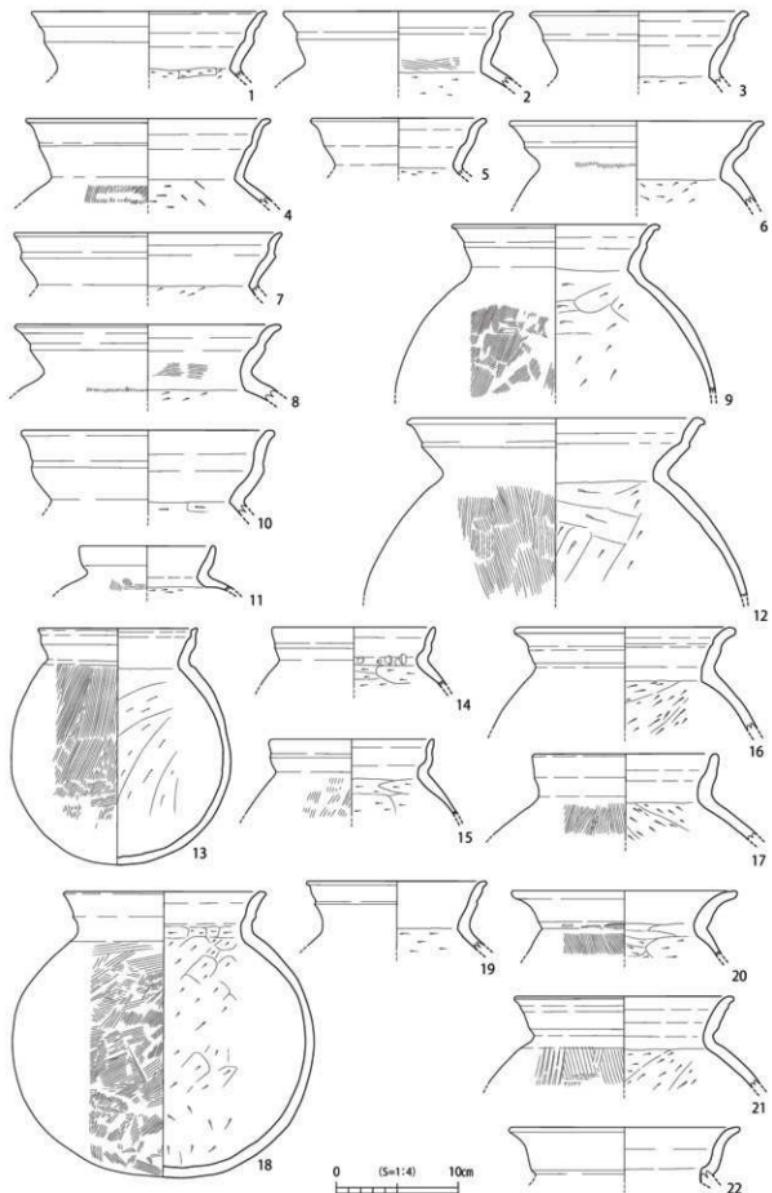
土師器・甕（第32～42図、図版16～31） 複合口縁の形状を残すものを甕I類、単純口縁で口縁部がやや内湾・外傾・外傾するものを甕II類、単純口縁で頸部の屈曲が弱く肩部が張らないものを甕III類、甕に近い形状のものをIV類、小型の鉢形をV類とし、各類を形状の違いからさらに細分した。I類は複合口縁系、II A・B類は布留式系を、III類は出雲部の横穴墓や奈良時代集落から出土する甕を念頭に置いた。



第32図 SR10 出土遺物（1）



第33図 SR10出土遺物(2)



第34図 SR10出土遺物（3）

甕ⅠA類（第32図25、図版16）複合口縁の形状をよく残すが、口縁下の稜が突堤状に丸く大きいもの。

甕ⅠB類（第32図～第34図、図版16～20）稜を段や稜線で強調するもの。この部分の内面は凹面をなすことが多い。頭部と口縁部の形状からa～cに3細分する。

a類（第32図26～第33図10）稜以下の頸部が短く、稜より上の口縁部が長いもの。

b類（第33図11～第34図1）稜より上の口縁部が短く、頸部が長いもの。

c類（第34図11・13～15）口縁部が直立気味なもの。

甕ⅠC類（第34図・35図、図版20～22）複合口縁の形状がわずかに残るもので、稜が丸いなど痕跡的である。稜の作出方法により3細分する。

a類（第34図16～19・21）稜をわずかな段・稜線で表現するもの。ⅠB類よりさらに痕跡的である。

b類（第34図20・22～第35図5・7・12）稜が丸く作出されるもの。頸部が非常に短いもの（第34図20・22）や非常に痕跡的なもの（第35図5）などがある。

c類（第35図6・8～11・13）稜を凹線で作出するもの。凹線が1条めぐるものが多いが（第35図6・8～11）、まれに2条のもの（同図13）がある。

甕ⅡA類（第35・36図、図版21・22）単純口縁のものうち、口縁部が内湾するものを甕ⅡA類とした。

a類（第35図14～第36図2・4・5）口縁内面が凹面をなすもの。

b類（第36図3・6～13）口縁部内面が凹面をなさないもの。

甕ⅡB類（第36図14～19、図版22・23）口縁が外傾するもの。Ⅱ C類と区別が困難なものがある。

甕ⅡC類（第36～38図・第41図11、図版23～26・30）口縁が外反するもの。口縁形態により2細分する。

a類（第36図20～第38図11・第41図11）口縁が大きく外反するもの。ほとんどは口頸部が厚いが、第41図11は全体に器壁が薄い特異な土器である。別に分類したほうがいいかもしれない。

b類（第38図12～16）口縁が直立気味に外反するもの。

甕ⅡD類（第39～40図、図版26～28）口縁部中程あるいは上部で屈曲し、口縁部上半がさらに大きく外反するもの。形態により2細分する。

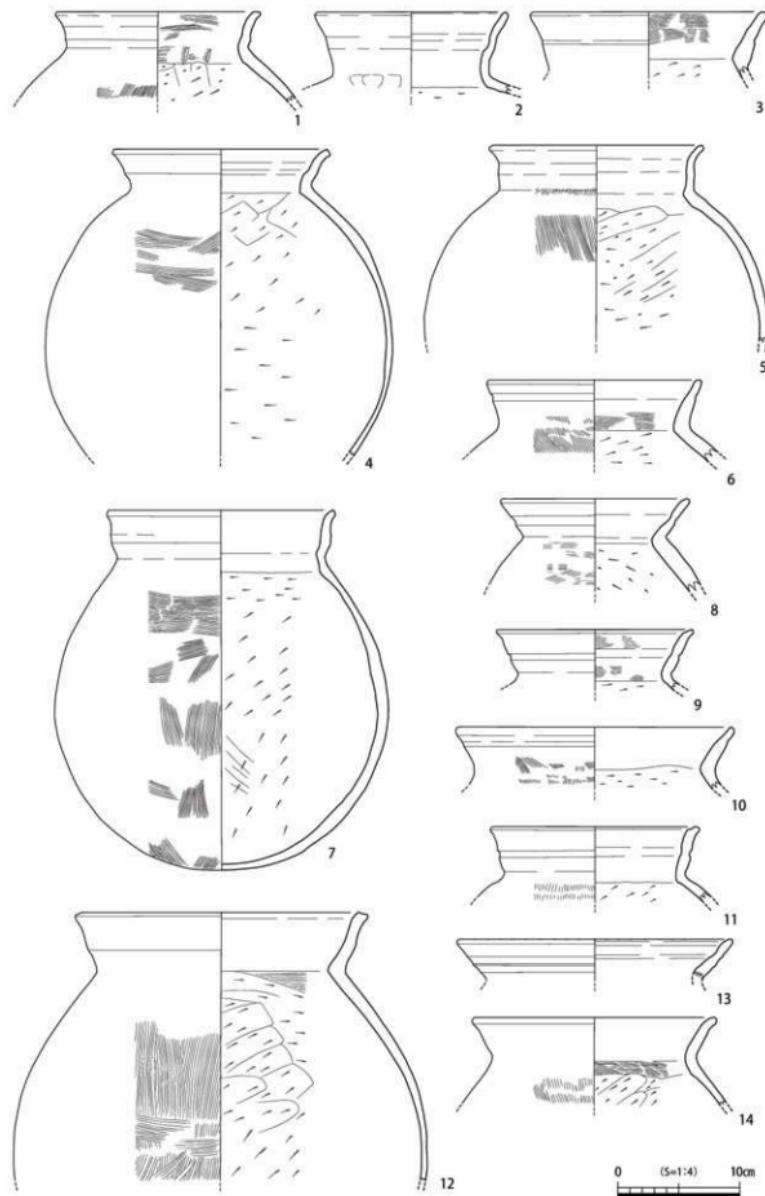
a類（第39図1～5）頸部から口縁部にかけて全体に外反するもので、口縁上半が屈曲気味にさらに大きく外反するもの。Ⅱ C a類と区別が難しいものがある。

b類（第39図6～第40図5・7・第41図9）口縁部下半が直立気味で、上半が屈曲して大きく外反するもの。下半が内傾するもの（第39図14など）も含めた。

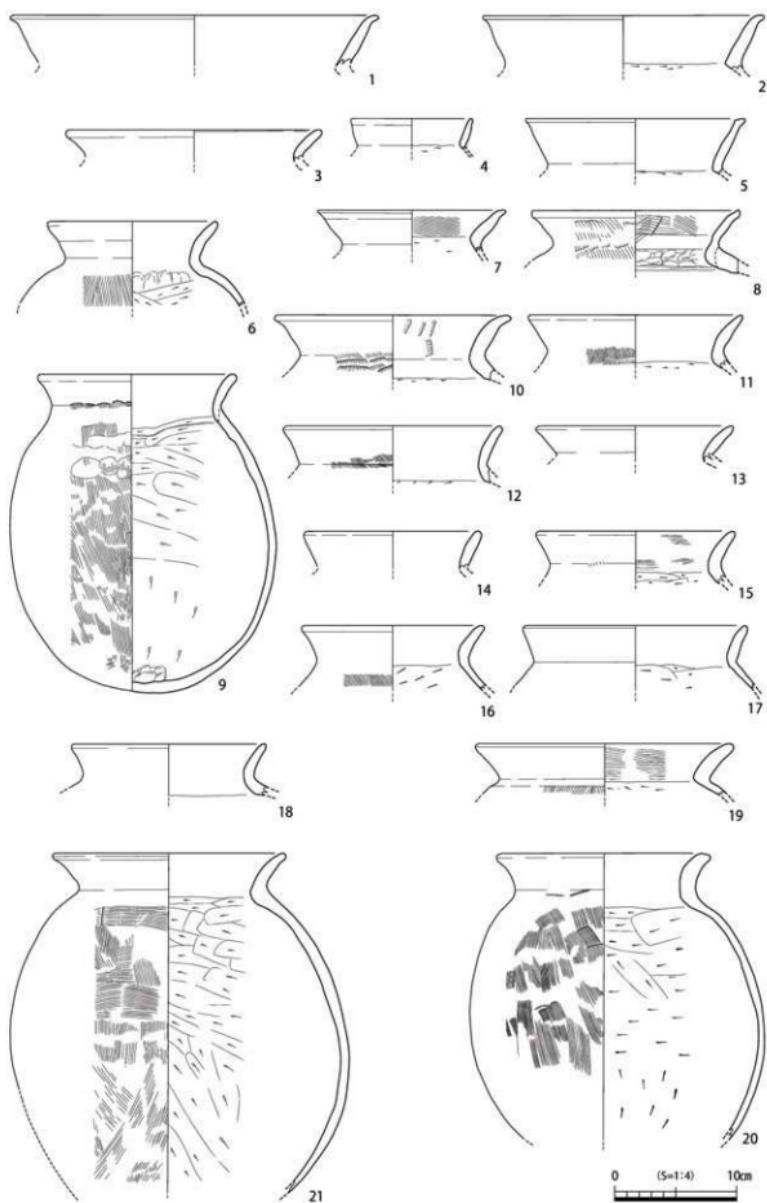
甕ⅢA類（第40図8～第41図4・6、図版28・29）胴部の張りが弱いもののうち、口縁部が長いもの。

甕ⅢB類（第40図6・第41図5・7・8・10・12・15、図版29・30）胴部の張りが弱いもののうち、口縁部が短く外反するもの。甕Ⅱ類と区別が難しいものがある。

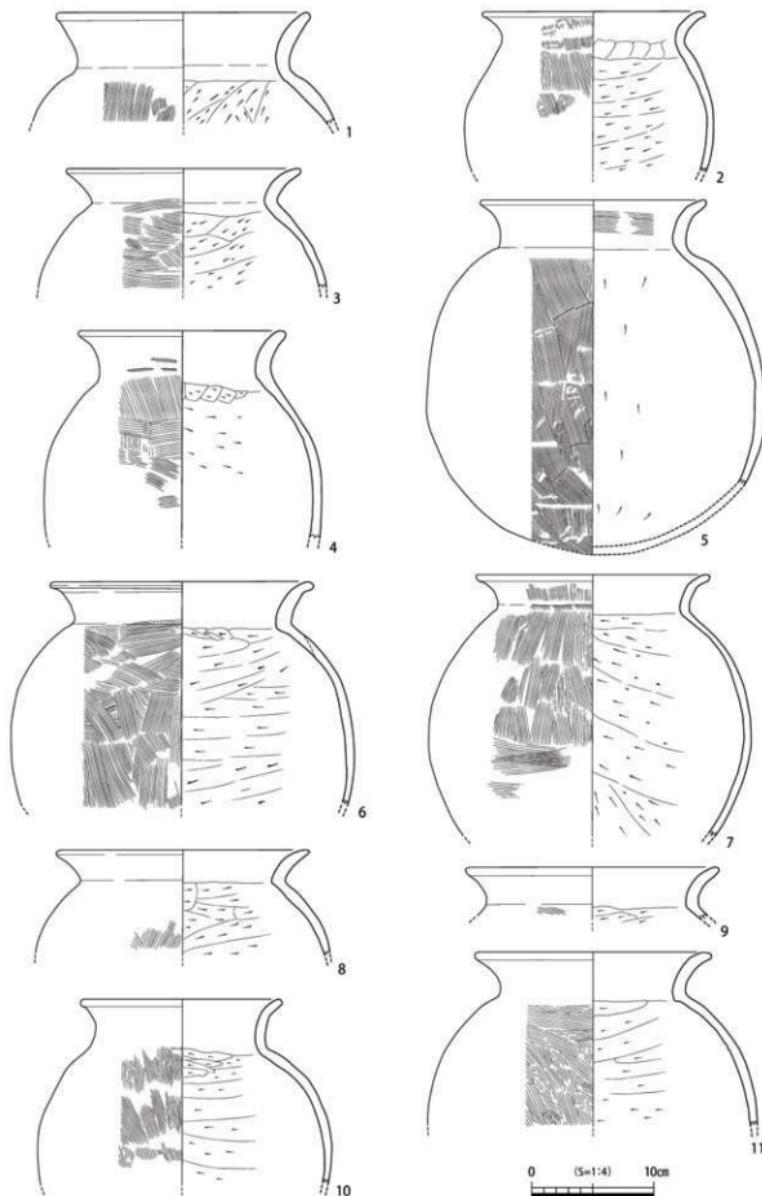
甕Ⅳ類（第41図13・14・16～第42図3、図版29・30）口頸部が長いもので、壺に近い形態をなす。



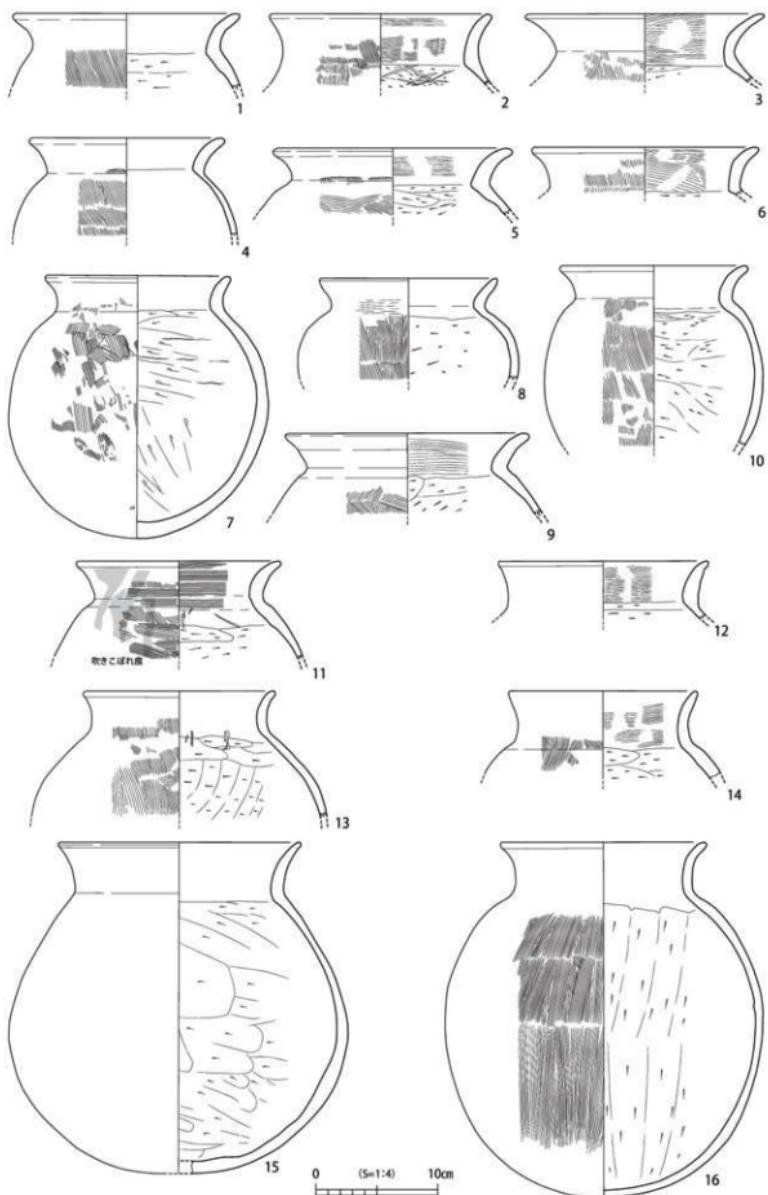
第35図 SR10出土遺物(4)



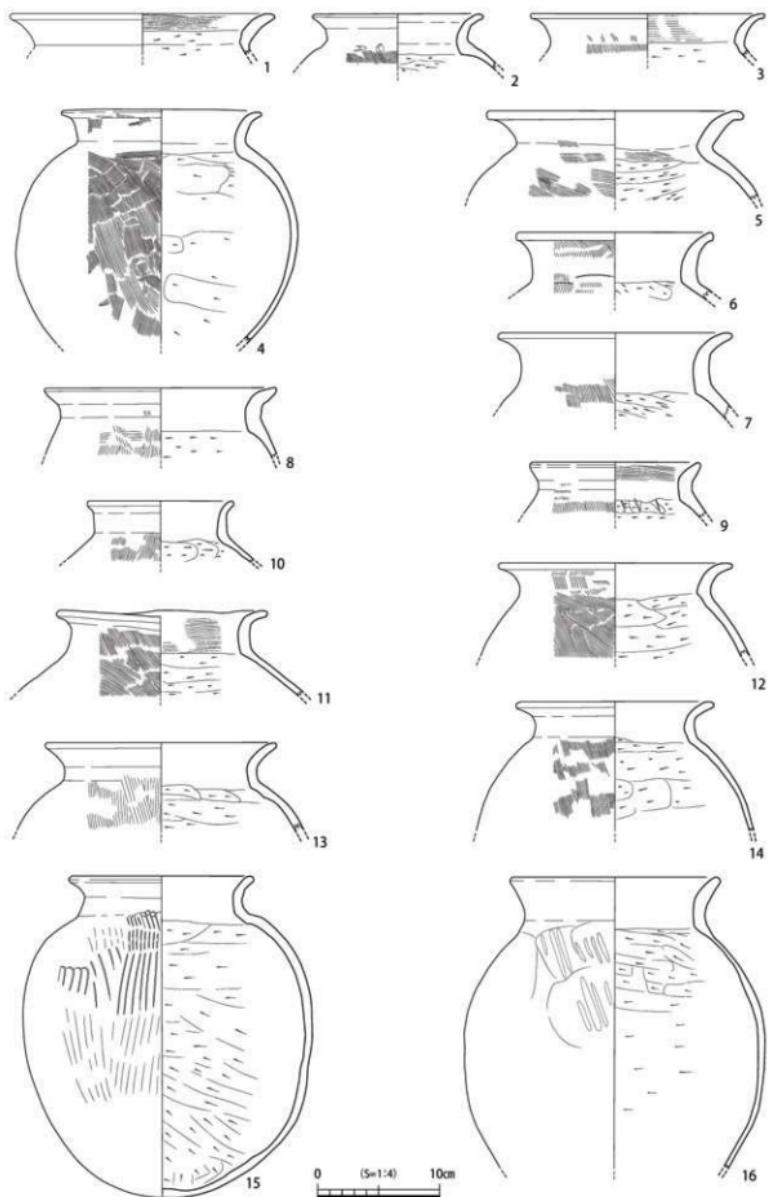
第36図 SR10出土遺物(5)



第37図 SR10出土遺物（6）



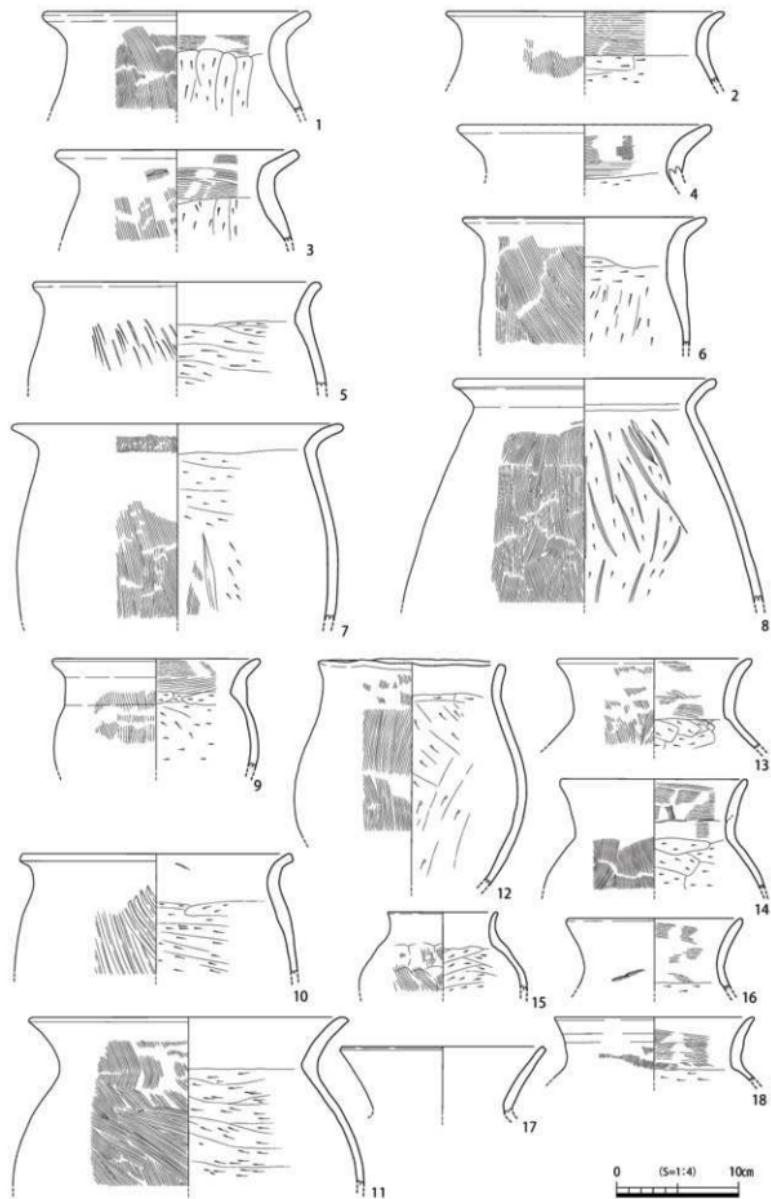
第38図 SR10出土遺物(7)



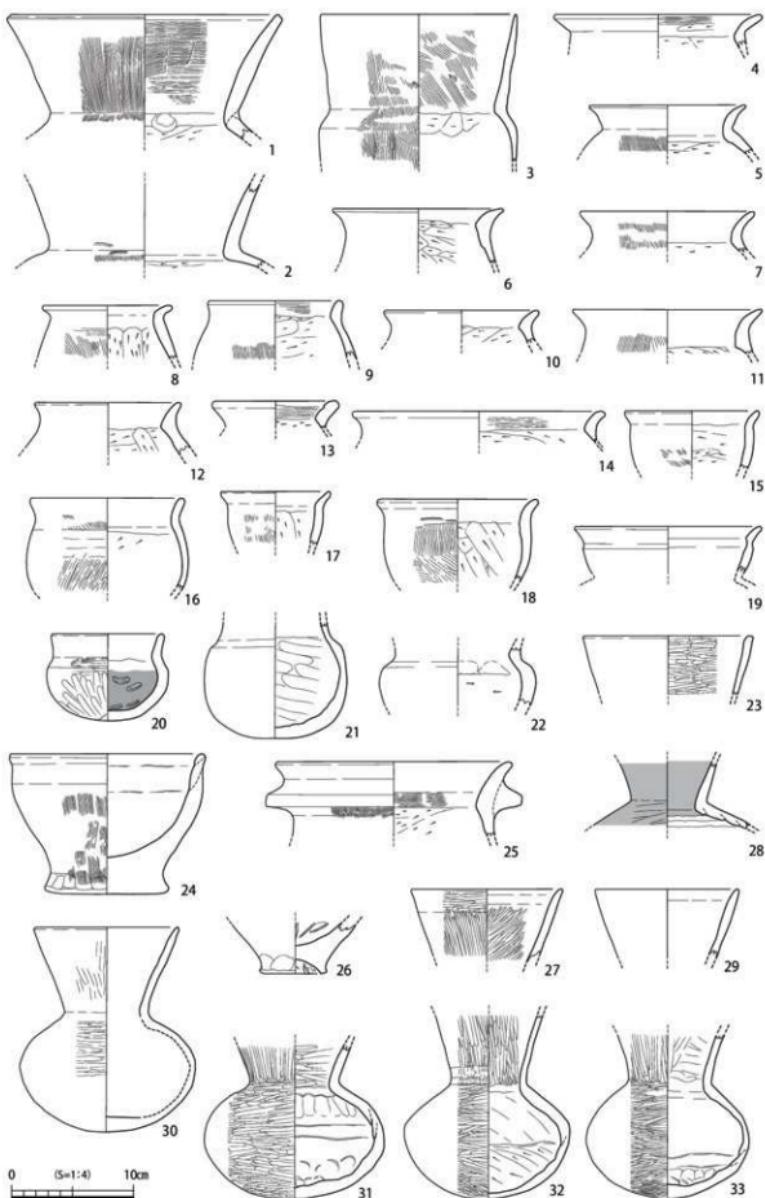
第39図 SR10出土遺物(8)



第40図 SR10出土遺物(9)



第41図 SR10出土遺物(10)



第42図 SR10出土遺物(11)

調整が壺と同じであること、当地の古墳時代中・後期に中型壺が存在するかどうか不明なことなどから、これらも壺として扱う。

壺V類（第42図4～19、図版30・31） 口径10～17cm程度の小型である。第42図20など参考にすると、鉢としたほうがよいかもしれない。ほとんどは壺II C類と同様の外反口縁を持つが、同図19は壺I B b類と同じ複合口縁系列の口縁である。

鉢（第42図23・24・26、図版31・32） 口縁が直口気味に開くもので、鉢と考えた。第42図24は完形に近いもので、底部は平底である。同図26は上げ底で、底外面はケズリ調整が施されている。24の例から、鉢と判断した。24・26とも、古墳時代中・後期ではあまり見ない底部だが、調整・胎土など他の土師器と同じであることから、この時期と考えた。

鉢付土器（第42図25、図版31） 頸部に太い突帯がめぐる特異な土器である。突帯以外の部分や調整が壺II C類と同であることから、古墳時代中・後期と考えた。細片も含めて同様な土器はこれ以外に出土していない。

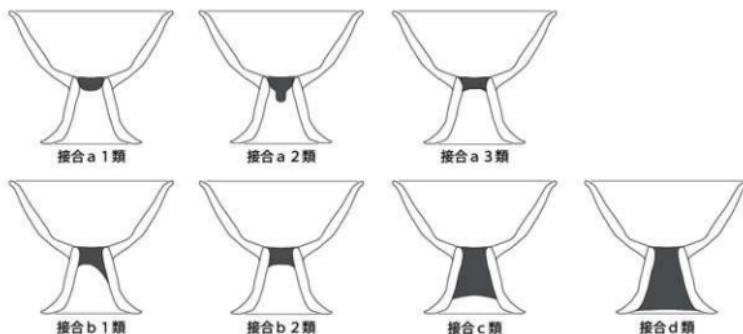
壺（第42図20～22・27～33・第44図1・2、図版31～33） 器高17cm程度の小型の壺である。頸部が長いものが多く、第44図2のような短頸は少ない。いずれも外面には非常に丁寧な調整が施され、とくに口頸部は縱方向のミガキが特徴的である。第42図28の肩部内面には粘土組積上げ痕跡が明瞭に残り（図版32）、同図31・33・第44図1の内底面には指押圧痕が顕著である。第42図20～22は短頸の小型壺とみられる。

高坏（第43～45図、図版33～40） 図示したもの以外は全形が残るものがないため、坏部と脚部を別に形態分類する。また、それとは別に坏部・脚部の接合方法によって細分する。表記は、全形がわかるものは坏部・脚部各分類の組み合わせとし（例えば「IA」など）、坏部・脚部一方のみ残るものは「I」・「A」などのみ記述する。さらに接合方法分類を加える（例えば「IAa1」など）。脚部形がわかるものは両者の組み合わせを記述し（「Aa1」など）、接合のみが判別できるものは接合方法のみを記載する（「a1」など）。

坏部I類（第44図3・5～13・第45図1） 口縁下部で屈曲するもの。

II類（第44図14～25） 口縁が内湾するもの。小片では土師器碗と区別できない。

III類（第44図4） 口縁上半が外反するもの。



第43図 高环接合部模式図

脚部 A類 (第44図3・6~8) 筒部が細長い円筒形を呈すもの。

B類 (第44図4・10~13, 第45図1~6・8~10) 脚高が高いもの。脚全体が末広がりとなって脚端部に達する。

C類 (第44図15~25・第45図11~23) 脚高が低いもの。脚全体が末広がりとなって脚端部に達する。

接合 (第43図) 接合については、環部底部の粘土充填の差異によりa~cに3分し、さらに細部の違いにより細分した。煩雑になるため、ここでは代表的な資料を挙げて説明するが、観察表にはすべてに分類番号を記載しているので参照していただきたい。

接合a類 (第44・45・66図, 図版33・34・36・69) 充填が环部底面にとどまっているもの。3細分する。

a1類 (第44図3・6, 図版36) 充填粘土が半球形をなすもの。

a2類 (第44図7・第66図25, 図版33・69) 充填粘土が脚部に若干はみ出するもの。なお、遺構外出土遺物ではあるが、第66図25は脚部から剥離した充填粘土である。

a3類 (第44図4・8~13, 図版34) 脚部にはみ出した充填粘土を脚部側から調整したもの。

接合b類 (第45図, 図版37) 充填粘土が脚部上部まではみ出するもの。下から調整される。

b1類 (第45図6・8・10, 図版37) 充填粘土が脚内面の一方に偏っているもの。

b2類 (第44図15, 第45図2~5・7・9・11・12, 図版37) 充填粘土を下から全面に調整し、脚部と一体化したもの。

接合c類 (第44図16~22・24・25, 第45図13~18など, 図版38・39) 脚中程まで粘土を充填するもの。

第10表 SR10出土土師器(壺)集計表

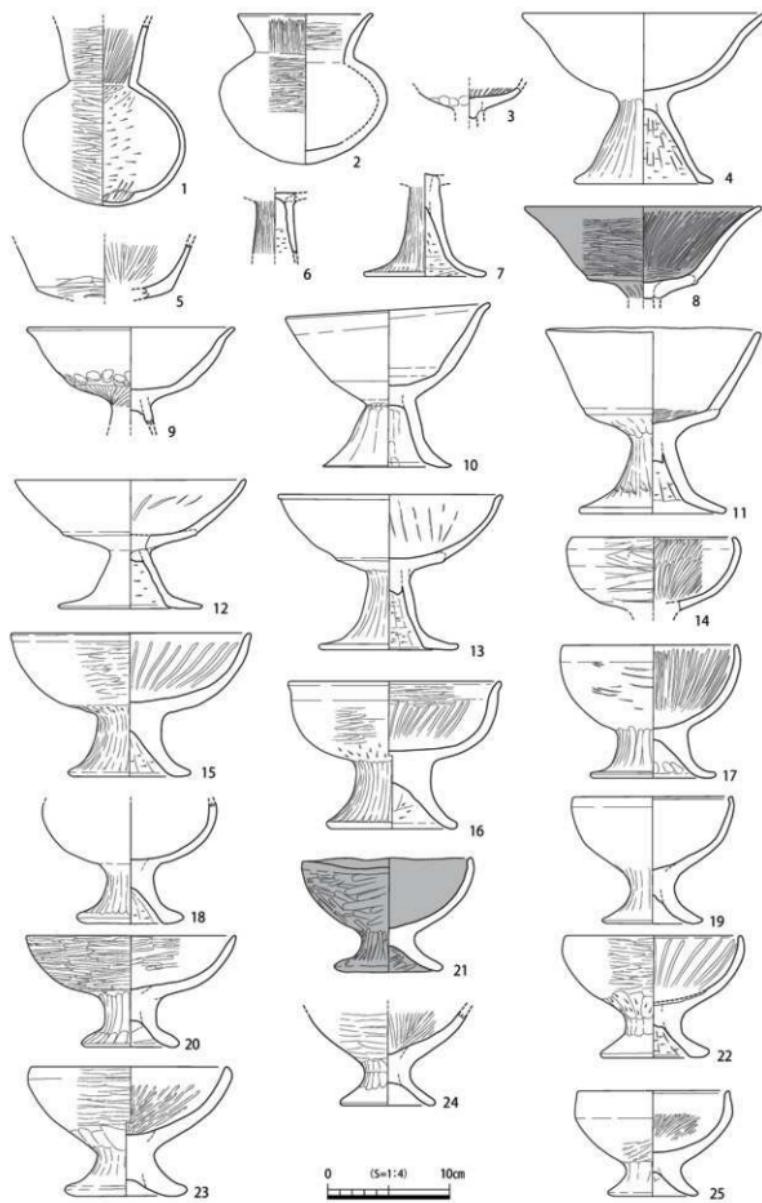
I A	I B a	I B b	I B c	I B 口縁	I C a	I C b	I C c	I 類
10	25	39	4	6	5	27	11	1
10	I B類計			74	I C類計			43
II A a	II A b	II B	II C a	II C b	II D a	II D b	III A	III B
4	26	59	133	19	192	64	20	22
II A類計	30	59	II C類計		152	II D類計		256
							III類計	42

第11表 SR10出土土師器(高環)集計表

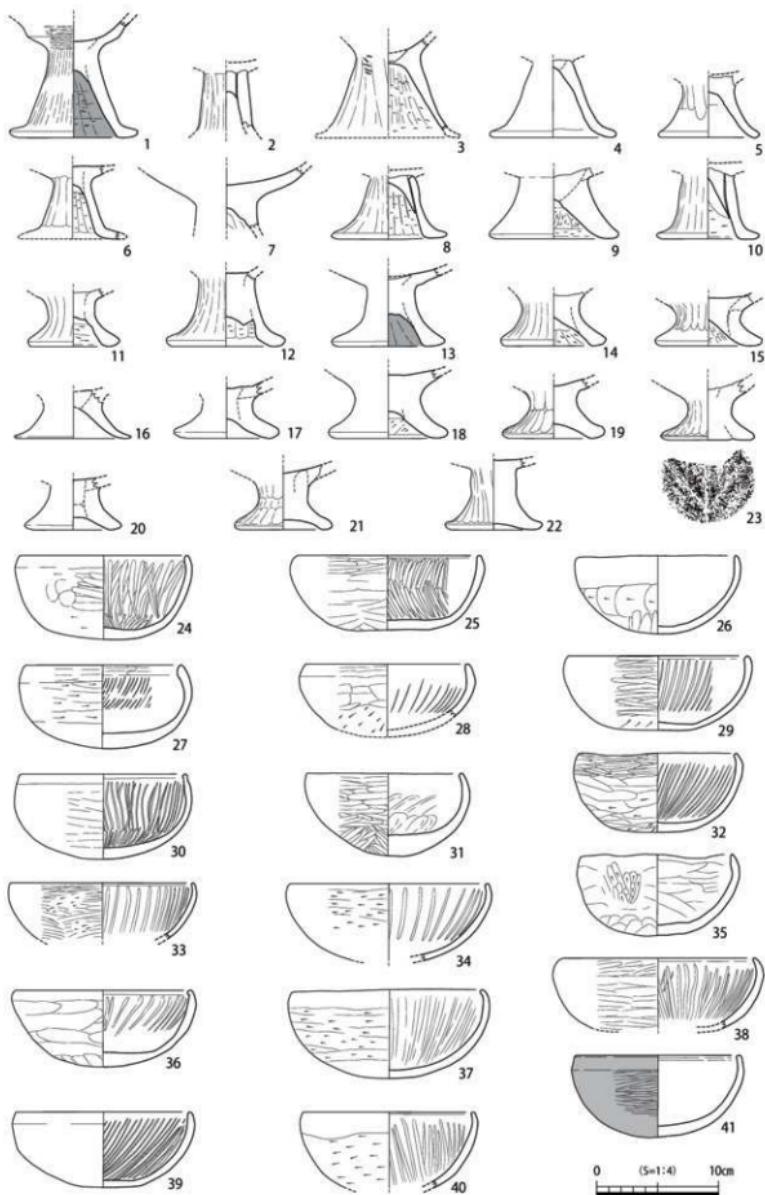
器形	接合						
全形	a 1	a 2	a 3	b 1	b 2	c	d
I A類	1		2				
I B類			3		1		
II C類					1	10	1
III B類			1				
脚	a 1	a 2	a 3	b 1	b 2	c	d
A類							
B類			3		4	6	
C類			1		15	10	4

第12表 SR10出土土師器(碗)集計表

I 類	a	b	c	底部
	21	16	4	24
II 類				



第44図 SR10出土遺物(12)



第45図 SR10出土遺物(13)

接合 d 類（第 44 図 23、第 45 図 1・19～23、図版 39）脚端部付近まで粘土を充填するもの。底面がわずかに凹面をなすもの（第 45 図 19～22）と平坦面をなすもの（同図 23）があるが、細分しない。20・21 の破面の観察で、充填痕跡が認められた。23 の底面には木葉痕がみられる。

碗（第 45・46 図、図版 40～44）丸底と平底があり、前者を I 類、後者を II 類とする。II 類は SR10 では小片しかなく、全形がわかるものは包含層（第 II 層）から出土している（第 66 図 10）。I 類は口縁部形態の差異により 3 細分する。碗と思われる破片は多数出土したが、口縁形態は高坏とよく似ていることから、破片では碗と断定することは困難である。各分類の集計を第 12 表に示したが、これは碗であることが確実なものに限った。高坏の可能性があるものを含めた口縁部破片数は、a 類が 205、b 類が 131、c 類が 22 である。

I a 類（第 45 図 26・29・31・33～35・38～40・第 46 図 3）口縁部が単純に内湾するもの。

全面ミガキまたはナデ調整のもの（1 類：第 45 図 29 など）と、外面口縁部付近にケズリ境界があり底部にかけてケズリ調整されるもの（2 類：第 45 図 26 など）がある。

I b 類（第 45 図 24・25・27・28・30・32・36・37・41～第 46 図 2・4～7・9）口縁部が単純に内湾するが、口縁部外面に稜が付くもの。稜がケズリ境界となっており、以下底部にかけてケズリが施されている。

I c 類（第 46 図 8・10～12）口縁部が外反するもの。この類も丸底である。

瓢（第 46 図 13～21・第 47 図 1～6、図版 44～46）第 46 図 13～21 は把手、第 47 図 1～6 は全形がうかがえるものであり、口径 19～25cm、底径 7～10cm、器高 23～27cm の中型である。いずれも胴部中程に 2 力所把手をつけ、調整は比較的丁寧である。破片では口縁 69、底部 50、把手の数が 50 である。瓢 1 個体に把手が 2 個付属するなら、瓢は 25 個体以上（第 47 図 1～6 を加えると 31 個体以上）あったことになる。

把手は指押圧痕が残るものが多く、本体に比べて雑な作りである。上外方に湾曲するものが多く、第 46 図 21 は極端な屈曲である。同図 14・18 は扁平、同図 20 は非常に小型の把手である。把手は本体胴部に円孔を穿いた後に基部が埋め込まれている。第 47 図 2 の内面には把手接合痕跡が明瞭に残り、第 46 図 15・20 の基部は擬口縁となって接合状況が観察できる。

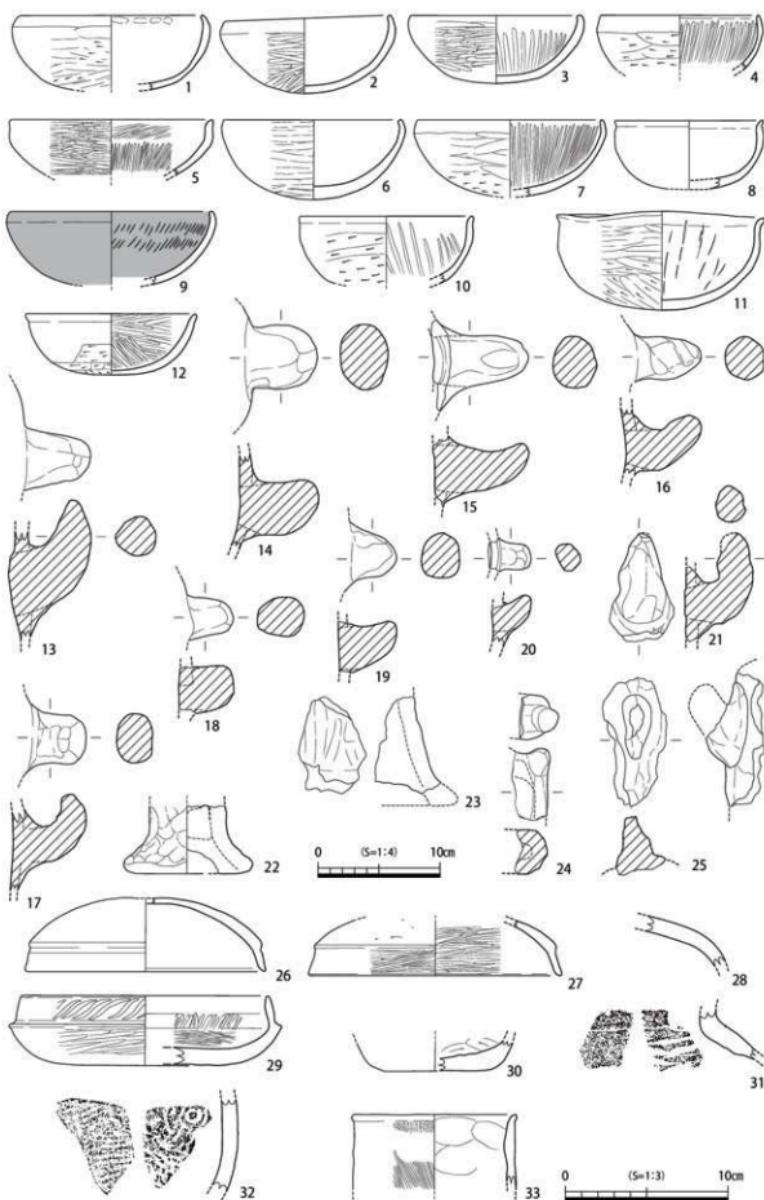
竈（第 47 図 7～第 48 図 13、図版 45～48）庇がつくもの（第 47 図 7～9）と庇がないもの（第 48 図 1～3）がある。前者は、庇の設置部位が焚口上部に限られ、焚口両側は素縁のものばかりである。全体に竈にしては器壁が薄く、華奢な印象がある。口縁部は短く外反し、小片だと甕 II C 類と区別できない。内面は大部分ケズリ調整が施され、底部付近はナデ（第 48 図 1）、指押圧痕（同図 4・11）がみられる。また、11 の底部内面には板目状圧痕もみられる。底面はナデ調整されるものが多く、12・13 には板目状圧痕がみられる。

庇は破片で 13 点出土しており、竈は少なくとも 21 点以上存在したことがわかる。

土製支脚（第 46 図 22～25、図版 44）全形がうかがえるものは出土していない。出土数は少なく、図示しなかったものも含めて破片 14 点に過ぎない。

第 46 図 22・23 は底部付近、同図 24・25 は小突起部分の破片である。22 の底面は凹面をなす。いずれも器面に凹凸が著しい。破面の観察では、まず中空の筒形を作成後、内部に粘土を詰め込んで作られたように思われた。

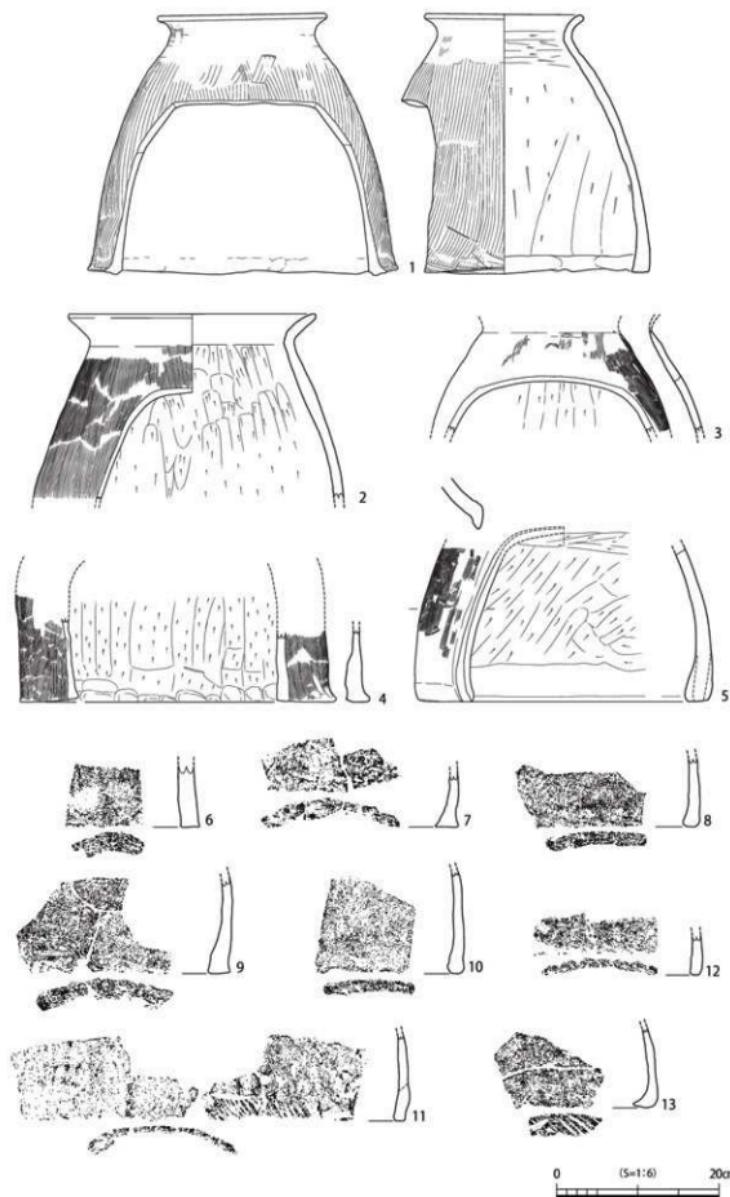
須恵器模倣土師器（第 46 図 26～32、図版 43～45）第 46 図 26～28 は、須恵器坏蓋を模倣



第46図 SR10出土遺物(14)



第47図 SR10出土遺物(15)



第48図 SR10出土遺物(16)

したものである。同図28は天井部小片だが、同図26・27は稜を作り出し比較的忠実に模倣している。同図29は坯身の模倣品で、受部は短く形骸的である。天井部・底部外面は回転ヘラケズリが施され、口縁部や内面はミガキが多用される。同図30は平底の小型土器で、小型の環が模倣された可能性がある。これらはいずれも黒く焼かれている。同図31・32は甕の模倣である。外面に平行タタキ、内面に同心円状の当具痕がある。ともに忠実に須恵器甕を模しているが、色調は黄橙色で土師器の色調を呈す。

製塩土器（第46図33、図版44） 直口の小型土器で、器面の凹凸が著しい。外面はハケメ、内面には指押圧痕が観察できる。製塩土器と考えたが、別種かもしれない。このほか、図示できなかつたが内面に布目痕がある薄手の製塩土器が1点出土している。

須恵器蓋坏（第49・50図、図版48～52） 古墳時代の蓋坏をI類、TK217式以降の金属器模倣のものをII類とした。

蓋I類（第49図1～21、図版48～50） 稜の形状でA～D類に、口唇部の形状でa～d類に細分した。天井部は丸みを持つもの（同図1・3など）と平坦なもの（同図7～9など）があり、観察表では前者を「丸」、後者を「平」と分類番号の後に付してある。稜と口唇部の相関は、第13表に示した。天井部は基本的に回転ヘラケズリが施されるが、小型の21はケズリ調整がみられない。

A類（第49図1・3～6・9～11） 稜を作り出して突出させるもの。比較的しっかりと作られたものが多い。

B類（第49図2・7・8・12） 稜を沈線で表現するもの。

C類（第49図13・16） 届曲させることで天井部と口縁部の境界を表すもの。

D類（第49図14・15・17・21） わずかに稜の痕跡があるもの。小型のものが1点ある（21）。

口唇a類（第49図1・7） 口唇が凹面をなすもの。

口唇b類（第49図2～6・8・9・11・12） 口唇が段をなすもの。

口唇c類（第49図14～16） 口唇が丸いもの。

第13表 SR10出土須恵器（蓋坏）集計表

	蓋I（古墳）												蓋II（古代）										
分類	I Aa	I Ab	I Ac	I A	I Ba	I Bb	I Bd	I B	I Cc	I Dc	I Dd	蓋II A	蓋II B	蓋II b									
破片数	2	11	1	10	1	3	1	7	1	2	1	2	5	3									
	IA計				IB計				IC計				ID計										
計	24				12				1				3										
	II計												10										
	蓋II（古墳）	蓋II（古代）																					
分類	I Aa	I Ab	I Ac	I Bc	I Cc	ケズリ有	ケズリ無	II	III A c	III A	III B b	III B	III B b	II・III a	II・III b	口縁							
破片数	2	1	14	14	8	85	11	3	1	1	1	1	4	1	12	32							
	IA計				IB計				IC計				II計										
計	17				14				8				11										
	III計												8										
	II計												12										
	III計												32										

第14表 SR10出土須恵器（高坏）集計表

环II脚B	环III脚B	环I	环III	脚A	脚B	透孔あり	透孔なし
1	1	1	4	3	15	6	17

第15表 SR10出土須恵器（壺・甕）集計表

器種	中型壺口縁	中型壺口頸部	小型壺	短頸・丸底壺	長頸壺	甕	提瓶	横瓶	甕口頸部
数量	18	12	8	5	2	7	1	1	11

第16表 SR10出土須恵器（甕当具痕）集計表

分類	当具痕A	当具痕B	当具痕C	輪花a類	輪花b類	輪花c類
数量	83	175	114	1	3	9

口唇d類（第49図10・13・17） 口唇が面をなすもの。

このうち、天井部内面に同心円当具痕がみられるもの（第49図7・14・18～20）、天井部外面に板目状圧痕がみられるもの（同図18）がある。内面に当具痕が認められるものは図示したもののを含め8点を確認した。

坏I類（第49図22～第50図15、図版49～52） 立ち上がりの長さ・形状によりA～C類に分類した。口唇部は蓋に準じてa～c類に分類したが、凹面をなすa類は小片が2点、段を持つb類は第49図22のみであった。他はすべて丸いまのc類である。

A類（第49図22～第50図8） 立ち上がりが1.5～2cm前後と長いもの。

B類（第50図9） 立ち上がりが1.2cm前後とやや短いもの。

C類（第50図10～14） 立ち上がりが5mm前後と短いもの。

底部外面は回転ヘラケズリ調整が施されるものがほとんどで、第50図11・15がヘラ切り痕跡を残す。第49図23・第50図3・10には板目状圧痕がついている。第49図22の内面には当具痕跡が観察でき、同図22・23・第50図1・2・10の内面には放射状にシワがみられる。後者も、当具痕跡かもしれない。

蓋II類（第50図16～18、図版52） 口縁端部の形状により、A～C類に分類した。なお、第50図18の天井部外面には板目状圧痕がみられる。

A類（第50図16・17） 口縁内面にかえりを持つ、小型の蓋。

B類 口縁端部が屈曲してやや長いもの。SR10では図示できるものがなかった。

C類 口縁端部が三角形状に短くつまみ出されるもの。SR10では図示できるものはなかった。

つまみa類 摺宝珠形のつまみ。SR10では図示できるものはなかった。

つまみb類（第50図18） 輪状のつまみ。

坏II類（第50図19～21、図版51・52） 高台のないものをII類とした。第50図19はやや深身の碗形、同図20は粗雑な作りで、須恵質のミニチュア土器ともいべき土器である。

坏III類（第50図25・27・28・30・31、図版51・52） 高台の付くもので、高台の位置によりA・B類に細分する。底部の切り離しは、ヘラ切りがほとんどである。

A類（第50図27） 口縁・底部境界の内側に高台がつくもの。

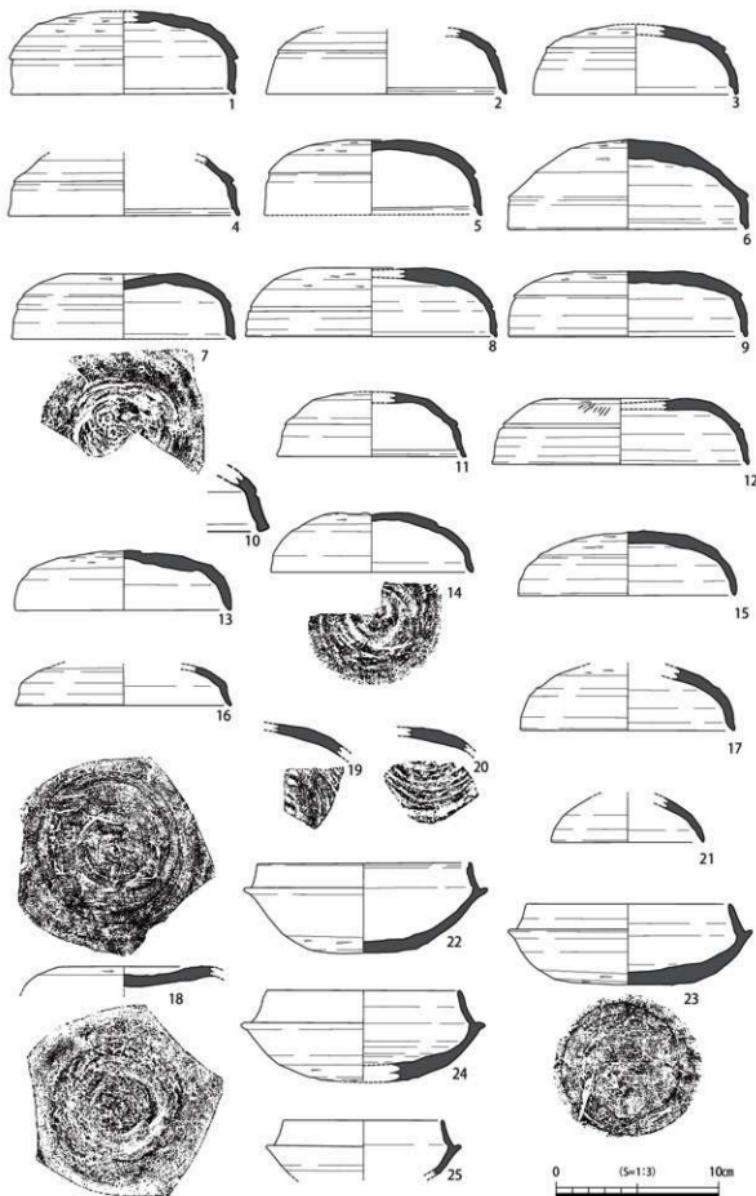
B類（第50図25・28・30・31） 口縁部・底部境界付近に高台がつくもの。

底部を欠損したものはII類とIII類の区別できないので、ここで口縁部の細分を示しておく。

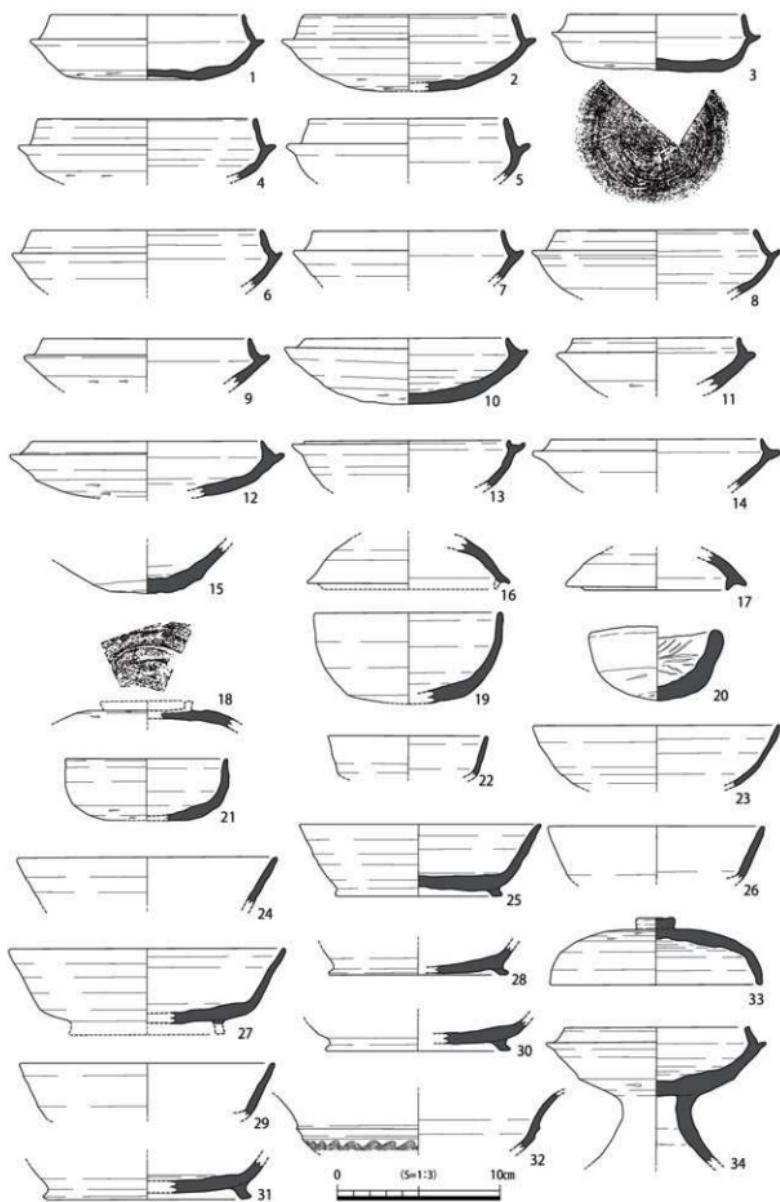
a類（第50図23） 口縁部が内湾するもの。

b類（第50図22・24～27・29） 口縁部が外傾または外反するもの。

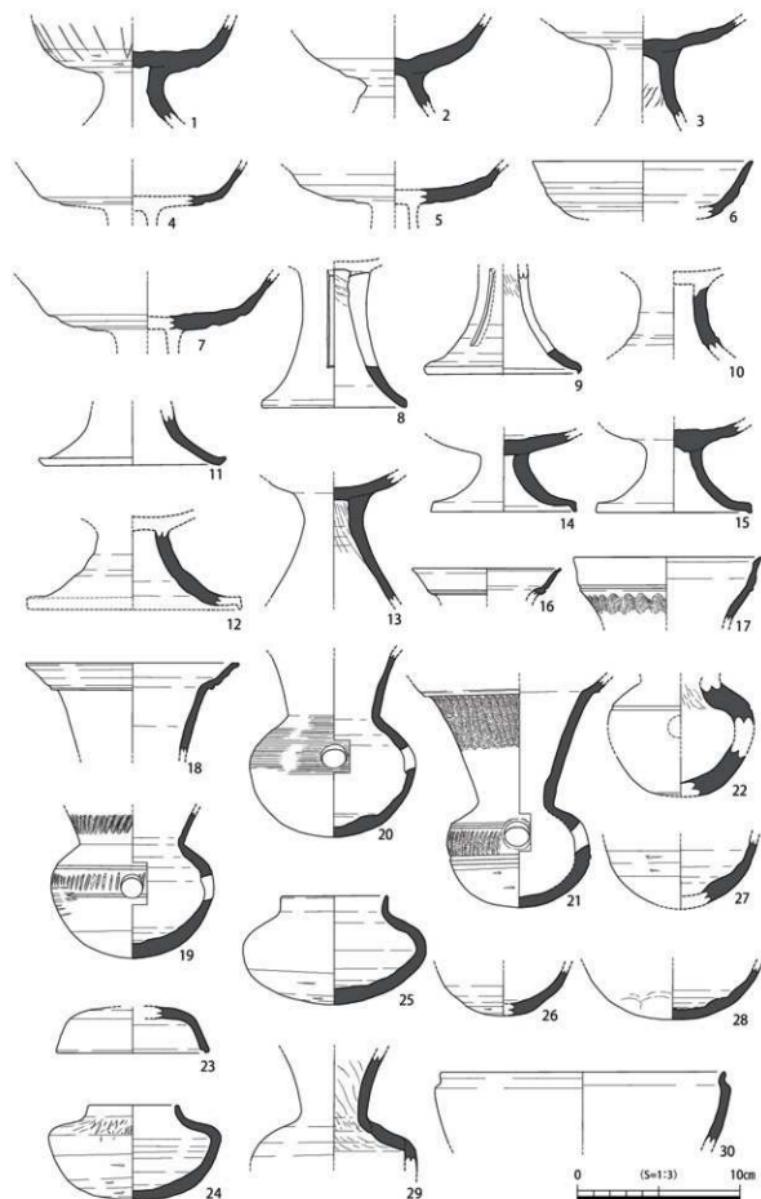
高坏（第50・51図、図版51～54） 第50図33は蓋だが、有蓋高坏の蓋と考えたためここに入れた。天井部にボタン状のつまみが付き、稜は表現されていない。同図32は坏部片で、胴部の稜がしつこい。



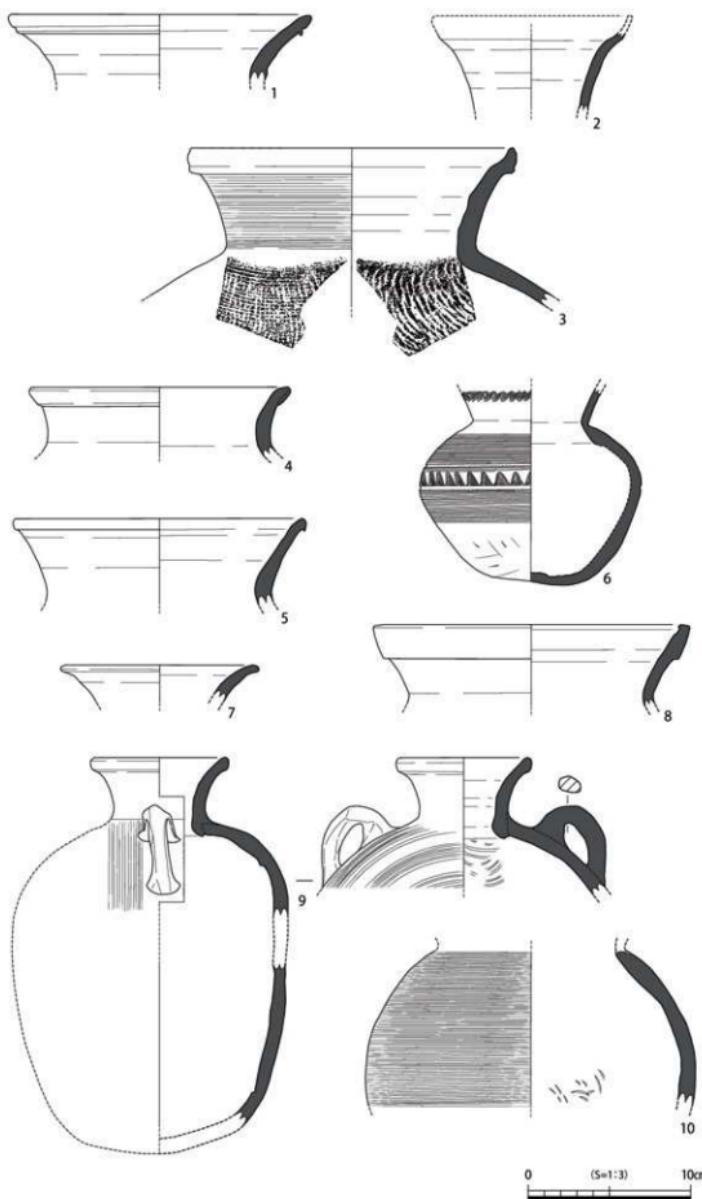
第49図 SR10出土遺物（17）



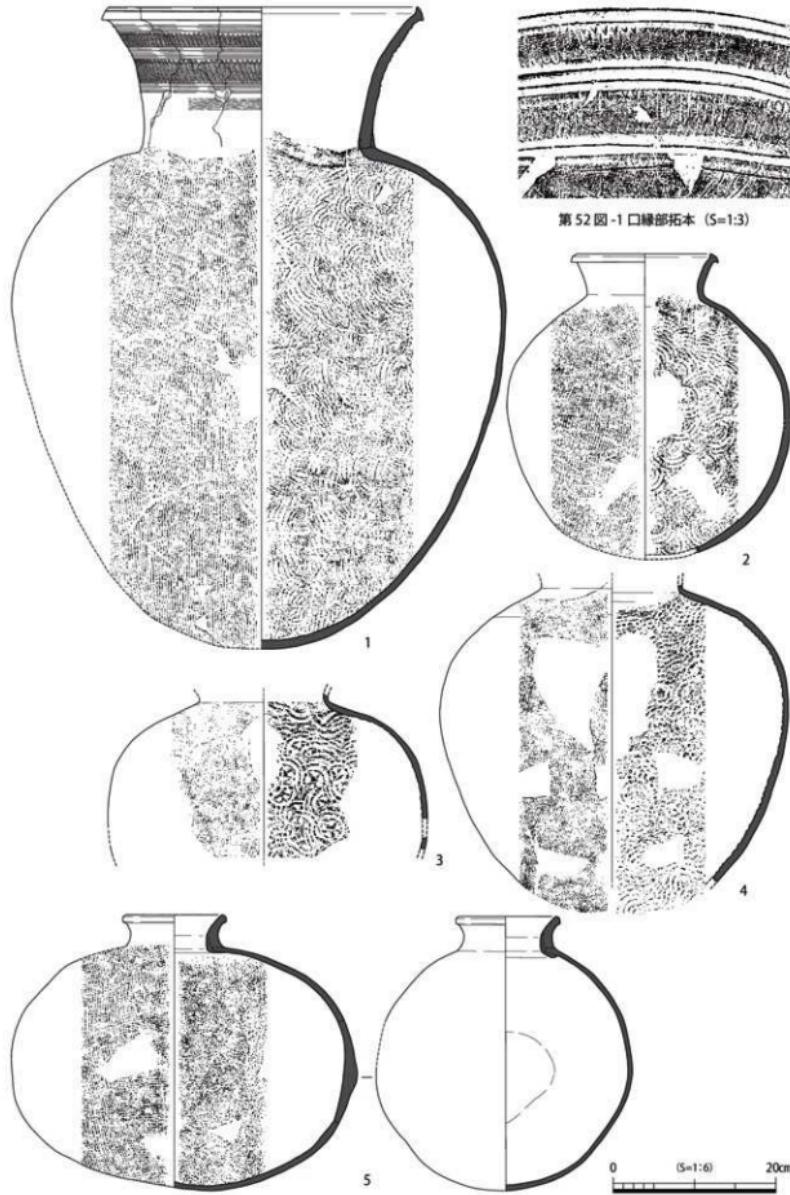
第50図 SR10出土遺物(18)



第51図 SR10出土遺物(19)

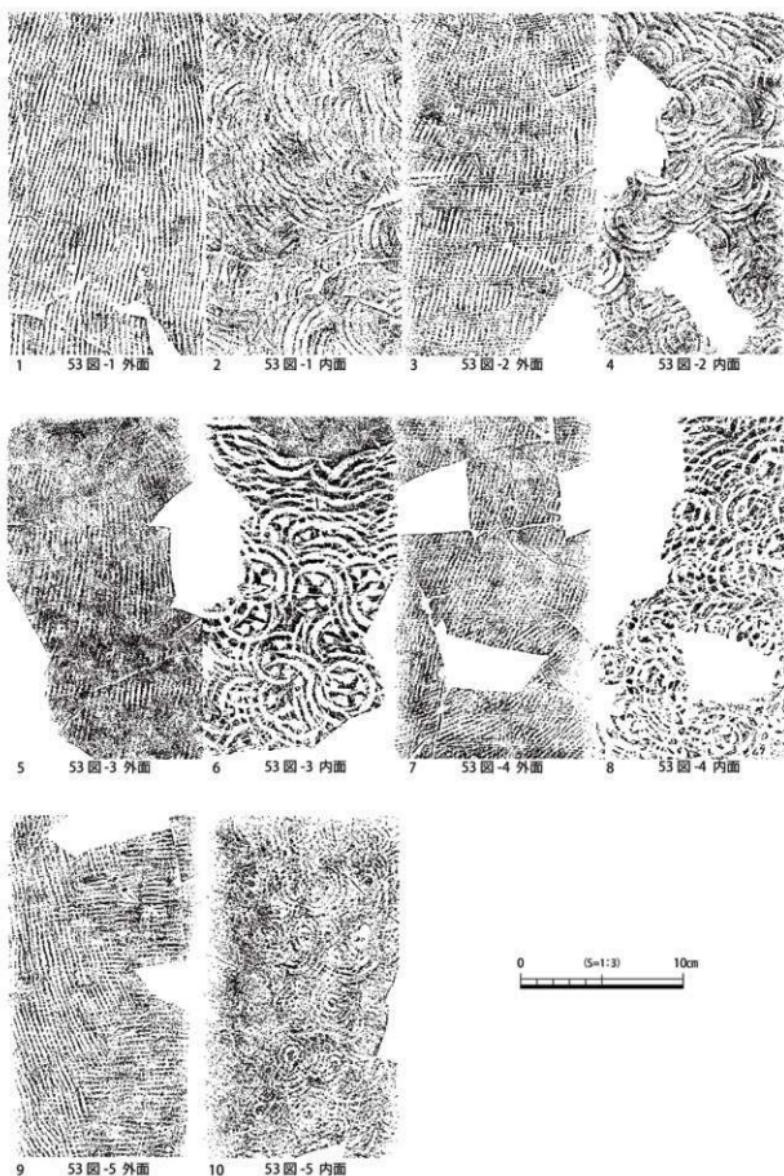


第52図 SR10出土遺物(20)



第52図-1 口縁部拓本 (S=1:3)

第53図 SR10 出土遺物 (21)



第54図 SR10出土遺物（タタキ痕・当具痕）

かりと表出されている。下部には波状文が描かれ、他の高环より古い印象がある。同図34は有蓋高环で、立ち上がりは环I・B類に近い。第51図1には斜行する細沈線が施されている。全形がうかがえるのは第50図34のみで、他は环部、脚部の小片である。確実に透孔を有するものは6個、持たないもの17個を確認している。

形態により环部をI～III類、脚部をA・B類に細分する。

环部I類（第50図32） 体部に稜が付き、口縁上半が大きく外反するもの。

II類（第50図34） 立ち上がりをもつ有蓋高环。

III類（第51図1～7） 無蓋高环で口縁部が内湾または直立するもの。

脚部A類（第51図8・9） 長脚で筒部が細身のもの。長方形の透孔がみられる。

B類（第50図34～第51図3・10～15） 接合部分から脚が急に広がるもので、短脚（第51図12・14・15など）と長脚（第50図34・第51図13）がある。B類で透孔を持つものはない。腫（第51図16～22、図版53・54）頸部がやや太いもの（第51図18～20）と細いもの（同図21・22）がある。口縁部の屈曲・突線は明瞭で、第51図17・19・21の頸部には波状文、19・21の胴部には刺突文が施されている。

長頸壺（第51図29・第52図2、図版54・55） 第51図29は肩部が鈍く屈曲する。内面には絞り痕跡が認められる。第52図2は上端がわずかに屈曲するように観察できたため、屈曲した器形に復元したが、単純にそのまま外反するかもしれない。

短頸壺（第51図23～28、図版53・54） 肩が強く張り、扁平な器形である。第51図26～28は底部の可能性もある。同図23は短頸壺蓋と考えられたためここに配置した。

鉢（第51図30、図版54） 口縁部がわずかにくびれるもの。小片のため、鉢と断定できない。古墳時代にはあまりみない器種だが、SR10埋土から出土しているので、ここで取り上げた。

壺（第52図1・3～8・10、図版54・55） 第52図1は口縁端部に突線がめぐるもの、同図3・4・8は口縁部に肥厚帯を持つもので、いずれも中型の壺である。6は小型で頸部と胴部に波状文をめぐらす。同図10は外面カキ目、内面は当具痕をナデ消している。

提瓶（第52図9、図版54） やや扁平な胴部と形の崩れた環状把手を有している。直接には接合できないが、胎土・色調・焼成などから同一個体と考えた。

横瓶（第53図5、図版56） 一方の側面に円形の変色がみられる（図版56）。焼き台の痕跡だろうか。焼き台痕とすれば、これを下にして、長軸が鉛直になるよう置かれたと推定される。

壺（第53図1～4、図版55） 第53図1は大型、同図2～4は中型の壺である。1の口縁部には凹線文と波状文がめぐっている。

なお、内面は同心円状の当具痕だが、圧痕形状に違いがある。当具痕は遺構外出土のものも含め、おおまかにA～C類に分類できる。

当具痕A（第53図1・第54図2） 圧痕で凸部が狭く、凹部が広いもの。

B（第53図5・第54図4） 圧痕で凸部が広く、凹部が狭いもの。

C（第69図2） 凸部、凹部ともに狭いもの。SR10では出土していない。

また、少數ながら輪花状の圧痕がみられる。遺構外出土のものも含め、おおまかにa～c類に分類できる。

輪花a類（第69図6） 細かく、放射状を呈するもの。

b類（第53図3・第54図6） 放射状だが、a類より粗く、星形に近いもの。

c類（第69図8） 放射する線が1条のもの。原体のひび割れの可能性もある。

ミニチュア土器（第55・56図、図版56～59） ミニチュア土器は、土師器に混じって出土したことから、おおむね古墳時代中・後期のものと考えられる。

丸底が多いが、平底も一定量存在し、さらに口縁部・頸部がくびれるものが少數ある。これらを作るにあたってモデルとなった器種が数種類あり、それが器形に反映されていると考えられる。ここでは形態によりI～III類に分類した。成形はおおむね手づくねで、内外面とも凹凸が顕著である。とくに内面は底部から口縁部にかけて搔き上げたような痕跡がよくみられる。

I類（第55図1～30） 丸底の碗形を呈すもの。最大径が4.5cm程度の小型のものをA類（第55図1～5）、6～7cm程度の中型をB類（同図6～27）、それ以上の大型のものをC類（同図28～30）とした。

II類（第55図31～第56図5） 底部が平底のもの。器高が低いものをA類（第55図31～33・35・37・第56図2・3）、器高が高いものをB類（第55図34・第56図1）とした。

III類（第56図6・7） 口頸部がくびれ、壺形を呈すものである。全形をうかがえるものではなく、底部形態などは不明である。

玉類（第56図8・9、図版59） 勾玉（第56図8）、管玉（同図9）が各1点出土している。

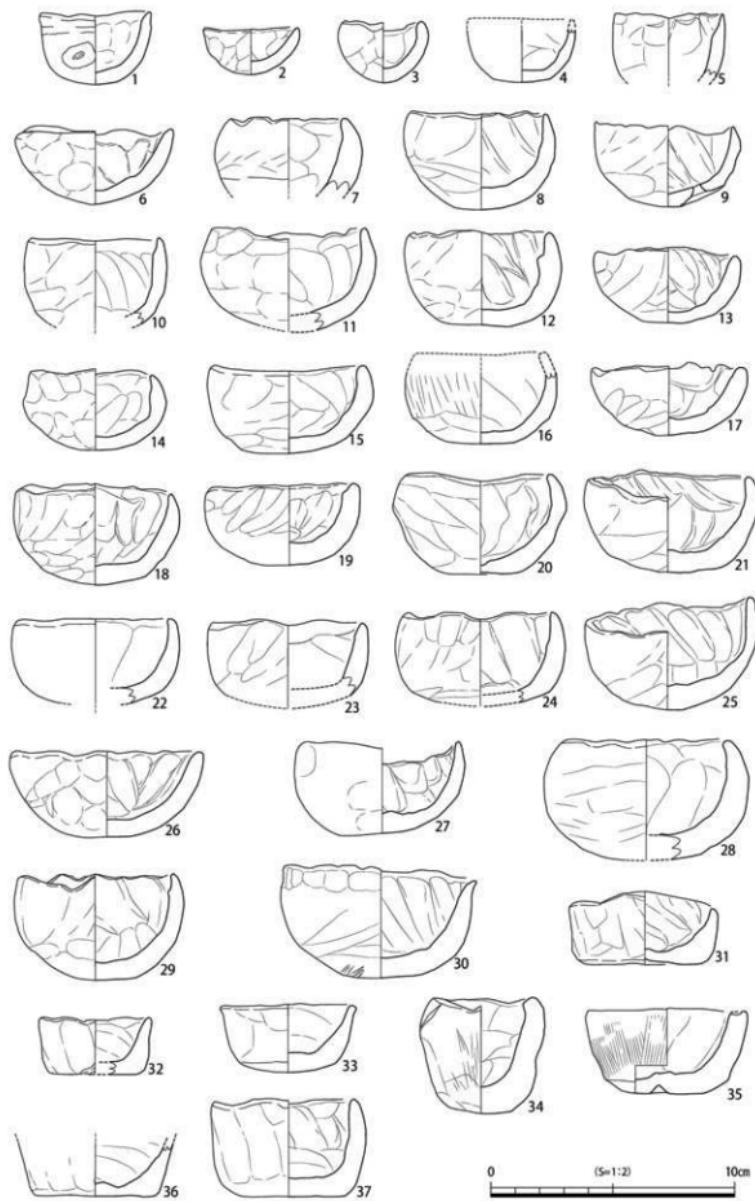
8は滑石製勾玉で全面に削り痕が顕著に残る。9は碧玉製管玉で、片面穿孔である。濃緑色を呈し、色調・質感から松江市花仙山產と思われる。

鉄器（第56図、図版83） SR10からは鉄鎌、弓金具などの武器・武具が出土するほか、鑿状鉄器、鉄製模造品、板状鉄片などが多く出土している。特に、鉄製模造品や板状鉄片は形状から鉄器単体として何らかの機能を有していたとは考えにくく、SR10出土のミニチュア土器や滑石製勾玉や碧玉製管玉などと共に祭祀に関連する遺物である可能性が高い。また、鉄素材及び鍛冶関連遺物が出土しているが、これらの遺物も祭祀に関連している可能性も考えられる。詳細は第5章総括で述べることとし、ここでは事実関係についての記載にとどめる。なお、SR10で出土する板状鉄片については先述したように祭祀に関連する遺物であると考えられるため鉄製品として報告する。なお、非掲載のものを含めた集計表を第25表で示す。

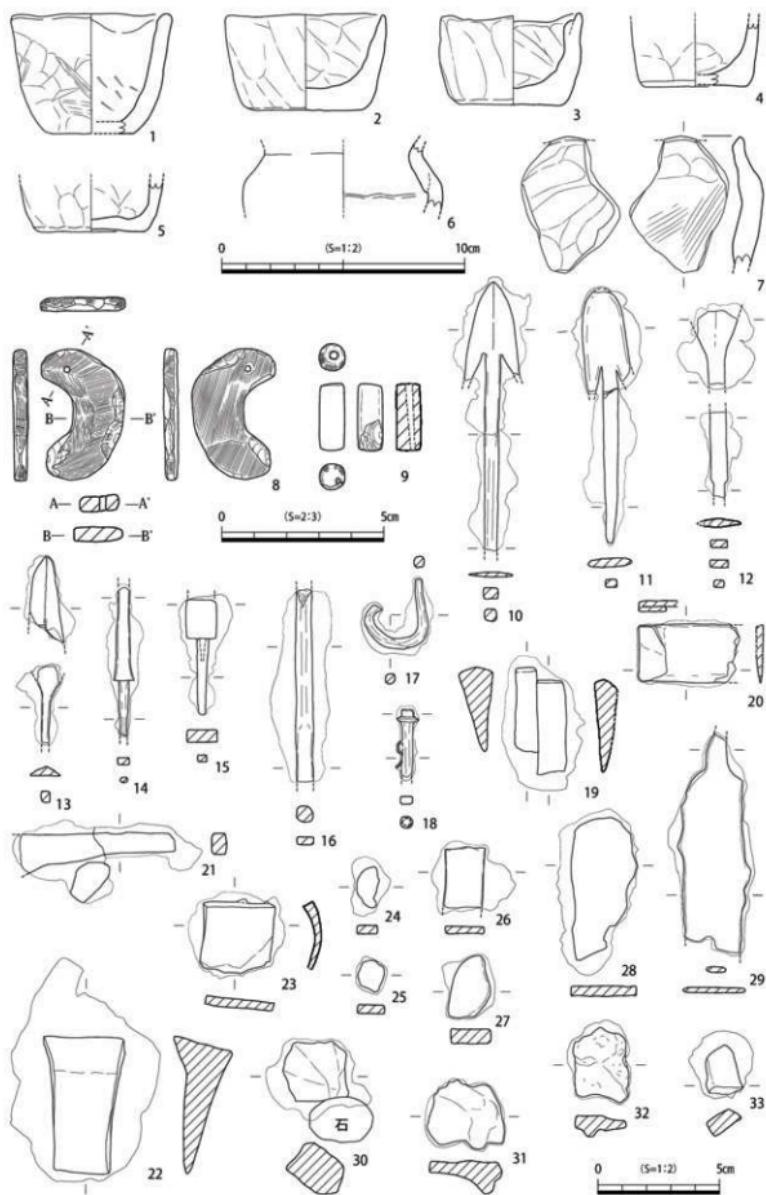
鉄製品（第56図10～29、図版83） 第56図10～16は鉄鎌である。鎌身部の平面形態は10・11が長三角形、12・13が柳葉形、15が方頭形を呈する。断面は10が両丸造、11が平造、12が両鎬造、13が片鎬造となる。鎌身関部は10・11が腸挟、12・13がナデ関、14が角関である。頸部形は断面長方形（10～12・14・15）、方形（13）、円形（16）が確認でき、頸部関は無関（10・11・16）、ナデ関（12）、台形関（14）が確認できた。同図17は釣針である。針先が内方に折れ、断面は胴、フトコロともに円形となる。同図18は弓金具とした。両頭金具であると考えられ、上部の頭部及び下部の折り返し部より下方は欠損している。両頭金具を着装する飾り弓が存在したと推測できる。同図19・22は鑿状工具とした。19は小型の鑿状工具が2点固定して出土している。20は摘鎌と同様の形態をもつものの、短辺の折り返しが身に密着している。実用には不都合な形

第17表 SR10出土ミニチュア土器集計表

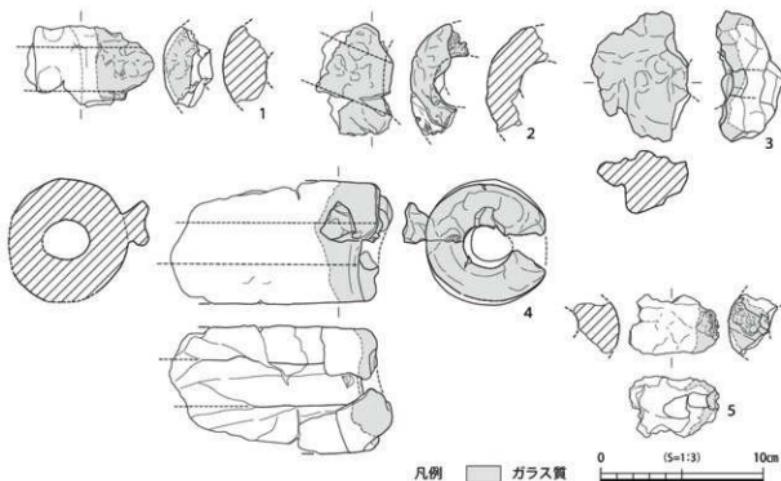
分類	I A	I B	I C	II A	II B	II	III	小片	合計
数量	30	36	6	7	2	3	3	18	106



第55図 SR10出土遺物 (22)



第56図 SR10出土遺物(23)



第57図 SR10出土遺物(24)

状となっていることから模造品とした。同図21は刀子の関部から莖部にかけて遺存している。関部は斜角関とみられ、莖部は莖尻に向けてやや幅を狭める。同図23～29は板状の鉄片で、折り曲げ加工や不整形のものの一部を図化している。23は意図的に湾曲させた鉄片であると考えられる。26・28・29は鉄板などを整状工具などにより裁断した残部である可能性がある。24・25・27は断面が長方形を呈しており、板状鉄片の裁断片である可能性があり一部を図化している。これらの板状鉄片は先述したように、SR01～05・07で出土した板状鉄とは異なり、意図的に折り曲げられる点や不整形な形態をしていることから、鉄製模造品などとともに祭祀に関連した遺物である可能性がある。

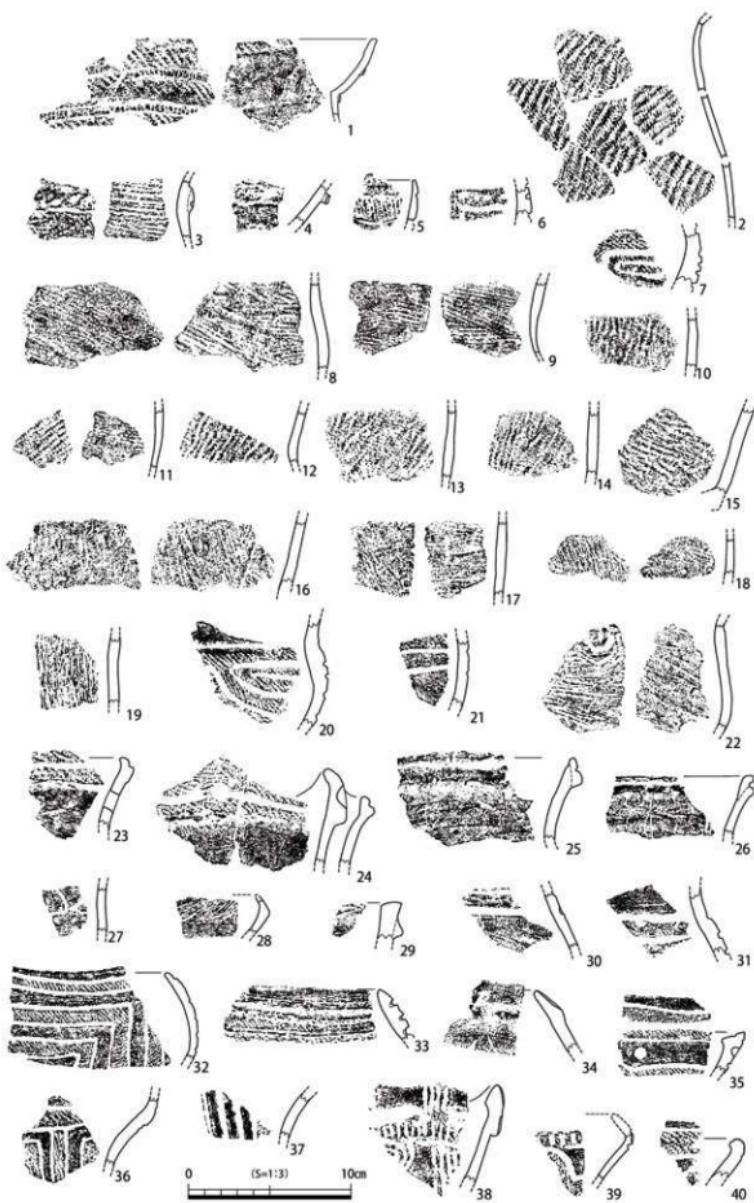
鉄素材 (第56図30～33、図版83) 第56図30～33は鉄塊で、先述した板状鉄片と同様に祭祀に関連した遺物である可能性が考えられるが、鉄素材として報告する。板状鉄片と異なり、厚みをもち断面形態も不整形な点が指摘できる。なお、33は断面が長方形であり、板状鉄片の可能性も残る。

羽口 (第57図1～5、図版84) 第57図1～5はすべて羽口である。羽口は棒状工具の表面に粘土を張り付けて成形したと考えられるが孔内面に痕跡はみられなかった。先端部には溶損が確認でき、被熱の状況を踏まえると羽口の設置俯角は10度前後の水平に近い状態で使用されたもの(1・3・4・5)と20度程度のやや角度をもって設置されたもの(同図2)が認められる。

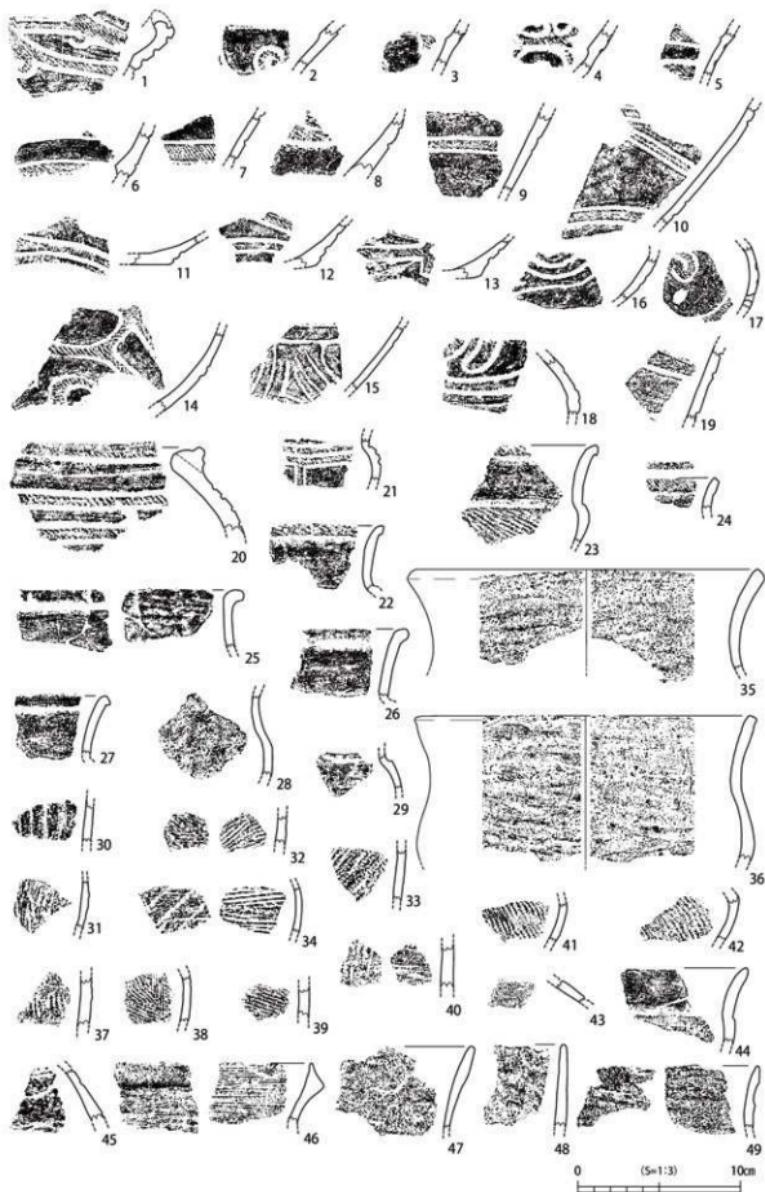
4. 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物 (第58～76図、図版60～80・84～86)

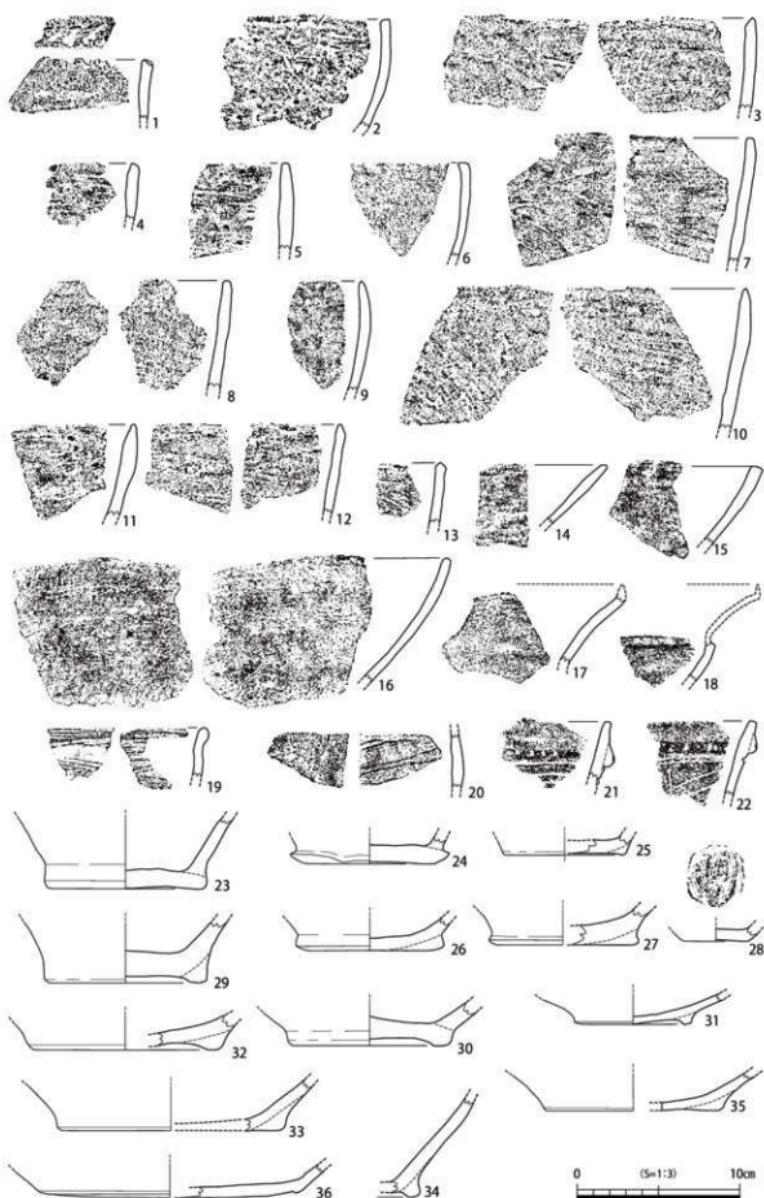
SR01～05・07・10以外から出土した遺物を一括する。ほとんどは大別II層(第11図)である包含層から出土したものだが、遺構出土でも縄文土器・石器など明らかに混入と判断されたものはここに含めた。II層から出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中近世陶磁器、



第58図 遺構外出土遺物（1）



第59図 遺構外出土遺物（2）



第60図 遺構外出土遺物（3）

石器、鉄器、石製品、土製品などである。

縄文土器（第 58 ~ 60 図、図版 60 ~ 63） 前期末～中期にかけてのもの、後期前葉のものが中心となっているほか、少數の晩期土器が出土している。

前期末～中期（第 58 図 1 ~ 19） 第 58 図 1 は前期末・大歳山式あるいは中期初頭・鷹島式の土器である。Σ 状刺突文を有す結節隆帶文が付されるが、口唇部は明瞭な角頭状をせず、いずれか決しがたい土器である。口縁部内面にも RL 縄文が施されている。同図 2 は RL 縄文のみ施される稀文土器である。1 に色調等が似るが、内面に指押圧痕がみられる、内面に条痕が観察できることなどから前期末の可能性がある。同図 3・4 は隆帶文が付される土器である。4 は隆帶文が円形意匠を描くように観察でき、船元 I 式かもしれない。3 は隆帶文が太く、船元 II 式と思われる。同図 5 は上部に波長の小さな波状文、下部に連弧文と思しき沈線文、その間に撫糸文が施される。里木 II 式と思われる。同図 6 は左端に垂下降帶があり、右に三日月状の区画文を考えた。区画文内には円形の刺突文列が施されている。この復元が正しければ、里木 II・III 式新段階の可能性がある。同図 7 は RL 縄文を地文として横円形意匠の沈線文が描かれる。中期末であろうか。同図 8・9 は内外に二枚貝条痕が施される土器である。前期の可能性があるが、文様がないため時期の認定は難しい。同図 10 ~ 14・16 は縄文、同図 17 ~ 19 は撫糸文が施文される土器である。同図 15 は撫糸文か無節 R 縄文か、判断できなかった。11・16 が LR、12 ~ 14 が RL である。10 ~ 16 は船元式の縄文のように見えるが、後期土器の縄文である可能性もある。17 ~ 19 は里木 II 式か。

後期（第 58 図 20 ~ 第 59 図 46） 有文土器は、幕地式から布勢式にかけてのものが多い。第 58 図 23 ~ 26・28 は布勢式の深鉢口縁部で、24 は縁帶文の深鉢口縁部にかなり近くなっている。同図 20 ~ 22・30・31 は同様の深鉢の胴部文様と考えられる。第 58 図 32 ~ 第 59 図 18 は浅鉢で、第 58 図 32 ~ 38 は布勢式と思われる。第 58 図 39 ~ 第 59 図 18 は磨消縄文帯の様相や、第 59 図 1 ~ 6 内面にみられる段が幕地式の浅鉢の特徴を示している。第 59 図 18 は、注口土器または壺形土器の肩部であろうか。第 59 図 20 は、九州・鐘崎式と思われる。第 59 図 22 ~ 27 は、玉緑状の口縁部を持ち、胴部が張る器形の鉢形土器で、布勢式から崎ヶ鼻 I 式に伴うことが多い。28・29・41・42 はこれの胴部と考えられる。第 59 図 30 ~ 34・37 ~ 40 は縄文施文の土器である。後期の縄文にみえるが、他の時期に属する可能性もある。第 59 図 45 は波状文が描かれる磨消縄文で、権現山式古段階と思われる。同図 43 は、巻貝による疑似縄文が施文される注口または壺形土器で、第 18 表 縄文土器型式別集計表

型式	大歳山・鷹島	里木 II	中期末	幕地～布勢	権現山	凹線文	滋賀里 II・III a	中山 B 式
数量	26	5	1	76	2	2	3	2

第 19 表 縄文撫糸文集計表

中期		後期磨消縄文		
船元？LR	船元？RL	撫糸	LR	RL
13	10	5	1	35

第 20 表 縄文時代後期無文土器集計表

深鉢				鉢形	浅鉢	精製口縁	精製破片	深鉢底部	浅鉢底部
外反口縁	直口口縁	二枚貝条痕	その他条痕	ナデ					
2	37	32	30	244	5	6	5	29	22

権現山式新段階である。同図44・49は凹線文が描かれる。後期後葉から末にかけての土器であろうか。

晩期（第60図17～19・21・22） 第60図17・18は晩期・滋賀里2式に並行する浅鉢、19は頭部に太い凹線に入る土器で滋賀里3a式に並行する鉢と思われる。同図21・22は晩期末の中山B式である。

後晩期無文土器（第59図35・36・47・48・第60図1～16・20～23～36） 第59図47・48、第60図1～12は、後晩期の粗製無文土器深鉢である。外面には原体不明の条痕調整が施されるが、第60図8・9のようにその後ナデ調整が加えられるものがある。総じて内面は丁寧なナデ調整が施される。第60図13～16は無文の浅鉢である。ミガキなど丁寧な調整が施されることから、浅鉢と判断した。いずれも口縁部が内湾する皿形を呈す。第60図23～36は底部である。同図23～30が深鉢、同図31～36が浅鉢と考えられる。有文土器では幕地式から布勢式がもっとも多いことから、無文土器はこれらに伴う可能性が高い。

本調査区出土の縄文土器は、以上のように前期末から晩期まで出土しているが、第18表に示すとおり、前期末・中期初頭（大歳山式～鷹島式）と後期前葉（幕地式～布勢式）に出土のピークがある。本調査区周辺にこの2時期を主体とした集落が存在する可能性が高い。

後期前葉の土器については、幕地式と認識できるのは浅鉢が、布勢式は深鉢が多く、あたかも2型式の深鉢と浅鉢が器種補完しているような状況である。このことは、本調査区が2型式の遷移過程にあることを示しているのかもしれない。

石器（第61～65図、図版63～67）

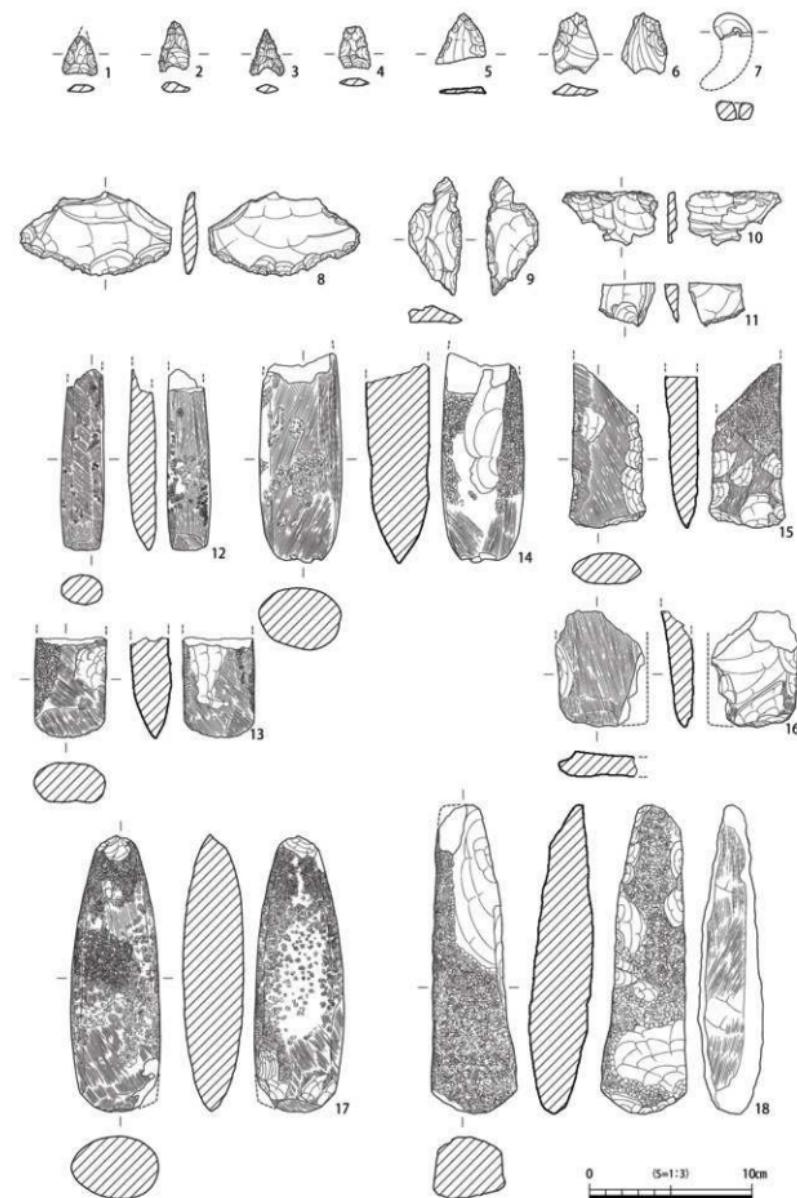
石鏃（第61図1～6） 第61図1～4は成品で、いずれもサヌカイト製である。1は両面とも、2・4は片面の中央に大きな剥離面を残す。3は両面とも調整剥離が中央まで及んでいる。4は先端に細かな剥離がみられ、刃部再生途中と思われる。5・6は未成品で、ともに側縁に調整剥離がみられる。5がサヌカイト製、6が黒曜石製である。

剥片石器（第61図8・9・11） 第61図8は刃器で、サヌカイト製である。主に下辺に両面から調整剥離が施され、刃部をなしている。一部に礫面が残る。第61図9はサヌカイト製の石匙である。上部の両側縁に小さく抉りを入れ、側縁に両面から調整剥離が施されている。左図右側縁が鋭角に整形され、これが刃部となっている。左図左側縁は平坦な礫面をなしたままである。第61図11は両面に大きな剥離面を残す剥片で、下辺に使用痕と思われる微細剥離が観察される。

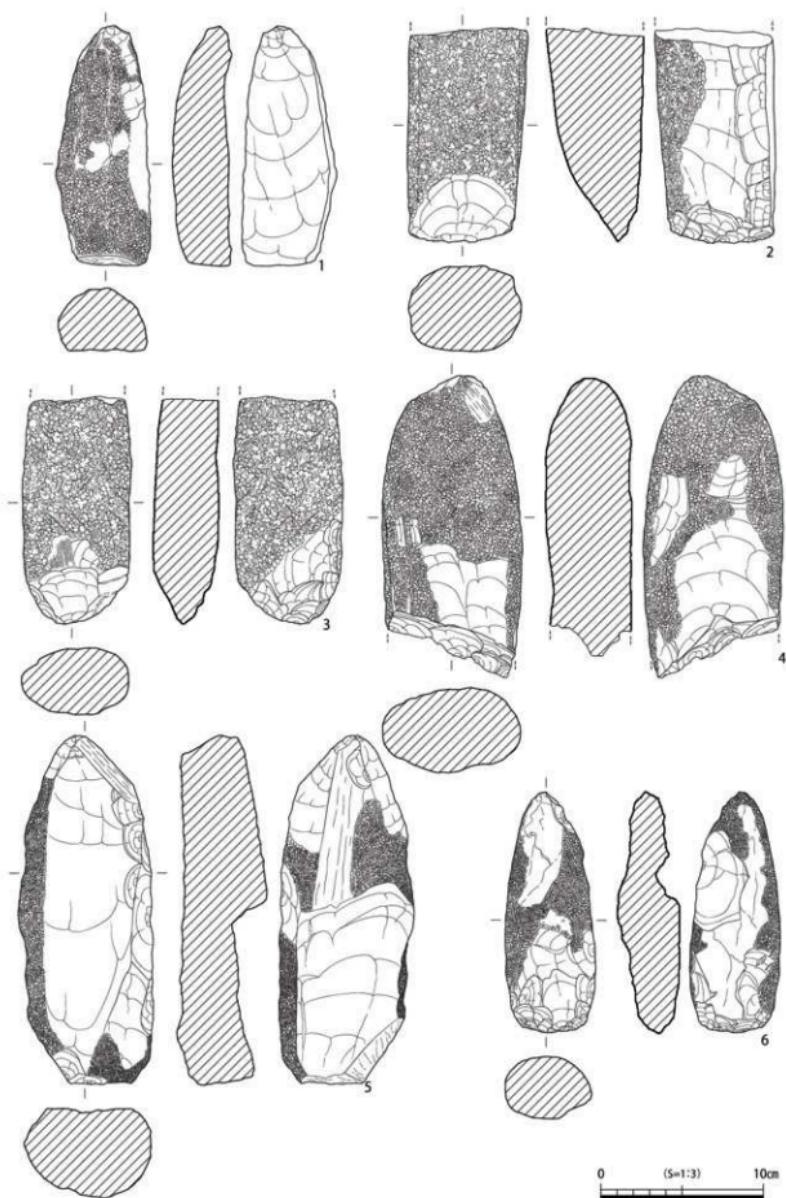
石核（第61図10） サヌカイト製の石核である。大き目の剥片を素材としており、両面ともに上部から剥片剥離を行っている。なお、剥片石器石材については、第21表に集計を示す。

勾玉（第61図7、図版63） 頭部のみ残存する。白色の石材を使用している。全面に丁寧な仕上げ研磨が施され、穿孔は片面穿孔である。

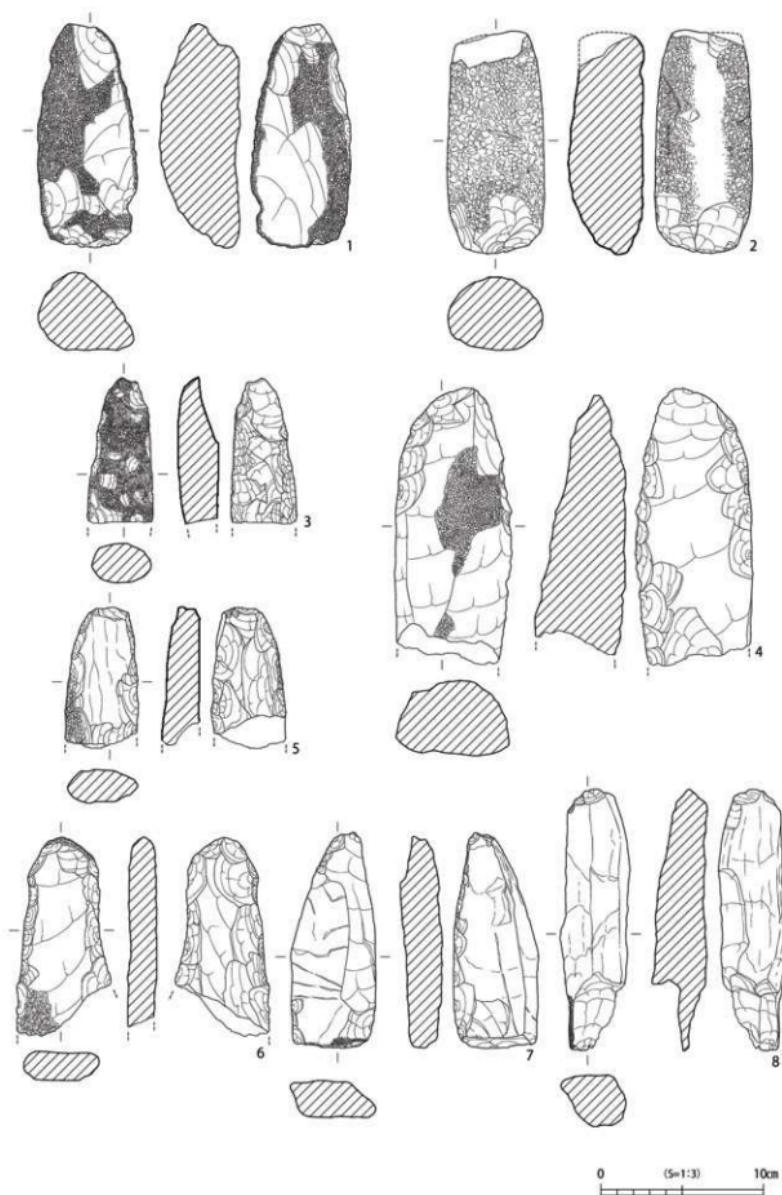
磨製石斧（第61図12～17） 第61図12は細身で小型の石斧である。基部は欠損しているが、全体の形状をみると欠損部分はそれほど大きくないよう思われる。全面研磨され、一部に敲打痕が残る。同図13・14・17は刃部を中心に研磨され、基部や側面には敲打痕が残る。剥離面が若干残り、研磨は徹底されていない。13・14の刃部には刃こぼれ様の使用痕が観察できる。同図15・16は剥離面が各所に残り、研磨による刃部の作り出しが認められない。製作途中か刃部再生品の可能性もある。



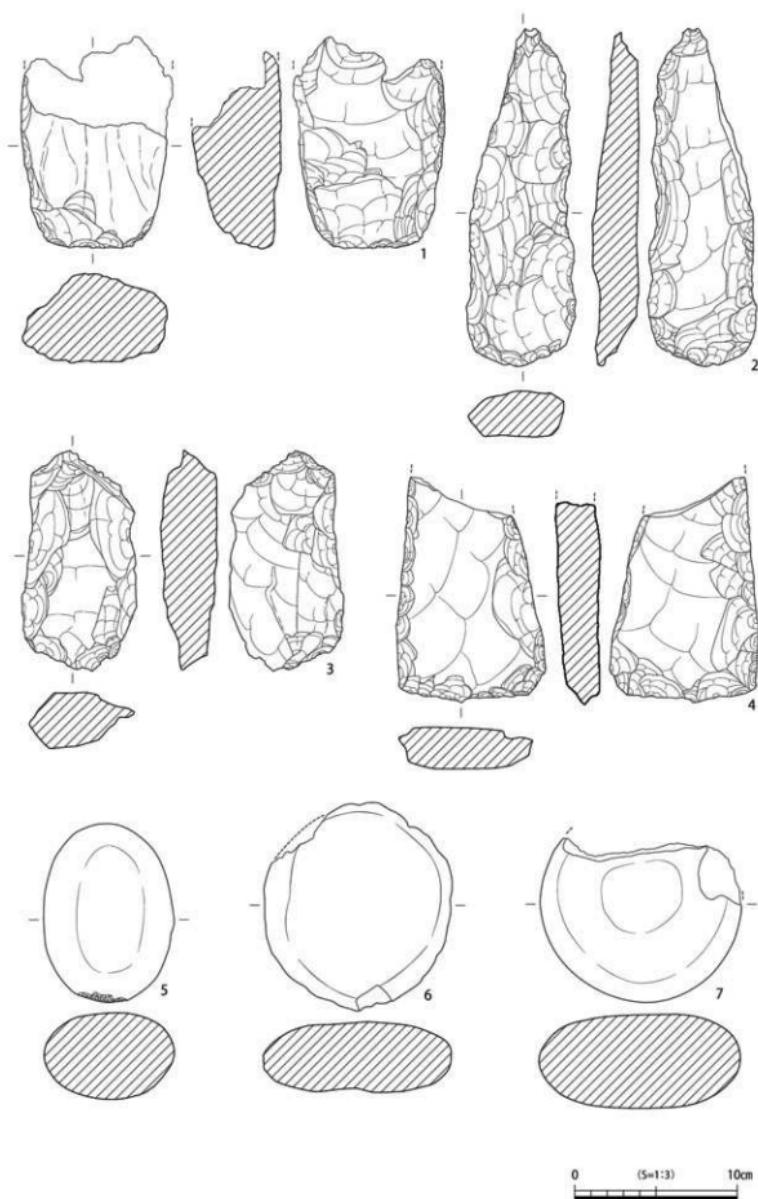
第61図 遺構外出土遺物（4）



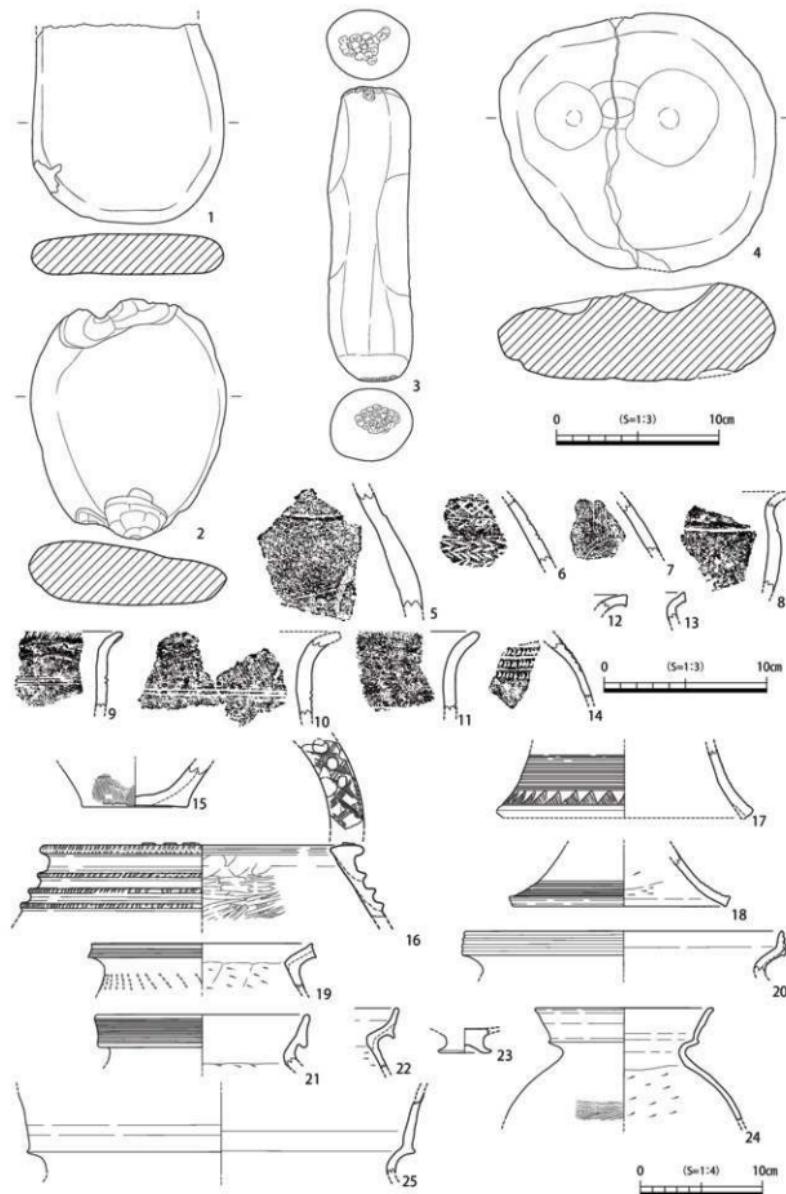
第62図 遺構外出土遺物（5）



第63図 遺構外出土遺物（6）



第64図 遺構外出土遺物（7）



第65図 遺構外出土遺物（8）

磨製石斧未成品（研磨）（第61図18） 大部分に敲打痕が認められるもので、一側面のみに研磨痕が観察できる。刃部は丸いままで鋭さはない。

磨製石斧未成品（敲打）（第62図1～第63図6） 敲打痕が顕著で、刃部が生成されていないもののを集めた。第62図1は刃部に当たる部位が平坦面をなす礫面で、一面に敲打痕、一面に大きな剥離面を残す。この剥離面は製作時の欠損とも考えられる。同図2は刃部の形状に作られているが、両面とも剥離面を残す。一面には刃部以外に敲打痕があり、一面には調整剥離面が残る。第62図3～第63図2は刃部に調整剥離がみられるが、刃部が鋭角に作られていない。第63図4は欠損後に調整剥離が加えられ、刃部を再生しようとしている。同図6は一部に礫面を残すもので、刃部には調整剥離がみられ、端部はやや摩滅しているように思われる。打製石斧として使用したかもしれない。

石斧未成品（荒割）（第63図7・8） 荒割段階の未成品である。打製石斧の未成品の可能性もある。第63図7は側面の一部に細かな調整剥離がみられるが、刃部相当部分は大きな剥離面を残したものである。表面に礫面を大きく残す。同図8は表面の大部分が礫面で、両端に大きな調整剥離がみられる。

打製石斧（第64図1～4） 第64図1は一面に礫面、一面に大きな剥離面がみられるもので、周縁には調整剥離が施されている。厚みがあり剥離が難なこと、刃部と想定した下端が厚いままであることから、未成品の可能性も考えられる。ただし、欠損した部分が刃部の可能性もあるので、天地が逆かもしれない。同図2は周縁に大きな調整剥離がみられる。刃部が磨滅しており、使用痕と思われる。同図3は上端にやや小さな調整剥離がみられる。欠損後の再生の可能性がある。同図4は刃部を再生したものと思われるが、磨滅などの使用痕は観察できない。

敲石・磨石（第64図5～第65図1・3） いずれも川原石を利用したもので、第64図6・7・第65図1を磨石、第64図5・第65図3を敲石とした。第64図5の一端と第65図3の両端には打痕が観察でき、第64図7の両面中央には平滑な面がみられる。第64図6は三瓶山起源の軽石で、整った円形を呈していることから磨石と考えたが、使用痕等は観察できない。第65図1も使用痕は観察できず、自然礫の可能性もある。

石錘（第65図2） 1点のみ確認した。重さ540gを測る大型の打ち欠き石錘である。三瓶山起源の軽石を使用している。

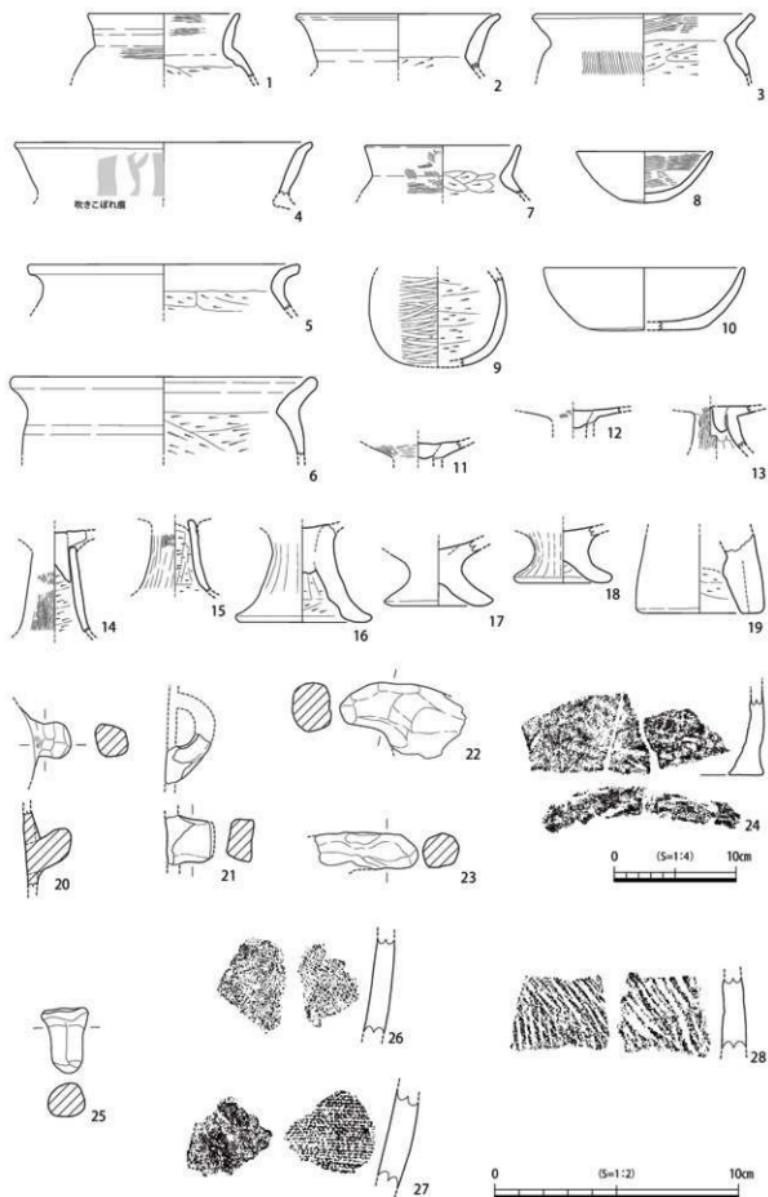
凹石（第65図4） 凹石としては小型である。中央に3カ所の凹みがみられる。中央の凹みは非常に浅いが、左右の凹みは7～12mmと深い。三瓶山起源の軽石を使用している。

弥生土器（第65図5～23、図版67～68） 第65図5～11・15は1様式の土器である。同図第21表 石斧集計表

段階	磨製石斧 製品	磨製石斧 研磨途中	敲打 未成品	打製石斧? 敲打痕有	打製石斧 (使用痕有・刃部再生)	製品?欠損 (研磨痕無)	製品欠損 (研磨有)	石器製作時 剥片
数量	6	1	16	4	7	5	1	11

第22表 剥片石器・剥片等集計表

石材	黒曜石	サヌカイト	頁岩	玉髓	碧玉	不明
数量	7	22	1	1	1	1
重量計(g)	1.95	87.94	12.19	3.13	1.07	14.49



第66図 遺構外出土遺物（9）

5～7は壺で、5には段、6には斜格子文と羽状文、7には垂下沈線文と連弧文が描かれている。8～11は壺で、肩部に1～2条のヘラ描き沈線文がみられる。15は壺の底部である。同図12～14・16～18は中期の土器である。12はⅡ様式、13はⅢ様式の壺口縁部であろうか。14は刺突文と沈線文を重複する器種不明土器で、IV-2様式か。16はⅢ-1様式の無頭壺である。17・18はIV-2様式の脚で、18は高環、17は台付鉢か。同図19～22は後期の土器である。19～22はいずれも壺で、19・20がV-1様式、22がV-2様式、21がV-3様式と思われる。

土師器（古墳時代前期）（第65図23～25、図版68） 第65図24・25ともに複合口縁の壺である。23は低脚環の脚であろうか。

土師器（古墳時代中期以降）（第66図1～25、図版68～70） 分類はSR10に準じる。

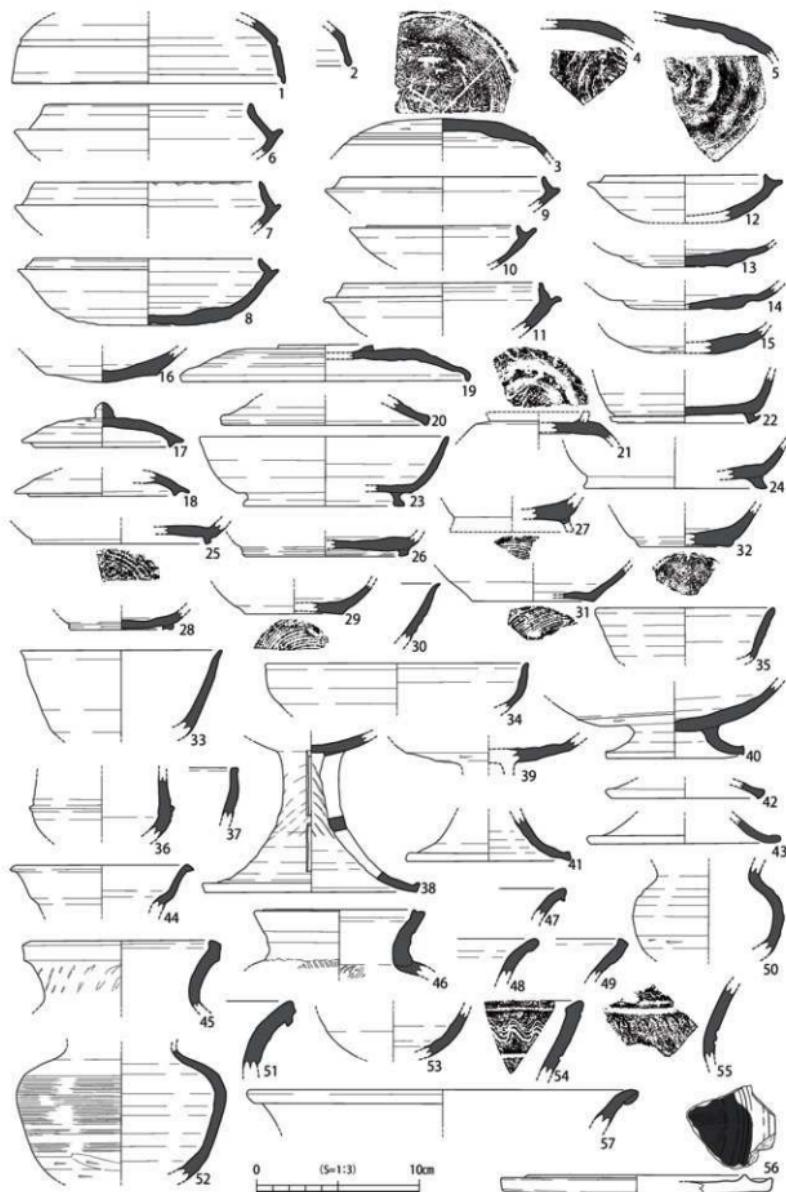
第66図1・2は壺ⅠCb類、4・7は壺ⅡAa類、3は壺ⅡB類、5・6は壺ⅢB類である。同図8・10は平底の碗Ⅱ類である。口縁が大きく開き、底部との境界は稜がつき明瞭である。SR10で多く出土した碗Ⅰ類とはかなり趣が違う。全形がわかるものがSR10にはなかったので、これらを碗Ⅱ類の代表例とする。同図9は小型の壺である。SR10の長頸壺と違い、難な調整である。同図11～18・25は高環である。同図11・12は接合a1類で半球状の充填粘土が、同図13は接合a2類で、下部にはみ出した不整形な充填粘土が観察できる。11は充填粘土中央に小孔が穿たれている。同図14・15は脚A類である。14は接合b1類で、充填・接合方法がよくわかる資料である。15は上端が擬口縁となっている。同図16は接合b2類の脚B類で、内面の調整が甘く充填がよくわかる。同図17・18は接合c類の脚C類である。25はa2類の剥落した充填粘土と思われる。同図19・22・23は土製支脚である。22・23は突起部分で、19は脚端部である。19は底面をくぼませているが、このような例は本遺跡ではこれのみである。同図20は瓶把手である。SR10出土の瓶と変わらない。同図21は弥生時代末から古墳時代前期の瓶形土器の半環状把手か。同図24は竈底部である。底面には指揮圧痕が観察できる。

その他の遺物（第66図26～28、図版69） 第66図26・27は製塙土器である。ともに内面には布压痕がついている。同図28は須恵器壺を模倣した土師器である。外面に並行タタキ、内面に同心円状当具痕がみられる。

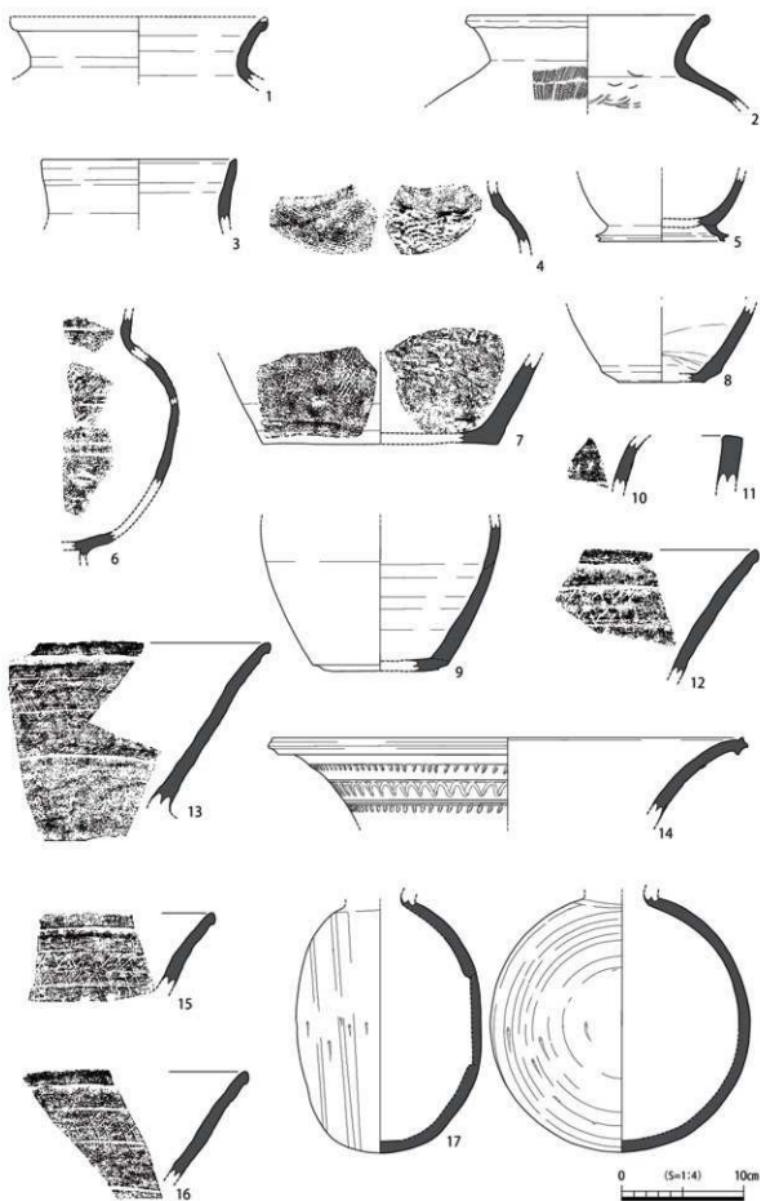
須恵器（第67～69図、図版70～74） 分類はSR10に準じる。第67図1～5は、蓋I類である。1・3は稜が沈線によって表現されるB類である。1の口唇は段が付く（口唇b類）。3の天井部には「×」形のヘラ記号がつけられている。4・5の内面には当具痕が観察できる。同図6～16は环I類である。6がA類、7がB類、8～12がC類で、10～12・16は小型である。13・16の底部はヘラ切り痕がみられ、15には手持ちヘラケズリが施されている。

同図17～21は蓋II類である。17・18は小型のIIA類で、17には擬宝珠つまみが付く。19はIIB類で、輪状つまみがつく。20は口縁端部が三角形のIIC類である。21は輪状つまみが付き、その内面に静止糸切りらしい痕跡が観察できる。同図22～28は高台が付く环III類である。23がIIIA類のほかは、高台が口縁部境界につくIIIB類である。22に静止糸切り痕、25・27に回転糸切り痕、23・26にヘラ切り痕が観察できる。同図29・31・32は、底部に回転糸切り痕を持つ無高台の环または碗である。いずれも9世紀以降に属すると思われる。

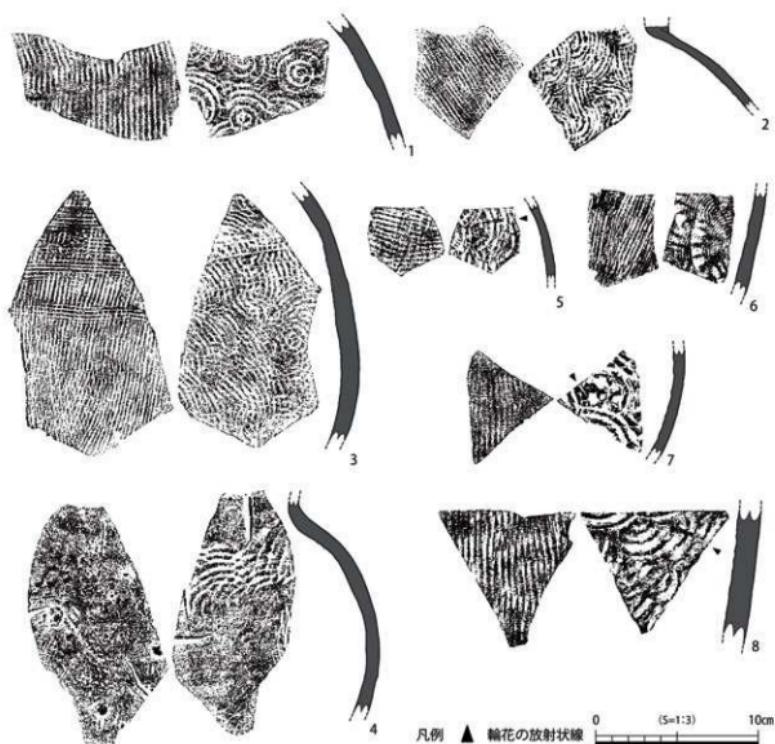
第67図30・33～35は环の口縁部であるが、高台の有無は不明である。30・33は9世紀以降の可能性がある。



第67図 遺構外出土物(10)



第68図 遺構外出土遺物(11)



第69図 遺構外出土遺物(12)

第67図36は碗か。口縁部中程に突線がめぐる。

第67図37は鉢口縁部か。緩く屈曲している。下半にはカキメが施されている。

第67図38～43は高杯で、38が細身の脚A類で、長方形2段透かしである。40～43は脚部B類か。40は高杯というより脚杯皿と呼ぶほうがふさわしいかもしれない。

第67図44は、麁の口縁である。口唇部に平坦面をなす。

第67図56は円面鏡である。内面には突線がめぐり、その内側には墨痕が残る。

第67図45～55・57・第68図5・6・8・9は中・小型の壺である。第67図47・51は口縁端部が幅狭に肥厚し、鈍い突線がめぐる。45は口縁部が屈曲、48・49は口縁部に段が付き、45・49・54の口唇は平坦面をなす。46は頸部に凹線がめぐり54・55は頸部に波状文が描かれる。第67図50・52は小型壺の胴部、同図53・第68図5・8・9は小型・中型壺の底部である。第68図5は高台がついている。第67図6は胴部上半に沈線文と斜線文が描かれ、底部に高台を持つ。第67図57・第68図3・4・7・10～16は、これより大型の壺甌類である。第67図57・第68図1・2は口縁に段が付く壺である。第68図2は焼成が非常に悪い。同図3は口縁部が直立気味の壺である。第68図11は口唇部に布压痕がついている。同図12～16は同一個体の口縁部である。頸

部に沈線文と斜格子文が描かれる。第68図17は提瓶である。口頸部が欠損している。焼成が悪く、軟質で瓦質状を呈す。第69図1～8は甕胴部のタタキ痕と当具痕を示した。当具痕の分類は、SR10に準じる。1～4は同心円状の当具痕で、3・4が当具痕A、1が当具痕B、2が当具痕Cである。5～8は輪花状の当具痕で、6が輪花a類、7が輪花b類、5・8が輪花c類である。

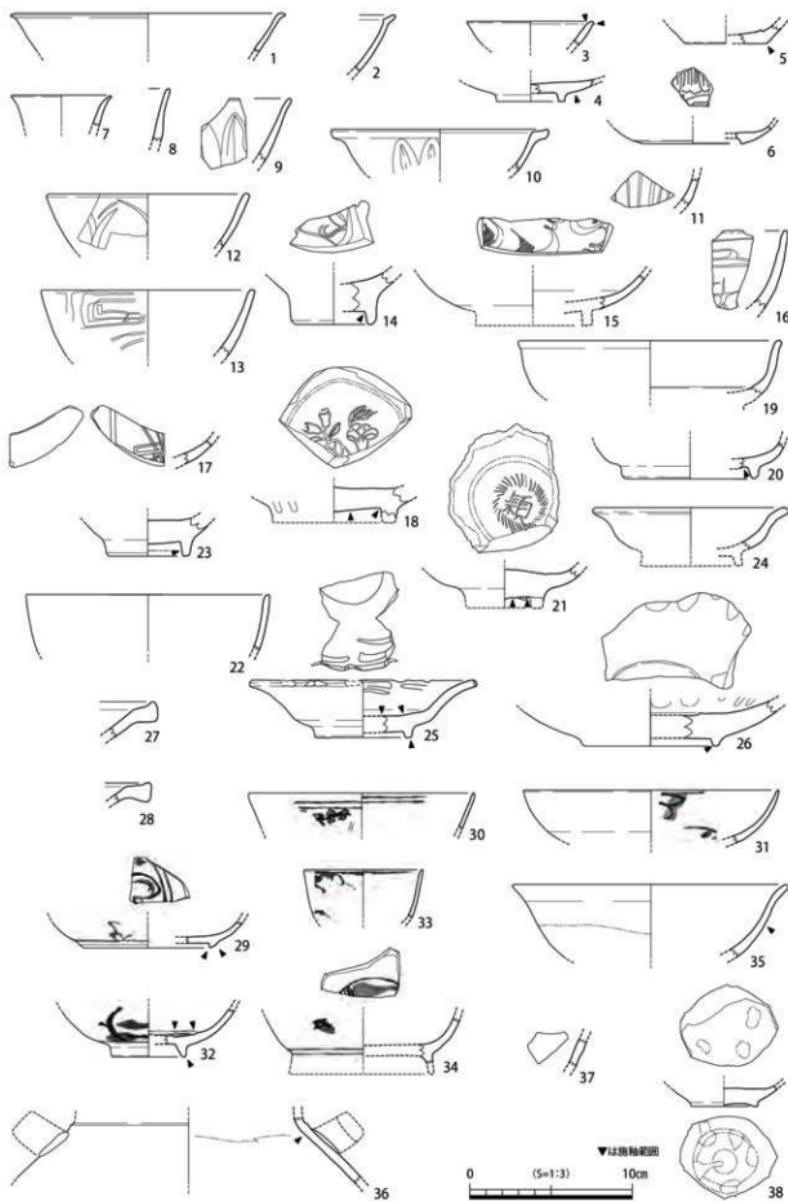
中世陶磁器・土器（第70～72図、図版74～77） 図示しなかったものも含めて、第23表に集計しておいた。

第70図1～5は中世前半の白磁で、1・2が碗（大宰府碗V・2類かVII類）、3・5が皿（同皿IX類）である。同図6～8は中世後期の白磁で、6が皿、7・8が环（ともに森田E群）である。第70図9・10・15は中世前期の龍泉窯系青磁碗である。9が大宰府碗II B類、10が同环IV類、15が同I・3類である。同図11～14・16・19・22～28は中世後期の龍泉窯系青磁である。11～14・16・19・22・23が碗で、上田B IV類碗（11・23）、同B II類（12）、同C II類（13・16）、同D類（19）、同E類（22）、同B IV類？（14）などがある。24は环、25は稜花皿、26～28は盤で、これらも中世後期の龍泉窯系青磁である。第70図30・33・34は景德鎮窯系の青花、同図29・31・32は漳州窯系の青花である。いずれも16世紀後半から17世紀初頭のものである。同図35は中国製の青磁碗と考えたが、陶器の可能性もある。詳細が不明な陶磁器である。同図36は中国製の耳壺で、中世前半の褐釉陶器である。同図37・38は朝鮮製陶器の皿で、37が刷毛目粉青、38が灰青沙器である。第71図1は産地不明の輸入陶磁器である。褐釉の壺または壺である。同図2・3は瀬戸・美濃系である。2は内面に鉢目がある鉢目大皿、3は内面にミガキ様の掻き取り痕がみられる皿である。同図4・5は備前系擂鉢である。4は備前IV A1期である。同図6～15は瓦質土器である。6は香炉で、口縁部に雷文帯がめぐる。11・14は火鉢、12・13は鉢、15は皿、7～10は擂鉢である。13は硬い焼きの須恵質、12・14は燃し、他は土師質であるが、11は硬質、6はやや硬質に焼けている。第71図16～第72図4は土師質土器である。第71図18が皿で、他は环である。第71図16・17・19は褐色系、同図18・第72図1～4は灰白色系である。

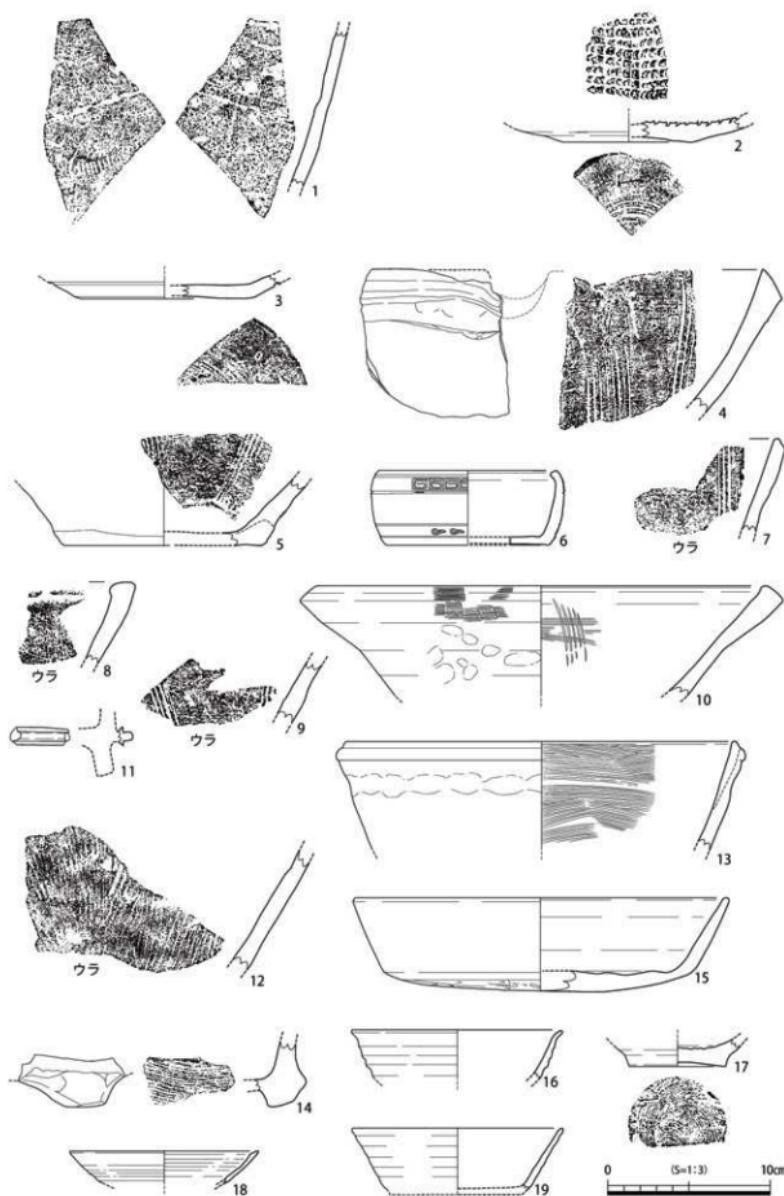
近世陶磁器（第72図～第73図9、図版77・78） 図示しなかったものも含めて、第24表に集計した。

第72図5～12・17は肥前系磁器である。碗（5～7）、皿（8～10）、环（11）、水滴（12）などがある。6・17は初期伊万里である。他は17世紀後半のものが多いが、13は17世紀前葉と比較的古い。12は18世紀代と比較的新しく、5は19世紀前葉ともっとも新しい年代を示す。第72図15・16～第73図9は肥前系陶器である。碗（第72図15）、皿（同図16・18～24）、火入れ（第72図25・第73図2）、火鉢（第73図1）、香炉（同図3・4）、擂鉢（同図7）、壺または甕（同図5・6・8・9）がある。第72図15・19～21・23・第73図5・7は17世紀前半代と比較的古く、第72図18は1600年前後ともっとも古い製作年代である。肥前系陶器のうち、17世紀後半以降に下るもの（第73図1など）はあまり多くない。なお、第72図24は萩焼の可能性がある。

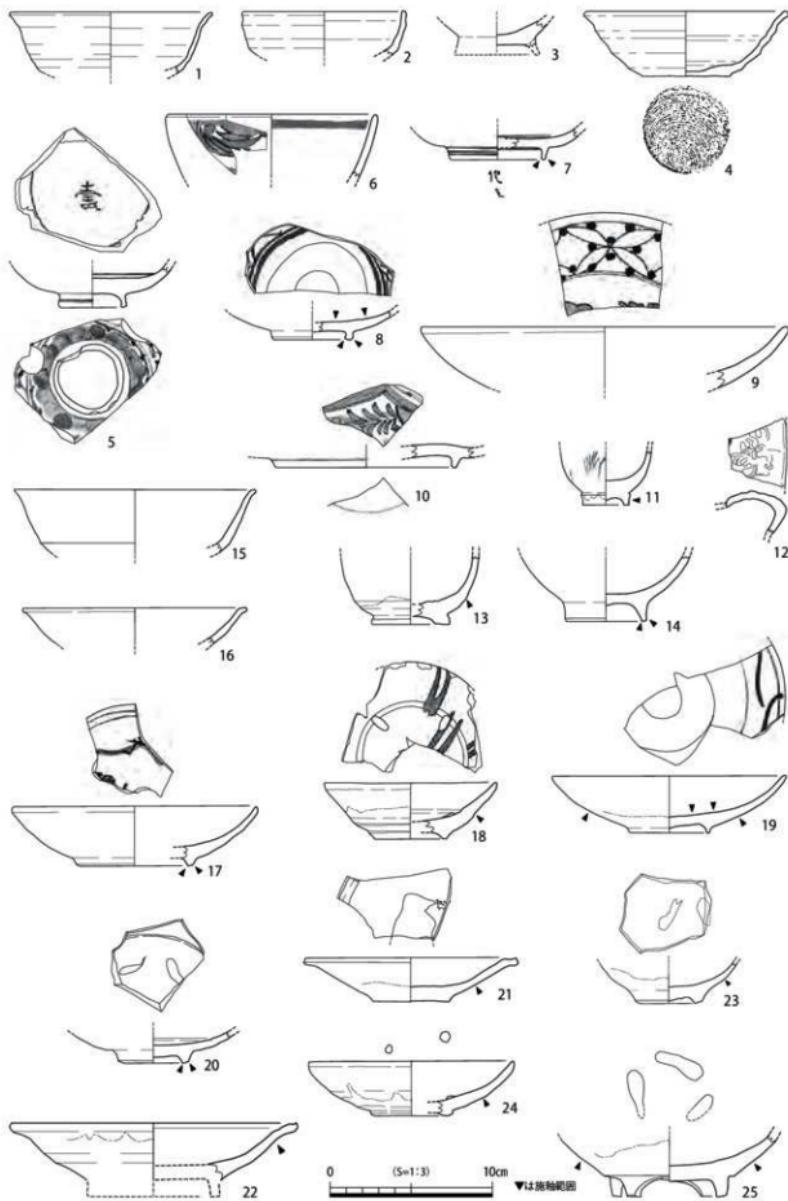
土鍾（第73図10～17、図版79） 円柱形・中膨らみの両方があり、土師質のものがほとんどである。細身の小型品（I類：10～12）、中型品（II類：13～15）、大型品（III類：16・17）がある。10～13・15はやや中膨らみ、14・16・17は円柱形である。10～12・14・15の表面は比較的丁寧に調整が施されるが、13・16・17は凹凸が顕著で、特に16・17は指壓圧痕が明瞭に残る。



第70図 遺構外出土遺物(13)



第71図 遺構外出土遺物(14)



第72図 遺構外出土遺物(15)

土錘は、SR01～04出土を含めて合計36個が出土しているが、I類が12個、II類が18個、III類が6個の割合である。土錘はSR10からは出土せず、中近世の遺物が出土したSR01～04・07やそれを覆うII層から出土していることから、中世から近世にかけての遺物と考えられる。

瓦（第73図18～22、図版79） 第73図18・19は軒瓦で、唐草文の一部が残る。小片のため、軒平瓦なのか軒棟瓦なのかは不明である。同図20は玉縁の丸瓦、同図21は棟瓦である。これらはいずれも焼されて黒灰色を呈す。同図22は暗赤褐色を呈す施釉赤瓦である。

棟瓦は1674（延宝2）年に発明されたとされるが、江戸での普及は1730（享保15）年以降というので、21は18世紀以降と思われる。施釉赤瓦は18世紀末以降とされる。

土製品（第73図23、図版79） 燻瓦片を転用したもので、略方形を呈す。整形後に3方の側面に研磨が施されているが、一方の側面は瓦本来の端部面が残る。図示した表面にも研磨が施されている。暖房具である温石の可能性がある。

鉄器（第73図24～第75図4、図版84～86） 鉄鎌、小札といった武器・武具及び鉗、摘鎌、刀子などの工具などの鉄製品が出土している。また、板状鉄片や鉄鋸などの祭祀に関連する遺物も出土している。鉄素材及び鍛冶関連遺物も出土している。これらの遺物は遺構外からの出土であり、各遺物の時期比定は難しいが、本来はSR01～07及びSR10に関連する鉄器であるといえる。遺構出土遺物同様に、完成品及び祭祀に関連する遺物であると考えられるものは鉄製品として報告する。また、棒状鉄や鉄塊については鉄素材とし、鉄滓については鍛冶関連遺物として報告する。なお、非掲載のものを含めた集計表を第25表で示す。

鉄製品（第73図24～第74図14・18～20、図版84・85） 第73図24・第74図3～6は鉄鎌である。鎌身部の平面形態は第73図24・第74図4がナデ閑の柳葉形、第74図3が雁股形を呈する。断面は確認できる第73図24・第74図3が平造となる。頭部閑は無閑（第73図24）、角閑（第74図4）、台形閑（第74図3・6）が確認できた。第73図25は小札破片である。SR03出土遺物（第27図20・21）同様に2列に孔が施される。第73図26は摘鎌としたが、銹化により基部の観察ができておらず、刀子の身部片の可能性が残る。第73図27は刀子の閑部とした。閑部は刃・背ともに浅く切れこむ両閑であり、茎に目釘穴が施される。第74図1は鎌の形状となるが、断面形態が長方形であり、刃部を有さない。鉄製模造品の可能性がある。第74図2・9は器種不明の鉄製品である。同図2は断面が三角形で刃部である。同図9は長方形の断面をもち、部分的に弧状に幅広となる鉄板に鉢が2カ所施される様子が確認できる。木材などの部材と合わせたものと推測でき、工具の可能性がある。第74図7は簪の差込み部残片、同図8は鉗とした。同図10は鎌としたが、両端部の折り返しが甘く、鉄製模造品の可能性がある。第74図11・16・18・19・20は板状鉄片とした。11・18は意図的に折り曲げた鉄片であると考えられる。19は端部が幅広となっており、鉄錠状の形態となる。これらの板状鉄片はSR10出土の板状鉄片と同様に、意図的に折り曲げられる点や不整形な形態をしている。鉄製模造品などとともに祭祀に関連した遺物であろうか。第74図12・13は銀状金具である。小型の13は方形断面、12は円形断面となる。第74図14は2点が接着して出土しており、平面形態は長三角形となる。先端に孔が施されていることから鉄鋸とした。端部は欠損しているとみられ、全体の様相は不明である。鉄製模造品や板状鉄片とともに祭祀に関連した遺物といえる。

鉄素材（第74図15・21～23、図版85） 棒状鉄及び鉄塊を図化した。第74図15は棒状鉄で

ある。長方形の断面を呈し、両端部が整っている。棒状鉄はSR01・03・04・07出土の棒状鉄と同様に鉄製品の未成品段階と考えられる。同図21～23は鉄塊とした。同図23は厚みが薄いものの、板状鉄片や板状鉄と比較して大型であるため鉄塊とした。

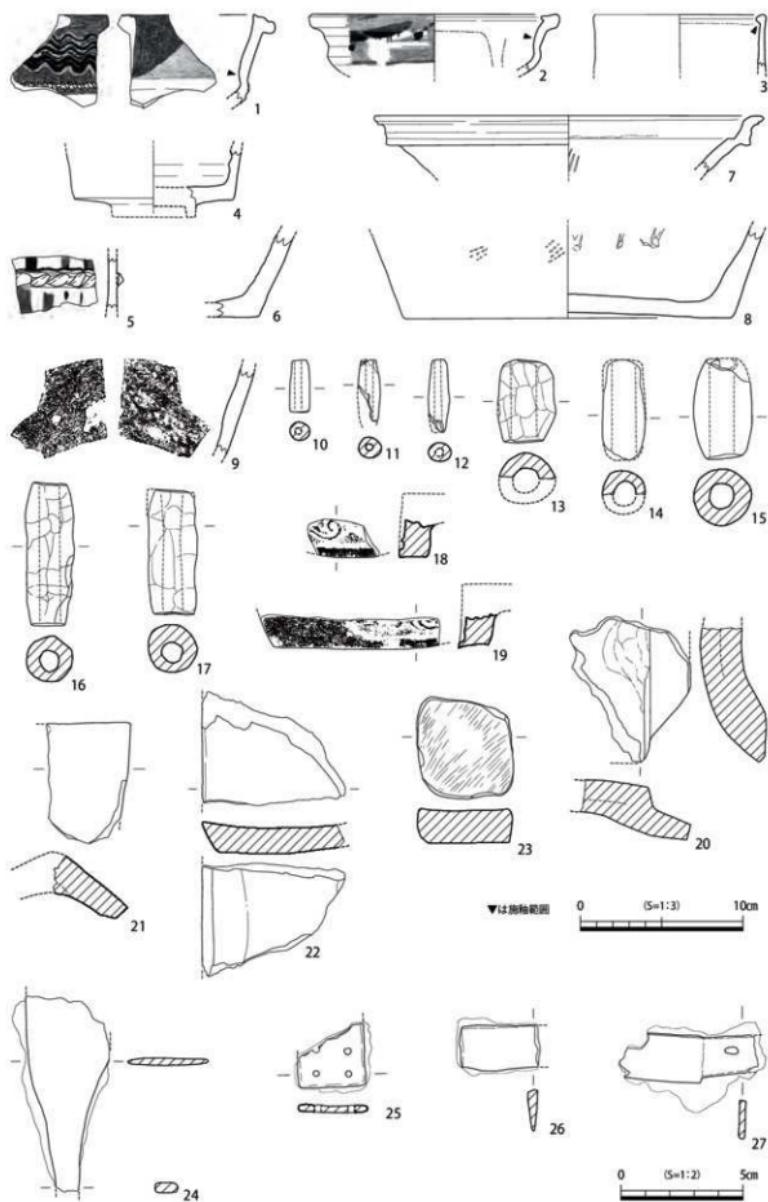
鍛冶関連遺物（第74図17、第75図1～4、図版85・86）鍛冶関連遺物として鉄滓が出土している。第75図1・4は椀形鍛冶滓である。1は分析の結果、精錬鍛冶滓であることが判明している。第75図3についても分析を実施しており、砂鉄製鍊滓であることが判明している。

第23表 遺構外中世陶器集計表

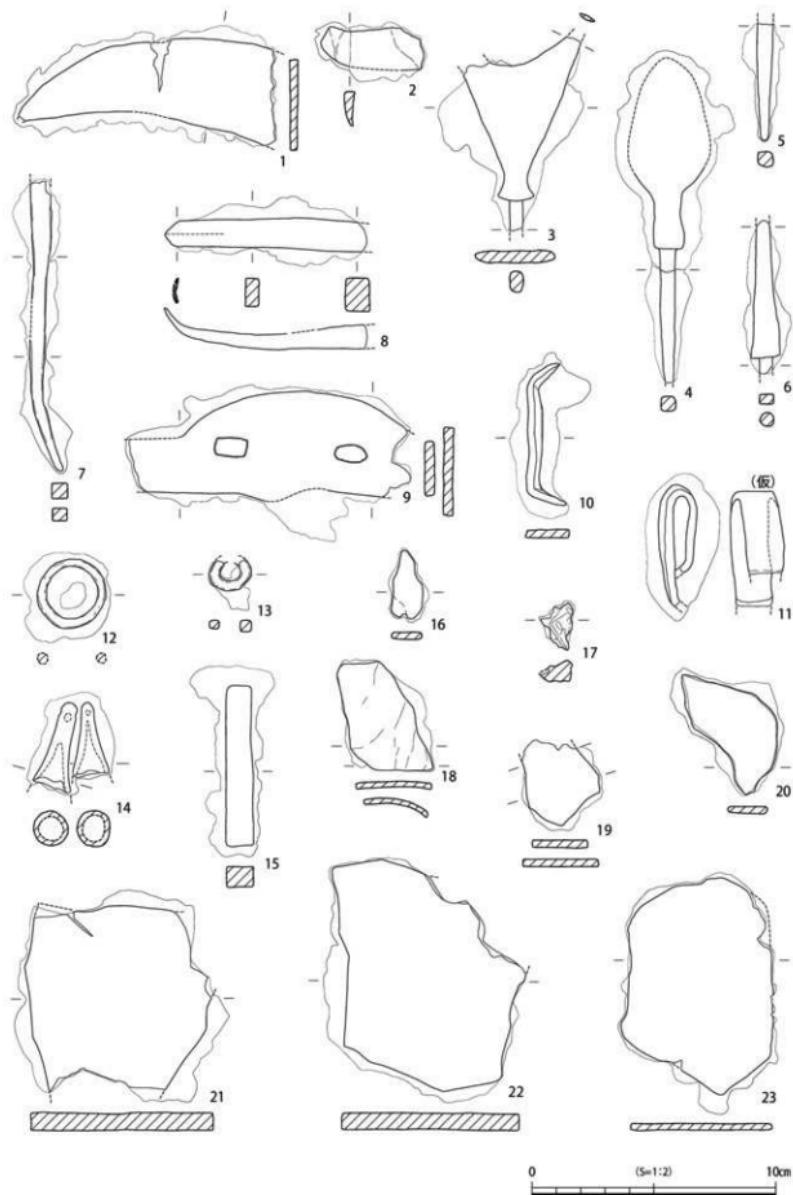
出土地点	産地	種別	器種	分類	数量							
遺構外	中国	白磁	碗	大宰府窯IV期	1							
			皿	大宰府窯V・II期?	2							
				大宰府窯IX期	2							
				幽州D群	1							
				西田E群	1							
				幽州D群	4							
				大宰府C・D期	3							
				不明	4							
				坪	西田E群	2						
			羅泉窯系青磁	碗	大宰府窯I・III期	5						
						大宰府窯II・I期	1					
						大宰府窯IV・II期	1					
						上田B II期	1					
						上田B IV期	3					
						上田C II期	2					
	上田C 群	1										
	上田E 群	1										
	15-16C	3										
	坪	15C			2							
	模花罐	1										
	盤	3										
同安窯系青磁	碗	同安窯I群			5							
		景德鎮窯系 青花			碗	景德鎮窯	1					
							青花	2				
			泉州窯系青花	皿		泉州窯I群	1					
							泉州窯II群	1				
							中国陶器	1				
							青灰沙	1				
							刷毛目粉青沙	1				
						輸入陶器	日本	迦始陶器	1			
									瀬戸・美濃	御目大皿	1	
										皿	1	
									備前	唐鉢	IVA 1期	1
										底部	1	
									瓦質土器 (土師質)	鉢(土師質)	3	
										壺鉢(土師質)	1	
								香炉(土師質)	1			
		火鉢(壇)			7							
	瓦質土器 (須恵質)	鉢(須恵質)			1							
		壺鉢(須恵質)	1									
		皿(須恵質)	1									
	防長系?	唐鉢	3									
	土師器	褐色系	坪	2								
		坪皿	25									
	白色系	坪	1									
		皿	4									
		坪皿	6									

第24表 遺構外近世陶器集計表

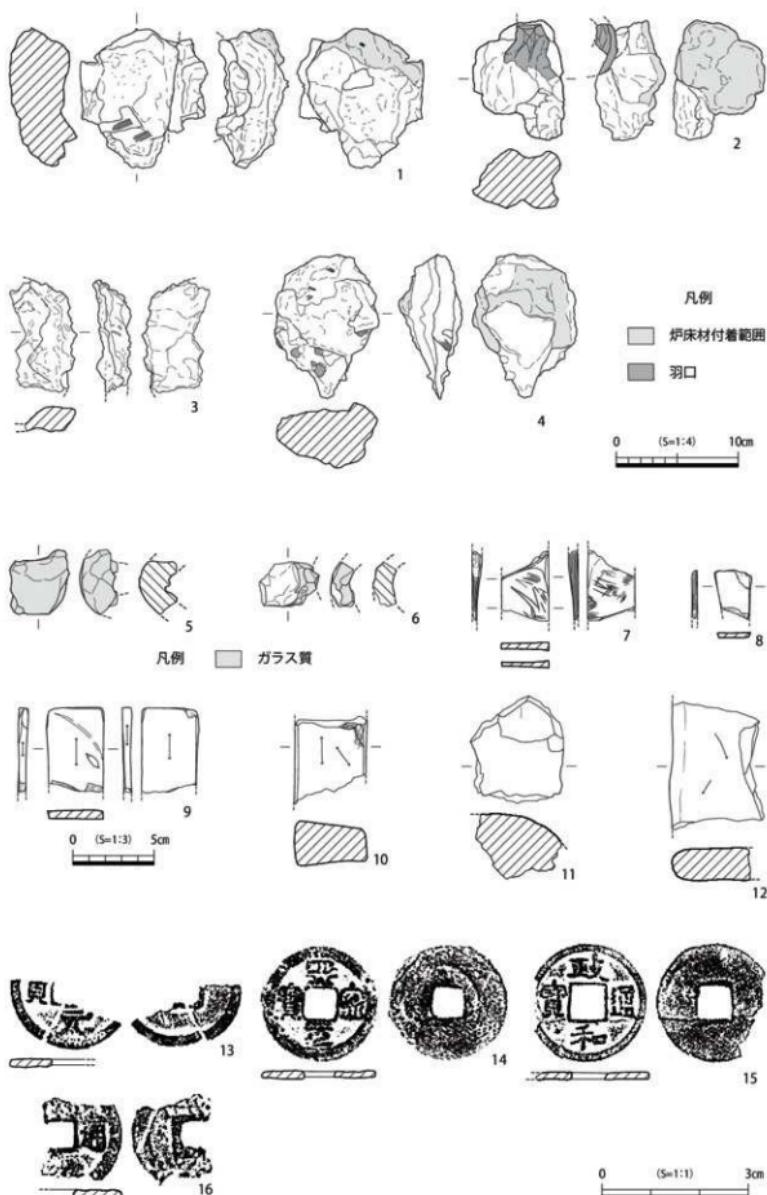
出土地点	種別	産地	器種	器形	数量		
遺構外	陶器 (J)	肥前系 (B)	碗 (1)	初期伊万里 (a)	3		
				底付無袖 (b)	5		
				丸形	6		
				丸円U字高台 (d)	6		
				粗腰 (g)	3		
				梅鉢文 (v)	2		
				小丸形 (j)	2		
				小丸or腰斜 (j or g)	1		
				端反碗 (n)	2		
			皿 (2)	平形 (初期伊万里)	初期伊万里 (a)	6	
						平形 (初期伊万里)	6
						丸形U字高台	4
						平形 (k)	6
						乾の目凹形高台	1
						その他	3
	鉢 (5)	初期伊万里 (a)			3		
		鏡反形 (b)			1		
	坪 (6)	鏡反形 (b)			8		
		その他			1		
	壺口 (7)				1		
	香炉・ 火入れ (9)	筒形香炉 (a)			1		
		瓶 (10)			2		
		水滴 (19)			1		
		不明			14		
陶器 (T)	肥前系 (B)	碗 (1)	厚底底部無袖	11			
			丸形薄手	11			
			貝器手 (a)	23			
			陶器染付 (f)	13			
			青繪輪 (i) カ	2			
		皿 (2)	厚土質	厚土質	14		
					砂目 (b)	12	
					砂目 (b) カ	16	
					青繪輪 (a)	1	
					透窓輪 (砂目) (d)	3	
					その他	3	
					鉢 (5)	刷毛目 (a)	5
						その他	5
					香炉・ 火入れ (9)	筒形香炉 (4) 刷毛目火入れ (1)	1
						鉄軸火入れ (2)	2
	瓶 (10)				2		
	壺・甕 (15)			青梅波叩き (3) 桔子目叩き (4)	4		
				その他 (5)	5		
	片口 (23)			鉄輪 (4) その他 (5)	5		
京・ 信楽系 (D)	京・ 信楽系 (H)			碗 (1)	半球輪 (b) カ	4	
			鉢 (5)		4		
			壺・ 明石系 (E)	畫鉢 (29)	2		
			須佐	壺鉢 (29) 土壺	3		
			在地系	碗 (1) 単腹形	1		
				鉢 (5) 木葉形	13		
			土器D	状見カ 人形 (60)	1		



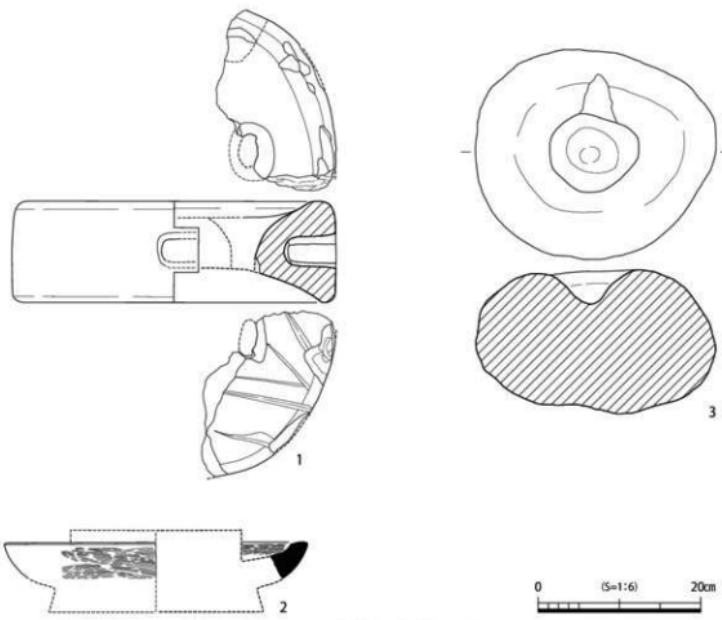
第73図 遺構外出土遺物(16)



第74図 遺構外出土遺物(17)



第75図 遺構外出土遺物(18)



第76図 遺構外出土遺物(19)

第25表 出土鉄器集計表

調査ID	刀	鉄鎌	小札	鉗	刀子	包丁	縫	粗	釣針	防錆車	鑿	弓金具	鉄鋸	鉄製模造品	板状 鉄片	板状 鉄片?	釘 (平)	釘 (折)	火打金	簪 (留子)	棒状鉄 残片?	板状鉄	鉄塊	鉄滓	不明	
SRO1			2												9	4				1	1	2	1			
SRO2	1	4			2	1	4		1						2	15	11	1	1		1	1	7	5	2	
SRO3			1	2											1	13	3	4	1	1	3	4	5	2		
SRO4															4	1			1						1	
SRO5																									1	
SRO7																1									2	
SRO10			11			1			1		3	1	2	1	6	8								5	1	
遺構外			10	1	1	2	1								2	6	3	5		1	2	1		3	5	4

※SRO10-遺構外からは羽口出土

羽口（第75図5・6、図版79） 小片であり、成形痕跡などは確認できなかったが先端部の溶損が認められる。

石製品（第75図7～12・第76図、図版79・80） 第75図7～10は砥石である。7～9は厚さが0.3～0.6cmと非常に薄く、かなり使い込まれている。7は赤褐色を呈し、石礫の転用かもしれない。10は厚さ3.1cmと厚く、4面が使用されている。第75図12は全面非常に滑らかな川原石で、研磨されたものと考えた。ただし、使用痕・研磨痕は定かではない。小型石皿の可能性もある。第75図11・第76図3は、石塔の一部と思われる。ともに三瓶山起源の軽石が使用されている。第75図11は、小片だが球体に成形された部分が残っている。大きさからすると、五輪塔・空風輪の一部か。第76図3は五輪塔・水輪である。全面整形されているが、扁平で平面形もいびつである。一面に大きな凹みが穿たれている。第76図1は粉礫白の上白である。投入口は一方に偏るようで、平面形楕円形、断面形ロート状を呈す。側面には長方形の横打込穴がある。下面の主溝は

6分画であるが、摩滅のため副溝の大部分は観察できない。第76図2は茶白の下白である。内外に細かな擦痕が観察できる。

銅製品（第75図13～16、図版86） 古銭が4点確認されている。銘が読み取れるものとして、熙寧重寶（第75図14）、政和通寶（同図15）がある。ともに北宋銭である。このほかにも、□元□寶（同図13）、□□通□（同図16）が出土している。

5. 小結

森原神田川遺跡下ノ原地区では、中世～近世の河道及び水路6と古墳時代前期～後期の大形の河道1を確認した。前者のうちSR01・SR07は自然河道である。SR02～05については、大形の石を利用するなどして堰を設け、水利調節を行っていたと見られる。

SR10では古墳時代中期～後期の完形に近い土器、土製品やミニチュア土器が大量に出土し、滑石製の勾玉や管玉なども確認され、何らかの祭祀に関わるものと考えられる。自然堤防上で祭祀が行われたのち、それに用いられた道具類をSR10に投棄したものと見られる。

【参考文献】

近世瓦・石製品ほか

江戸遺跡研究会編 2001『図説江戸考古学研究事典』柏書房

島根県古代文化センター 2017『近世・近代の石見焼の研究』

鉄器

岡 義則 1986 「古墳時代後期鉄鎌の分類と編年」『日本古代文化研究』第3号、古墳文化研究会

末永雅雄・伊藤信雄 1979『挂甲の系譜』雄山閣

水野敏典 2013 「鉄鎌」『副葬品の型式と編年』古墳時代の考古学4 同成社

第4章 自然科学分析

第1節 森原神田川遺跡出土製鉄～鍛治関連遺物の分析調査

鈴木瑞穂：日鉄テクノロジー（株）八幡事業所

調査対象

島根県江津市松川町森原に所在する、森原神田川遺跡から出土した鉄滓・鉄塊計5点（第26表）を調査した。

調査項目

（1）外観観察

鉄滓の外観的な特徴を記載した。

（2）マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の $3\text{ }\mu\text{m}$ と $1\text{ }\mu\text{m}$ で順を追って研磨し、断面全体像を撮影した。

（3）顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属組織の観察を目的とする。

金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真を撮影した。

（4）EPMA調査

EPMA（日本電子製㈱ JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成および鉄中非金属介在物の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

（5）化学組成分析

鉄滓の定量分析を実施した。測定元素と分析方法は以下の通りである。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）：燃焼容量法、硫黄（S）：燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（ SiO_2 ）、酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）、酸化カルシウム（ CaO ）、酸化マグネシウム（ MgO ）、酸化カリウム（ K_2O ）、酸化ナトリウム（ Na_2O ）、酸化マンガン（ MnO ）、二酸化チタン（ TiO_2 ）、酸化クロム（ Cr_2O_3 ）、五酸化磷（ P_2O_5 ）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ ZrO_2 ）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）：誘導結合プラズマ発光分光分析法。

調査結果

MRH-1：製鍊滓（第75図3）

（1）外観観察：やや扁平な楕円形の鉄滓（116.0g）である。表面には部分的に黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆が薄く付着するが、まとまった鉄部は見られない。滓の地の色調は暗灰色で、着磁性がある。上下面とも気孔は少なく緻密である。

（2）顕微鏡組織：第77図①～③に示す。滓中には発達した淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル（Ulvöspinel: $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ ）、微細な白色樹枝状結晶ウスタイト（Wustite: FeO ）、淡灰色柱状結晶ファ

ヤライト (Fayalite : $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) が晶出する。

(3) 化学組成分析：第 27 表に示す。全鉄分 (Total Fe) 44.46% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 0.17%、酸化第 1 鉄 (FeO) が 40.88%、酸化第 2 鉄 (Fe_2O_3) 17.89% の割合であった。造渣成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) 25.40% で、このうち塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$) は 4.60% であった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン (TiO_2) は 12.88%、バナジウム (V) が 0.14% と高値であった。また酸化マンガン (MnO) も 1.02%、二酸化ジルコニウム (ZrO_2) 0.66% と高値であった。銅 (Cu) は < 0.01% と低値であった。

当鉄滓は製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の脈石成分 (TiO_2, V) の高値傾向が顕著であった。この特徴から砂鉄製錬滓の可能性が高いと考えられる。

MRH - 2 : 鉄塊 (第 24 図 23)

(1) 外観観察：やや扁平な楕状の鉄塊 (376.0g) である。表面全体が黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆で覆われる。広い範囲で強い金属探知機反応があり、表面にはまとまった鉄滓はみられない。まとまりの良い鉄主体の遺物と推定される。

(2) マクロ組織：第 77 図④に示す。端部を供試材としたため、観察面全体が錆化しているが、斑鎧鉄組織が残存する。

(3) 顕微鏡組織：第 77 図⑤⑥に示す。⑤の中央部は蜂の巣状のレデブライ特 (Lebedburite) で、⑥はその拡大である。また⑤の片状黒色部は黒鉛 (Graphite : C) である。上述したように、斑鎧鉄組織が確認された。

(4) EPMA 調査：第 78 図①②に反射電子像 (COMP) を示す。①はレデブライ特が晶出した箇所である。内部の微細な黄褐色粒は、特性 X 線像をみると硫黄 (S) に強い反応がある。定量分析値は 61.5%Fe – 34.9%S (分析点 1)、61.0%Fe – 32.2%S (分析点 2) であった。硫化鉄 (FeS) である。また②は片状黒色部の反射電子像 (COMP) である。特性 X 線像では炭素 (C) に強い反応があり、黒鉛 (Graphite : C) と判断される。

以上の調査結果から、当遺物は鎧鉄塊 (斑鎧鉄) であったことが明らかとなった。

MRH - 3 : 含鉄鉄滓 (第 25 図 2)

(1) 外観観察：やや大形の含鉄鉄滓の破片 (592.0g) である。表面全体が黄褐色の土砂で覆われる。土砂中には大小の礫が付着する。弱い金属探知機反応があるが、素地部分は鉄滓で、内部にごく微細な金属鉄が散在する状態と推測される。

(2) マクロ組織：第 78 図③に示す。素地部分は灰褐色の鉄滓である。また微細な明灰色～青灰色部は錆化鉄である。観察面ではまとまった金属鉄部 (またはその錆化物) はみられなかった。さらに写真左側中央の黒色部は微細な木炭破片である。内部には発達した導管が分布しており、広葉樹材の黒炭と推定される。

(3) 顕微鏡組織：第 78 図④⑤に示す。④上側の灰褐色粒は、熱影響を受けた砂鉄粒子 (含チタン鉄鉱) である。④の下側と⑤の中央は、さらに還元・溶化が進んだ状態で、内部に微細な金属鉄 (明白白色粒) が多数点在している。また素地の淡茶褐色多角形結晶ウルボスピニル、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。最も一般的な砂鉄製錬滓の晶癖である。

(4) 化学組成分析：第27表に示す。全鉄分（Total Fe）52.31%に対して、金属鉄（Metallic Fe）<0.01%、酸化第1鉄（FeO）27.30%、酸化第2鉄（Fe₂O₃）44.45%の割合であった。造渾成分（SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O）は19.69%とやや低めで、塩基性成分（CaO+MgO）も1.43%と低値であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO₂）は3.61%、バナジウム（V）は0.12%であった。また酸化マンガン（MnO）は0.36%、二酸化ジルコニウム（ZrO₂）0.04%、銅（Cu）<0.01%であった。

当鉄渾は内部に還元・滓化の進んだ砂鉄粒子（含チタン鉄鉱）が多数含まれることから、砂鉄製鍊渾と判断される。

MRH-4：楔形鍛治渾（第75図1）

(1) 外観観察：やや大形の楔形鍛治渾（555.0g）である。表面には黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆が付着するが、まとまった鉄部は見られない。渾の地の色調は暗灰色で、着磁性がある。上面端部には黒色ガラス質渾が点々と付着しており、羽口粘土の溶融物と推測される。

また上面側には1cm大の木炭痕が薄く残る。一部は木炭破片が残る。一方下面側にはより微細な木炭痕による凹凸がみられる。全体に気孔は少なく、重量感のある渾である。

(2) 顕微鏡組織：第79図①～③に示す。渾中には淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、発達した白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。砂鉄を始発原料とする精鍊鍛治渾に最もよく見られる晶癖である。

(3) 化学組成分析：第27表に示す。全鉄分（Total Fe）52.53%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は<0.01%、酸化第1鉄（FeO）51.50%、酸化第2鉄（Fe₂O₃）17.87%の割合であった。造渾成分（SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O）24.09%で、このうち塩基性成分（CaO+MgO）は2.34%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO₂）4.87%、バナジウム（V）0.12%であった。また酸化マンガン（MnO）は0.51%、二酸化ジルコニウム（ZrO₂）0.08%、銅（Cu）は<0.01%であった。

当鉄渾は製鍊渾（MRH-1）と比較すると、砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の脈石成分（TiO₂、V）の含有割合が低いが、その影響が明瞭に残る。鍛治原料（製鍊鉄塊系遺物）中の未分離の不純物（砂鉄製鍊渾）除去作業に伴う精鍊鍛治渾と推定される。

MRH-5：楔形鍛治渾（第25図3）

(1) 外観観察：非常に大形で厚手の楔形鍛治渾（2760.0 g）と推測される。黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆はあまり付着していない。渾の地の色調は暗灰色で、他の鉄渾よりも着磁性はやや弱い。全体に気孔は少なく、重量感のある渾である。

(2) 顕微鏡組織：第79図④～⑥に示す。④上側の青灰色部は鉄化鉄である。金属組織の痕跡は不明瞭であった。また黒灰色部は木炭破片で⑤下側はその拡大である。内部には発達した導管が分布しており、広葉樹材の黒炭と推定される。また④の素地の灰色部は鉄渾で、⑥はその拡大である。白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛鍊鍛治渾に最もよく見られる晶癖である。

(3) 化学組成分析：第27表に示す。全鉄分（Total Fe）36.38%に対して、金属鉄（Metallic Fe

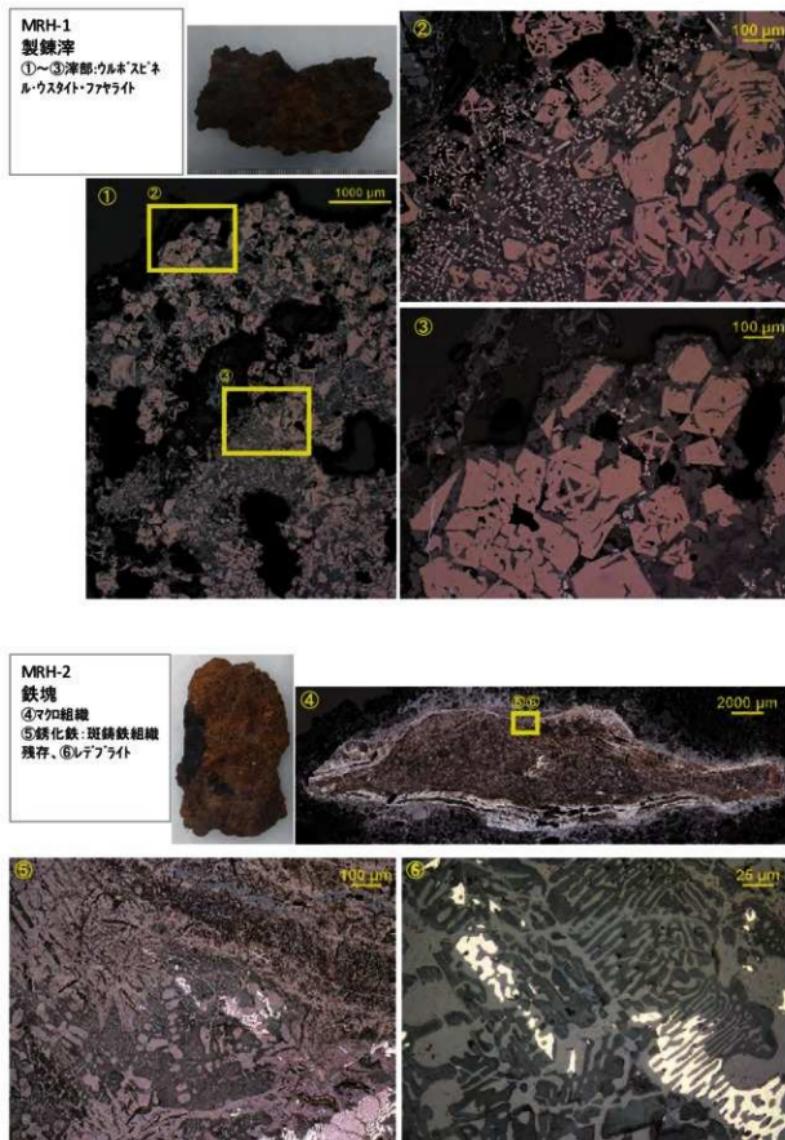
は<0.01%、酸化第1鉄(FeO)28.84%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)19.96%の割合であった。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)の割合は44.70%と高いが、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は1.99%と低値であった。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO₂)は0.64%、バナジウム(V)が0.03%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)も0.10%、二酸化ジルコニウム(ZrO₂)<0.01%、銅(Cu)<0.01%と低値であった。

当鉄滓は鉄酸化物(FeO)と炉材粘土の溶融物(SiO₂主成分)主体の滓で、製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の脈石成分(TiO₂、V)の影響がほとんど見られない。この特徴から鉄材を熱間で鍛打加工した際に生じた鍛錬鍛治滓と推定される。

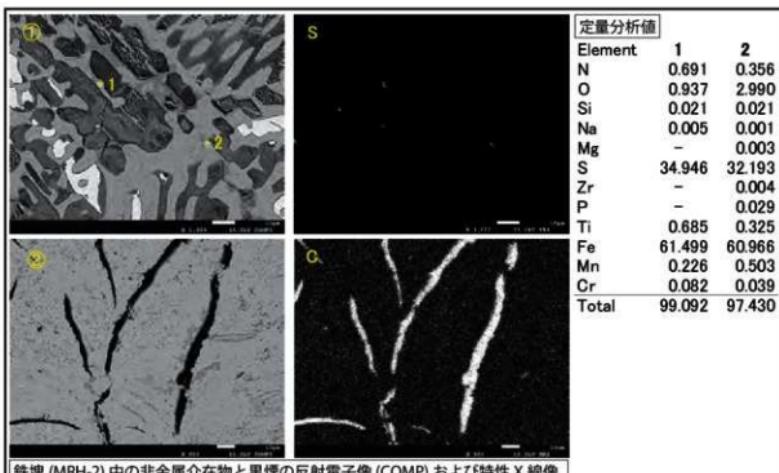
まとめ

森原神田川遺跡から出土した鉄滓4点を調査した結果、砂鉄製鍊滓(MRH-1、3)、精錬鍛治滓(MRH-4)、鍛錬鍛治滓(MRH-5)が確認された。遺跡周辺で生産された鉄を鍛治原料として、精錬鍛治～鍛錬鍛治作業が行われたことを示すものといえる。このうち、チタニアの含有割合の高い精錬鍛治滓(MRH-4)は、鍛治原料中に不純物(砂鉄製鍊滓)が多く含まれており、その除去作業が必要であったことを示すものである。鉄産地から滓との分離の悪い低炭素材(鉄～軟鋼)が一定量搬入されていた可能性が考えられる。

一方、今回調査を実施した鉄塊(MRH-2)は斑鑄鉄であった。鍛治原料には滓ときれいに分離した高炭素材(鑄鉄)も含まれており、鍛打可能な状態まで脱炭して鍛打加工することも行われていたものと推定される。



第77図 製鍊滓・鉄塊の顕微鏡写真



MRH-3

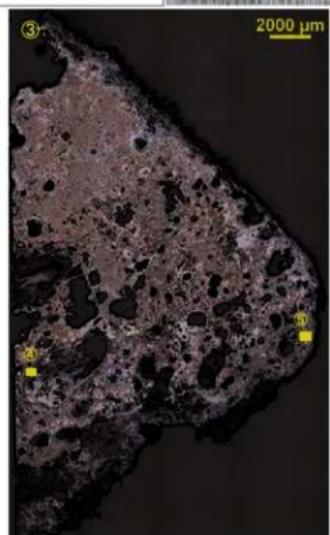
含鉄鉄滓

③マカ組織

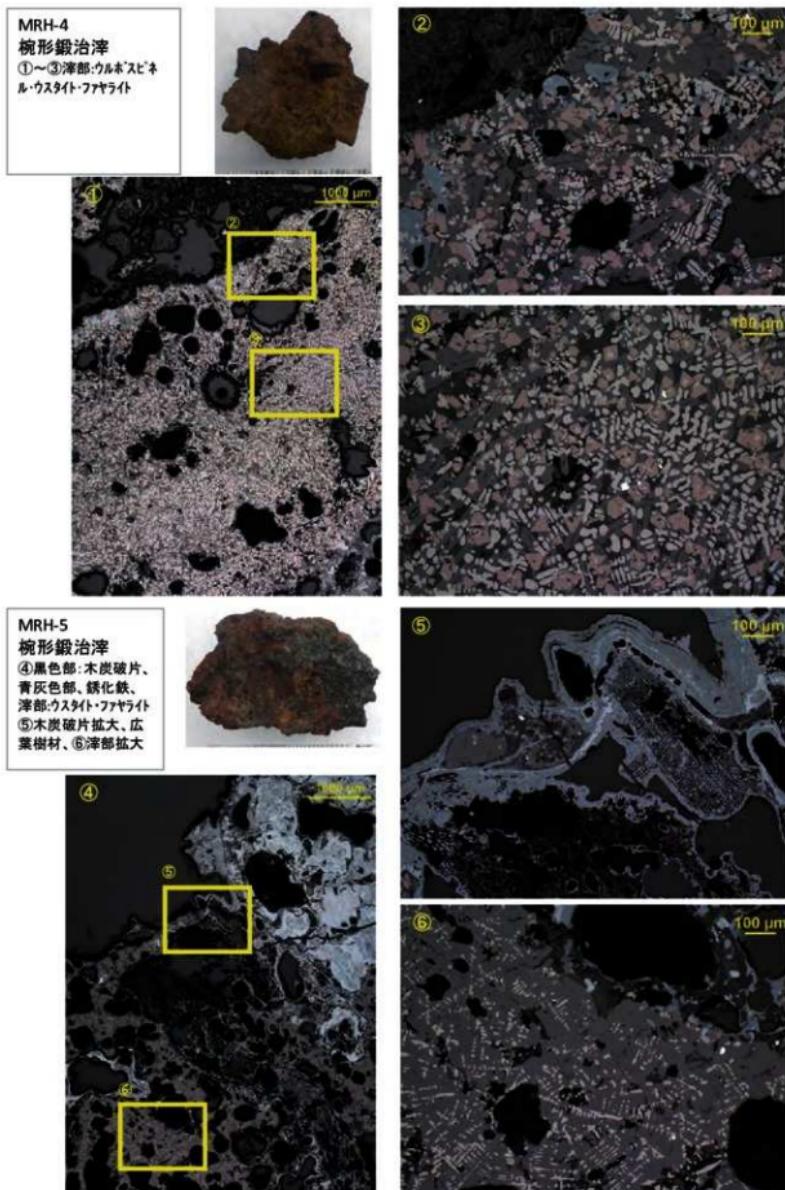
④⑤被熱砂鉄(含チタニウム鉱)。

微小明白色粒: 金属鉄、滓部:

ウルボスピネル・ファラライト



第 78 図 鉄塊 EPMA 調査結果・含鉄鉄滓の顕微鏡写真



第79図 梗形鉄滓の顕微鏡写真

第26表 供試材の履歴と調査項目

符号	通称名	遺物名	標記番号	遺物名称	計測値		調査項目			
					大きさ(mm)	重量(g)	金属探测器	マクロ組織	顯微鏡組織	EPMA 化学分析
MNH-1	森原神田川 下ノ原地区	包含層	75-3	銅鉛鉱	89×55×22	116.0	H	○	○	○
MNH-2		SR02	24-23	銅塊	95×73.5×8	376.0	特L	○	○	○
MNH-3		SR02	25-2	含鉄鉛鉱	102×75×44	592.0	H	○	○	○
MNH-4		包含層	75-1	複形鉛鉱石	108×99×46	555.0	H	○	○	○
MNH-5		SR02	25-3	複形鉛鉱石	209×125×79.5	2760.0	標準化	○	○	○

第27表 供試材の化学組成

符号	金数分 (Fe)	鐵化 (FeO) (Fe)	二硫化 鉄 (Fe ₂ O ₃) (S)	硫化 鉄 (FeO) (MnO)	酸化 鉄 (CaO) (Al ₂ O ₃)	酸化 鉄 (MnO) (K ₂ O)	酸化 鉄 (CaO) (Na ₂ O)	二硫化 鉄 (CaO) (MnO)	二硫化 鉄 (CaO) (MnO)	二硫化 鉄 (CaO) (MnO)	二硫化 鉄 (CaO) (MnO)	
MNH-1	44.46	0.17	40.88	17.89	15.11	4.53	2.81	1.79	0.77	0.38	1.02	12.88
MNH-3	52.31	<0.01	27.30	44.45	13.45	4.05	0.63	0.80	0.45	0.31	0.36	3.61
MNH-4	52.53	<0.01	51.50	17.87	15.78	4.65	1.22	1.12	0.92	0.40	0.51	4.87
MNH-5	36.38	<0.01	28.84	19.96	33.10	7.35	1.47	0.52	1.34	0.92	0.10	0.64

第28表 出土遺物の調査結果のまとめ

符号	通称名	遺物名	顯微鏡組織	化学組成(%)				所見	
				Total Fe	Fe ₂ O ₃ 成分	V	MnO		
MNH-1	森原神田川 下ノ原地区	包含層	銅鉛鉱	44.46	17.89	4.50	12.88	0.14	1.02 5.40
MNH-2		SR02	銅塊	-	-	-	-	-	-
MNH-3		SR02	含鉄鉛鉱	52.31	44.45	1.43	3.61	0.12	0.36 19.69
MNH-4		包含層	複形鉛鉱石	52.53	17.87	2.34	4.87	0.12	0.51 24.09
MNH-5		SR02	複形鉛鉱石	36.38	19.96	1.99	0.64	0.03	0.10 44.70

U : Uvospineite (Fe₂O₃·10O₂) · W : Wustite (FeO) · F : Fayalite (2FeO · SiO₂)

第2節 森原神田川遺跡下ノ原地区の花粉分析・植物珪酸体分析

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

はじめに

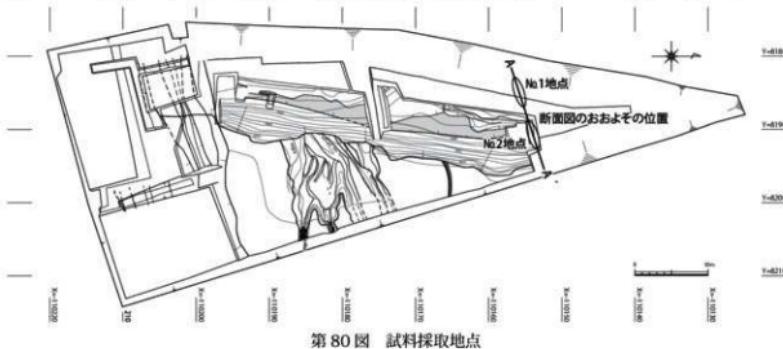
森原神田川遺跡下ノ原地区は島根県中央部の江津市松川町八神地内に位置し、一級河川江の川下流域右岸の沖積地に立地する。

本報は「遺跡内及び遺跡周辺での植生変遷を明らかにする」目的で、文化財調査コンサルタント株式会社が島根県教育庁埋蔵文化財センターからの委託を受け実施・報告した花粉分析及び植物珪酸体分析に関する報告書を再編集したものである。

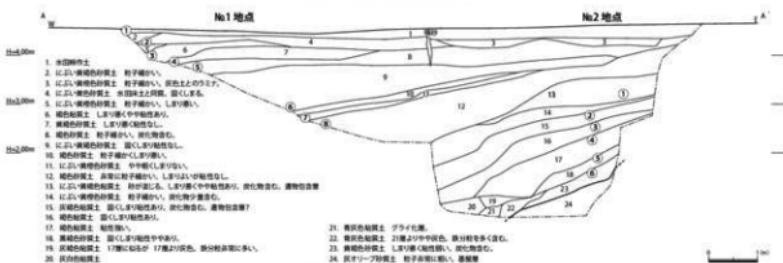
分析資料について

島根県教育庁埋蔵文化財センターと協議の上、第80図に示す2地点で文化財調査コンサルタント株式会社が分析試料を採取した。分析試料採取位置を第81図に示す。調査トレーニング法面（No.1地点）で8試料（①～⑧でおおよその採取位置を示す。）、SR10土層断面（No.2地点）で6試料（①～⑥に採取位置を示す。）を採取した。

以下に示す平面図及び土層断面図は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに作成した。各層の説明も、島根県教育庠埋蔵文化財調査センターの観察に従った。



第80図 試料採取地点



第81図 試料採取位置

分析方法

1) 微化石概査方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉（胞子）、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を5段階で示した。

2) 花粉分析方法

渡辺(2010)に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が200粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村(1974)に従ってイネ科花粉を、

イネを含む可能性が高い大型のイネ科(40ミクロン以上)と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科(40ミクロン未満)に細分した。

3) 植物珪酸体分析

藤原(1976)のグラスビーズ法に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。同定に際して、母植物との対応が明らかなか、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群(第29表)を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が300を超えるまで計数を行った。

分析結果

1) 微化石概査結果

微化石概査結果を第30表に示す。ほとんどの試料で微粒炭の検出量が極めて多く、植物珪酸体、火山ガラスはやや少なかった。一方花粉化石、植物片、珪藻化石の検出量は極めて少なかった。

2) 花粉分析結果

分析結果を花粉ダイアグラム(第82・84図)、花粉含有量ダイアグラム(第83、85図)と花第30表 微化石概査結果

地点	地層	時代	試料No.	花 粉	微粒炭	植物片	珪 藻	植物珪酸体	火山ガラス
1 地 点	近世	1	①	◎	△	◎	×	△	△
			②	△	◎	△	×	△	△
		6	③	△	◎	△×	△	○	○
		7	④	△×	◎	△×	△×	○	○
	～ 中世	8	⑤	△×	◎	△×	×	○	△
		9	⑥	△×	◎	△×	△	○	△
		11	⑦	△×	◎	△×	△	○	△×
		12	⑧	△×	◎	△×	△	○	△
2 地 点	古代	13	①	△×	◎	△×	×	○	○
			②	△×	△	△×	△	○	△×
		15	③	△×	◎	△×	△	○	△×
	古墳 時代	16	④	△×	○	△×	△×	○	△
		17	⑤	△×	◎	△×	△×	○	△×
		6'	⑥	△×	◎	△×	△×	○	△×
	11'			△×	△	△×	△×	○	△×

凡例 ◎ : 十分な数量が検出できる ○ : 少ないが検出できる △ : 非常に少ない

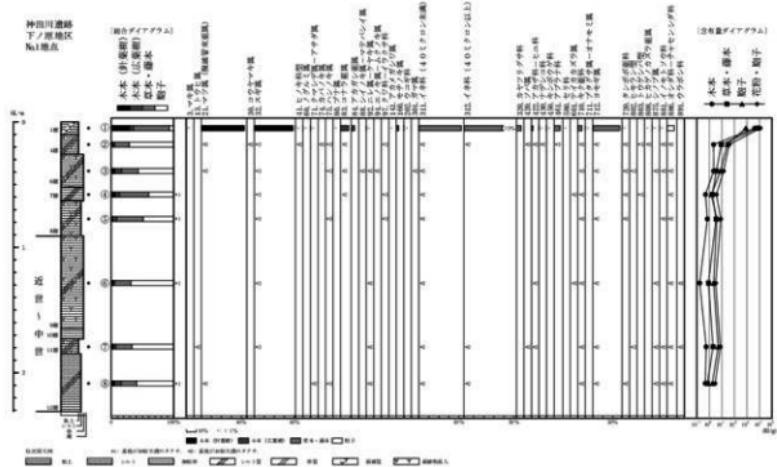
△× : 極めてまれに検出できる × : 検出できない

第29表 同定対象分類群

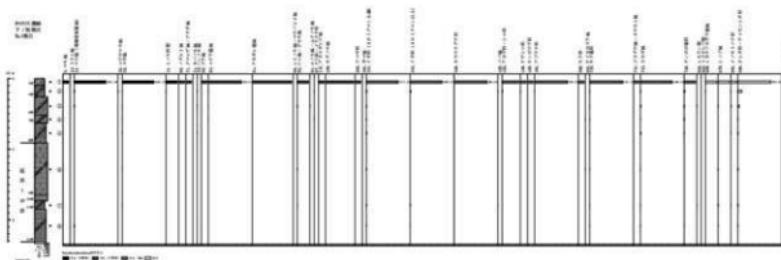
対応ペルル	コード	分類群		対応する微粒種
		1	2	
3	1	イネ		イネ
	2	シダ類	(根の老害病斑)	シダ類
	3	シダ類	(葉の老害病斑)	シダ類
	41	オクシジン属 (シカクビエ属)		シカクビエ
被植物と の対応が明 らかな分類 群	61	キク科		ヒエ、アワ、キビ
	62	キク科		ヒビ
	63	キク科		ヒビ
	66	エゴロクササ属		アワ
	84	ラン科		サトウキビ
	91	モクセイ科		モクセイ
	93	モクセイ科		モクセイ
被植物と の対応が明 らかな分類 群	11	サツキカラクサ属		サヤスカカラクサ、アシカキ
	13	マコモ属		マコモ
	31	ヨシ属		ヨシ
	32	シダ属		シダ
	35	スマガキ属		スマガマ
	51	シバ属		シバ属
	71	トチノキ属		トチノキ
	81	シロモミ属		シロモミ
	83	ウツクサ属 A		ナガヤマなど
	201	メタケ節群		メタケ節
	203	ヨリカズラ属		ヨリカズラ
	205	カキツバタ属		カキツバタ
	207	モコツバタ属		モコツバタ
	209	マダガ属		マダガ
	350	カヤツリグサ科(シゲ属など)		シゲ属
	352	カヤツリグサ科(シマササ属)		シマササ
	501	ナリ科(シカク属)		シイ類
	503	ブナ科(アカガシ属)		カシ類
	510	クヌギ科		ハクモノキなど(クヌギ科外)
	520	カツラ科(イヌキ属)		イヌキ
	530	アブキ科		アブキ
	540	モクレソ属		モクレソ
	570	マツ科		マツ科
	580	マツ属		マツ属

粉組成表（第31表）に示す。ほとんどの試料で花粉・胞子化石の含有量が少なく、かつ微粒炭による希釈効果のために、花粉・胞子化石の検出量が極めて少なかった。このことから花粉ダイアグラムでは、木本花粉総数が30粒に満たない試料について、検出できた分類群を「*2」で示した。[総合ダイアグラム]では「木本（針葉樹）」、「木本（広葉樹）」、「草本・藤本」と「胞子」の割合を示すグラフを示した（木本（針葉樹）は黒、木本（広葉樹）は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白のスペクトルで表した。）。[含有量ダイアグラム]では「木本」、「草本・藤本」、「胞子」「花粉・胞子（全ての合計）」ごとに含有量（湿潤試料1g中の粒数）の変化を示している。

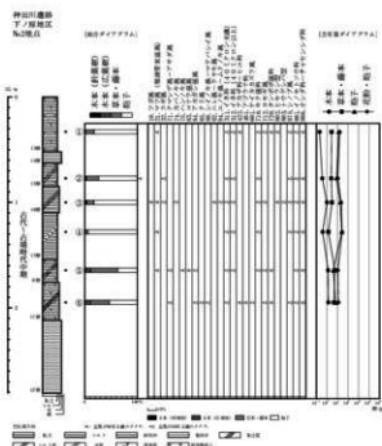
花粉（含有量）ダイアグラムでは、分類群ごとに含有量（湿潤試料1g中の粒数）を算出し、スペクトルで表している（木本（針葉樹）は黒、木本（広葉樹）は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白



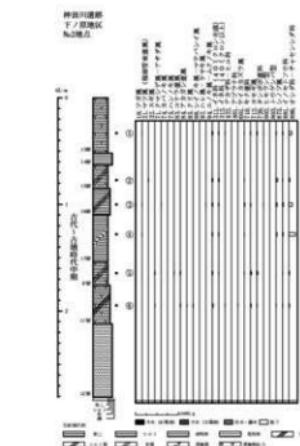
第82図 花粉ダイアグラム（第1地点）



第83図 花粉含有量ダイアグラム（第1地点）



第84図 花粉ダイアグラム（第2地点）
のスペクトルで表した。）。



第85図 花粉含有量ダイアグラム（第2地点）

花粉化石群集の特徴を、以下に地点ごとに示す。

① No.1 地点

上位の試料No.1でのみ200粒を超える木本花粉の検出量があった。その他の試料では花粉化石含有量が少なく、木本花粉含有量は0.2～2.2粒/gと極めて低い値であった。草本花粉の含有量も0.7～8.8粒/gと少なく、イネ科(40ミクロン未満)、イネ科(40ミクロン以上)ほか、キク亜科、ヨモギ属、タンボボ亜科のキク科由来の花粉がやや多く検出された。またごく少量であるが、試料No.2、7では栽培種のソバ属が検出された。また、これらの試料では木本花粉の検出量が100粒に満たないことから、花粉ダイアグラムでは検出できた種類を「*2」で示している。

試料No.1の木本花粉では、マツ属(複維管束亞属)、スギ属が40%程度の出現率を示したほか、コナラ亞属が8.1%と、これらに続いた。草本花粉では、イネ科(40ミクロン以上)が72.9%、イネ科(40ミクロン未満)が42.4%の出現率を示したほか、ヨモギ属が26.7%、アブラナ科が6.2%とこれらに続いた。

② No.2 地点

いずれの試料も花粉化石含有量が少なく、木本花粉含有量は0.2～1.4粒/gと極めて低い値であった。草本花粉の含有量も1.4～5.6粒/gと少なく、イネ科(40ミクロン未満)、イネ科(40ミクロン以上)のほか、キク亜科がやや多く、連続して検出できた。また、これらの試料では木本花粉の検出量が100粒に満たないことから、花粉ダイアグラムでは検出できた種類を「*2」で示している。

また、花粉分析では、得られた木本花粉化石群集の特徴から局地花粉帯を設定(花粉分帶を行い)し、古植生、古環境を復元する。今回の分析ではほとんどの試料で木本花粉の検出量が数～10粒程度と極めて少なく、統計処理ができなかったことから、花粉分帶が行えなかった。

3) 植物珪酸体分析結果

植物珪酸体分析の結果を、植物珪酸体ダイアグラム(第86・87図)と植物珪酸体化石組成表(第

かヨシ属やウシクサ族A型が多くの試料で検出され、ブナ科（シイノキ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木由来の珪酸体も幾つかの試料で検出できた。

花粉化石が含まれなかつた原因について

花粉分析の結果、ほとんどの試料で花粉・胞子化石含有量が40粒/g程度以下（多くは数粒/g）と極めて少ないことが明らかになった。花粉化石処理の残渣を観察する微化石概査によると、微粒炭

層	Ⅰ		Ⅲ		Ⅱ		Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ		Ⅶ	
	値	基	値	基	値	基	値	基	値	基	値	基	値	基
1 50.0% 0.1	1 25.0% 0.1	2 25.0% 0.2	1 100% 0.2				1 14.3% 0.1		2 28.0% 0.2	2 100% 0.4	1 12.5% 0.2			
	1 25.0% 0.1	1 25.0% 0.1			1 100% 0.4		1 14.3% 0.1					2 35.0% 0.3	2 32.2% 0.3	
		1 16.7% 0.1					2 14.3% 0.1				1 12.5% 0.2			
1 50.0% 0.1	2 50.0% 0.2	1 16.7% 0.1					2 14.3% 0.1				2 28.0% 0.2	2 33.2% 0.3		
							2 14.3% 0.1				2 35.0% 0.3	2 33.2% 0.3		
											1 11.1% 0.2			
4 50.0% 0.3	4 40.0% 0.2	2 30.0% 0.2	2 30.0% 0.2	2 100% 1.0	3 30.0% 1.1	8 100% 1.1	2 100% 0.8	5 100% 0.8	5 20.0% 0.2	16 177.0% 2.0				
	5 40.0% 0.2	2 32.0% 0.2	2 30.0% 0.2	2 100% 1.0	3 30.0% 1.1	8 100% 1.1	4 27.5% 0.2	2 100% 0.8	2 20.0% 0.2					
	1 25.0% 0.1	1 25.0% 0.1		1 100% 0.2							1 11.1% 0.2			
1 50.0% 0.1	1 25.0% 0.1	2 23.3% 0.2	1 100% 0.2	1 100% 0.4	7 100% 1.0	2 100% 0.8	2 37.5% 0.3	2 37.5% 0.3	2 32.2% 0.3					
	1 50.0% 0.1	2 50.0% 0.2	1 16.7% 0.1	1 100% 0.2			2 28.0% 0.2	12 40.0% 2.1	12 30.0% 1.8		12 33.2% 0.3			
		1 16.7% 0.1	1 16.7% 0.1	2 100% 0.4			1 20.0% 0.2				1 11.1% 0.2			
1 50.0% 0.1	1 25.0% 0.1	2 25.0% 0.1					2 42.9% 0.4							
							1 14.3% 0.1							
1 50.0% 0.1	2 75.0% 0.2	2 30.0% 0.2	2 30.0% 0.2	2 100% 0.4	12 100% 4.0	17 200% 2.4	12 400% 2.3		12 300% 2.3		12 33.2% 0.3		1 11.1% 0.2	
		3 75.0% 0.2	3 16.7% 0.1	3 100% 0.4	12 100% 4.0	17 200% 2.4	12 400% 2.3	12 300% 2.3		12 33.2% 0.3		12 32.2% 0.3		
		9 20.0% 1.2	2 30.0% 0.2	2 100% 0.4	8 40.0% 2.2	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3		12 30.0% 2.3	12 30.0% 2.3	12 30.0% 2.3	
1 50.0% 0.1	12 30.0% 1.2	12 200% 0.2	12 200% 0.2	12 100% 0.4	12 100% 0.4	17 240% 2.4	12 400% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	
		12 30.0% 1.2	12 30.0% 1.2	12 100% 0.4	12 100% 0.4	17 240% 2.4	12 400% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	
4 50.0% 0.3	4 30.0% 0.2	12 200% 0.2	12 200% 0.2	12 100% 0.4	12 100% 0.4	17 240% 2.4	12 400% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	
		12 30.0% 1.2	12 30.0% 1.2	12 100% 0.4	12 100% 0.4	17 240% 2.4	12 400% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	12 300% 2.3	
5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	45 2.5% 0.4	45 2.5% 0.4	45 2.5% 0.4	45 2.5% 0.4	45 2.5% 0.4	45 2.5% 0.4	45 2.5% 0.4	
		5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	5 25.0% 0.2	
10 20% 0.3	10 20% 0.3	14 26% 2.0	10 20% 0.3	14 26% 2.0	14 17% 2.8	7 23% 2.6	21 12% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	
		10 20% 0.3	14 26% 2.0	10 20% 0.3	14 26% 2.0	14 17% 2.8	7 23% 2.6	21 12% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	7 23% 2.6	
20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	
		20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	20 30% 0.3	
30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	
		30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	30 30% 0.3	

基：基準取り扱い率、層：層番号、値：含有量

を除く微化石についても、植物珪酸体の含有量がやや多いものの、同様の傾向が認められた。

花粉化石の含有量が少ない原因について、一般には以下のようことが考えられており、今回の微化石検出傾向と比べると、以下のようになる。

- 堆積物の特性（粒度・比重）と花粉化石の平均的な粒径、比重が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。

今回の分析層準（試料）では、砂主体の層（試料）が多くあり、このことが原因の一つと捉えられる。

- 堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石の含有量が少ない。

花粉の生産量が毎年ほぼ一定であると仮定すると、堆積速度が速いほど花粉化石の含有量は少なく、遅いほど含有量は多くなる。また、花粉化石に限らず、堆積中に付加される微化石の量は、堆積速度が遅いほど多くなる。

今回分析を行った試料は洪水堆積物の可能性があり、堆積速度が速かったと考えられ、このことが原因の一つと捉えられる。

- 「土壤生成作用」の及ぶ期間が短く、花粉の付加量が少なかった。

「土壤生成作用」に伴って花粉粒が、炭片、植物片などの有機物とともに、堆積面から地中に取り込まれる場合もある。年間「付加量」が一定と仮定すると、「土壤生成作用」を受けた期間の长短によって、含有量の多少が決まる。

今回分析を行った試料は繰り返す洪水によって堆積したと考えられる。微粒炭の相対的検出量は多かったが、試料の色調から考えると多量に含まれていたとは考えにくかった。したがって、土壤化を受けた期間が短かったか、洪水によって土壤が削平を受けた可能性が指摘できる。

- 堆積の過程で、花粉粒が紫外線により消滅した。

一般に、花粉化石は紫外線によって劣化・消滅する。花粉粒は、地表面に落下した直後から、紫

外線の影響下に置かれる（例えは畑作環境）が、水中で堆積した場合（例えは水田環境）、紫外線が遮断され、影響は軽減される。花粉分析結果では、コウヤマキ属、アブラナ科、キク亜科、ヨモギ属の外、胞子などが、選択的に高率を示す傾向にある。また、後述の「堆積後の化学変化による劣化・消滅」との区別は困難である。

今回の花粉分析結果では、コウヤマキ属はほとんど検出されないが、キク科、ヨモギ属はほぼ全ての試料で検出される。また、胞子の割合も高い。さらに、紫外線の影響を受けにくい炭片の含有量が相対的に多いことなど、紫外線の影響で花粉粒が劣化・消滅した可能性が指摘できる。

5) 花粉化石が本来含まれてい

たが、堆積後の化学変化により花粉化石が消滅した。

花粉粒や植物片などの有機物、珪藻や植物珪酸体など鉱物質のものも、グライ化などの化学変化に伴い（程度に差があるものの）分解してしまう（堆積後の化学変化は酸化鉄や酸化マンガンの沈着として現れ、多くは水田耕作における灌漬によるグライ化（鉄、マンガンの還元作用）と落水による鉄、マンガンの酸化作用の結果と考えられる）。一方炭片は化学的に安定しており、堆積後に消滅する事がない。花粉分析結果では、コウヤマキ属、アブラナ科、キク亜科、ヨモギ属の外、胞子などが、選択的に高率を示す傾向にある。また、前述のように「紫外線による劣化・消滅」との区別は困難である。

今回の分析層準（試料）では、酸化鉄や酸化マンガンの顕著な生成は認められなかった。一方、花粉分析結果では胞子の割合が高く、キク科が比較的多く検出されるなど、堆積後の化学変化（あるいは紫外線）による影響を示唆する結果も得られている。さらに、化学変化に安定な炭片の含有量が多く、堆積後の化学変化の影響で花粉粒が劣化・消滅した可能性が僅かながらある。

6) 有機物に極めて富む堆積物で、花粉以外の有機物（炭片、植物片など）が多く、希釈効果により花粉化石が回収できなかった。

多くの試料で花粉分析プレパラート内での炭片の含有量が多かった。一方、花粉・胞子化石含有量は数粒/g以下になるような極端に含有量の少ない試料も多くあった。これらのことから、花粉

第32表 植物珪酸体化石組成表

試料No.	地點					No.1 地點				
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)					
1 イネ	4	9	2	1	1					
	20	46	10	5	5					
	0.59	1.34	0.30	0.15	0.15					
31 ヨシ属	1	1	1	1	2					
	5	5	5	5	10					
	0.31	0.32	0.32	0.32	0.64					
61 キビ属(アワ・キビ・ヒエを含む)	1	1	-	-	-					
	5	5	-	-	-					
81 デスモジ属	-	-	-	-	-					
83 ランタサ属A	-	-	1	1	3					
	-	5	5	-	15					
201 メダケ属	3	1	1	4	3					
	15	5	5	20	15					
	0.17	0.06	0.06	0.24	0.18					
203 ホザサ属	12	13	14	13	14					
	60	66	71	66	71					
	0.29	0.32	0.34	0.32	0.34					
205 デマザサ属	8	10	15	12	14					
	40	51	76	61	71					
	0.30	0.38	0.57	0.46	0.53					
207 ミヤコザサ属	3	1	9	7	5					
	15	5	46	36	25					
	0.04	0.02	0.14	0.11	0.08					
501 ブナ科(サイ属)	-	-	-	-	-					
510 ラヌノキ属	-	-	-	-	-					
520 マンダク属(イヌフキ属)	-	-	1	-	-					
	-	-	5	-	-					
プラント・オーバー細胞	32	38	43	38	42					
カウントガラススピーズ数	496	473	475	477	474					
カウント距離	528	511	518	515	512					
試料重量(×0.0001g)	8750	8930	8840	8880	8870					
ガラススピーズ重量(×0.0001g)	237	234	233	237	231					
ノック率(%)	57.00	49.00	38.00	49.00	46.00					
マニダク属型/ミヤコザサ属型	6.70	25.00	4.20	4.30	7.00					

上段 検出粒数
中段 検出密度(単位: ×100粒/g)
下段 乾燥生産量(単位: kg/m²·cm)

No.2地点									
(①)	(⑦)	(⑧)	(①)	(②)	(③)	(④)	(⑤)	(⑥)	
-	1	1	1	3	1	4	1	-	
-	5	5	5	16	5	20	5	-	
-	0.18	0.15	0.14	0.47	0.14	0.60	0.16	-	
1	2	2	1	1	2	2	1	-	
5	11	11	5	5	10	10	5	-	
0.31	0.68	0.66	0.31	0.34	0.62	0.64	0.34	-	
-	-	-	1	1	1	-	-	-	
-	5	5	5	5	5	-	-	-	
-	-	-	1	1	1	3	-	-	
-	-	-	5	-	5	15	5	-	
-	-	-	0.06	-	0.06	0.19	0.97	-	
2	2	-	2	2	5	5	5	-	
10	11	-	5	11	5	5	-	-	
5	6	2	2	5	7	2	6	1	
25	32	11	10	27	35	10	33	5	
0.28	0.37	0.12	0.11	0.31	0.40	0.12	0.38	0.06	
6	17	7	12	24	21	18	17	10	
30	91	37	59	129	104	92	92	51	
0.14	0.44	0.18	0.28	0.62	0.5	0.44	0.44	0.25	
9	17	10	11	11	16	28	15	22	
45	91	53	54	59	76	142	81	113	
0.33	0.68	0.39	0.41	0.44	0.58	1.07	0.61	0.85	
1	4	5	4	5	5	5	3	14	
5	21	26	20	27	25	25	16	72	
0.01	0.06	0.08	0.06	0.08	0.07	0.08	0.05	0.22	
-	-	2	-	-	1	-	-	-	
-	-	11	-	-	5	-	-	-	
4	1	-	-	-	1	1	3	4	
20	5	-	-	-	5	5	16	21	
-	-	-	-	-	1	1	1	-	
-	-	-	-	-	5	5	5	-	
28	50	30	34	52	57	66	49	51	
478	470	471	487	483	490	478	457	470	
506	520	601	521	525	547	544	506	521	
8910	8600	8750	8910	8430	8960	8810	8500	8990	
232	231	231	234	240	237	238	231	237	
55.00	57.00	39.00	46.00	44.00	57.00	31.00	55.00	22.00	
22.50	10.60	5.00	8.90	5.50	8.00	14.00	12.50	3.90	

化石と比重の近い炭片や植物片が多量に含まれていたことによって花粉粒の濃縮が進まなかったことより、花粉・胞子の含有量が本来少なかったものと考えられる。

以上のことを整理すると、分析試料の多くでマトリックスに粘土へシルトを含むものの洪水堆積物であり、花粉・胞子の含有量が本来少なかったと考えられる。また堆積物の色調から、微粒炭の含有量はさほど多くなく、相対的に多く検出されたものである可能性が高い。一方で、検出された花粉化石の種類から、堆積時の紫外線による劣化・消滅や、堆積後の化学変化による劣化・消滅の影響も少なからずあったものと考えられる。このほか、土壤化を受けた期間が短く花粉・胞子の集積が進まなかった可能性や、洪水により土壤そのものが削平を受けていた可能性も指摘できる。

従来の分析結果との比較

江の川流域では近年、河川改修に伴う発掘調査が行われるようになり、伴って自然科学的調査も実施されるようになった。花粉分析は森原神田川遺跡大津地区（渡辺、2020）や、調査地上流左岸の田畠遺跡で実施されている（渡辺、2018）。両地点とも堆積時期が近世と、今回よりやや新しい時期の堆積物が主であるが、花粉・胞子化石（特に木本花粉）含有量が少なく、微粒炭の検出量が多いことから、「たたら場」や「鍛冶場」の操業に伴い、調査地周辺の山林が伐採され、「ハゲ山」状態であった可能性が指摘されていた。

また、今回の試料No.1で得られた花粉化石群集は、マツ属（複葉管束亞属）、スギ属が高率を示し、コナラ亞属が続くなど、森原神田川遺跡大津地区でのI帶や田畠遺跡の試料No.1と対比できる。

古植生について

花粉分析結果及び植物珪酸体分析結果を基に、調査地周辺の古植生について考察する。また、植生変遷を明確にするために、過去から現在へ向かい、遺物からの推定堆積時期に沿って考察を行う。

1) 古墳時代中期～古代 (No. 2 地点試料No. 6～1)

植物珪酸体分析ではイネが僅かながら連続して検出されており、近隣でイネの栽培が行われていたと考えられる。また、キビ族型も選出されており、可能性は低いもののアワ、キビ、ヒエなどの雑穀が近隣で栽培されていたと考えられる。また、水際にはヨシ類が生育し、自然堤防上にはススキ類やチガヤ類が生育していたと考えられる。また、花粉分析ではキク亜科やヨモギ類が検出されており、ススキが生育する以前の春から夏にかけて、あるいはススキ類などと住み分けでキク科の草本が生育していたと考えられる。

ササ類の比を用いたメダケ率、チマキザサ節 / ミヤコザサ節比による気候変化推定について、メダケ率の変化が激しいことから寒暖の推定ができなかった。一方、チマキザサ節 / ミヤコザサ節比は 10 前後の値を示し、チマキザサの推定生産量がミヤコザサの推定生産量より多い（関東地方での積雪 50cm 以上の地域の指標とされる）ことから、多雪であったと考えられる。

植物珪酸体分析では、シイノキ属、クスノキ科、イスノキ属などの木本由来の植物珪酸体も検出されている。調査地周辺の丘陵にシイノキ類、クスノキ類、イスノキ類を要素とする照葉樹林が広がっていた可能性が示唆される。これらの内、クスノキ科、イスノキ属は花粉化石の検出ができないとされている種類である。シイノキ類は「シイノキ属・マテバシイ属」として僅かに検出されており、同時にアカガシ亜属も検出されることから、照葉樹林の構成種として、先の 3 種類にカシ類も加わっていたと考えられる。

2) 中世～近世 (No. 1 地点試料No. 8～6)

前時期と比べ植物珪酸体群集には、明らかな変化が認められず、前時期同様の植生、気候が推定できる。ただし、木本由来の植物珪酸体は徐々に減っており、田渕遺跡や森原神田川遺跡大津地区の調査で指摘された「ハゲ山」化に由来する可能性もある。

花粉分析では断続的にソバ属が検出され、近辺では稲作に加え、畑作（ソバ栽培）も行われていたと考えられる。

3) 中～近世以降 (No. 1 地点試料No. 5～1)

上位の 2 試料で、下位から変化に乏しかった植物珪酸体群集に変化がみとめられた。イネの検出密度が急激に高くなり、試料 No. 2 では稲作の指標とされる 5000 粒/g に迫る 4600 粒/g という値を示した。また、試料 No. 1 ではこれよりやや減じる 2000 粒/g の値であった。試料 No. 1 (1 層) は花粉化石が唯一豊富に検出された試料であり、花粉化石群集の特徴の一つにイネ科 (40 ミリ以上) の高率での出現が挙げられた。1 層は現地観察で「水田床土」とされているなど、1 層(試料 No. 1 層準) が耕作土であった可能性は極めて高い。また、畑作物関連のアブラナ科の含有量も多く、高率で検出された。アブラナ科は畑作雑草との区別ができるが、量的な面と、隣接する森原神田川遺跡大津地区でも同様の傾向にあることから、栽培されていた可能性が示唆される。

4 層 (試料 No. 2) についても前述のように多量のイネ植物珪酸体が検出されたほか、ソバ属花粉が検出されているなど、「耕作土」であった可能性がある。ただし、花粉化石の検出量が少ないとから、「水田」の可能性は低い。イネについて、「陸稻」の可能性もある。

1 層で豊富に検出された木本花粉化石群集は、前述のように田渕遺跡での近代～現代の花粉化石群集に対比できる。したがって、周辺の山地はアカマツ類やコナラ類を主要素とする二次林とスギ植林で覆われ、現在の景観に近かったと考えられる。

まとめ

- 森原神田川遺跡下ノ原地区での花粉分析を実施した結果、以下の事柄が明らかになった。
- 1) 花粉・胞子化石含有量が少なかった原因について考察した。洪水堆積物であったことによる、花粉・胞子粒の付加量が少なかったことが、主因と考えられた。また、紫外線や化学反応による劣化・消滅が少なからず影響したと考えられた。さらに、土壤化を受けた期間が短く花粉・胞子の集積が進まなかった可能性や、洪水により土壤そのものが削平を受けていた可能性も指摘できた。
 - 2) 唯一、統計処理ができたNo.1地点試料No.1（1層）について、隣接する森原神田川遺跡大津地区、江の川流域の田畠遺跡での花粉分析結果と比較し、両地域での近代～現代の花粉化石群集と対比できた。
 - 3) 植物珪酸体分析結果、花粉分析結果を基に、古墳時代中期以降の遺跡内及び遺跡周辺の植生変遷を推定した。特筆すべき事柄は以下の通りである。

古墳時代中期～古代の時期には、近隣での稲作が明らかになったほか、アワなどの雑穀栽培の可能性が指摘できた。また、周辺の丘陵に照葉樹林が分布していたものと推定できた。

中世～近世には稲作の外ソバ栽培も行われたが、丘陵の照葉樹林は分布を狭めたと考えられる。あるいは田畠遺跡などで指摘される「ハゲ山」化に由来する可能性も指摘できる。

最上位の1層が「耕作土」で、稲作が行われていた。また、アブラナ科の植物が栽培されていた可能性が指摘できる。4層ではイネ植物珪酸体分析が多く検出できたが、花粉化石がほとんど検出できなかつた。また、ソバ属花粉が検出された。これらのことから、イネについて「陸稲」の可能性が指摘できた。

【引用・参考文献】

- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－、考古学と自然科学、9、15-29
- 中村 純（1974）イネ科花粉について、特にイネを中心として、第四紀研究、13,187-197.
- 渡辺正巳（2010）花粉分析法、必携 考古資料の自然科学調査法、174-177. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳（2018）田畠遺跡周辺地域における古植生などの古環境変遷について、田畠遺跡、一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、1,48-56. 国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所・島根県教育委員会.
- 渡辺正巳（2020）森原神田川遺跡大津地区発掘調査に伴う自然科学分析、森原神田川遺跡大津地区、一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、2,65-100. 国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所・島根県教育委員会.

第3節 土器付着の種子圧痕について

はじめに

森原神田川遺跡出土土器にイネ種実らしい痕跡が認められる土器片が2点確認された。1点は縄文土器片、1点は土師器片である。圧痕にシリコン樹脂を注入して複製を作成し（レプリカ法）、そのレプリカを走査（型）電子顕微鏡（SEM）で観察、写真撮影を行った。レプリカの作成とSEMによる観察・撮影は、島根県古代文化センター原田敏照・岩本真実が行い、SEMは島根県産業技術センターの機器を使用した。

資料の説明と観察結果

走査（型）電子顕微鏡（SEM）で観察した資料及びその結果は以下のとおりである。

資料1（写真1） 遺構外から出土した縄文土器片で、第60図20に図示した。圧痕は外面にある。小片のため詳細な時期は不明であるが、後晩期の粗製無文深鉢と思われる。採取されたレプリカは、長軸6.636mm、短軸3.356mmを測る。

資料2（写真2） SR10から出土した土師器甕で、圧痕は頸部外面にある。古墳時代中期から後期と思われる。採取されたレプリカは、長軸6.554mm、短軸3.381mmを測る。

まとめ

両者ともに、平面形が紡錘形を呈し、表皮に顆粒状突起、外顎と内顎の境界が確認されたことから、イネ穀の圧痕と判断した。資料1は詳細な時期が不明な土器である。森原神田川遺跡では、

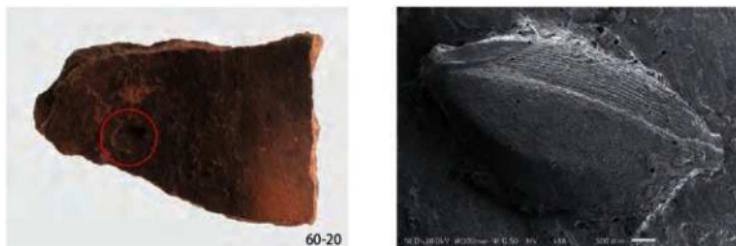


写真1 資料1（縄文土器）のレプリカ作成箇所と走査（型）電子顕微鏡（SEM）写真



写真2 資料2（土師器）のレプリカ作成箇所と走査（型）電子顕微鏡（SEM）写真

第60図21・22のように中山B式が出土している。今のところ突帯文期以前には圧痕を含めイネ資料がないという指摘（濱田2019）を踏まえると、資料1は突帯文期末の蓋然性が高いと考えられる。

資料2は古墳時代中後期に属する土師器である。古墳時代にイネが存在することは当然だが、当遺跡では同時期の土器が大量に出土しているにもかかわらず、古墳時代のイネ耕圧痕はこれのみである。土器の製作場所とイネの保管またはイネに関わる作業の場とが、違っていたのかもしれない。

【参考文献】

濱田竜彦 2019「中国地方におけるイネ科穀物栽培の受容」『農耕文化複合形成の考古学』（上） 設楽博己編 雄山閣

第5章 総括

第1節 遺構と出土遺物について

森原神田川遺跡下ノ原地区では、調査区を横断するように東から西へ流れる河道及び水路と、現在の江の川に平行するように南から北へ流れる大規模な河道を確認した。以下、これらの性格について、出土遺物からの検討を行いたい。

1. SR10について

SR10は、SR01ほか東西方向の水路・流路より古く、南北方向の大形の流路である。方向は現在の江の川に平行しており、その規模の大きさから江の川の流路であったと見られる。

SR10 東岸の自然堤防を形成する粘質土は、基盤層である砂層（第31図 A-A'44層、B-B'41層など）の上に存在し、河道底面の形状に沿って標高1～2mの底面まで続いている。この粘質土層はSR10の洪水による氾濫が収束した後に堆積したものと考えられる。この粘質土から出土した最も新しい遺物の時期は古墳時代前期であることから、遅くともこの時期までには標高5m付近まで基盤層が堆積しており、それを切ってSR10が流れたことがわかる。その後、氾濫が収束する過程で、自然堤防（第11図IV層）が形成され黄褐色系粘質土が堆積した。その後SR10には土師器・須恵器やミニチュア土器などが大量に出土した②層が堆積する。なお、自然堤防上はほぼ平坦で、遺構や河道は確認できなかったことから、後世の地形変化などにより削平された可能性もある。

2. SR10出土土器について

SR10からは須恵器、土師器が多量に出土しており、特に土師器甕が多く出土している。これらの出土土師器甕のうち、複合口縁の形状を残すI類と単純口縁のII類を合わせると全体の94%と大多数を占める。周辺地域の類例を見ると、カミヤ遺跡（江津市跡市町）では甕III類に奈良時代の須恵器が共伴するが、甕II類は認められないことから、甕II類はIII類より古いものと推定される。また、半田浜西遺跡（江津市都野津町）では、土器窯から6世紀後半～7世紀初めの須恵器とともに土師器の甕、高环、櫃、竈、土製支脚など食膳具・煮炊き具がセットで出土している。ここで出土した土師器の甕は甕II C類、同 II D類に分類されるものである。また、高环についても环部II類で脚部B・C類、接合C類に分類されるものが出土している。

これらから、土師器甕II類と高环は古墳時代後期に属するものと考えられ、SR10出土の甕、高环は古墳時代中期～後期ということができよう。須恵器についても、环蓋をみると古墳時代のものが大多数を占める（第13表）。奈良時代以降に属する須恵器の数量はわずかで、出土遺物の時期は古墳時代中期～後期を中心とすることができる。

3. SR10土器窯出土遺物の性格について

SR10の埋土のうち、②層からは、須恵器、土師器、土製品など多種多様な遺物が大量に出土している。須恵器の蓋環、土師器の椀などの食膳具のほか、甕・櫃・竈などの煮炊き具も認められる。また、手捏ねのミニチュア土器は破片を含めると100点以上出土したほか、滑石製の勾玉、管玉、

鉄製品も確認した。ミニチュア土器や玉類などは明らかに祭祀に関連する遺物であるが、食膳具や煮炊き具もその出土量や出土状況から、祭祀に使用されたものと考えられる。

また、鉄器については鉄製模造品以外にも、飾り弓に伴うと考えられる両頭金具や鉄鐸が出土するほか、湾曲した板状鉄片が認められる。板状鉄片として報告した資料には、意図的に曲げられたものや不整形に加工・切断されたと考えられる資料が含まれており、非実用品的な性格をもつものといえる。ミニチュア土器や玉類、食膳具などと共に祭祀に伴う遺物と考えられ、下ノ原地区では鉄を使用する祭祀が行われていたと推測される。

4. 祭祀関連遺物について

森原神田川遺跡下ノ原地区では、ミニチュア土器や煮炊き具が大量に出土したこと、滑石製勾玉、鉄器模造品など特殊な遺物を確認したことから、古墳時代後期を中心とする時期にこれらを使用した祭祀が行われたことがあきらかになった。祭祀は自然堤防上など河道に比較的近い場所で行われ、その後SR10に投棄されたと考えられる。

島根県内において、古墳時代の溝及び河道における祭祀が認められる遺跡としては、大家八反田遺跡（大田市）や、前田遺跡（松江市）が挙げられる。これらの遺跡は小規模な河川の周辺に水田をもつ平野に位置し、河川から灌漑水路への取水堰周辺で祭祀に関連する遺物が出土しており、農耕儀礼との関連が想定できる。また、静間川下流に位置する平ノ前遺跡（大田市）においても、祭祀遺物が出土した溝は灌漑のための水路とされている。

下ノ原地区を見ると、この時期の遺構は農耕に関連するものを含め確認されていない。また、祭祀遺物が出土した層も江の川と考えられる大きな河道の埋土であり、祭祀と農耕との関連は考えにくい。一方、遺跡の立地は河口からややさかのぼった江の川下流域であるが、河川の規模を考えると海岸に近い河口付近といえよう。ここで行われたのは、海浜地域で行われる祭祀である可能性が考えられる。

海浜地域に立地する祭祀遺跡の出土遺物には共通点が指摘されている。鉄器・鉄錠・板状鉄片とともに青銅鏡、滑石製模造品・玉類などの遺物が出土する点である（野島 2012）。野島氏は千歳下遺跡（京都府舞鶴市）の調査成果をもとに、これらの遺物を基礎的祭祀具として使用・遺棄あるいは破棄する古墳時代海浜祭祀遺跡を、海上交通の安全を祈願する目的をもつものと想定している。また、海浜祭祀遺跡には韓半島南部で生産されたと考えられる単合范鋳造斧形品が出土する事例が含まれることなどから、祭祀は韓半島への航海の安全祈願であった可能性にも触れ、千歳下遺跡が所在する舞鶴湾から日本海を経て韓半島への海路の存在を示唆している。

平ノ前遺跡では古墳時代中期から後期にかけて、北部九州など他地域との活発な交流がうかがえるが、これには日本海をルートとする海上交通が利用されたものと推定される。さらに金銅製步搖付空玉の出土から朝鮮半島、特に「新羅」地域との関連性が指摘され（島根県教育委員会 2019）、千歳下遺跡の調査成果を踏まえると、古墳時代中期～後期には石見地方から韓半島へ至る海上ルートが存在した可能性が考えられよう。

森原神田川遺跡下ノ原地区的祭祀のあり方は、鉄を消費する祭祀であるとともに、滑石製模造品や玉類が出土するなど、その様相は野島氏が指摘する西日本の海浜部における祭祀形態に共通する点が多く認められる。このことは、当遺跡で海上交通の安全を祈る祭祀が行われたことを示すと

にも、海上交通に関わった集団の存在を示すものといえるかもしれない。

5. SR01～07について

SR01～07については、中世～近世にかけて機能した水路・河道と考えられ、SR01をのぞき17世紀後半には埋没したことがわかる。

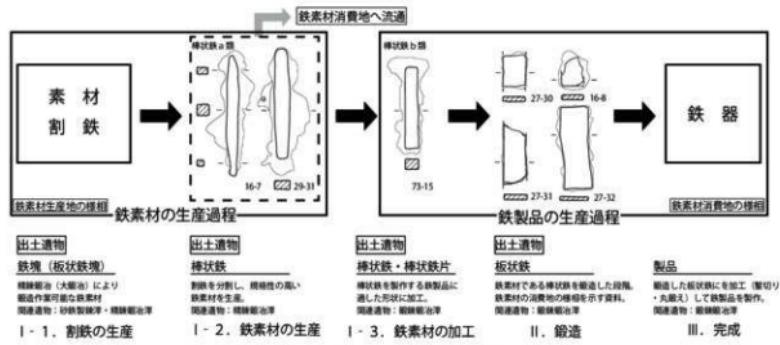
SR01は自然流路で、現在も調査区東側の微高地縁辺を流れる水路の江戸時代以前の姿であろう。SR02は大形の石材などで堰を設けて水位調節を行ったと考えられ、おそらく自然堤防の東側に広がっていたであろう水田へ給排水を行うための水路であったと見られる。SR03も東側で幅が狭くなることからSR02と同様な機能を持つ水路と考えられる。SR04・05についても、大形の石が埋土に認められており、やはり水位調節の機能を持っていたとみられる。

一方、SR01～03では縄文前期～近世までの遺物が出土しており、これらの河道・水路の上流域にあたる範囲には、縄文時代以降集落が形成されていたことを物語る。また、調査区北側に位置するSR04・05では中世以降の遺物のみが出土していることを考えると、調査区の南東に位置する微高地上に縄文時代～奈良時代の集落が存在したことが想定される。

6. 出土鉄関連遺物について

SR01～04・07を中心に鉄塊、棒状鉄及び板状鉄が出土している。これらは共伴遺物から中世後半～近世中期に位置付けられ、棒状鉄や板状鉄については鉄素材または鉄器未成品として報告した。鉄塊には板状のものが含まれており、鍛造作業が可能な剣鉄も含まれると推測される。これらの板状の鉄塊は厚さが1.0cm前後でまとまりをもつ点が確認できる。また、棒状鉄も板状の鉄塊と同様に、厚さが0.7～1.0cmとなり、鉄塊の厚みと近似値を示している。このことから、板状の鉄塊（剣鉄）から分割して棒状鉄を生産している可能性がある。

鉄素材である棒状鉄は資料数が少ないものの、両端部が不整形なもの（a類：第16図7・第29図31）と両端面が整っているもの（b類：第74図15）が認められる。a類の体積が第16図7で8.7cm³、第29図31で8.1cm³と近似値を示し、規格性の高い様相が見られることから中世後半以降、規格性の高い鉄素材の生産が行われていることが考えられる。さらに、b類は5.8cm³とa類より体積



第88図 下ノ原地区における鉄製品製作工程想定図

の少ない様相が認められる。b類がa類の両端部を切断などにより加工したものとすれば、製作工程を示すものとして理解できる。また、鉄素材として整理した板状鉄を、棒状鉄を製品へ加工する段階のものととらえれば、棒状鉄を利用した鉄製品の生産が行われたとの想定も可能である。

なお、当地区では鉄滓も出土している。第4章第1節で報告されているように砂鉄製鍊滓、精鍊鍛冶滓、鍛鍊鍛冶滓が認められる。調査区内で鍛冶関連遺構が検出されていないことから、周辺で鉄生産や大鍛冶、小鍛冶が行われていることが想定できる。同地区出土の鉄素材はこのような生産活動地で生産・消費されたものであると考えられる。また、鉄素材生産地と鉄製品生産地双方の様相が確認できる点から、鉄生産地と消費（加工）地が近いことも推測される。なお、本遺跡周辺のみで規格性の高い鉄素材が消費されるとは考えにくく、周辺地域などに流通している状況が想定される。

第2節 まとめ

森原神田川遺跡下ノ原地区は、江の川が形成した氾濫原である平地に立地する。このため、当地区は江の川の流路の移動や洪水などの影響を強く受けてきた。今回の調査成果から、遺跡の変遷過程を推測してみる。

弥生時代以前

江の川は、当遺跡の周辺を幾度となく流路を変えながら氾濫原を形成していくと考えられ、隣接する森原下ノ原遺跡の調査¹⁾から、遅くとも縄文時代にはある程度の堆積が進んでいたものと推測される。当調査区内では、弥生時代以前の遺構や河道は確認できないが、SR01～03埋土や遺物包含層から縄文時代前期末～中期初頭・後期後半の土器が一定量出土しているほか、弥生時代前期～後期の土器も認められる。また、磨製石斧の未完成品・製品も多く出土している。突堤文期のイネ耕圧痕も確認され（第4章第3節）、この時期の農耕を示唆する。森原下ノ原遺跡をはじめ、当地区に近接する地域では人々の居住・生産活動が営まれているのがわかる。

古墳時代前期

当地区周辺は、この頃には標高5m付近まで基盤層の堆積が進んでいたものとみられる。そして、この時期に、江の川の流路は調査区内に移動し、氾濫を起こしたのち収束して、SR10が形成される。また、自然科学分析の結果から、この時期には周辺でイネの栽培がおこなわれていたとみられる。栽培地の特定は難しいが、調査区の東側に存在が想定される後背湿地であった可能性が高い。

古墳時代中期～奈良時代

SR10は引き続き調査区内を流れる。SR10の近接地では祭祀が繰り返し行われ、祭祀関連遺物がSR10東岸から投棄されたとみられる。SR10埋土から大量に出土した食膳具・煮炊き具・ミニチュア土器などがそれを裏付けるが、調査区内で当該期の遺構は確認できず、祭祀が行われた場所は明らかでない。

自然科学分析から、前代に引き続きイネの栽培が行われていたと推定されているが、周辺で水稻農耕を行っていた集団は祭祀にも関わっていたことが考えられる。その後もSR10は洪水を起こすが、それに由来する堆積により比較的短期間に埋没した²⁾。これ以降、大形の流路は確認できず、江の川は当調査区の外へ流路を移す。

中世以降

SR10 が完全に埋没した後、SR02～05 が造られる。これらの溝が造られた時期は判然としないが、SR04・05 出土遺物から、中世前半であった可能性がある。農業用水を管理するため、地盤が安定していた自然堤防の粘質土部分に石組による堰を設け、流路上流にあたる調査区東側で耕作を行ったのである。自然科学分析から、周辺でソバの栽培が行われていた可能性も指摘されている。SR01 もこの時期に機能していたものと思われる。

中世以降、中国地方では製鉄遺跡が増加し、砂鉄採取のため鉄穴流しによる大量の土砂が河川の下流域にもたらされる³⁾。江の川流域でも同様な状況が考えられ、氾濫原への土砂の供給も加速していったとみられる。SR01～07 も近世後期には埋没し、さらにその後、当調査区を含む平野全体が水田化していったと考えられる。

【註】

- 1) 中村唯史氏の御教示による。
- 2) 島根県教育委員会 2020『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報』28
- 3) 角田徳幸 2014『たたら吹き製鉄の成立と展開』清文堂出版

【参考文献】

- 江津市教育委員会 2008『カミヤ遺跡・羽代前田遺跡』
- 島根県教育委員会 1995『一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書(鹿伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥窓跡)』1995
- 松尾充晶 2015『古墳時代の水利と祭祀』『古代文化研究』第23号 島根県古代文化センター
- 島根県八雲村教育委員会 2001『前田遺跡』(第Ⅱ調査区)』
- 島根県教育委員会 2019『平ノ前遺跡』
- 島根県教育委員会 2018『田渕遺跡』
- 島根県立古代歴史博物館編 2019『たたら一鉄の国出雲の実像ー』
- 末永雅雄・伊藤信雄 1979『挂甲の系譜』雄山閣
- 野島 永 2012「総括」58～64頁『舞鶴市千歳下遺跡発掘調査報告書』広島大学大学院文学研究科考古学研究室・舞鶴市教育委員会

第33表 SR01出土遺物觀察表

陶磁器

序号	遺物 番号	出土地 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・記號・その他	
15	1	7	SR01	白磁	皿	径12.2厚1.7	口径(19.2)	透明釉	灰白色	14~15C前半
15	2	7	SR01	同安窯系青磁	碗	大平底1個	青磁釉	灰色	12C後半~13C後半	
15	3	7	SR01	龍泉窯系青磁	碗	上田D類 直徑6.0	青磁釉	灰色	片割溝井型 善台内無縫 15~16C	
15	4	7	SR01	龍泉窯系青磁	碗	上田D類	青磁釉	灰色	堆疊1層 15C	
15	5	7	SR01	龍泉窯系青磁	皿		青磁釉	灰白色	内面輪削 善台内無縫 15~16C前半	
15	6	7	SR01	龍泉窯系青磁	香炉		青磁釉	灰色	外: 汱文 文期不明	
15	7	7	SR01	龍泉窯系青磁	盤		青磁釉	灰白色	内: 織文 中後前半	
15	8	7	SR01	龍泉窯系青磁	碗	大平底1個	青磁釉	灰色	内: 織文 12C後半	
15	9	7	SR01	同安窯系青磁	碗	大平底1個	青磁釉	灰白色	12C後半~13C後半	
15	10	7	SR01	漳州窯系青花	皿	直腹	透明釉、青料	にぶい褐色	16C後半	
15	11	7	SR01	漳州窯系青花	碗	直腹	口径(12.0)	透明釉、青料	灰黄色	外: 雪絵、葉文 内: 織紋 内面地刷 16C後半~17C初
15	12	7	SR01	漳州窯系青花	皿	直腹	透明釉、青料	灰色	外: 二重繩、草花文 善台内無縫 16C後半~17C初	
15	13	7	SR01	漳州窯系青花	碗	直腹	直徑(5.7)	透明釉、青料	灰白色	内: 二重繩、草花文 善台内無縫 16C後半~17C初
15	14	7	SR01	刻划陶器	瓶		網目	褐灰色	外: 回転状ナデ、波線 内: 縦り痕 15C後半~16C	
15	15	7	SR01	備前	鐘錠	V字		外: にぶい褐色(SYR4/3) 内: 線(SYR6/6)	砂粒微量含む	15C
15	16	7	SR01	備前	鐘錠	V字		外: 褐色(SYR4/3) 内: 線(SYR6/6)	砂粒少量含む	堆ねき痕 15C
15	17	7	SR01	越前陶器	鉢	口径(13.2)		外: にぶい褐色(SYR4/3) 内: 線(SYR6/6)	砂粒微量含む	口唇部破損 13C後半
15	18	7	SR01	土師器	壺明治	直徑(6.4)		外: 波線(SYR7/6) 内: 波線(SYR7/6)	砂粒少量含む	外: 波線(SYR7/6) 内: 波線(SYR7/6)
15	19	7	SR01	土師器	皿	直徑7.0		外: 波線(SYR7/8) 内: 波線(SYR7/8)	砂粒微量含む	外: 波線(SYR7/8) 内: 波線(SYR7/8)
15	20	7	SR01	土師器	壺明治	直徑(8.8)		外: 灰褐色(SYR5/2) 内: 藍色(SY2/1)	砂粒少量含む	外: 回転切り 細毛土師器
15	21	7	SR01	土師器	壺明治	口径(5.8)		外: にぶい褐色(SYR4/4) 内: にぶい褐色(SYR4/4)	砂粒微量含む	外: 回転切り 内外側付着 褐色土師器
15	22	7	SR01	肥前系陶器	碗	TB-1-4	直底、透明釉	灰白色	内: 山水文 陶内模印 1680~1740年	
15	23	7	SR01	肥前系陶器	碗	JB-1-8	直徑(5.0)	直底、透明釉	灰白色	外: 松葉文 1690~1703年
15	24	7	SR01	肥前系陶器	皿	JB-2-e	直徑(10.8)	直底、透明釉	灰白色	外: 圓形文 1690~1703年
15	25	7	SR01	肥前系陶器	皿	JB-2-k	直徑(5.0)	直底、透明釉	浅褐色	内: 菊花文、底の目輪剥げ 善台内無縫 1610~1620年
15	26	7	SR01	肥前系陶器	皿	JB-2-k	直徑(5.2)	直底、透明釉	灰白色	内: よろこび文 雲行アーリーナラ 1630~1650年
15	27	7	SR01	肥前系陶器	碗	TB-2-c	直徑(5.4)	透明釉	淡黄色	善台裏り深い、京燒風 1710~1720年
15	28	7	SR01	肥前系陶器	皿	TB-2	直徑5.0	透明釉	淡褐色	外: 糸切文 内: 目跡3点 善台内無縫 1594~1610年代
15	29	7	SR01	肥前系陶器	香炉	火入れ	TB-9	白化粗土に透明白、鉄錆	暗褐色	1650~1690年
15	30	7	SR01	肥前系陶器	鉢	TB-5-a	白化粗土に透明白、鉄錆	灰褐色	18C前半代	
15	31	7	SR01	瀬戸美濃	天目碗	TC-1-a	直徑(4.6)	網目	灰白色	16C前半代
15	32	7	SR01	瀬戸陶器	鐘錠	済生-29		網目	褐色	内: 瀬生1 単位10条 17C後葉~18C前半代

土製品

序号	遺物 番号	出土地 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	備考	
15	33	7	SR01	土製品	土舞	直舞(瓦質) 1個	長さ(8.6) 幅1.3 厚さ1.3	6.0	灰褐色(0.5YR4/1)	砂粒少量化む 舞底部断面により切削
15	34	7	SR01	土製品	土舞	直舞(瓦質) 1個	長さ(8.6) 幅1.4 厚さ1.3 JR(0.6)	552	にぶい褐色(7.5YR5/3)	砂粒微量含む 瓦底

石製品

序号	遺物 番号	出土地 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量	備考
15	35	7	SR01	石製品	結石	長さ(3.3) 厚さ不明	15.9	3面に研磨痕

鐵器

序号	遺物 番号	出土地 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	備考
16	1	80	SR01	鉄製品	刀子	長さ(4.75) 幅1.0 厚さ0.3	8.0	刃部
16	2	80	SR01	鉄製品	刀子	長さ(6.1) 幅1.5 厚さ0.4	(10.0)	圓角刃
16	3	80	SR01	金具	金具	長さ(3.4) 幅1.5 厚さ0.4	(6.0)	新月形円形
16	4	80	SR01	鉄製品	釘	長さ4.75 幅1.2 厚さ0.55	(16.0)	平釘
16	5	80	SR01	鉄製品	釘	長さ5.7 幅0.8 厚さ0.6	(10.0)	嵌折釘

番号	遺物	団体 番号	出土遺物 部位	種別	各種	法量(cm)	重量(g)	備考
16	6	80	SR01	鉄製品	釘	長さ6.2 幅1.8 厚さ0.6	(21.0)	半打
16	7	80	SR01	鉄素材	棒状鉄	長さ9.7 幅1.0 厚さ0.9	(26.3)	細やかなる a型
16	8	80	SR01	鉄素材	板状鉄	長さ12.3 幅1.85 厚さ0.4	(15.0)	鉄製品の加工過程か
16	9	80	SR01	鉄素材	鉄錐	長さ4.0 幅2.6 厚さ2.0	(32.0)	細錐か 細着度5 メタル度H

第34表 SR02出土遺物観察表
陶磁器

番号	遺物	団体 番号	出土遺物 部位	種別	各種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調整・その他
21	1	8	SR02	中国白磁	團	大率V-4 横		透明釉	灰白色	折れ縁口縁 12C 後半~13C 初半
21	2	8	SR02	中国白磁	團		口径(13.6)	透明釉	灰白色	端反り口縁 16C
21	3	8	SR02	中国白磁	皿			透明釉	淡褐色灰色	端反り口縁 内面絞 16C
21	4	8	SR02	中国白磁	皿	森田D 群	口径(9.4)	透明釉	灰白色	15C
21	5	8	SR02	中国白磁	團	大学前遺跡?		透明釉	灰色	12C 後半~13C 初半
21	6	8	SR02	中国白磁	坪	森田D 群	直径3.0	透明釉	灰白色	高台内無施 15C
21	7	8	SR02	中国白磁	皿	L' 0-27	直径(5.4)	透明釉	灰色	高台内無施 14~15C 初半
21	8	8	SR02	中国白磁	坪	森田D 群	口径(11.4)	透明釉	淡灰褐色	15C
21	9	8	SR02	中国白磁	坪			透明釉	灰色	時間不明
21	10	8	SR02	中国白磁	坪	森田D 群?	直径(3.6)	透明釉	灰白色	高台内無施 15C ?
21	11	8	SR02	龍泉窯系青磁	團	上田C II 横?	直径(7.6)	青磁釉	灰白色	外: 片部 内: 花文 15C
21	12	8	SR02	龍泉窯系青磁	團	大率I-1 横	口径(16.0)	青磁釉	暗灰色	内: 片唇刻花文 12C 後半~13C 初半
21	13	8	SR02	龍泉窯系青磁	團	大率I 横	口径(15.4)	青磁釉	灰色	内: 片唇刻花文 12C 後半
21	14	8	SR02	龍泉窯系青磁	團	上田C II 横		青磁釉	灰色	外: 花文 15C
21	15	8	SR02	龍泉窯系青磁	坪			青磁釉	灰色	玉縁口縁 15C
21	16	8	SR02	龍泉窯系青磁	團	上田C II 横		青磁釉	灰白色	内: 花文 15C
21	17	8	SR02	龍泉窯系青磁	盤花器			青磁釉	灰色	内: 平行波線文 15C 後半~16C
21	18	8	SR02	龍泉窯系青磁	圓			青磁釉	灰色	内: 人形手 玉縁口縁 15C
21	19	8	SR02	龍泉窯系青磁	盤花器	口径(10.7)		青磁釉	灰白色	15C 後半~16C
21	20	8	SR02	龍泉窯系青磁	圓	上田D I 横	直径(5.6)	青磁釉	灰色	内: 花文 高台内無施 (重複青磁あり) 15C
21	21	8	SR02	龍泉窯系青磁	盤花器		口径(13.4)	青磁釉	淡灰褐色	15C 後半~16C
21	22	8	SR02	瀬戸窯系青花	皿	輪製	直径(5.3)	透明釉、青料	灰白色	外: 圓縁 内: 圓縁地 壱付斜削 16C 後半~17C 初
21	23	8	SR02	瀬戸窯系青花	皿	輪製		透明釉、青料	白色	内: 花文 16C 後半~17C 初
21	24	8	SR02	同安窯系青磁	團	同安I 横		青磁釉	灰白色	内: 菊目文、沈綸文 12C 後半~13C 後半
21	25	8	SR02	同安窯系青磁	團	同安I 横		青磁釉	灰白色	外: 菊目文 内: 菊目文、沈綸文 12C 後半~13C 後半
21	26	8	SR02	漳州窯系青花	皿	輪製	口径(10.8)	透明釉、青料	灰白色	16C 後半~17C 初頭
21	27	8	SR02	漳州窯系青花	小坪	輪製		透明釉、青料	灰白色	外: 圓縁 内: 圓縁地 壱付斜削 16C 後半~17C 初頭
21	28	8	SR02	漳州窯系青花	不明	輪製		透明釉、青料	灰白色	外: 文字(不詳) 内: 葫芦子文 16C 後半~17C 初頭
21	29	8	SR02	漳州窯系青花	坪か	輪製		透明釉、青料	灰白色	16C 後半~17C 初頭
21	30	8	SR02	漳州窯系青花	皿	輪製	口径(12.5) 直径(12.8)	透明釉、青料	淡褐色灰色	内: 圓縁 16C 後半~17C 初頭
21	31	8	SR02	瀬戸窯系青花	盤花器	口径(12.5) 直径(12.8)		透明釉、青料	白色	外: 圓縁 内: 圓縁地 いずれも花文 16C 後半
21	32	8	SR02	瀬戸窯系青花	皿	輪製	口径(16.4)	透明釉、青料	白色	内: 圓縁 16C 後半~17C 初頭
21	33	8	SR02	漳州窯系青花	皿	輪製	口径(14.8) 直径(7.0)	透明釉、青料	淡灰褐色	内: 花文 壱付無 16C 後半~17C 初頭
21	34	8	SR02	漳州窯系青花	皿	輪製	口径(13.0)	透明釉、青料	淡灰褐色	外: 木の葉文 内: 圓縁 内外底面斜削 16C 後半~17C 初頭
21	35	8	SR02	中国陶器	四脚壺			圓錐	灰褐色	外: ナデ、被毛 内: 当て具、ナデ 中世前半
21	36	8	SR02	中国陶器か	壺	直徑(9.8)	輪製	褐色		外: 回転 ハラケヅリ 内: 回転ナデ 底面無施 中世前半
21	37	9	SR02	備前	器体	V.A	口径(1.0)	褐色	灰赤色	砂粒や多孔質
21	38	9	SR02	備前	器体	V.B	口径(2.9)	砂粒混在含む	灰赤色	器底1 単位10条以上 16C 初半
21										器底1 単位6条 16C 後半

件名	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調整・その他
21	39	9	SR02	鉢形	擂鉢	直径(14.8)	外: 棕褐色(2.5YR6/8) 内: 棕褐色(2.5YR6/8)	砂粒少量化 褐色	虚脱外: 下駄底	
21	40	9	SR02	变速系振動器	直		外: にじみ赤褐色(2.3YR5/4) 内: 明赤褐色(SYR5/6)	砂粒多く含む 灰褐色	中世前半	
22	1	9	SR02	漏戸溝道	平底	口径(12.0)	灰褐色	灰褐色	14C～15C 初半	
22	2	9	SR02	漏戸溝道	斜底	口径(16.0)	灰褐色	灰褐色	14C～15C	
22	3	9	SR02	漏戸溝道	直縁鉢		灰褐色	灰褐色	不明	
22	4	9	SR02	変遷系振動器	鉢		外: 棕褐色(2.5YR8/1) 内: 棕褐色(2.5YR8/1)	砂粒少量化	中世前半	
22	5	10	SR02	変遷系振動器	鉢		外: 棕褐色(NS5) 内: 棕褐色(NS5)	砂粒少量化	中世前半	
22	6	10	SR02	瓦質土器	火鉢		外: 棕褐色(10YR4/1) 内: 棕褐色(10YR4/1)	砂粒少量化 褐色	外: 灰褐色(2.5YR7/8) 内: 黄褐色(2.5YR7/1)	中世後半
22	7	10	SR02	瓦質土器	鉢		外: 棕褐色(2.5YR7/8) 内: 黄褐色(2.5YR7/1)	砂粒少量化 褐色	内: ハヤメ 14C～後半	
22	8	12	SR02	防長系瓦質土器	擂鉢	口径(23.4) 標高(9.0) 直径(13.3)	外: 棕褐色(5) 内: 棕褐色(5)	砂粒少量化 褐色	外: 指押正直 内: 棒子痕跡 15～16C	
22	9	10	SR02	土鉢器	直	口径(12.4)	外: 棕褐色(7.5YR7/0) 内: 棕褐色(7.5YR7/0)	砂粒少量化 褐色	外: 指押正直 内: 棒子痕跡	
22	10	10	SR02	土鉢器	埋明道	口径(9.6) 標高(1.7) 直径(8.3)	外: 棕褐色(5YR6/6) 内: 棕褐色(5YR6/6)	砂粒少量化 褐色	外: 回転式切り 犁耕者 内: 回転ナデ 褐色土鉢器	
22	11	10	SR02	土耕器土器	鉢	口径(30.0)	外: 淡黄色(2.5YR7/8) 内: 淡黄色(10YR8/4)	砂粒少量化 褐色	中世前半	
22	12	10	SR02	土耕器	坪	直徑(6.3)	外: 淡黄色(2.5YR7/8) 内: 淡黄色(10YR8/4)	砂粒少量化 褐色	外: 回転式切り 犀耕者 17C	
22	13	10	SR02	瓦質土器	火鉢		外: 淡褐色(2.5YR8/5) 内: 淡褐色(2.5YR8/5)	砂粒少量化 褐色	高麗の可能性あり 中世後半	
22	14	10	SR02	肥前系振動器	碗	JB-1-d ケ	口径(10.2)	真頭、透明隙	灰白色	松竹文 17C 後葉～18C 初
22	15	10	SR02	肥前系振動器	碗	JB-1-e	直徑(4.8)	真頭、透明隙	白色	裏庭(大明年製) 1710～1720 年代
22	16	10	SR02	肥前系振動器	坪	JB-6-b	口径(8.0)	透明隙	白色	17C 陶器
22	17	10	SR02	肥前系振動器	直	JB-2-(a)	直徑(6.2)	真頭、透明隙	直脚輪轉 1630～40 年代	
22	18	10	SR02	肥前系振動器	扇子形瓶	JB-10	直徑(8.6)	鉢形	灰色	青花輪轉 17C 中葉
22	19	10	SR02	肥前系振動器	鉢	TB-5	裏灰褐色	褐色	二次焼成 18C 前半代	
22	20	10	SR02	肥前系振動器	火入れ	TB-9	鉢形	灰褐色	1650～1690 年代	
22	21	10	SR02	肥前系振動器	鉢	TB-5-a	直徑(8.8)	透明隙、白色釉	褐色	圓錐、波文、弦紋、回紋 2 点 高台内無輪 土井式磨削器 17C 第3回劇中心
22	22	10	SR02	肥前系振動器	直	TB-2	口径(12.0) 標高(3.3) 直径(4.0)	灰褐色	青白(切)直 目跡4 点 高台内無輪 1594～1610 年代	
22	23	10	SR01	肥前系振動器	片口鉢	TB-23	口径(15.2)	鉢形	淡灰褐色	外: ケズリ 僧ナテ 1650～1690 年代
22	24	10	SR02	上野高倉陶器	鉢	TB-5	直徑(5.2)	鉢形	暗褐色	裏文 内: 目跡2 点 高台内無輪
22	25	11	SR02	肥前系振動器	三足鉢	TB-5-a	直徑(14.0)	輪廓化粗がけ、透明隙	淡赤褐色	17C 前葉～18C 前半
22	26	10	SR02	帶・明石石陶器	擂鉢	TB-29		内: 棕褐色(SYR6/6) 内: 棕褐色(SYR6/6)	褐色	内: 棒目 18C、前半代

土製品

件名	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	地土	備考
23	6	11	SR02	土製品	土器	I 型	長さ(5.4) 幅(2.0) 厚さ(1.1) 7.8×0.45	17.0	(に)い・棕褐色 (10YR7/4)	黒頭、ナデ 中型らみ	
23	7	11	SR02	土製品	土器	I 型	長さ(5.6) 幅(1.5) 厚さ(1.5) 8.0×0.6	7.29	褐色(7.5YR6/6)	黒頭、輪郭陶押压痕 中型らみ	
23	8	11	SR02	土製品	土器	II 型	長さ(6.6) 幅(3.1) 厚さ(1.0) 孔目1.1	50.0	(に)い・棕褐色 (7.5YR7/4)	黒頭、ナデ 中型らみ	
23	9	11	SR02	陶器	土器	II 型	長さ(5.7) 幅(2.0) 厚さ(1.1) 孔目1.0	(14.0)	黒頭、輪郭 孔目1.0	黒頭、輪郭 17C 朝	
23	10	11	SR02	土製品	土器	II 型	長さ(7.0) 幅(3.9) 厚さ(3.6) 孔目1.2	(60.0)	褐色(7.5YR7/4)	黒頭: 肩端部ケズリ 中型らみ	
23	11	11	SR02	土製品	土器	II 型	長さ(6.6) 幅(3.3) 厚さ(1.0) 孔目1.1	98.0	褐色(SYR6/6)	黒頭: ケズリ 中型らみ	

石製品

件名	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 部位	種別	器種	法量(cm)	重量	備考		
23	1	11	SR02	石製品	研磨石	長さ(7.3) 幅(6.7) 厚さ(1.5)	(69.7)	研磨面わずか 研石に軽用		
23	2	11	SR02	石製品	研磨石	長さ(13.7) 幅(6.2) 厚さ(6.0)	(68.0)	6 直(全周) 使用		
23	3	11	SR02	石製品	研磨石	長さ(7.8) 幅(6.2) 厚さ(1.3)	(73.6)	刮削面ある 3 面使用		
23	4	12	SR02	石製品	石臼	径(26.0) 孔径(3.0) 厚さ(最大)3.5		下臼 刷毛3～5条 内: 工具による削り剥離 二次焼成受けける		
23	5	12	SR02	石製品	手水鉢	口径(47.2)				

銅製品

件名	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 部位	種別	名称	法量(cm)	重量(g)	備考		
24	1	86	SR02	鉢	洪武通寶	径(2.25) × 厚(0.27) 孔(0.47) × 厚(0.47) 厚さ(0.15)	27.1	(高麗)「鑄鉢」		
24	2	86	SR02	鉢	寛永通寶	径(2.31) × 厚(0.28) 孔(0.59) × 厚(0.59) 厚さ(0.31)	287			

図段	遺物	図版 番号	出土遺構 部位	種別	名前	正規(cm)	重量(g)	備考
24	3	86	SR02	鉄質	寛永通貫	径2.44×2.45 孔0.56×0.55 厚さ0.0	0.97	
24	4	86	SR02	鉄質	寛永通貫	径2.56×2.56 孔0.65×0.64 厚さ0.09	18.65(枚分)	5枚組(1枚目裏面「文」) 正量計測物は一番上ののみ
24	5	86	SR02	鉄質	寛永通貫	径2.36×? 孔0.47×? 厚さ0.12	(1.71)	
24	6	86	SR02	鉄質	不明	径2.44×2.44 孔0.64×0.65 厚さ0.12	1.89	
24	24	86	SR02	鋼製品	煙管	長さ(4.7) 径1.0 厚さ0.1	(2.18)	
24	25	86	SR02	鋼製品	煙管	長さ(1.7) 径1.2 厚さ0.1	(0.17)	
24	26	86	SR02	鋼製品	不明	長さ(4.7) 径1.2 厚さ0.4	(7.76)	器種不明

鉄器

図段	遺物	図版 番号	出土遺構 部位	種別	器種	正規(cm)	重量(g)	備考
24	7	80	SR02	鉄製品	鎌	長さ不明 幅不明 厚さ0.6	(23.40)	薙庭市
24	8	80	SR02	鉄製品	刀	長さ(4.3) 幅3.8 厚さ0.4	(21.0)	刃部
24	9	80	SR02	鉄製品	刀子	長さ(10.5) 幅1.3 厚さ0.3	(33.0)	弧状
24	10	80	SR02	鉄製品	結縁鎌	長さ4.8 幅不明 厚さ0.3	(35.0)	軸端存
24	11	81	SR02	鉄製品	合丁	長さ17.5 幅3.3 厚さ0.4	(44.94)	
24	12	81	SR02	鉄製品	火打金	長さ(8.4) 幅2.15 厚さ0.4	(43.0)	山形 鋼鉢に孔有 打撃部両端削い
24	13	81	SR02	鉄製品	扇	長さ10.3 幅0.7 厚さ0.55	(30.0)	断面方形
24	14	81	SR02	鉄製品	扇	長さ12.4 幅0.8 厚さ0.7	(50.0)	断面方形
24	15	81	SR02	鉄製品	灯	長さ8.6 幅1.1 厚さ0.4	(28.0)	
24	16	81	SR02	鉄製品	灯	長さ9.3 幅1.0 厚さ0.7	(24.0)	平灯
24	17	81	SR02	鉄製品	灯	長さ7.3 幅0.6 厚さ0.6	(18.0)	皆世灯
24	18	81	SR02	鉄製品	灯	長さ6.3 幅1.5 厚さ0.6	(32.0)	
24	19	81	SR02	鉄製品	灯	長さ6.4 幅1.7 厚さ0.7	(45.0)	平灯
24	20	81	SR02	鉄製品	簪	長さ(6.7) 幅1.0 厚さ0.4	(10.0)	孔あり
24	21	81	SR02	鉄製品	簪	長さ(4.4) 幅0.9 厚さ0.4	(10.0)	長頭簪 ナ字開
24	22	80-81	SR02	鉄素材	板状鉄	長さ4.0 幅0.7 厚さ0.55	(20.0)	鉄製品の未成品か
24	23	81	SR02	鉄素材	鉄丸	長さ9.5 幅3.5 厚さ0.8	(376.08)	既鍛錬 磨き度7 メタル度: 鍛化
25	1	86	SR02	銅合鍶達	銅洋	長さ10.3 幅7.9 厚さ5.1	3200	銅鍶銅合鍶か 磨き度6 メタル度: 鍛化
25	2	86	SR02	銅合鍶達	銅洋	長さ10.2 幅7.5 厚さ(4.4)	5920	砂鉄製銅洋 打口痕有 磨き度7 メタル度H
25	3	86	SR02	銅合鍶達	銅洋	長さ20.9 幅12.5 厚さ7.95	2760.0	大型 銅鍶銅合鍶 磨き度4 メタル度: 鍛化
25	4	86	SR02	銅合鍶達	銅洋	長さ13.15 幅8.2 厚さ5.7	6450	砂鉄製銅洋か 磨き度7 メタル度H

第35表 SR03出土遺物観察表

陶磁器

図段	遺物	図版 番号	出土遺構 部位	種別	器種	分類	正規(cm)	色調	胎土	文様・模様・その他
26	1	13	SR03	中国白磁	瓶	大率府V-2型	口径(15.3)	透明釉	灰白色	折れ縫口縁 1C 後半～12C 初半
26	2	13	SR03	中国白磁	瓶	大率		透明釉	白色	内: 雜繪文 二重繩線、縹緲「星」文 中世後半
26	3	12-13	SR03	中国白磁	瓶	大率府N型	高さ6.1 底径6.2"	透明釉	灰白色	製作欠陥の有り 内: 滂沫 高台内無繩 11C 後半～12C 初半
26	4	13	SR03	中国白磁	瓶	大率C-1D型		透明釉	白色	内面凹 中世前半
26	5	13	SR03	龍泉窯系青磁	瓶	上BII 型	口径(10.0)	青磁釉	灰白色	繩目口縁 15C
26	6	13	SR03	龍泉窯系青磁	瓶	大率府I型	口径(9.0)	青磁釉	灰黄色	内: 雜文、刻花文 12C 後半
26	7	12-13	SR03	龍泉窯系青磁	瓶	大率府I型	口径(16.0)	青磁釉	灰黃白色	内: 雜文、刻花文 12C 後半
26	8	13	SR03	龍泉窯系青磁	瓶	大率府I型	口径(15.0)	青磁釉	灰色	内: 雜文、刻花文 細花口縁 12C 後半～13C 初半
26	9	13	SR03	龍泉窯系青磁	瓶	上BII II型		青磁釉	灰白色	外: 雜文 15C
26	10	13	SR03	龍泉窯系青磁	片	口径(12.0)		青磁釉	灰白色	中世後半
26	11	13	SR03	龍泉窯系青磁	片	口径(7.0)		青磁釉	淡灰褐色	高台内無繩 中世後半
26	12	13	SR03	龍泉窯系青磁	瓶	上BII 型		青磁釉	淡褐色	外: 沈繪文 15C

件目 番号	遺物 番号	国名 番号	出土遺構 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調整・その他
26	13	13	SR03	龍泉系 青白磁	瓶			青磁輪	灰白色	中世前半
26	14	13	SR03	龍泉系青白磁	瓶	上田D 等	直徑(5.8)	青磁輪	灰黑色	高台丸削 15C
26	15	13	SR03	龍泉系 青白磁	瓶花口	上田D 等		青磁輪	浅灰褐色	高台内輪削 15C
26	16	13	SR03	朝鮮陶器	耳壺か			褐輪	灰褐色	外: ハケニマケ 内: 円心円当真底 15C 後半～16C
26	17	13	SR03	中国陶器か	壺		直徑(15.8)	褐輪	灰褐色	不明
26	18	13	SR03	朝鮮陶器	瓶			褐輪	灰赤色	外: タタキ後ナテ 内: 田軒ナテ、当真底、ナテ 15C 後半～16C
26	19	13	SR03	朝鮮陶器	瓶?			褐輪	灰褐色	外: ハケニマケ 内: 円心円当真底 15C 後半～16C
26	20	13	SR03	朝鮮陶器	瓶			褐輪	灰赤色	内: 円心円当真底 15C 後半～16C
26	21	13	SR03	朝鮮 灰青白磁	瓶		口径(17.0)	灰青輪	暗褐色	外: 回転ナテ 内: 回転ナテ 16C
26	22	14	SR03	側削	壺	IV/A	口径(12.3)	砂粒少々含む 深灰色	14C 後半	
26	23	14	SR03	側削	壺			砂粒少々含む 深灰色	14C 後半	
26	24	13	SR03	側削	罐	V8	直徑(29.8)	砂粒少々含む 深灰色	砂粒少々含む 深灰色	縦目 1単位 5 条以上 15C
26	25	14	SR03	側削	壺			砂粒少々含む 深灰色	砂粒少々含む 深灰色	外: 帯状Z5 条
26	26	14	SR03	東播系須磨器	鉢			砂粒少々含む 深灰色	砂粒少々含む 深灰色	外: 汎用 中世前半
26	27	14	SR03	東播系須磨器	鉢			砂粒少々含む 深灰色	砂粒少々含む 深灰色	中世前半
26	28	14	SR03	中世須磨器 (側削?)	鉢		口径(27.2)	砂粒少々含む 深灰色	清瀬窯 中世後半	
26	29	14	SR03	瓦土器 (土師器)	鉢			砂粒少々含む 深灰色	砂粒少々含む 深灰色	外: 清瀬窯 中世後半
26	30	14	SR03	土師器	壺		直徑(4.6)	砂粒少々含む 深灰色	砂粒少々含む 深灰色	外: 田軒あたり 灰色系土師器
26	31	14	SR03	土師器	壺		口径(12.0) 底径(4.4) 直徑(5.8)	砂粒少々含む 深灰色	砂粒少々含む 深灰色	外: 田軒あたり 灰色系土師器
26	32	14	SR03	肥前系陶器	壺	JB-1-a	直徑(8.6)	透明輪	灰白色	豊竹輪削 1630～50 年代
26	33	14	SR03	肥前系陶器	壺	JB-1-a	直徑(5.0)	良品、透明輪	白色	外: 圓輪 1630 年代
26	34	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-1-c	直徑5.0	良品、透明輪	灰黄色	外: 圓輪、底付鋸歯 豊竹輪削 1630～50 年代
27	1	14	SR03	肥前系陶器	壺	JB-2-a	直徑(5.2)	良品、透明輪	灰白色	内: 草花文 豊竹輪削 1630～50 年
27	2	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-1-a	口径(11.0)	灰輪	灰褐色	1630～60 年代
27	3	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-2-a	口径(11.0)	透明輪	灰黄色	1650～1670 年代
27	4	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-1-i		透明輪	淡黄色	1650～90 年代
27	5	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-1-a	直徑(5.0)	灰輪	淡黄色	豊竹輪削 1630～1703 年
27	6	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-2-b	口径(10.6)	灰輪		17C 前
27	7	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-2-bf		透明輪	綠灰色	豊竹輪削 内野山比古燒 17C 前
27	8	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-2-d	口径(11.0)	透明輪	淡褐色	豊竹輪削 1610～50 年代
27	9	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-2-d	直徑(4.6)	灰輪	淡褐色	日韓 2 1610～1650 年代
27	10	14	SR03	肥前系陶器	鉢	TB-5-a		白化粗土の上に透明輪	赤褐色	16C 前葉
27	11	14	SR03	肥前系陶器	香炉	TB-9		鐵輪	暗灰色	17C 後葉
27	12	14	SR03	肥前系陶器	壺	TB-15		外: ぶく裏窯色(10YR5/3) 内: 暗褐色(10YR5/3)	砂粒少々含む 赤褐色	新羅文多施す青帶文 17C 前半

土製品

石製品

鉄器

調査	遺物	回復	出土遺構	層位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	備考
27	20	80-81	SR03	鉄製品	小札	長さ9.6 幅2.05 厚さ0.3		(15.0)	孔2 刃0.4 口所	
27	21	80-82	SR03	鉄製品	小札	長さ2.4 幅2.05 厚さ0.35		(4.10)	刃2 刃	
27	22	82	SR03	鉄製品	金具	長さ1.9 幅0.3 厚さ0.4		(3.56)	削面開丸方形	
27	23	82	SR03	鉄製品	金具	長さ1.6 幅0.45 厚さ0.6		(24.0)	削面横2刃 取扱	
27	24	82	SR03	鉄製品	釘	長さ10.7 幅2.0(頭) 厚さ0.5		(40.0)	頭部は幅広	
27	25	82	SR03	鉄製品	釘	長さ10.9 幅0.9 厚さ0.5		(38.0)	頭子状 先端にかけて曲がる	
27	26	82	SR03	鉄製品	釘針	長さ4.45 幅0.5 厚さ0.45		(14.0)	針先端穴掘	
27	27	82	SR03	鉄製品	金具	長さ5.5 幅2.2 厚さ0.2		(33.0)	頭部金具か	
27	28	82	SR03	鉄製品	釘	長さ13.85 幅0.4 厚さ0.5		(26.6)	頭子状 縦部斜状 身部中央付近から曲がる	
27	29	82	SR03	鉄製品	釘	長さ9.05 幅1.0 厚さ1.0		(12.0)	頭部欠損 木質遺存	
27	30	80-82	SR03	鉄素材	板状鉄	長さ2.5 幅1.9 厚さ0.4		(9.0)	鉄製品の未成品か	
27	31	80-82	SR03	鉄素材	板状鉄	長さ4.8 幅1.9 厚さ0.4		(12.0)	鉄製品の未成品か	
27	32	80-82	SR03	鉄素材	板状鉄	長さ6.6 幅2.3 厚さ0.3		(14.8)	鉄製品の未成品か	
27	33	82	SR03	鉄素材	板状鉄	長さ4.2 幅0.95 厚さ0.25		(13.0)		
27	34	82	SR03	板状鐵	鐵矛	長さ5.45 幅2.0 厚さ2.3		(36.0)	表面銹化薄か 硬着度△ メタル度: 鉄化	
27	35	82	SR03	板状鐵	鐵椎	長さ4.0 幅2.3 厚さ1.5		(31.0)	頭鉄か 硬着度△ メタル度: M	
27	36	82	SR03	板状鐵	鐵椎	長さ7.0 幅0.7 厚さ1.4		(212.0)	頭鉄か 硬着度△ メタル度: 特L	

第36表 SR04出土遺物観察表

陶磁器

調査	遺物	回復	出土遺構	層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調査・その他
29	1	15	SR04	龍泉系青磁	罐	上田C II類			青磁地	灰白色	片衝溝井文 15 ~ 16C
29	2	15	SR04	龍泉系青磁	罐	上田C II類			青磁地	灰黃白色	畫文 15C
29	3	15	SR04	同安系青磁	罐	同安I類	口径13.0		青磁地	灰色	外: 波線、兩組文 内: 重目文 12C後半~13C後半
29	4	15	SR04	龍泉系青磁	罐	上田E 検	口径15.0		青磁地	灰黃色	織紋口縁 15C
29	5	15	SR04	中白磁	盤		直径5.4		透明地	灰色	16C後半
29	6	15	SR04	漳州系青花	盤				透明地、青料	灰白色	内: 圓線 16C
29	7	15	SR04	湖州系青花	盤						
29	8	15	SR04	瓦当土器	鉢						
29	9	15	SR04	肥前系陶器	二足鉢	TB-5					

土製品

調査	神社	回復	出土遺構	層位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	地土	備考
29	12	15	SR04	土製品	土器	田器	長さ8.4 幅2.7 厚さ2.7 孔径1.35		64.0	にい: 黄褐色 (10HR3/3)	砂粒微量含む	調査: ケズリ、南側地押注痕 両側底部物によるカット 大型・両用

鉄器

調査	遺物	回復	出土遺構	層位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	備考	
29	28	82	SR04	鉄製品	釘	長さ4.0 幅0.6 厚さ0.4			(6.0)	鋸折釘	
29	29	82	SR04	鉄製品	釘	長さ4.0 幅0.8 厚さ0.6			(6.0)	葉部	

第37表 SR05出土遺物実観察表

陶磁器

調査	遺物	回復	出土遺構	層位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	地土	文様・調査・その他	
29	10	15	SR05	磁化窯白磁	皿		直径5.6			透明地	灰白色	型作り 台面内無施 14 ~ 15C	
29	13	15	SR05	中国白磁	皿	大率舟V類	直径5.4			透明地	灰黃褐色	内: 刻花文 花瓣輪削 11C後半~12C前半	
29	14	15	SR05	龍泉系青磁	罐	上田C II類			青磁地	灰色	外: 紋様文 15C		
29	15	15	SR05	龍泉系青磁	罐	上田C IV類			青磁地	灰黄色	内: 織紋通文 16C		
29	16	15	SR05	龍泉系青磁	罐	上田C II類			青磁地	灰色	畫文 15C		
29	17	15	SR05	朝鮮 庄州沙器	小皿		口径4.8			灰青地	淡灰褐色	16C	
29	18	15	SR05	土師器	河内皿		直径4.4			白化地色(10YR8/3) 内: 浅黄褐色(10YR8/3)	砂粒少量含む	外: 回転糸切り 褐色系土器	

件名	遺物	回復	出土遺構	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調整・その他	
番号	番号	番号	部位								
29	19	15	SR05	瓦質土器	火鉢			外:浅黄褐色(7SYR8/3) 内:浅黄褐色(7SYR8/3)	砂粒含まない 風呂の可能性あり		
土製品											
件名	番号	回復	出土遺構	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	地土	備考
29	11	15	SR05	土製品	土鉢	1脚	長さ5.7 幅2.1 厚さ1.2 孔径0.4	669	にじる黄褐色 (10W7/3)	砂粒微量含む	調査: ナ・小版・中断らみ
鉄器											
件名	番号	回復	出土遺構	種別	器種		法量(cm)	重量(g)		備考	
29	20	82	SR05	鉄素材	鉄鉗		長さ3.0 幅2.1 厚さ2.0		(15.2)	磁導度4 メタル鑑: 鉄化	
29	21	82	SR05	鉄素材	板状鉄		長さ2.0 幅1.9 厚さ0.4		(6.0)	鉄製品の未完成品か	

第38表 SR07出土遺物観察表

陶磁器

件名	遺物	回復	出土遺構	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	地土	文様・調整・その他
番号	番号	番号	部位								
29	22	15	SR07	灰瓦	窓		N/A	口径(1.0)	外:灰褐色(5YR4/2) 内:灰褐色(5YR4/2)	砂粒少量含む 灰褐色	縦目: 単位9条
29	23	15	SR07	土質器	灰			直径(5.2)	外:暗褐色(7SYR7/6) 内:暗褐色(7SYR7/6)	砂粒微量含む	田軒糸切り 灰色系土器
29	25	15	SR07	瓦質土器	窓				外:灰褐色(10W6/1) 内:灰褐色(10W6/2)	砂粒含まない 灰褐色	内:ハケア、縦目5 単位5 条 15C~16C

土製品

件名	番号	回復	出土遺構	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	地土	備考
番号	番号	番号	部位								
29	24	15	SR07	土製品	土鉢		長さ(3.2) 幅1.3 厚さ1.2 孔径0.6	3.78	灰白色(5Y1/1)	砂粒微量含む	調査: ナ・小版・中断らみ

鉄器

件名	番号	回復	出土遺構	種別	器種		法量(cm)	重量(g)		備考	
番号	番号	番号	部位								
29	26	82	SR07	鉄製品	灯		長さ7.1 幅0.8 厚さ0.6	(16.0)	平灯		
29	27	82	SR07	鉄製品	燈		長さ7.65 幅0.55 厚さ0.45	(16.0)	折曲隅丸方形		
29	30	82	SR07	鉄素材	鉄鉗		長さ2.5 幅2.05 厚さ0.95	(16.0)	磁導度3 メタル鑑: 鉄化		
29	31	80-82	SR07	鉄素材	棒状鉄		長さ8.9 幅1.3 厚さ0.7	(57.0)	夷端や短くなる a類		

第39表 SR10出土遺物観察表

弥生土器・土師器・須恵器

件名	遺物	回復	出土遺構	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調整・その他		
番号	番号	番号	部位									
32	1	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 I-2 横式	外:浅黄褐色(10YR6/4) 内:にじる黄褐色(10YR7/4)	砂粒少含む	外:ミガキ、絞 内:ナシメ、ナデ			
32	2	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 I-2 横式	外:暗褐色(5YR6/6) 内:にじる暗褐色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外:ミガキ、(ハケメ残る) 内:ナデ			
32	3	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	春?	石見 I-1 横式? 直徑(8.8)	外:暗褐色(5YR6/6) 内:明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少含む	外:ミガキ			
32	4	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 I-1 横式?	直徑(9.9)	外:暗褐色(5YR6/6) 内:暗褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外:ナツメ、ナシメ(透) 内:ナデ		
32	5	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 II-1 横式	外:灰白色(5YR6/6) 内:素面(2.5YR3/1)	砂粒少含む	外:ナツメ、ナシメ 内:ナシメ、ナシメ(2条、時刻文(御状工具))			
32	6	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 II-1 横式?	直徑4.0	外:にじる黄褐色(10YR5/3)	砂粒少含む	外:ミガキ、ナシメ(底部) 内:ナシメ		
32	7	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	豆甌	石見 I-1 横式	外:暗褐色(5YR7/6) 内:暗褐色(5YR7/6)	砂粒少含む	外:ミガキ、ナシメ(底部) 内:ナシメ			
32	8	17	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-1 横式	直徑(20.7)	外:灰褐色(5YR5/2) 内:素面(2.5YR3/1)	褐色、白色的跡多 内:含む	外:二重縁4.0cm、深縁4.0cm間に羽状文(二枚貝 縫隙)、内:ナシメ、ケズリ		
32	9	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-1 横式	外:暗褐色(5YR7/6) 内:素面(2.5YR3/1)	砂粒少含む	外:二重縁4.0cm以上(状工具) 内:ナシメ、ケズリ			
32	10	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-2 横式	直徑(17.2)	外:明黄褐色(7SYR7/3) 内:素面(2.5YR3/1)	砂粒多く含む	外:四脚3.5cm、時刻文(ヘラ工房) 内:ナシメ		
32	11	17	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-2 横式	直徑19.4	外:素面(10YR6/6) 内:素面(10YR8/6)	砂粒多く含む	外:四脚3.5cm(裏面ではない) 内:ナシメ、ケズリ		
32	12	17	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-2 横式	直徑(17.4)	外:にじる黄褐色(5YR7/3) 内:にじる黄褐色(10YR7/4)	砂粒少含む	外:四脚3.5cm 内:ナシメ		
32	13	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-2 横式	直徑(17.2)	外:にじる黄褐色(10YR7/4) 内:明黄褐色(10YR7/3)	砂粒多く含む	外:四脚4.0条 内:ナシメ、ケズリ		
32	14	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-2 横式	直徑(17.2)	外:灰白色(5YR9/2) 内:浅褐色(2.5YR7/3)	砂粒多く含む	外:四脚4.0条 内:ヨコナシ、ケズリ		
32	15	17	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺	石見 V-4 横式?	直徑(20.5)	外:にじる黄褐色(10YR7/4) 内:にじる黄褐色(10YR6/5)	赤色砂粒少含む 内:にじる黄褐色(10YR7/4)	内:ヨコナシ、ケズリ		
32	16	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	壺			外:明黄褐色(10YR6/6) 内:素面(2.5YR3/1)	褐色、白色、赤色 内:ナシメ	外:二重縁4.0cm、ナシ 内:ナシメ		
32	17	16	SR10下層 (N層)	土師器	甌	吉野時代前期	直徑(18.0)	外:素面(2.5YR8/5) 内:浅褐色(2.5YR8/5)	砂粒微量含む	外:ヨコナシ、ナシメ(後ナデ)		
32	18	16	SR10下層 (N層)	土師器	甌か蓋台	吉野時代前期	直徑(19.0)	外:素面(2.5YR8/5) 内:明黄褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外:ヨコナシ、ナシメ(後ナデ)		
32	19	16	SR10下層 (N層)	弥生土器	甌	石見 V 横式	直徑(4.4)	外:にじる黄褐色(10YR7/4) 内:浅褐色(10YR8/3)	砂粒多く含む	外:ヨコナシ、ミガキ、ナシメ 内:ケズリ		

図面 番号	遺物 事号	出土地場 位置	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・圖案・その他
32	20	16	SRI10下層 (IV層)	生住土器	底部	石見V様式	底盤(4段)	外: 淡黄色(0.5YR7/4) 内: 淡黄色(0.5YR8/4)	砂粒少含む 外: 調整平衡 内: ケズリ
32	21	17	SRI10下層 (IV層)	土師器	壺	古墳時代前期	口径(14.1)	外: 淡黄色(0.5YR8/4) 内: 淡黄色(0.5YR8/4)	白色砂粒多く 内: 淡黄色(0.5YR8/4)
32	22	16	SRI10下層 (IV層)	土師器	小壺蓋	口径(10.6)	外: 淡黄色(0.5YR7/4) 内: 淡黄色(0.5YR7/4)	砂粒少含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ, ケズリ	
32	23	16	SRI10下層 (IV層)	土師器	小壺蓋	口径(10.8)	外: 淡黄色(0.5YR8/4) 内: 淡黄色(0.5YR8/4)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ミガキ 内: ヨコナデ, ミガキ	
32	24	16	SRI10下層 (IV層)	土師器	壺	古墳時代前期	内: 黄(10YR7/6) 内: 淡黄色(0.5YR7/4)	砂粒少含む 外: 真跡剥皮文, ハケメ, ナデ 内: ケズリ	
32	25	16	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I A	上端幅(16.0)	外: 淡黄色(0.5YR8/3) 内: 黄(10YR7/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ, ヨコナデ, ケズリ
32	26	17	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(13.6) 底盤(17.5)	外: 淡黄色(0.5YR7/6) 内: 淡黄色(0.5YR7/6)	白色砂粒多く 内: 淡黄色(0.5YR7/6)
32	27	16	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(18.4)	外: 明黄色(0.5YR5/6) 内: 淡黄色(0.5YR5/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ミガキ 内: ヨコナデ, ミガキ
32	28	16	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(17.6)	外: 淡黄色(0.5YR5/6) 内: 淡黄色(0.5YR5/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ハケメ 内: ヨコナデ, ケズリ
33	1	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(12.0)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
33	2	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(14.8)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 灰黃色(0.5YR5/2)	砂粒少含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ, ケズリ
33	3	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(14.0)	外: 淡黄色(0.5YR7/6) 内: 淡黄色(0.5YR7/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ
33	4	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(12.8)	外: 黄褐色(0.5YR7/6) 内: 淡黄色(0.5YR7/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 下端は縦口?
33	5	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(20.8)	外: 明黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR5/6)	砂粒多く含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ, ケズリ
33	6	17	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(19.8)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒多く含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ, ケズリ
33	7	17	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(17.7)	外: 明黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ, ケズリ
33	8	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(17.4) 底盤(2.6)	外: 明黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ハケメ, 周辺に變色 内: ヨコナデ, ケズリ
33	9	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(16.6)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ 内: ヨコナデ
33	10	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(19.0)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 明黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ハケメ, 頭部平坦面 内: ヨコナデ, ケズリ
33	11	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(19.7) 底盤(2.0)	外: 明黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ナデ 内: ヨコナデ, ハケメ
33	12	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(19.8) 底盤(2.0)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ハケメ, 体部下半風致 内: ヨコナデ, ケズリ
34	1	18	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ba	口径(19.0)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 明黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ 内: ヨコナデ
34	2	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bd	口径(18.8)	外: に-く-暗褐色(3YR6/4) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	3	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bd	口径(17.8)	外: 明黄色(0.5YR5/6) 内: 黄褐色(0.5YR5/6)	砂粒多く含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	4	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bd	口径(19.9)	外: 黄褐色(0.5YR5/6) 内: 明黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	5	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bb	口径(14.4)	外: 淡黄色(0.5YR7/6) 内: 淡黄色(0.5YR7/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ 内: ヨコナデ, ケズリ
34	6	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bb	口径(20.8)	外: に-く-暗褐色(3YR6/4) 内: 明黄色(0.5YR7/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ 内: ヨコナデ, ケズリ
34	7	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bb	口径(21.8)	外: に-く-暗褐色(3YR6/4) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	8	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bb	口径(21.8)	外: に-く-暗褐色(3YR6/4) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒多く含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	9	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bb	口径(19.6)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ 内: ヨコナデ, ケズリ
34	10	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bb	口径(20.8)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	11	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bc	口径(11.2)	外: に-く-暗褐色(3YR7/4) 内: に-く-暗褐色(3YR7/4)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ハケメ, 後ヨコナデ 内: ヨコナデ, ハケメ
34	12	20	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bb	口径(23.4)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	13	20	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bc	口径(13.0) 底盤(2.4)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: に-く-暗褐色(3YR7/4)	砂粒多く含む 外: ヨコナデ, ケズリ, 底盤直面 内: ヨコナデ, ケズリ, 底盤直面, 口沿半周面
34	14	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bc	口径(13.2)	外: に-く-暗褐色(3YR7/4) 内: に-く-暗褐色(3YR7/4)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ, 施用注意
34	15	19	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Bc	口径(13.8)	外: 黄褐色(0.5YR5/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	16	20	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ca	口径(18.2)	外: 明黄色(0.5YR6/6) 内: に-く-暗褐色(3YR7/4)	砂粒多く含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	17	20	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ca	口径(15.2)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: に-く-暗褐色(3YR7/4)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	18	20	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ca	口径(16.9) 底盤(2.35)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	白色砂粒多く含む 外: ヨコナデ, ケズリ, 半腰底面
34	19	20	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ca	口径(14.8)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	20	20	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Cb	口径(18.4)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 明黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	21	21	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Ca	口径(18.0)	外: に-く-暗褐色(3YR7/4) 内: に-く-暗褐色(3YR7/4)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
34	22	21	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Cb	口径(18.8)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ
35	1	21	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Cb	口径(16.8)	外: 明黄色(0.5YR6/6) 内: 淡黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
35	2	21	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Cb	口径(15.6)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: 明黄色(0.5YR6/6)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ケズリ
35	3	21	SRI10 土表面まで	土師器	壺	I Cb	口径(19.0)	外: 淡黄色(0.5YR6/6) 内: に-く-暗褐色(3YR7/4)	砂粒少含む 外: ヨコナデ, ハケメ, ヨコナデ, 捕網ケズリ

番号	通号	日本名	出土地	遺物	種別	看板	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・模様・その他
35	4	20	SRI0	土師器	壺	I C b	口徑17.4	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	白色砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ 内: 3コナデ, ケズリ	
35	5	20	SRI0	土師器	壺	I C b	口徑(18.2)	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ, 頭部縦行帯 内: 3コナデ, ケズリ	
35	6	21	SRI0	土師器	壺	I C c	口徑(17.6)	外: にじ-黄褐色(10YR5/3) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ, ハケツ 内: 口縁部1.5cm, ヨココナデ, ハケツ	
35	7	22	SRI0	土師器	壺	I C b	口徑(18.6)	外: 棕褐色(SV96/6) 内: にじ-黄褐色(10YR7/4)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 口縁部1.5cm, ヨココナデ, ハケツ	
35	8	21	SRI0	土師器	壺	I C c	口徑(15.6)	外: にじ-黄褐色(10YR5/4) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ 内: 3コナデ, ケズリ	
35	9	21	SRI0	土師器	壺	I C c	口徑(14.8)	外: 明黄色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ 内: 口縁部1.5cm, ヨココナデ, ハケツ	
35	10	21	SRI0	土師器	壺	I C c	口徑(22.4)	外: にじ-黄褐色(10YR6/4) 内: にじ-黄褐色(10YR5/3)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 口縁部1.5cm, ヨココナデ, ハケツ	
35	11	21	SRI0	土師器	壺	I C c	口徑(16.8)	外: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ 内: 口縁部1.5cm, ヨココナデ, ハケツ	
35	12	22	SRI0	土師器	壺	I C b	口徑(22.6)	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ヨココナデ, ハケツ, ケズリ	
35	13	21	SRI0	土師器	壺	I C c	口徑(22.6)	外: にじ-赤褐色(SV94/6) 内: 明黄色(SV95/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 口縁部1.5cm, ヨココナデ, ハケツ	
35	14	21	SRI0	土師器	壺	II A a	口徑(19.6)	外: 棕褐色(SV97/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ヨココナデ, ハケツ	
36	1	21	SRI0	土師器	壺	II A a	口徑(29.8)	外: にじ-黄褐色(10YR7/3) 内: 明黄色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ヨココナデ, ハケツ	
36	2	21	SRI0	土師器	壺	II A a	口徑(22.0)	外: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	3	21	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(20.6)	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	4	21	SRI0	土師器	壺	II A a	口徑(10.8)	外: 深褐色(SV75/8/4)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	5	21	SRI0	土師器	壺	II A a	口徑(16.7)	外: 明黄色(SV96/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	6	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(13.6)	外: 明黄色(SV96/6) 内: 明黄色(SV96/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ヨココナデ, ハケツ, ケズリ	
36	7	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(15.4)	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 明黄色(SV97/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ, ヨココナデ 内: 口縁部1.5cm, ヨココナデ, ハケツ	
36	8	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(16.9)	外: 深褐色(SV75/8/4) 内: 深褐色(SV75/8/4)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ヨココナデ, ハケツ, ケズリ	
36	9	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(16.0) 高さ2.1	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ 内: 3コナデ, ヨココナデ, ハケツ	
36	10	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(19.4)	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 明黄色(SV97/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ナデ, ケズリ, 口縁一部にハケツ	
36	11	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(17.0)	外: 深褐色(SV98/3) 内: 深褐色(SV98/3)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	12	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(17.8)	外: にじ-褐色(7.5YR6/4)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	13	22	SRI0	土師器	壺	II A b	口徑(15.8)	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	14	22	SRI0	土師器	壺	II B	口徑(14.0)	外: 棕褐色(SV96/5) 内: 棕褐色(SV95/5)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	15	22	SRI0	土師器	壺	II B	口徑(16.0)	外: 棕褐色(SV95/6) 内: 明黄色(SV95/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ナデ, ケズリ, 口縁一部にハケツ	
36	16	22	SRI0	土師器	壺	II B	口徑(14.6)	外: 明黄色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ, ヨココナデ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	17	23	SRI0	土師器	壺	II B	口徑(18.0)	外: にじ-褐色(7.5YR5/4)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ, 後ヨコナデ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	18	23	SRI0	土師器	壺	II B	口徑(16.0)	外: 明黄色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	19	22	SRI0	土師器	壺	II B	口徑(21.2)	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
36	20	23	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑16.5	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, 細かいハケツ 内: 3コナデ, ケズリ, 口縁平坦面	
36	21	23	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑18.6	外: 深褐色(SV98/3) 内: 棕褐色(SV98/3)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
37	1	23	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(20.8)	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
37	2	23	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(18.3)	外: 深褐色(SV75/8/6) 内: 深褐色(SV75/8/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ, 口縁一部黒斑 内: 3コナデ, ヨココナデ, ケズリ	
37	3	24	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(19.2)	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 棕褐色(SV97/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
37	4	24	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(17.0)	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
37	5	24	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(29.1)	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV95/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ, ケズリ, 腹部縫隙により上平底反 下平底突出	
37	6	24	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑20.8	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 棕褐色(SV97/6)	白色砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
37	7	24	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑19.0	外: 棕褐色(SV96/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒多く含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
37	8	23	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(20.0)	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 明黄色(SV10YR7/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: ハケツ, ヨココナデ, ケズリ	
37	9	23	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(20.0)	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 棕褐色(SV97/6)	砂粒微量含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	
37	10	24	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑16.4	外: 棕褐色(SV97/6) 内: 棕褐色(SV97/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ, ケズリ, 口縁縦行帯 内: 3コナデ, ヨココナデ, ケズリ	
37	11	24	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(19.4)	外: にじ-褐色(7.5YR7/4) 内: 棕褐色(SV97/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ, 部分的に黒斑	
38	1	23	SRI0	土師器	壺	II C a	口徑(18.6)	外: 深褐色(SV75/8/6) 内: 棕褐色(SV96/6)	砂粒少々含む	外: 3コナデ, ハケツ 内: 3コナデ, ケズリ	

図面 番号	遺物 番号	出土地 位置	種別	種類	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・圖案・その他の 特徴
38	2	24	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(18.2)	外: 淡黄褐色(10YR8/3) 内: 淡黄褐色(SV8/4)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	3	23	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(19.6)	外: 淡黄褐色(10YR8/3) 内: 淡黄褐色(SV8/4)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	4	25	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(16.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/3) 内: 淡黄褐色(SV8/4)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	5	25	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(19.6)	外: 淡黄褐色(10YR8/3) 内: 淡黄褐色(SV8/4)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	6	26	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(18.2)	外: 淡黄褐色(10YR8/4) 内: 淡黄褐色(SV8/5)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	7	25	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(14.8) 高さ(1.6)	外: 灰褐色(10YR8/2) 内: 淡黄褐色(10YR8/3)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	8	26	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(14.4)	外: 灰褐色(10YR8/6) 内: 明赤褐色(GY5/8)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	9	25	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(20.0)	外: 灰褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(10YR8/3)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	10	26	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(15.4)	外: 灰褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(10YR8/3)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	11	25	SRI0	土師器	壺	H C a	口径(16.8)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	12	25	SRI0	土師器	壺	H C b	口径(17.0)	外: にじく黄褐色(10YR8/4) 内: 明赤褐色(GY5/8)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	13	26	SRI0	土師器	壺	H C b	口径(15.4)	外: 淡黄褐色(10YR8/4) 内: 淡黄褐色(10YR8/4)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	14	25	SRI0	土師器	壺	H C b	口径(15.2)	外: 灰褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(10YR8/3)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	15	25	SRI0	土師器	壺	H C b	口径(19.4)	外: 灰褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(10YR8/3)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
38	16	25	SRI0	土師器	壺	H C b	口径(17.0) 高さ(2.1)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	1	27	SRI0	土師器	壺	H D a	口径(21.6)	外: 淡黄褐色(10YR8/3) 内: にじく黄褐色(SV8/4)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	2	26	SRI0	土師器	壺	H D a	口径(14.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	3	26	SRI0	土師器	壺	H D a	口径(19.0)	外: にじく黄褐色(10YR8/4) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	4	27	SRI0	土師器	壺	H D a	口径(16.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	5	27	SRI0	土師器	壺	H D a	口径(21.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	6	26	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(15.6)	外: にじく黄褐色(10YR8/4) 内: 明赤褐色(GY5/8)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	7	27	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(19.2)	外: 灰褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	8	26	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(18.8)	外: 淡黄褐色(YR6/6) 内: にじく赤褐色(YR5/4)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	9	26	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(13.4)	外: 明赤褐色(GY5/8) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	10	27	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(18.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	11	27	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(16.7)	外: にじく黄褐色(10YR8/4) 内: 明赤褐色(GY5/8)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	12	26	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(19.4)	外: 灰褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	13	26	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(19.0)	外: 明赤褐色(YR6/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	14	26	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(15.2)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	15	27	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(14.6) 高さ(2.4)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
39	16	27	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(16.8)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	1	28	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(18.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	2	28	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(17.8)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	3	28	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(21.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	4	28	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(17.8) 高さ(2.4)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	白色多含 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	5	28	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(17.4) 高さ(2.5)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	6	28	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(12.8)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	7	29	SRI0	土師器	壺	H D b	口径(13.5) 高さ(3.1)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
40	8	29	SRI0	土師器	壺	H A	口径(16.4) 高さ(2.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒多く含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
41	1	28	SRI0	土師器	壺	H A	口径(21.2)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
41	2	28	SRI0	土師器	壺	H A	口径(22.4)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
41	3	28	SRI0	土師器	壺	H A	口径(19.4)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
41	4	29	SRI0	土師器	壺	H A	口径(20.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
41	5	29	SRI0	土師器	壺	H B	口径(23.6)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ
41	6	29	SRI0	土師器	壺	H A	口径(20.0)	外: 淡黄褐色(10YR8/6) 内: 淡黄褐色(SV8/6)	砂粒少含む 内: 口縁付ケメ、ハケメ

番号	遺物 登録 番号	出土場所 遺物 登録 番号	種別	器種	分類	法面(cm)	色調	施土	文様・模様・その他
41	7	29	SRI0	土師器	壺	H.B	口径26.0	外: 棕褐色(7SR7/6) 内: 棕褐色(7SR6/4)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ナデ
41	8	30	SRI0	土師器	壺	H.B	口径21.2	外: 棕褐色(7SR7/6) 内: 棕褐色(7SR7/6)	研粒多く含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ナデ
41	9	29	SRI0	土器底(マリ)	土師器	ID b	口径16.6	内: 棕褐色(7SR7/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ナデ
41	10	29	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径21.8	外: にじ・黄褐色(10YR7/5) 内: にじ・黄褐色(10YR7/5)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ハメテ, 滴状着 内: 三コナデ, ケズリ
41	11	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径26.0	外: 棕褐色(7SR7/6) 内: 棕褐色(7YR6/4)	研粒多く含む 内: 三コナデ, ハケヌ, 稲妻渦
41	12	29	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径14.4	外: 黄褐色(10YR8/6) 内: 棕褐色(7SR6/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, 頭部黒葉
41	13	29	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径15.6	外: 明黄色(7YR5/6) 内: 明黄色(7YR6/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ハメテ, 赤絞毛
41	14	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径16.9	外: 棕褐色(7SR6/6) 内: にじ・黄褐色(10YR7/5)	白色砂吹微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ハメテ, ケズリ
41	15	29	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径9.0	外: 棕褐色(7SR6/6) 内: 棕褐色(7SR7/6)	研粒多く含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ハメテ, ケズリ
41	16	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径14.6	外: 棕褐色(7YR6/6) 内: 明黄色(7YR6/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ハラズ, 赤絞毛
41	17	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径16.5	内: にじ・黄褐色(10YR7/4) 外: 棕褐色(7SR6/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, 滴状状, 古墳前段?
41	18	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径16.0	外: 棕褐色(7SR6/6) 内: にじ・黄褐色(10YR6/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ハメテ, 部部黒
42	1	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径22.0	外: 淡黃褐色(10YR8/6) 内: にじ・黄褐色(10YR7/4)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ハメテ, 部部黒, ナデ, ケズリ
42	2	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径15.8	外: 棕褐色(7SR6/6) 内: 棕褐色(7YR6/4)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	3	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径16.0	外: 棕褐色(7SR6/6) 内: 棕褐色(7YR6/6)	研粒多く含む 内: 三コナデ, ハケヌ, 頭部焼付着
42	4	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径17.0	外: 淡黃褐色(10YR8/6) 内: 淡黃褐色(10YR8/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ
42	5	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径12.0	外: 棕褐色(7YR5/6) 内: 棕褐色(7YR5/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	6	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径14.0	外: 淡黃褐色(10YR8/6) 内: 棕褐色(7SR7/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ
42	7	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径14.4	外: 淡白(7W5/19) 内: 淡白(7W5/19)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ
42	8	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径10.6	外: にじ・黄褐色(10YR7/3) 内: 淡白(7W5/19)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	9	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径11.0	外: 棕褐色(7YR6/6) 内: 棕褐色(7YR6/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	10	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径12.0	外: 明黄色(7YR6/6) 内: 明黄色(10YR6/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	11	30	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径15.4	外: 黄褐色(7SR6/6) 内: 棕褐色(7YR6/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ケズリ, ハメテ, 部部黒
42	12	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径12.0	外: 棕褐色(7SR6/6) 内: 棕褐色(7SR6/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	13	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径20.4	外: 棕褐色(7SR6/6) 内: 棕褐色(7SR6/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	14	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径20.8	外: 淡白(7W5/19) 内: にじ・黄褐色(7SR7/4)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ケズリ
42	15	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径11.0	外: 淡白(7W5/19) 内: 棕褐色(7SR7/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ナデ
42	16	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径12.0	外: 淡白(7YR6/6) 内: にじ・黄褐色(10YR7/4)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ケズリ, ハギテ
42	17	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径10.0	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	18	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径13.2	外: 淡白(7YR7/6) 内: にじ・黄褐色(10YR7/3)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ, ケズリ
42	19	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径11.0	外: 淡白(7YR6/6) 内: 淡白(7YR6/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ケズリ
42	20	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	壺	口径15.2	外: にじ・黄褐色(10YR7/4) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ
42	21	32	SRI0	土器底(マリ)	土師器	小型壺	口径19.2 標高7.1	外: 淡白(7W5/19) 内: 淡白(7W5/19)	研粒多く含む 内: ナナ, ハメテ, 部部黒, 頭部黒葉
42	22	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	小型壺	口径19.2 標高7.1	外: 淡黄褐色(7SR8/4) 内: 淡黄褐色(7SR8/4)	研粒多く含む 内: ナナ, ハメテ, 頭部黒葉, 壁面不規則
42	23	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	鉢	口径13.4	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ハケヌ
42	24	32	SRI0	土器底(マリ)	土師器	鉢	口径16.0 標高11.5 底径10.1	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒多く含む 内: 三コナデ, ハケヌ, 内部黒葉, 内部粘土結合層
42	25	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	鉢付土器	口径19.5	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハケヌ
42	26	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	鉢	口径5.5	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, ケズリ, ハギテ
42	27	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径12.4	外: 淡白(7YR7/6) 内: 明赤色(25YR5/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハギテ
42	28	32	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径12.0	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ハギテ, 粘土結合層(4系)
42	29	31	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径11.8	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ
42	30	32	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径16.8	外: 明赤色(25YR5/6) 内: 明赤色(25YR5/6)	研粒少量含む 内: 三コナデ, ナデ
42	31	32	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径14.7	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	研粒微量含む 内: 三コナデ, 指痕, 磨耗, 直接接合層
42	32	32	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径13.6	外: 明赤色(7SR8/6)	外: 三コナデ, ハギテ, 粘土結合層
42	33	32	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径13.4	外: 淡白(7YR7/6) 内: 淡白(7YR7/6)	外: 三コナデ, ハギテ, 指痕正丸, 直接接合層
44	1	33	SRI0	土器底(マリ)	土師器	直口壺	口径15.0	外: 淡白(7YR7/6)	外: 三コナデ, 全身赤色 内: 三コナデ, ケズリ, 伸張, 頭部黒

箇号	道番	田園番号	出土遺構位置	種別	看板	分類	法量(m)	色調	地土	文様・圖案・その他の特徴
44	2	33	SRI0 土壌層	小塗面底層		口徑11.0 器高17.3	外: 暗赤色(SV16/6) 内: 暗赤色(YR16/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ナデ 内: ニガキ、ナデ	
44	3	36	SRI0 土壌層	高坪	I A a1	口徑19.0 壁厚10.0	外: 淡黄褐色(SV18/6) 内: 淡黄褐色(YR18/6)	砂粒微量含む	外: 頭頂部、上端傾斜部 内: 文様	
44	4	33	SRI0 土壌層	高坪	II B a3	口徑19.0 壁厚14.0 壁厚径10.0	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 明褐色(SV19/6)	砂粒微量含む	外: ニコナミ、ミガキ 内: ヨコナミ、ケズリ、アオ	
44	5	33	SRI0 土壌層	高坪	I	口徑17.2 壁厚径11.7	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ミガキ、一部カバ 内: ヨコナミ、暗文様ミガキ	
44	6	36	SRI0 土壌層	高坪	I A a1	口徑19.0 壁厚10.4	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ナデ 内: ケズリ、ナデ	
44	7	33	SRI0 土壌層	高坪	I A a2	壁厚径9.9	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニコナミ、ミガキ 内: ヨコナミ、ケズリ後ナデ	
44	8	33	SRI0 土壌層	高坪	I A a3	口徑19.4	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒少量含む	外: ニコナミ、ミガキ 内: ヨコナミ、アオ	
44	9	34	SRI0 土壌層	高坪	I a3	口徑17.0	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒少含む	外: ニコナミ、ミガキ 内: ヨコナミ、カバ	
44	10	34	SRI0 土壌層	高坪	I B a3	口徑16.6 壁厚13.5 壁厚径10.4	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(YR19/6)	砂粒多く含む	外: ニコナミ、ミガキ、カズリ 内: ニガキ、ナデ 外: 縦や横の縞模様	
44	11	34	SRI0 土壌層	高坪	I B a3	口徑17.6 壁厚15.2 壁厚径12.0	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒多く含む	外: ニコナミ、ミガキ 内: ヨコナミ、ケズリ後ナデ 外: 頭頂部、ナデ 内: ヨコナミ、カバ、アメ	
44	12	34	SRI0 土壌層	高坪	I B a3	口徑19.0 壁厚16.0 壁厚径11.8	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒多く含む	外: 頭頂部 内: 文様、カズリ	
44	13	34	SRI0 土壌層	高坪	I B a3	口徑18.4 壁厚12.7 壁厚径11.4	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナミ、ナデ、ミガキ後ナデ 内: ヨコナミ、暗文、ケズリ	
44	14	34	SRI0 土壌層	高坪	II	口徑13.2	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ミガキ、様子産 内: 文状文様ミガキ	
44	15	34	SRI0 土壌層	高坪	II C b2	口徑19.0 壁厚11.8 壁厚径10.9	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニコナミ、ミガキ、ケズリ 内: ヨコナミ、カバ、ケズリ	
44	16	35	SRI0 土壌層	高坪	II C c	口徑17.6 壁厚12.1 壁厚径10.8	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニコナミ、ミガキ、ケズリ 内: ヨコナミ、暗文、ケズリ	
44	17	35	SRI0 土壌層	高坪	II C c	口徑14.2 壁厚10.9 壁厚径10.2	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(YR19/6)	砂粒多く含む	外: 頭頂部ミガキ、頭頂部ヨコナミ、ヨコナミ 内: 暗文ミガキ、ヨコナミ、ナデ	
44	18	35	SRI0 土壌層	高坪	II C c	壁厚径8.8	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒多く含む	外: ニガキ、ヨコナミ 内: ケズリ	
44	19	35	SRI0 土壌層	高坪	II C c	口徑13.0 壁厚10.4 壁厚径8.7	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニコナミ、ミガキ 内: ニガキ、ナデ	
44	20	35	SRI0 土壌層	高坪	II C c	口徑17.0 壁厚11.1 壁厚径10.8	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニコナミ、ミガキ、ケズリ 内: ヨコナミ、ケズリ	
44	21	35	SRI0 土壌層	高坪	II C c	口徑13.7 壁厚9.7 壁厚径8.0	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ミガキ、ナデ 内: ヨコナミ、ケズリ	
44	22	35	SRI0 土壌層	高坪	II C c	口徑14.6 壁厚10.0 壁厚径8.9	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ケズリヨコナミ、ヨコナミ 内: ヨコナミ、暗文、ケズリ	
44	23	35	SRI0 土壌層	高坪	II C d	口徑17.0 壁厚10.6 壁厚径10.0	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒多く含む	外: ニガキ、ヨコナミ、ナデ 内: ヨコナミ、ミガキ	
44	24	36	SRI0 土壌層	高坪	II C c	壁厚径7.2	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニコナミ、ミガキ 内: 頭頂部、ヨコナミ	
44	25	36	SRI0 土壌層	高坪	II C c	口徑12.6 壁厚7.0 壁厚径7.9	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 明褐色(SV19/6) 外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒少量含む	外: ニコナミ、ミガキ、ヨコナミ 内: ヨコナミ、カバ、ケズリ 外: 口平傾斜	
45	1	36	SRI0 土壌層	高坪	I B d	壁厚径10.6	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 明褐色(SV19/6)	砂粒少量含む	外: ニガキ 内: ケズリ、黒葉	
45	2	37	SRI0 土壌層	高坪	B B2	口徑17.0 壁厚11.1	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ 内: ナデ、充血跡跡印	
45	3	37	SRI0 土壌層	高坪	B B2	口徑17.6 壁厚11.1	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ハナメガシミガキ 内: ケズリ、ナデ	
45	4	37	SRI0 土壌層	高坪	B B2	壁厚径7.9	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(SV19/6)	砂粒少含む	外: ニコナミ 内: ケズリ	
45	5	36	SRI0 土壌層	高坪	B B2	壁厚径7.8	外: 暗赤色(SV19/6) 内: にじみ色(10YR6/4)	砂粒微量含む	外: ニガキ 内: ナデ	
45	6	37	SRI0 土壌層	高坪	B B2	b2	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ヨコナミ 内: ヨコナミ、ナデ	
45	7	37	SRI0 土壌層	高坪	b2	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(SV19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ 内: ケズリ		
45	8	38	SRI0 土壌層	高坪	B B1	壁厚径8.7	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(SV19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ 内: ケズリ、ナデ 外: 充血斑跡印	
45	9	38	SRI0 土壌層	高坪	B B2	壁厚径10.6	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 明褐色(SV19/6)	砂粒少量含む	外: ニコナミ 内: ケズリ	
45	10	37	SRI0 土壌層	高坪	B B1	壁厚径7.6	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(SV19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ヨコナミ 内: ケズリ後ナデ 内: 頭頂部底邊明瞭	
45	11	38	SRI0 土壌層	高坪	C B2	壁厚径7.9	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒少量含む	外: ニガキ、ナデ 内: ヨコナミ	
45	12	38	SRI0 土壌層	高坪	C B2	壁厚径7.9	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒少量含む	外: ナデ 内: 黒葉	
45	13	38	SRI0 土壌層	高坪	C C	壁厚径9.2	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ 内: ケズリ後ナデ	
45	14	38	SRI0 土壌層	高坪	C C	壁厚径7.6	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ヨコナミ 内: ケズリ後ナデ	
45	15	39	SRI0 土壌層	高坪	C C	壁厚径7.9	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ニガキ、ミガキ 内: ナデもしくはミガキ 内: ケズリ後ナデ	
45	16	36	SRI0 土壌層	高坪	C C	壁厚径7.9	外: 明褐色(SV19/6) 内: 明褐色(SV19/6)	白色砂粒少含む	外: ナデ 内: ナデ、頭頂部	
45	17	39	SRI0 土壌層	高坪	C C	壁厚径7.9	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量多く含む	外: ナデ 内: 容器	
45	18	39	SRI0 土壌層	高坪	C C	壁厚径7.9	外: 淡黄褐色(SV19/6) 内: 明褐色(SV19/6)	砂粒少量含む	外: ナデ、頭頂部 内: ヨコナミ	
45	19	39	SRI0 土壌層	高坪	C D	壁厚7.6	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 淡黄褐色(SV19/6)	砂粒微量含む	外: ナデ 内: 頭頂部	
45	20	39	SRI0 土壌層	高坪	C D	壁厚径6.5	外: 明褐色(SV19/6) 内: 明褐色(SV19/6)	白色砂粒少含む	外: ナデ 内: ナデ	
45	21	39	SRI0 土壌層	高坪	C D	壁厚7.2	外: 暗赤色(SV19/6) 内: 暗赤色(YR19/6)	砂粒微量含む	外: ナデ、ヨコナミ 内: ナデ	

番号	物語 番号	出島 番号	出島構 造	種別	着帳	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・模様・その他
45	22	40	SRI0	土師器	高坪	C d	縦幅16.6	外: 棕褐色(2SYR6/8) 内: 棕褐色(2SYR6/8)	砂粒微量含む	外: ミガキ、脂面ナデ 内: ナデ 脂面ケズリ
45	23	40	SRI0	土師器	高坪	C d	縦幅16.6	外: 明赤褐色(2YR5/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ナデ 脂面
45	24	40	SRI0	土師器	高	I b	口径13.6 標高6.9	外: 棕褐色(2SYR6/8) 内: 棕褐色(2SYR6/8)	砂粒少量含む	外: ミガキ、脂面以下ケズリ後ミガキ、脂面後 (ミガキナデ) 内: ナデ 脂面
45	25	40	SRI0	土師器	高	I b	口径14.0 標高6.2 底5.9	外: 棕褐色(2SYR6/8) 内: 棕褐色(2SYR6/8)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、脂面ミガキ、底面ミガキ後 ミガキナデ
45	26	40	SRI0	土師器	高	I a	口径12.7 標高6.4	外: 淡黃褐色(2TSYR8/6) 内: 淡黃褐色(2TSYR8/6)	砂粒微量含む	外: 口縁上部ミガキケズリ、下縁ケズリ、底面中 央ミガキ、底部脂面 内: 不規則
45	27	40	SRI0	土師器	高	I b	口径12.7 標高6.9	外: 明赤褐色(2YR5/6) 内: 明赤褐色(2YR5/6)	白色地多く 含む	外: ミガキ、底面ミガキ、底面アラカリガキ、口側厚 内: ロココナデ
45	28	41	SRI0	土師器	高	I b	口径11.3 標高6.0	内: にじ・淡褐色(10YR5/4) 外: 棕褐色(2SYR6/8)	砂粒少量含む	外: ロココナデ、底面ミガキ、底面ケズリ 内: ロココナデ
45	29	41	SRI0	土師器	高	I a	口径12.8 標高6.1	外: 棕褐色(2SYR6/8) 内: 棕褐色(2SYR6/8)	砂粒少量含む	外: ロココナデ、ミガキ、底面ケズリ 内: ロココナデ、肥厚、口唇平滑
45	30	41	SRI0	土師器	高	I b	口径13.4 標高7.0	外: 淡黃褐色(2TSYR8/6) 内: 淡黃褐色(2TSYR8/6)	砂粒微量含む	外: ナデ、ミガキ 内: ナデ、肥厚2段
45	31	41	SRI0	土師器	高	I a	口径13.7 標高6.8	外: 棕褐色(2SYR6/8) 内: 淡黃褐色(2TSYR8/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ロココナデ、底縫上げ
45	32	41	SRI0	土師器	高	I b	口径13.0 標高6.5	内: にじ・淡褐色(10YR5/4) 外: 淡褐色(2SYR6/8)	砂粒微量含む	外: ミガキ、朱り後相高いミガキ 内: ミコナデ、肥厚
45	33	41	SRI0	土師器	高	I a	口径14.8 標高6.0	外: 棕褐色(2SYR6/8) 内: 明赤褐色(2YR5/6) 外: 棕褐色(2SYR6/8)	砂粒少量含む	外: ミガキ、部分的にケズリ 内: ロココナデ、肥厚
45	34	41	SRI0	土師器	高	I a	口径16.0	外: 棕褐色(2SYR6/8) 内: 明赤褐色(2YR5/6) 外: 棕褐色(2SYR6/8)	砂粒微量含む	外: 上厚壁、底部ケズリ、体部ケズリ 内: ロココナデ、肥厚
45	35	42	SRI0	土師器	高	I a	口径12.4 標高6.6	外: 淡黃褐色(2TSYR8/6) 内: 明黃褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、肥厚ナデ 内: ハニカミ、ミガキ、肥厚ナデ
45	36	42	SRI0	土師器	高	I b	口径14.6	外: 棕褐色(2SYR7/6) 内: 棕褐色(2YR6/8)	砂粒微量含む	外: 口縁上部ロココナデ、以下細いミガキ 内: ロココナデ、肥厚、口唇内に段
45	37	42	SRI0	土師器	高	I b	口径15.6 標高7.3	外: 明赤褐色(2YR5/6) 内: 棕褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、他の厚相 内: ロココナデ、ミガキ(簡文)
45	38	36	SRI0	土師器	高	I a	口径15.6	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 棕褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ロココナデ、端縫
45	39	42	SRI0	土師器	高	I a	口径14.4 標高6.2	外: 棕褐色(2SYR7/6) 内: 棕褐色(2TSYR8/6)	白色地少 含む	外: ロココナデ、他の厚相 内: ロココナデ、ミガキ
45	40	37	SRI0	土師器	高	I a	口径13.6	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 棕褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、端縫 内: ロココナデ、肥厚
45	41	42	SRI0	土師器	高	I b	口径13.6 標高6.8	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 棕褐色(2SYR7/6)	砂粒少量含む	外: ロココナデ、ミガキ 内: ロココナデ、肥厚
46	1	43	SRI0	土師器	高	I b	口径14.8	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 棕褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、部分的にケズリ 内: ロココナデ、ミガキ、端縫
46	2	42	SRI0	土師器	高	I b	口径13.3 標高6.1	外: にじ・淡褐色(10YR7/4) 内: 淡褐色(2SYR6/6)	砂粒少量含む	外: ロココナデ、ミガキ、ナデ、赤彩 内: ロココナデ、ナデ、ミガキ
46	3	43	SRI0	土師器	高	I a	口径14.0 標高5.6	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 棕褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、ミガキ 内: ロココナデ、端縫、肥厚
46	4	43	SRI0	土師器	高	I b	口径12.8	外: 棕褐色(2SYR7/6) 内: 淡褐色(2SYR6/6)	砂粒少量含む	外: ロココナデ、ケズリ 内: ロココナデ、肥厚
46	5	43	SRI0	土師器	高	I b	口径16.4	外: 淡褐色(2SYR6/6) 内: 淡褐色(2SYR5/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、ミガキ 内: ロココナデ、ミガキ、端縫
46	6	42	SRI0	土師器	高	I b	口径14.4 標高6.6	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 棕褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	外: 全表面ミガキ 内: 唇縫ミガキ
46	7	42	SRI0	土師器	高	I b	口径15.0	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 棕褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、ミガキ、ケズリ 内: ロココナデ、端縫
46	8	43	SRI0	土師器	高	I c	口径12.0 標高13.8	外: 棕褐色(2SYR6/6) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ 内: 表腹不規
46	9	44	SRI0	土師器	高	I b	口径16.4	外: 赤褐色(10R5/6) 内: 淡黃褐色(2TSYR8/6)	砂粒少量含む	外: ミガキ、全表面赤彩 内: ロココナデ、ミガキ、端縫
46	10	44	SRI0	土師器	高	I c	口径14.0	外: にじ・淡褐色(10YR7/4) 内: 淡褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、体部・底部ケズリ、斑紋 内: ハニカミ、肥厚
46	11	43	SRI0	土師器	高	I c	口径16.9 標高6.9	外: 明黃褐色(10YR7/6) 内: 淡褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	外: ロココナデ、ミガキ、ケズリ、底部脂面 内: ロココナデ、端縫
46	12	43	SRI0	土師器	高	I c	口径13.8 標高5.5	外: 明黃褐色(10YR7/6) 内: 淡褐色(2SYR6/6)	砂粒少量含む	外: ロココナデ、底部ケズリ 内: ミガキ
46	13	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.3	幅3.7	外: 淡褐色(2SYR7/6) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ハイメタナデ 内: ケズリナデ
46	14	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.3	幅3.3	外: 淡褐色(2SYR7/6) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ハイメタナデ 内: ケズリナデ
46	15	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.6	幅4	外: 明黃褐色(10YR7/6) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ナデ 内: ケズリ ハンドル入底明暗
46	16	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.6	幅3.5	外: にじ・淡褐色(2SYR6/4) 内: 淡褐色(2SYR5/3)	砂粒微量含む	外: ハンドル入底明暗 内: ケズリ ハンドル入底明暗
46	17	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.1	幅3.8	外: 淡褐色(2SYR7/6) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ナデ 内: ケズリナデ
46	18	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.3	幅3.8	外: 淡褐色(2SYR7/6) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ハイメタナデ 内: ケズリナデ
46	19	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.4	幅3.8	外: にじ・淡褐色(2SYR6/4) 内: 淡褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	外: 底面直角後ケズリ 内: ケズリ
46	20	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.2	幅3.0	外: 淡褐色(2SYR7/6) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ハイメタナデ 内: ケズリナデ
46	21	44	SRI0	土師器	瓶手	M 3.2	幅3.6	外: 淡黃褐色(10YR8/4) 内: 淡褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	外: ナデ(凸面唇) 内: ケズリ
46	22	43	SRI0	土師器	土製支脚	脚径10.6	褐色(2SYR7/6)	砂粒少量含む	ナデ	脚径三脚脚 壁面開口線(充填脂)
46	23	44	SRI0	土師器	土製支脚	底長8.0	外: 淡褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ、ナデ 内: ケズリ	充填脂合脚あり
46	24	44	SRI0	土師器	土製支脚	脚径10.5	褐色(2SYR6/6)	砂粒微量含む	ナデ	充填脂通常通り小さい 充填脂脚あり
46	25	44	SRI0	土師器	土製支脚	脚径10.6	褐色(2SYR7/6)	砂粒微量含む	ナデ	ケズリナデ ひれ式の薄手の尖起

図面 番号	道路 事務 登録 番号	出土場所 位置	種別	岩種	分類	流量(cm)	色調	地土	文様・開削・その他の 特徴
46	26	43	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	畫	口径(14.8) 高(4.5)	外: にじる黄褐色(10YR6/3) 内: 淡褐色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ, ケズリ 内: ナデナ, 瓦質
46	27	44	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	畫	口径(15.6)	外: 黄褐色(10YR6/3) 内: 淡褐色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ, ハラタケ, ケズリ後ナデ 内: ナデナ, ハラタケ, 瓦質
46	28	44	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	畫	口径(15.6)	外: 黄褐色(10YR6/3) 内: 淡褐色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ, ハラタケ 内: マガキ, 瓦質
46	29	45	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	坪	口径(15.2) 高(4.3)	外: 黑褐色(2.5SY7/1) 内: 黒褐色(2.5SY7/1)	砂粒多く含む	外: 文様なし, ガシ, マガキ, ケズリ後ナデ 内: マガキ, ヨコナデ, 瓦質
46	30	44	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	坪?	直径(6.5)	外: 黑褐色(2.5)	砂粒微量含む	外: ナデ
46	31	44	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	畫	口径(15.6)	外: 明黄色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ハクメ, ナデ
46	32	44	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	畫	口径(15.6)	外: 淡黄色(10YR8/4) 内: 淡黄色(10YR8/3)	砂粒微量含む	外: ハ行タキ(ハグニム), 赤羽 内: 小円筒具足形(スルカ) 土被覆
46	33	44	SRI10 土被覆あり	須恵器 土被覆	割陶器	口径(10.0)	外: にじる褐色(7SY5/4)	砂粒微量含む	外: ハイマツヨコダ
47	1	45	SRI10 土被覆あり	土被覆	画	口径(2.1) 高(23.0) 底径(10)	外: 暗褐色(10YR7/8) 内: 暗褐色(10YR7/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ, ハクメ, ナデ, 一部黒斑 内: ナデ, ケズリ, ヨコナデ
47	2	45	SRI10 土被覆あり	土被覆	画	口径(2.4) 高(26.0) 底径(6.5)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ナデ, ハクメ 内: ナデ, ケズリ
47	3	45	SRI10 土被覆あり	土被覆	画	口径(2.0) 高(23.2) 底径(6.4)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ, ハクメ後ヨコナデ, 赤羽 内: ヨコナデ, ケズリ後ナデ, ケズリ
47	4	46	SRI10 土被覆あり	土被覆	画	底径(7.6)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ナデ, ハクメ 内: ナデ, ケズリ
47	5	46	SRI10 土被覆あり	土被覆	画	口径(19.0) 高(27.3) 底径(6.4)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ, ハクメ 内: ヨコナデ, ナデ, マガキ
47	6	46	SRI10 土被覆あり	土被覆	画	口径(2.0) 高(27.2) 底径(10.6)	外: 明赤褐色(2.5YR5/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ, ハクメ 内: ヨコナデ, ケズリ 梵口上部に灰
47	7	46	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	口径(2.3)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	白色砂粒多く含む	外: ヨコナデ, ハクメ, ナデ 在適合不明(既存) 底面~梵口附近黒斑
47	8	46	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	口径(1.9) 高(24.9)	外: 淡黄色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	白色砂粒多く含む	外: ヨコナデ, ケズリ 梵口上部に灰
47	9	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	口径(2.9) 高(35.0) 底径(3.5)	外: 黄褐色(10YR7/6) 内: 黄褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外: ナデ, ハクメ, 指揮正底 内: ヨコナデ, ハクメ, 黒斑状正底, 黄口上部に灰 底面~梵口附近黒斑
47	10	45	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒(底)	長さ(16.0) 幅(5.1) 底径(3.5)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	白色砂粒微量 含む	外: ナデ, 梵口底 内: ナデ, 梵口底
47	11	45	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒(底)	長さ(3以上) 幅(2.2) 底径(3.4)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ナデ, 梵口底 内: ナデ, 梵口底, 下側に板状柱底
47	12	45	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒(底)	長さ(14.0) 幅(3.3) 底径(2.0)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ナデ, 梵口底 内: ヨコナデ, ハラタケ
47	13	45	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒(底)	長さ(13.9) 底径(3.2)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ, ハラタケ, 指揮正底 内: ヨコナデ, ハラタケ, ナデ 底面: 梵口底
48	1	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	口径(2.0) 高(23.1) 底径(18.2)	外: 明黄色(10YR7/6) 内: にじる褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ, ハクメ, ナデ 内: ヨコナデ, ハラタケ, ナデ 底面: 梵口底
48	2	48	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.0)	内: にじる褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ, ケズリ 底面: 梵口底
48	3	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(1.6)	外: 明黄色(10YR7/6) 内: にじる褐色(10YR7/3)	砂粒少量含む	外: ナデ, ハクメ, 梵口底 内: ナデ, ケズリ, 梵口底
48	4	48	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(2.9)	外: 明黄色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ナデ, 梵口底 内: ハラタケ, 番紅底
48	5	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.54)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外: ナデ, 梵口底 内: ナデ, 梵口底
48	6	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(2.72)	外: にじる褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	白色砂粒多く含 む	外: ナデ, 梵口底 内: ハラタケ, ナデ, 指揮正底 内: ナデ
48	7	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.6)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ハラタケ, 梵口底 内: ナデ, 梵口底, 調整なし
48	8	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.6)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ハラタケ, 梵口底 内: ナデ, 梵口底
48	9	47	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.12)	外: 淡黄色(10YR7/6) 内: にじる褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ナデ, ハクメ, 指揮正底 内: ハラタケ, 番紅底, 梵口底
48	10	48	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.62)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	白色砂粒微量 含む	外: ナデ, 梵口底 内: ナデ, 梵口底
48	11	48	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.44)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	白色砂粒微量 含む	外: ハラタケ, 内: ハラタケ, 指揮正底, ハラ 工具: 指揮正底, 番紅底 内: ハラタケ, 梵口底, 指揮正底, ハラ
48	12	48	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(3.52)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	白色砂粒少含 む	外: ハラタケ, ナデ, 指揮正底 内: ケズリ後ナデ, 指揮正底, 番紅底
48	13	48	SRI10 土被覆あり	土被覆	毒	底径(2.84)	外: 暗褐色(10YR7/6) 内: 暗褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ナデ, ハラタケ, 指揮正底 内: ケズリ後ナデ, 指揮正底, 番紅底
49	1	50	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒多く含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ, 積荷なし
49	2	50	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒微量含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底
49	3	50	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒多く含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底
49	4	50	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒微量含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底
49	5	50	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒多く含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底
49	6	49	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒多く含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底
49	7	48	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒多く含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底
49	8	49	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒微量含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底
49	9	50	SRI10 土被覆あり	須恵器	畫	口径(1.8)	外: 灰色(NG)	砂粒微量含む	外: ハラタケ, 回転ヘラケズリ 内: ナデ, 指揮正底

番号	物語	日本 書名	出土場所 遺跡	種別	岩相	分類	法面(cm)	色調	地土	文様・模様・その他	
49	10	50	SRI0	須恵器	■	I Ad		灰色	砂粒包含む	外:田舎ナデ 植栽なし 内:田舎ナデ 口押字面	
49	11	50	SRI0	須恵器	■	I Ab丸	□径(13.8) 幅(4.0)	内:灰白色(96) 内:灰白色(94)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 植栽なし	
49	12	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I Bb平	□径(15.6) 幅(4.6)	内:灰白色(96) 内:灰白色(96)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 植栽なし
49	13	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I Cd平	□径(13.2) 幅(3.7)	内:灰白色(95) 内:灰白色(96)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 中央ケズリ残す 内:田舎ナデ 口押字面
49	14	49	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I Dc丸	□径(12.4) 幅(3.7)	内:灰白色(95) 内:オーリーブ色(5GVS/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 中央ケズリ残し 内:田舎ナデ 当真底
49	15	49	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I Dc丸	□径(13.3) 幅(3.9)	内:灰白色(95/1) 内:灰白色(91)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 中央ケズリ残し 内:田舎ナデ 口押字面
49	16	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I C c	□径(13.2)	内:灰白色(97V/1) 内:灰白色(97V/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 植栽なし
49	17	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I D丸?	□径(13.0) 厚高(3.9)	内:灰白色(97V/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 中央ケズリ残す 内:田舎ナデ 口押字面
49	18	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I ?		内:オーリーブ色(2.5GVS/1) 内:オーリーブ色(2.5GVS/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 芝生斜面
49	19	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I ?		内:オーリーブ色(5GVS/1)	砂粒多く含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
49	20	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I ?		内:灰黄色(2.5V7/2) 内:灰黄色(5V6/2)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 当真底
49	21	50	SRI0	土器底まり	須恵器	■	I D c	□径(9.3) 厚高(2.8)	内:灰白色(95) 内:灰白色(96)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
49	22	49	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I Ab丸	□径(13.0) 厚高(5.5)	内:灰白色(97V/1) 内:灰白色(97V/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 口押字面 内:田舎ナデ 当真底
49	23	49	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c 平	□径(12.5) 厚高(5.0)	内:灰白色(97V/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 芝生斜面
49	24	50	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c丸	□径(13.1) 厚高(5.6)	内:灰白色(95)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
49	25	50	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c	□径(9.8)	内:灰白色(95/1) 内:灰白色(97V/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 自然地
50	1	49	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c 平	□径(11.0) 厚高(4.0)	内:灰白色(96)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
50	2	50	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c丸	□径(12.0) 厚高(4.7)	内:灰白色(95) 内:灰白色(94)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
50	3	51	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c 平	□径(10.8)	内:灰白色(94/4) 内:灰白色(96)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ 芝生斜面
50	4	50	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c	□径(13.3)	内:灰白色(95/1) 内:灰白色(96)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
50	5	50	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c	□径(13.6)	内:灰白色(95/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
50	6	50	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c	□径(12.0)	内:灰白色(95/2) 内:灰白色(95/2)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	7	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c	□径(11.8)	内:灰白色(97V/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	8	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c	□径(12.2)	内:灰白色(97/2)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
50	9	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I B c	□径(12.0)	内:灰白色(97/2)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 回輪ヘラケズリ
50	10	51	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I C c丸	□径(12.5)	内:灰白色(97V/2) 内:灰白色(97V/2)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 口押字面
50	11	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I C c	□径(10.2)	内:灰白色(97)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	12	51	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I C c 平	□径(14.2)	内:灰白色(97V/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	13	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I C c	□径(14.0)	内:灰白色(93/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	14	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I C c	□径(13.8)	内:灰白色(94/4)	砂粒多く含む	外:田舎ナデ 自然地
50	15	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	I A c	□径(12.0)	内:灰白色(96)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	16	52	SRI0	土器底まり	須恵器	■	II A		内:灰白色(98/4)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 口押字面
50	17	52	SRI0	土器底まり	須恵器	■	II A		内:灰白色(97)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	18	52	SRI0	土器底まり	須恵器	■	II b		内:灰白色(97)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 口押字面
50	19	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	II	□径(11.6)	内:灰白色(92/2) 内:泥質(2.5V8/2)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 口押字面
50	20	51	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	II	□径(8.2)	内:灰白色(96)	砂粒多く含む	外:ナデ, 田舎ヘラケズリ
50	21	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	II	□径(4.5)	内:灰白色(95)	砂粒少含む	外:田舎ナデ, 頭蓋骨
50	22	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	b	□径(10.0)	内:灰白色(95/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	23	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	a	□径(15.0)	内:灰白色(95)	砂粒多く含む	外:田舎ナデ
50	24	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	b	□径(16.0)	内:灰白色(95/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ, 自然地
50	25	51	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	II Bb	□径(14.8)	内:灰白色(95/1) 内:褐色(10V8/1)	砂粒多く含む	外:にじみ褐色(7.5V5/3)
50	26	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	b	□径(13.2)	内:青灰白色(95/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ
50	27	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	III Ab	□径(16.0)	内:灰白色(97/1) 内:褐色(97/1)	砂粒多く含む	外:田舎ナデ, 口押字面
50	28	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	III B	□径(10.9)	内:黄白色(2.5V6/1)	砂粒多く含む	外:田舎ナデ, 亂立
50	29	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	b	□径(14.6)	内:灰白色(95/1)	砂粒多く含む	外:田舎ナデ, 基石有無不明
50	30	52	SRI0	土器底まり	須恵器	坪	III B	□径(11.2)	内:灰白色(2.5V1/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ, 基石

図面 番号	遺物 番号	出土地場 位置	種別	特徴	分類	量(㌘)	色調	胎土	文様・圖案・その他の 特徴
50	31	SRI0 土器底つまり	須恵器	环	口徑(12.1)	外:暗褐色(NV1) 内:淡黄色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、ナデ 内:回転ナデ	
50	32	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 I	外:灰褐色(NV1) 内:淡黄色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、片側波状紋(8条)	
50	33	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环底	口径(12.0) 高さ4.1 つまみ径2.4	外:灰褐色(N5)、灰褐色(23YR6/2) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ	
50	34	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 II 塗B 口径(11.4)	外:灰褐色(NV1) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	
51	1	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 III 塗B	外:灰褐色(NV1) 内:灰褐色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	
51	2	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 III 塗B	外:灰褐色(NV1) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ 内:回転ナデ	
51	3	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 III 塗B	外:灰褐色(N5) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ、腹内貼り痕	
51	4	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 III	外:灰褐色(N4) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
51	5	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 III	外:灰褐色(N5) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ 内:灰褐色(25YR7/1)	
51	6	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 III 口徑(13.4)	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ 内:灰褐色(25YR7/1)	
51	7	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	坪 III	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	
51	8	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗A 塗端径(8.7)	外:灰褐色(N4) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、内:回転ナデ、絞り痕 長方形凹方一段透し	
51	9	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗A 塗端径(9.1)	外:灰褐色(N4) 内:灰褐色(N2)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ、絞り痕 内:回転ナデ一段透し	
51	10	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗B	外:オリーブ灰(25YR6/1) 内:明オリーブ灰(25YR6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、下段に段 内:回転ナデ	
51	11	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗B 塗端径(10.8)	外:灰褐色(N6) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ、腹部部に縦	
51	12	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗B	外:灰褐色(N6) 内:灰褐色(N6)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ	
51	13	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗B	外:灰褐色(N4) 内:灰褐色(N4)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ、絞り痕、自然地	
51	14	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗B 腹端径(8.9)	外:灰白色(25YR7/2) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、内:回転ナデ 腹端部彫刻	
51	15	SRI0 土器底つまり	須恵器	高环	塗B 腹端径(9.2)	外:灰白色(25YR7/2) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
51	16	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(8.8)	外:灰褐色(N4) 内:灰褐色(N7)	砂粒少量化	外:回転ナデ、内:回転ナデ 口縁部斜削痕、内縫	
51	17	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(11.6)	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(25YR7/1)	白色砂粒微混 含む	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ 迷状文(8~11条)、口縁部斜削	
51	18	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(13.0)	外:灰褐色(N5) 内:灰褐色(N6)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ 口縁部斜削痕、口縫凹凸	
51	19	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(N6)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ、自然地、自然地 内:回転ナデ、自然地、自然地 内:回転ナデ、自然地、自然地 内:回転ナデ		
51	20	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ		
51	21	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	外:灰褐色(N5) 内:灰褐色(25YR7/1)	白色砂粒微混 含む	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ 迷状文(8~11条)、口縁部斜削 斜削痕下部カミメ、回転ヘラケズリ後回転ナ デ、自然地、内:回転ナデ、自然地、自然地 内:回転ナデ、自然地、自然地 内:回転ナデ		
51	22	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	外:灰褐色(25YR7/1) 内:淡黄色(25YR8/4)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ 斜削痕下部カミメ、回転ヘラケズリ、カキメ 内:回転ナデ		
51	23	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫?	口径(9.4) 腹高(2.9)	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、一部にケズリ 内:回転ナデ	
51	24	SRI0 土器底つまり	須恵器	細縫	口径(9.5) 腹高(3.8) 直径10.0	外:灰白色(25YR7/1) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ、脇縫り縫、施 過透 内:回転ナデ	
51	25	SRI0 土器底つまり	須恵器	細縫	口径(6.6) 腹高(6.7)	外:灰白色(25YR7/1) 内:灰白色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ 斜削痕下部カミメ、回転ヘラケズリ、ナデ	
51	26	SRI0 土器底つまり	須恵器	細縫	外:灰褐色(N5) 内:灰褐色(N6)	砂粒少量化	外:回転ナデ、ナデ		
51	27	SRI0 土器底つまり	須恵器	細縫	外:灰白色(25YR7/1) 内:灰褐色(N6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、一部にケズリ 内:回転ナデ		
51	28	SRI0 土器底つまり	須恵器	細縫	外:灰褐色(N6) 内:灰褐色(N6)	砂粒少量化	外:回転ナデ、施痕正直 内:回転ナデ		
51	29	SRI0 土器底つまり	須恵器	細縫	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ 内:回転ナデ		
51	30	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(17.6)	外:灰褐色(N6) 内:灰褐色(N6)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
52	1	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(18.6)	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
52	2	SRI0 土器底つまり	須恵器	粗縫	外:不規則	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
52	3	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(19.8)	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ、自然地	
52	4	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(15.7)	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(25YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ 縫五瓣状	
52	5	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(18.0)	外:灰褐色(25YR7/1) 内:灰褐色(N7)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ 縫やく把	
52	6	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	外:灰褐色(N6/1) 内:灰褐色(N5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ 自然地		
52	7	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	外:灰褐色(25YR7/1) 内:オリーブ色(31YR7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ 自然地		
52	8	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(18.5)	外:灰褐色(N6) 内:灰褐色(N6)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
52	9	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	口径(7.8) 腹高(5.5)	外:灰褐色(N6/1) 内:灰褐色(N7)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ 自然地	
52	10	SRI0 土器底つまり	須恵器	縫	外:灰褐色(N7/1) 内:灰褐色(N7/1)	砂粒少量化	外:キヨ目、自然地 内:回転ナデ、わずかに当座痕		

番号	物語	日本語 書号	出土場所 書号	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	施土	文様・模様・その他
53	1	55	SRI0 土蔵蓋まり	須恵器	壺		口径18.0 高さ5.1	外:青黄色(5/1) 内:青色(5/1)	白色糊多く 含む	内:カキメ、平行タテキメ、ナデ 内:白地(5/1) 間に波状文(2- 1品)
53	2	55	SRI0 土蔵蓋まり	須恵器	壺		口径15.7 高さ4.5	外:灰褐色(6) 内:青色(6)	研粒多く含む	外:斜面形ナデ、平行タテキメ一部カキメ、自然縫 内:白地(5/1) 当真底
53	3	55	SRI0 土蔵蓋まり	須恵器	壺			外:灰褐色(6) 内:青色(6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ、平行タテキメ 内:白地(5/1) 花文(5)
53	4	55	SRI0 土蔵蓋まり	須恵器	壺			外:灰褐色(6) 内:灰白色(6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ、平行タテキメ後カキメ 内:白地(5/1) 花文(5)
53	5	56	SRI0 土蔵蓋まり	須恵器	壺底		口径11.8 高さ33.6 底径34.4 壁厚3.5	外:灰褐色(5) 内:灰白色(5)	研粒多く含む	外:斜面形ナデ、平行タテキ 内:白地(5/1) 当真底
55	1	56	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I A		口径4.3 高さ4.0	外:明赤褐色(5/6) 内:青色(5/6)	研粒微量含む	外:コメ江戸 内:白地(5/1)
55	2	56	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I A		口径3.8 高さ3.9	外:明赤褐色(5/6) 内:青色(5/6)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	3	56	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I A		口径3.2 高さ3.5	外:浅黄褐色(10YR4/6) 内:灰褐色(5)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	4	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I A		口径4.4 高さ4.6	内:灰褐色(10YR7/3)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	5	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I A		口径4.4 高さ4.6	外:浅黄褐色(10YR6/4) 内:灰褐色(7.5YR6/4)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	6	56	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径6.2 高さ3.2	外:灰褐色(7.5YR7/2) 内:灰褐色(10YR5/3)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	7	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径4.7 高さ4.7	内:灰褐色(7.5YR6/4)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	8	56	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径5.6 高さ4.0	外:灰褐色(7.5YR6/3) 内:灰褐色(7.5YR6/3)	研粒物多含む 内:白地(5/1)	外:斜面形ナデ、全面黒変 内:白地(5/1) 全面黒変
55	9	56	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径5.7 高さ3.3	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	10	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径5.2 高さ4.3	内:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR6/4)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	11	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径6.2 高さ4.3	外:灰褐色(7.5YR6/6) 内:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	12	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径5.6 高さ3.9	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	13	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径5.7 高さ3.1	外:浅黄褐色(7.5YR8/6) 内:灰褐色(7.5YR8/6)	研粒物多含む 内:白地(5/1)	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	14	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径4.9 高さ3.4	内:灰褐色(7.5YR6/4) 内:灰褐色(7.5YR6/4)	研粒物多含む 内:白地(5/1)	外:斜面形ナデ、全面黒変 内:白地(5/1)
55	15	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B		口径6.1 高さ3.6	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)
55	16	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径2.8	内:明赤褐色(5/6)	研粒少々含む	外:工具痕、ナデ 内:白地(5/1)	
55	17	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径2.9	外:灰褐色(7.5YR6/2)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	18	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径3.0	外:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	19	57	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径3.4	外:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	20	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径2.6	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	21	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径4.2	外:明赤褐色(5/6)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	22	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	(6.2)	内:灰褐色(10YR5/2) 内:灰褐色(10YR5/2)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	23	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径4.1 高さ4.1	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	24	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径4.9 高さ4.9	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	25	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径4.6	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	26	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径4.0	外:灰褐色(7.5YR6/4)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	27	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I B	底径3.9	内:灰褐色(10YR6/4)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	28	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I C	底径3.0	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(10YR6/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	29	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I C	底径4.3	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	30	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	I C	底径4.6	外:灰褐色(7.5YR8/0)	研粒少々含む 内:灰褐色(10YR6/6)	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	31	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II A	底径4.7	内:灰褐色(7.5YR6/4)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	32	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II A	底径4.4 底径3.4	外:灰褐色(7.5YR6/4) 内:灰褐色(7.5YR6/2)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	33	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II A	底径4.6 高さ2.8	外:灰褐色(7.5YR7/4) 内:灰褐色(7.5YR7/4)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	34	58	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II B	底径4.2 高さ4.7	外:灰褐色(7.5YR7/4) 内:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	35	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II A	底径4.6	外:明赤褐色(5/6) 内:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	36	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II	底径4.8	外:灰褐色(7.5YR5/4)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
55	37	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II A	底径5.2 高さ4.5	外:灰褐色(7.5YR6/6)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
56	1	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II B	底径4.7 高さ4.9	外:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒微量含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
56	2	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II A	底径4.6	内:灰褐色(7.5YR6/4)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	
56	3	59	SRI0 土蔵蓋まり	壺形	II A	底径4.4	外:灰褐色(7.5YR7/6) 内:灰褐色(7.5YR7/6)	研粒少々含む	外:斜面形ナデ 内:白地(5/1)	

調査 番号	遺物 番号	出土地 位置 番号	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調整・その他の特徴
56	4	59	SR10 土器底	ミニチュア 土器	鉢形	II	直径(4.2) 外: 棕色(DYR6/6) 内: 棕色(DYR6/6)	砂粒少量含む 外: 指壓印施ナデ 内: 指壓印施ナデ	
56	5	59	SR10 土器底	ミニチュア 土器	鉢形	II	口径(3.9) 高さ(3.4) 外: 棕色(DYR6/6) 内: 棕色(DYR6/6)	砂粒多く含む 外: 指壓印施ナデ 内: 指壓印施ナデ	
56	6	59	SR10 土器底	ミニチュア 土器	鉢形	II	高さ(3.4) 外: 棕色(DYR6/6) 内: 棕色(DYR6/6)	砂粒少含む 外: ナード 内: ナード	指合指明痕
56	7	59	SR10 土器底	ミニチュア 土器	鉢形	II	高さ(3.4) 外: 棕色(DYR6/6) 内: 棕色(DYR6/6)	砂粒少量含む 外: ハイクナデ 内: 指壓印	

石製品・玉類

調査 番号	遺物 番号	出土地 位置 番号	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	石材	備考	
56	8	59 15-16層	SR10	石製品	勾玉	長さ1.4 幅1.6 厚さ0.4 孔径0.15	6.8	薄石	全面丁寧な研磨一部剥離面残る
56	9	59 15-16層	SR10	玉類	管玉	長さ2.1 幅0.8 厚さ0.8	2.3	花崗岩 表面研磨、欠陥後に研磨(剥離面有り) 濃緑色	

鉄器

調査 番号	遺物 番号	出土地 位置 番号	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考	
56	10	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ(1.05) 幅(2.3) 厚さ0.5	(13.8)	高頭鑿 長三角形頭抜1箇 尚丸泡
56	11	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ10.35 幅1.7 厚さ0.35	(26.0)	高頭鑿 長三角形頭抜1箇 平面
56	12	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ(0.9) 幅不明 厚さ0.4	(5.86)	高頭鑿 尚缺頭 ナド開
56	13	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ(7.0) 幅(1.7) 厚さ0.4	(11.0)	相間形 膜身片鑿道 ナド開
56	14	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ(6.1) 幅0.85 厚さ0.3	(8.0)	台形鑿
56	15	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ(4.75) 幅1.3 厚さ0.5	(15.71)	方鑿形
56	16	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ(0.9) 幅0.7 厚さ0.65	(41.0)	高頭鑿
56	17	83	2-3区 SR10	鉄製品	釘針	長さ2.9 幅2.6 厚さ0.4	(8.0)	新頭圓丸方形
56	18	83	2-3区 SR10	鉄製品	弓金具	長さ(2.35) 幅0.9 厚さ0.45	(1.77)	中央穴
56	19	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ3.5 幅0.9 厚さ1.4 長さ3.8 幅1.2 厚さ0.9	(26.2)	鑿状工具か 2個体同図
56	20	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ(3.9) 幅2.4 厚さ2.3	(15.0)	基部の折り返しが身に密着 鉄製複数品
56	21	83	2-3区 SR10	鉄製品	刀子	長さ(4.6) 幅1.2 厚さ0.6	(14.0)	斜め開
56	22	83	2-3区 SR10	鉄製品	鑿	長さ3.5 幅1.0 厚さ2.1	(91.81)	小型
56	23	83	2-3区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ(2.95) 幅3.0 厚さ0.45	(21.0)	板状鉄片
56	24	83	2-3区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ3.7 幅0.85 厚さ0.35	(5.0)	板状鉄片の残片か
56	25	83	2-3区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ1.4 幅1.2 厚さ0.35	(2.0)	板状鉄片の残片か
56	26	83	2-3区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ(2.5) 幅1.7 厚さ2.3	(16.0)	
56	27	83	2-3区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ2.6 幅1.6 厚さ2.6	(9.0)	板状鉄片の残片か
56	28	83	2-3区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ3.9 幅2.7 厚さ2.4	(42.0)	新頭馬蹄形で刃面不整形
56	29	83	2-3区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ(8.95) 幅2.7 厚さ0.2	(40.0)	刃面は筒丸角度で刃部なし
56	30	83	2-3区 SR10	鉄製品	鍛錠	長さ2.4 幅2.4 厚さ2.1	(60.0)	小型 重量は石含む 磨難度:5 メタル度:H
56	31	83	2-3区 SR10	鉄製品	鍛錠	長さ3.2 幅2.9 厚さ2.3	(21.0)	磨難度:5 メタル度:L
56	32	83	2-3区 SR10	鉄製品	鍛錠	長さ3.1 幅2.2 厚さ0.85	(13.0)	磨難度:4 メタル度:稍化
56	33	83	2-3区 SR10	鉄製品	鍛錠	長さ2.0 幅1.5 厚さ0.65	(12.0)	小型 磨難度:5 メタル度:H

羽口

調査 番号	遺物 番号	出土地 位置 番号	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考	
57	1	84	2区 SR10	聯合閻連	羽口	長さ(7.0) 幅2.5	75.0	ガラス質化
57	2	84	2区 SR10	聯合閻連	羽口	長さ(7.1) 幅2.1	62.0	ガラス質化 内内澤と複合 内内澤 磨難度:3 メタル度:稍化
57	3	84	2-3区 SR10	聯合閻連	羽口	長さ(7.0) 幅(5.9) 厚さ(3.9)	116.0	ブロック単位不明 羽口擦地痕
57	4	84	2区 SR10	聯合閻連	羽口	長さ(7.0) 幅2.5	354.0	ガラス質化
57	5	84	2区 SR10	聯合閻連	羽口	長さ(7.0) 幅2.5	40.0	ガラス質化

第40表 遺構外出土遺物観察表

繩文土器

件名	遺物 番号	出土地 番号	出土遺構 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
58	1	60	SR10	縄文土器	深鉢	中期		外:にじ・黒褐色(7.0/54/4) 内:褐色(7.5/14/4)	砂粒多く含む	外:地紋灰、輪草上円形(半截竹管) 内:口縁厚地厚壁、ナデ
58	2	60	SR10	縄文土器	深鉢	前期		外:灰褐色(7.0/44/2) 内:黒褐色(7.0/44/2)	砂粒少々含む	外:灰
58	3	60	II層	縄文土器	深鉢	中期		外:灰褐色(7.0/53/3) 内:にじ・黒褐色(7.0/54/4)	砂粒少々含む	内:ナデ、押捺伝統、断崖不規直底 外:輪草上円形(半截竹管)、二枚貝厚壁、丸 内:二枚貝底
58	4	60	SR10	縄文土器	深鉢	中期		外:灰褐色(7.0/53/3) 内:にじ・黒褐色(7.0/54/4)	砂粒少々含む	内:ナデ、円筒状の隆起部(輪草上刺印) 内:ナデ、上端厚口縁
58	5	60	SR10	縄文土器	深鉢	中期		外:灰褐色(7.0/53/3) 内:にじ・黒褐色(7.0/54/3)	砂粒少々含む	内:ナデ、波状文、西波文、連弧文
58	6	60	SR01	縄文土器	深鉢	中期		外:灰褐色(7.0/53/3) 内:にじ・黒褐色(7.0/54/3)	砂粒少々含む	外:三日月状の波線文、直線文、直下垂線(輪草上円形刻文)、丸・ナデ
58	7	60	SR10	縄文土器	中鉢	中期		外:にじ・黒褐色(7.0/53/3) 内:黒褐色(7.0/54/3)	砂粒少々含む	外:横波文、丸・ナデ
58	8	60	SR10	縄文土器	前頭?			外:灰褐色(7.0/53/2) 内:黒褐色(7.0/54/2)	砂粒微量含む	外:ナデ、外縁厚地、内縁厚
58	9	60	SR10	縄文土器	前頭?			外:灰褐色(7.0/53/2) 内:黒褐色(7.0/54/2)	砂粒微量含む	内:ナデ
58	10	60	SR10	縄文土器	中鉢?			外:灰褐色(7.0/53/2) 内:にじ・黒褐色(7.0/54/3)	砂粒少々含む	外:外灰、内黄
58	11	60	II層	縄文土器	中鉢?			外:にじ・黒褐色(7.0/53/3) 内:にじ・黒褐色(7.0/54/3)	砂粒少々含む	内:二枚貝底ナデ
58	12	60	SR02	縄文土器	中鉢?			外:浅褐色(7.0/58/4) 内:淡褐色(2.5/9/3)	砂粒少々含む	外:灰
58	13	60	SR02	縄文土器	中鉢?			外:浅褐色(7.0/58/4) 内:淡褐色(2.5/9/3)	砂粒少々含む	内:ナデ
58	14	60	SR02	縄文土器	中鉢?			外:にじ・黒褐色(7.0/58/4) 内:淡褐色(2.5/9/4)	砂粒少々含む	外:灰
58	15	60	SR10	縄文土器	中鉢?			外:灰褐色(7.0/58/5) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/4)	砂粒少々含む	内:ナデ
58	16	60	SR10	縄文土器	中鉢?			外:浅褐色(7.0/58/5) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/4)	砂粒微量含む	外:灰 内:二枚貝底ナデ
58	17	60	II層	縄文土器	中鉢?			外:灰褐色(7.0/58/5) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/3)	砂粒多く含む	外:灰 内:二枚貝底ナデ
58	18	60	SR10	縄文土器	中鉢?			外:にじ・黑褐色(7.0/58/3) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/4)	砂粒少々含む	外:灰 内:二枚貝底ナデ
58	19	60	SR10	縄文土器	中鉢?			外:灰褐色(7.0/58/5) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/4)	砂粒少々含む	外:灰 内:土
58	20	60	II層	縄文土器	深鉢	後期		外:浅褐色(7.0/58/6) 内:淡褐色(7.0/58/6)	砂粒微量含む	外:波線、ナデ 内:ナデ
58	21	60	SR01	縄文土器	深鉢	後期		外:浅褐色(7.0/58/6) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/6)	砂粒微量含む	外:波 内:二枚貝底ナデ 下端厚口縁
58	22	60	SR02	縄文土器	深鉢	後期		外:にじ・黒褐色(7.0/58/6) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/6)	砂粒少々含む	外:灰 内:二枚貝底ナデ
58	23	60	II層	縄文土器	深鉢	後期		外:にじ・黑褐色(7.0/58/6) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/1)	砂粒少々含む	外:口縁灰、ミガキ、擦成穿孔 内:ミガキ
58	24	60	SR02	縄文土器	深鉢	後期		外:にじ・黒褐色(7.0/58/6) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/3)	砂粒少々含む	外:口縁灰、ミガキ点文に波線文とリフツ、丸、ナデ 内:ケズリ
58	25	60	SR03	縄文土器	深鉢	後期		外:深褐色(7.0/58/6) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/6)	砂粒少々含む	外:口縁灰、ナデ、擦成不規直底 内:ナデ、波成穿孔底
58	26	60	SR03	縄文土器	深鉢	後期		外:黒褐色(7.0/58/1) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/6)	砂粒少々含む	外:口縁灰、波成穿孔底下端波線文、ナデ、貝巻?条 内:ナデ
58	27	60	SR10	縄文土器	深鉢	後期		外:灰褐色(7.0/58/2) 内:深褐色(7.0/58/2)	砂粒少々含む	外:ナデ、波成 内:ナデ
58	28	60	SR10	縄文土器	深鉢	後期		外:明褐色(7.0/58/2) 内:黒褐色(7.0/58/2)	砂粒少々含む	外:黒灰、ナデ 内:ナデ
58	29	60	SR10	縄文土器	鉢か	後期		外:にじ・黒褐色(7.0/58/2) 内:にじ・黒褐色(7.0/58/2)	砂粒少々含む	外:纏織、接章文 内:ナデ
58	30	60	II層	縄文土器	深鉢	後期		外:浅褐色(7.0/57/7) 内:淡褐色(7.0/57/6)	砂粒微量含む	外:波線、ナデ 内:ナデ
58	31	60	SR02	縄文土器	深鉢	後期		外:深褐色(7.0/57/7) 内:深褐色(7.0/57/6)	砂粒微量含む	外:水平波線文又半圓形又リフツ、二枚貝底 内:二枚貝底
58	32	60	II層	縄文土器	浅鉢	後期		外:明褐色(7.0/57/6) 内:黒褐色(7.0/57/6)	砂粒微量含む	外:波成波線文、ミガキ 内:ミガキ
58	33	60	II層	縄文土器	浅鉢	後期		外:黒褐色(7.0/57/1) 内:黒褐色(7.0/57/1)	砂粒少々含む	外:ミガキ、波成縫合波線文、波成縫合文 内:ミガキ
58	34	60	SR01	縄文土器	浅鉢	後期		外:黒褐色(7.0/57/1) 内:淡褐色(7.0/57/1)	砂粒少々含む	外:ミガキ、波成縫合文 内:ナデ
58	35	60	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外:暗褐色(7.0/57/2) 内:明褐色(7.0/57/2)	砂粒少々含む	外:暗褐色波縫文、波縫、ミガキ 内:波縫、ミガキ、擦成穿孔(未調)
58	36	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外:にじ・黒褐色(7.0/57/4) 内:にじ・黒褐色(7.0/57/4)	砂粒少々含む	外:ミガキ、波成縫合文 内:ケズリ
58	37	61	SR07	縄文土器	浅鉢	後期		外:黒褐色(7.0/57/1) 内:黒褐色(7.0/57/1)	砂粒微量含む	外:ミガキ、波成縫合文、基下波縫文 内:ミガキ
58	38	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外:黒褐色(7.0/57/1) 内:淡褐色(7.0/57/1)	砂粒少々含む	外:ミガキ、波成縫合文、區画? 内:ナデ
58	39	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外:暗褐色(7.0/57/2) 内:明褐色(7.0/57/2)	砂粒少々含む	外:暗褐色波縫文、波縫、ミガキ 内:波縫、ミガキ、擦成穿孔(未調)
58	40	61	II層	縄文土器	浅鉢	後期		外:暗褐色(7.0/57/2) 内:明褐色(7.0/57/1)	砂粒少々含む	外:ミガキ 内:ミガキ、内縁段
59	1	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外:明褐色(7.0/57/1) 内:黒褐色(7.0/57/1)	砂粒少々含む	外:ミガキ、暗褐色波縫文 内:ミガキ
59	2	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外:にじ・黒褐色(7.0/57/2) 内:黒褐色(7.0/57/2)	砂粒少々含む	外:暗褐色波縫文、赤羽、ミガキ 内:ミガキ
59	3	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外:暗褐色(7.0/57/1) 内:黒褐色(7.0/57/1)	砂粒少々含む	外:ミガキ、暗褐色波縫文 内:ミガキ
59	4	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外:暗褐色(7.0/57/1) 内:淡褐色(7.0/57/1)	砂粒微量含む	外:ミガキ、内縁段
59	5	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外:ナーベル黒褐色(7.0/57/1) 内:灰褐色(7.0/57/1)	砂粒少々含む	外:ミガキ、暗褐色波縫文、赤羽、ミガキ 内:ミガキ、内縁段

図版	遺物	図版 番号	出土地 位置	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	出土	文様・調整・その他
59	6	61	SRI4	陶文土器	浅鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR7/4) 内:灰褐色(25Y4/1)	砂粒少量化含む	外:鹿消焼穴向火、ミガキ、 内:ミガキ、内向火
59	7	61	II層	陶文土器	浅鉢	後期		外:暗褐色(10YR5/2) 内:深褐色(25Y4/2)	砂粒少量化含む	外:鹿消焼穴向火、赤土かけ、ミガキ、 内:ミガキ
59	8	61	SRI7	陶文土器	浅鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR6/3) 内:浅褐色(25Y7/3)	砂粒少量化含む	外:黒褐色(25Y7/3)、ミガキ、 内:ミガキ
59	9	61	SRI10	陶文土器	浅鉢	後期		外:浅褐色(10YR8/4) 内:灰褐色(10Y7/2)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、鹿消焼穴向火、 内:ミガキ
59	10	61	SRI10	陶文土器	浅鉢	後期		外:灰褐色(10Y4/1) 内:黄褐色(25Y3/1)	砂粒少量化含む	外:鹿消焼穴向火、ミガキ、 内:ミガキ
59	11	61	SRI2	陶文土器	浅鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR6/4) 内:灰褐色(10YR5/2)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、鹿消焼穴向火、 内:ミガキ
59	12	61	SRI2	陶文土器	浅鉢	後期		外:灰褐色(10YR5/2) 内:灰褐色(10YR5/2)	砂粒少量化含む	外:鹿消焼穴向火、ミガキ、 内:ミガキ
59	13	61	SRI2	陶文土器	浅鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR5/3) 内:灰褐色(10YR5/3)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、鹿消焼穴向火、 内:ミガキ
59	14	61	SRI10	陶文土器	浅鉢	後期		外:褐色(10YR4/1) 内:浅褐色(10YR5/1)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、鹿消焼穴向火、 内:ミガキ
59	15	61	II層	陶文土器	浅鉢	後期		外:黑褐色(25Y3/1) 内:灰褐色(10YR5/1)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、灰褐色、 内:ミガキ
59	16	61	II層	陶文土器	浅鉢	後期		外:黄褐色(25Y5/3) 内:明褐色(25Y4/2)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、灰褐色、 内:ミガキ
59	17	61	SRI10	陶文土器	浅鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR6/3) 内:にじ、黒褐色(10YR7/3)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、鹿消焼穴向火、燒接痕跡丸、 内:ミガキ
59	18	61	II	陶文土器	齊または 注口	後期		外:にじ、黒褐色(10YR6/3) 内:浅褐色(25Y7/4)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、灰褐色文、 内:ナデ
59	19	61	SRI3	陶文土器	鉢	後期		外:褐色(10YR5/1) 内:浅褐色(10YR5/1)	砂粒少量化含む	外:浅褐色、ケズリ模様、 内:ナデ
59	20	61	SRI10	陶文土器	鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR6/4) 内:オーリーブ色(5Y9/3)	砂粒少量化含む	外:鹿消焼穴向火、ミガキ、 内:口縁に削痕跡の有り、ミガキ
59	21	61	SRI3	陶文土器	浅鉢	後期		外:灰褐色(10YR5/2) 内:にじ、黒褐色(10YR6/3)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、鹿消焼穴向火、 内:ミガキ
59	22	61	SRI2	陶文土器	鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR6/4) 内:にじ、黒褐色(10YR7/4)	砂粒少量化含む	外:口縁付、ミガキ、 内:ミガキ
59	23	61	SRI2	陶文土器	鉢	後期		外:褐色(7Y3/6) 内:にじ、黒褐色(10YR6/4)	砂粒少量化含む	外:口縁付、ナデ、RL 内:巻貝壳面後ナデ
59	24	61	SRI10	陶文土器	深鉢	後期		外:にじ、黑褐色(10YR6/3) 内:灰褐色(10YR7/3)	砂粒少量化含む	外:ナデ 内:口縁付
59	25	61	II層	陶文土器	鉢	後期		外:にじ、黑褐色(10YR7/3) 内:灰褐色(10YR5/3)	砂粒少量化含む	外:口縁付、ミガキ 内:灰褐色表面斑状ナデ、複位の集落
59	26	61	SRI3	陶文土器	鉢	後期		外:にじ、黑褐色(10YR6/3) 内:暗褐色(25Y5/2)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、 内:ミガキ
59	27	61	II層	陶文土器	鉢	後期		外:にじ、黑褐色(10YR6/4) 内:褐色(10YR4/1)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、 内:ミガキ
59	28	61	SRI1	陶文土器	深鉢か	後期		外:褐色(7Y3/6) 内:褐色(7Y3/6)	砂粒少量化含む	外:二枚貝壳面後ナデ、 内:ナデ
59	29	61	SRI2	陶文土器	鉢	後期		外:灰褐色(5Y5/1) 内:灰褐色(5Y6/2)	砂粒少量化含む	外:ミガキ、 内:ナデ
59	30	61	SRI2	陶文土器	中後期			外:褐色(10YR5/1) 内:浅褐色(10YR8/1)	砂粒少量化含む	外:複屈曲状(LRLRL?) 内:ナデ
59	31	61	SRI10	陶文土器	中後期			外:浅褐色(10YR8/4) 内:灰褐色(10YR7/4)	砂粒少量化含む	外:直角状表面剥離、RL 内:直角状表面剥離
59	32	61	II層	陶文土器	中後期			外:にじ、黒褐色(10YR6/4) 内:にじ、黒褐色(10YR6/4)	砂粒少量化含む	外:複屈曲状(LRLRL) 内:二枚貝壳面
59	33	61	SRI2	陶文土器	中後期			外:にじ、黒褐色(25Y5/3) 内:浅褐色(25Y8/2)	砂粒少量化含む	外:前筋反張部(=LRLRL?) 内:ナデ
59	34	61	SRI10	陶文土器	中後期			外:明褐色(10YR7/2) 内:明褐色(10YR7/2)	砂粒少量化含む	外:二枚貝壳面、LR 内:二枚貝壳面
59	35	61	SRI10	陶文土器	深鉢	後期	口沿D10.1	外:にじ、黒褐色(10YR6/3) 内:にじ、黒褐色(10YR6/3)	砂粒少量化含む	外:ナデ、卷貝壳面
59	36	62	II層	陶文土器	鉢	後期	口沿D20.0	外:オーリーブ色(5Y7/1) 内:にじ、黒褐色(10YR6/4)	砂粒少量化含む	外:卷貝壳面、ナデ 内:卷貝壳面後ナデ
59	37	61	SRI3	陶文土器	後期?			外:褐色(7Y3/6) 内:褐色(7Y3/6)	砂粒多く含む	外:LR 内:卷貝壳面
59	38	61	SRI10	陶文土器	後期			外:にじ、黒褐色(10YR6/3) 内:にじ、黒褐色(10YR6/3)	砂粒少量化含む	外:卷貝壳面、ナデ 内:卷貝壳面後ナデ
59	39	61	II層	陶文土器	後期			外:にじ、黒褐色(10YR6/4) 内:褐色(10YR5/1)	砂粒少量化含む	外:ナデ、 内:ナデ
59	40	61	SRI10	陶文土器	後期			外:褐色(7Y3/6) 内:灰褐色(10YR5/2)	砂粒少量化含む	外:LR 内:卷貝壳面
59	41	61	SRI10	陶文土器	浅鉢	後期		外:灰褐色(10YR4/2) 内:深褐色(5Y4/1)	砂粒少量化含む	外:RL 内:ミガキ
59	42	61	SRI2	陶文土器	鉢か	後期		外:灰褐色(10YR4/2) 内:にじ、黒褐色(10YR7/6)	砂粒少量化含む	外:RL 内:ミガキ
59	43	61	SRI10	陶文土器	注口または 窓	後期		外:黄褐色(25Y5/3) 内:にじ、黒褐色(10YR7/6)	砂粒少量化含む	外:複屈曲状、 内:ミガキ
59	44	61	SRI10	陶文土器	浅鉢か	後期		外:浅褐色(10YR8/4) 内:褐色(10YR7/6)	砂粒少量化含む	外:ナデ、切削または削(=RL) 内:ミガキ
59	45	62	SRI3	陶文土器	深鉢	後期		外:浅褐色(10YR8/4) 内:褐色(10YR7/6)	砂粒少量化含む	外:ナデ、鹿消焼穴向火、對向側文記 内:卷貝壳面、ナデ
59	46	62	II層	陶文土器	深鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR6/4) 内:浅褐色(25Y7/6)	砂粒少量化含む	外:卷貝壳面後ナデ 内:卷貝壳面
59	47	62	II層	陶文土器	深鉢	後期		外:にじ、黒褐色(10YR2/4) 内:浅褐色(25Y7/6)	砂粒少量化含む	外:卷貝壳面 内:卷貝壳面
59	48	62	SRI2	陶文土器	深鉢	後期		外:浅褐色(25Y7/3) 内:浅褐色(25Y7/3)	砂粒少量化含む	外:ナデ
59	49	62	II層	陶文土器	深鉢	後期		外:褐色(5Y4/1) 内:褐色(5Y4/1)	砂粒少量化含む	外:ナデ、 内:ナデ
60	1	62	II層	陶文土器	深鉢	後期		外:灰褐色(10YR5/2) 内:にじ、黒褐色(10YR7/6)	砂粒少量化含む	外:口縁削痕、ナデ 内:ナデ
60	2	62	II層	陶文土器	深鉢	後期		外:黒褐色(7Y3/1) 内:にじ、黒褐色(10YR7/2)	砂粒少量化含む	外:ナデ 内:ナデ

件目 番号	遺物 番号	出土遺構 部位	種別	直径	分類	法面(cm)	色調	地土	文様・調整等の他
60	3	62	SRO3	陶文土器	深鉢	後施期	外:にじや朱色(10YR7/4) 内:にじや朱色(10YR5/3)	砂粒少量化	外:巻貝系痕ナデ 内:巻貝系痕ナデ
60	4	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:暗赤黄(2.5YR3/2) 内:暗赤黄(2.5YR3/2)	砂粒少量化	外:二枚貝系痕 内:ナデ 口沿内縁
60	5	62	II層	陶文土器			外:にじや朱色(10YR6/4) 内:暗赤色(10YR7/6)	砂粒少量化	外:巻貝系痕ナデ 内:ナデ 口唇平坦面
60	6	62	II層	陶文土器	鉢か	後施期	外:にじや朱色(10YR6/2) 内:灰褐色(10YR4/2)	砂粒少量化	外:ナデ 口唇平坦面 内:ナデ 口唇平坦面
60	7	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:黄褐色(10YR5/9) 内:浅黄色(2.5YR4/4)	砂粒少量化	外:巻貝系痕ナデ 内:巻貝系痕ナデ
60	8	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:灰褐色(10YR4/2) 内:にじや朱色(10YR5/4)	砂粒少量化	外:ナデ 内:巻貝系痕ナデ
60	9	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:浅黄色(7.5YR8/6) 内:にじや朱色(10YR6/4)	砂粒少量化	外:ナデ 内:ナデ 口唇先端
60	10	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:にじや朱色(10YR6/4) 内:灰褐色(10YR7/4)	砂粒少量化	外:巻貝系痕ナデ 内:ナデ 口唇先端
60	11	62	II層	陶文土器	深鉢	後施期	外:にじや朱色(10YR7/4) 内:にじや朱色(10YR6/4)	砂粒少量化	外:二枚貝系痕ナデ 内:ナデ 口唇先端
60	12	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:にじや朱色(10YR6/4) 内:灰褐色(10YR6/6)	砂粒少量化	外:ナデ (土痕?) 内:二枚貝系痕ナデ 口唇内縁
60	13	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:にじや朱色(10YR5/3) 内:灰褐色(10YR4/2)	砂粒少量化	外:巻貝系痕ナデ 内:巻貝系痕ナデ 口唇内縁
60	14	62	II層	陶文土器	浅鉢	後施期	外:暗赤黄(2.5YR3/2) 内:暗赤黄(2.5YR3/2)	砂粒少量化	外:ミガキ 内:ミガキ
60	15	62	II層	陶文土器	浅鉢	後施期	外:灰褐色(10YR4/2) 内:灰褐色(10YR5/2)	砂粒少量化	外:ミガキ 内:ミガキ 口唇平坦面
60	16	62	SRO1	陶文土器	浅鉢	後施期	外:暗赤黄(2.5YR3/2) 内:灰褐色(10YR7/4)	砂粒少量化	外:ミガキ 内:ミガキ
60	17	62	SRO2	陶文土器	浅鉢	施期	外:暗赤黄(2.5YR4/2) 内:暗赤黄(2.5YR4/3)	砂粒少量化	外:ミガキ 内:ミガキ
60	18	62	SRO10	陶文土器	浅鉢	施期	外:にじや朱色(7.5YR4/4) 内:灰褐色(2.5YR5/2)	砂粒微量含む	外:ミガキ 内:ミガキ
60	19	62	SRO2-4	陶文土器	鉢?	施期	外:にじや朱色(10YR5/3) 内:にじや朱色(10YR5/3)	砂粒微量含む	外:ミガキ 四瓣文 内:巻貝系痕
60	20	62	SRO3	陶文土器	深鉢	後施期	外:灰褐色(7.5YR4/2) 内:暗赤色(7.5YR4/1)	砂粒微量含む	外:ナデ 内:条状 溶け不明
60	21	62	SRO3	陶文土器	深鉢	施期	外:暗赤色(10YR4/1) 内:灰褐色(2.5YR4/2)	砂粒少量化	外:ナデ 口縁肥厚(下端剥落)、沈縫 内:ナデ
60	22	62	SRO1	陶文土器	深鉢	施期	外:にじや朱色(10YR5/4) 内:灰褐色(2.5YR4/2)	砂粒微量含む	外:ナデ 口縁肥厚(下端剥落)、斜行:斜下下端 内:ナデ
60	23	62	SRO3	陶文土器	深鉢	後施期	底径9.0 外:にじや朱色(10YR6/4) 内:にじや朱色(10YR6/4)	砂粒少量化	外:ナデ 内:ナデ
60	24	62	SRO1	陶文土器	深鉢	後施期	底径8.0 外:暗赤黄(2.5YR4/4) 内:暗赤黄(2.5YR6/6)	砂粒微量含む	外:ナデ 内:ナデ 底面庄周多
60	25	62	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	底径7.0 外:暗赤黄(2.5YR6/6) 内:にじや朱色(7.5YR6/4)	砂粒微量含む	外:ナデ 内:ナデ
60	26	63	SRO2	陶文土器	深鉢	後施期	外:にじや朱色(10YR6/4) 内:暗赤黄(2.5YR6/6)	砂粒少量化	外:ナデ 内:質地条件 底面不調整
60	27	63	SRO1	陶文土器	深鉢	後施期	底径6.9 外:浅黄色(10YR5/3) 内:浅黄色(10YR5/3)	砂粒多く含む	外:ナデ 内:ナデ
60	28	63	SRO10	陶文土器	深鉢	後施期	底径4.0 外:暗赤黄(2.5YR6/6) 内:暗赤黄(2.5YR6/6)	砂粒微量含む	外:ナデ 内:質地条件
60	29	63	II層	陶文土器	深鉢	後施期	底径3.9 外:暗赤黄(2.5YR6/6) 内:にじや朱色(10YR6/4)	砂粒少量化	外:ナデ 内:ナデ 菱台状の底部
60	30	63	SRO10	陶文土器	深鉢	後施期	底径3.9 外:暗赤黄(2.5YR7/0) 内:オーリーバー色(10YR3/4)	砂粒少量化	外:ナデ 内:ナデ 菱台状の底部
60	31	63	SRO10	陶文土器	浅鉢	後施期	底径7.2 外:暗赤黄(2.5YR7/0) 内:オーリーバー色(10YR4/1)	砂粒少量化	外:ミガキ ナデ 内:ミガキ 菱台状の底部
60	32	63	SRO1	陶文土器	深鉢	後施期	底径12.0 外:オーリーバー色(7.5YR4/6) 内:オーリーバー色(7.5YR4/1)	砂粒少量化	外:ミガキ 内:ナデ 菱台状の底部
60	33	63	II層	陶文土器	浅鉢か	後施期	底径12.4 外:暗赤黄(2.5YR7/0) 内:オーリーバー色(10YR4/1)	砂粒多く含む	外:ナデ 内:ミガキ
60	34	63	SRO2	陶文土器	浅鉢	後施期	底径11.0 外:暗赤黄(2.5YR7/0) 内:暗赤色(2.5YR4/1)	砂粒多く含む	外:ナデ 内:ナデ 菱台状の底部
60	35	63	II層	陶文土器	浅鉢	後施期	底径11.6 外:暗赤色(2.5YR7/0) 内:オーリーバー色(7.5YR4/1)	砂粒微量含む	外:ナデ 内:ナデ
60	36	63	II層	陶文土器	浅鉢	後施期	底径11.6 外:暗赤色(2.5YR7/0) 内:オーリーバー色(7.5YR4/1)	砂粒微量含む	外:ミガキ ナデ 内:ミガキ

石器・玉類

件目 番号	遺物 番号	出土遺構 部位	種別	直径・分類	法面(cm)	重量(g)	石材	備考
61	1	63	SRO1	石器	石核	長さ1.6 幅1.5 厚さ0.3	0.6	サヌカイト 両面中央部に大きな剝離
61	2	63	II層	石器	石核	長さ2.1 幅1.2 厚さ0.4	0.67	サヌカイト 反対の面中央部に大きな剝離
61	3	63	II層	石器	石核 (未成品)	長さ1.9 幅1.4 厚さ0.3	0.52	サヌカイト 両面とも同様的な剝離、縁辺に小さな剝離
61	4	63	SRO10	石器	石核 (未成品)	長さ1.7 幅1.25 厚さ0.3	0.64	サヌカイト 先端欠損後再加工(未完成)、反対面中央部に大きな剝離
61	5	63	II層	石器	石核	長さ2.2 幅2.0 厚さ0.2	0.74	サヌカイト 下部欠損 両面とも簡単な調整剝離
61	6	63	SRO2	石器	石核 (未成品)	長さ2.6 幅1.9 厚さ0.45	1.95	黒曜石 先端製作時で欠けた基部に後加工
61	7	63	SRO2	玉類	勾玉		1.32	全面平仕上げ 片面鏡面
61	8	63	SRO2	石器	刃器	長さ5.1 幅0.9 厚さ0.9	49.0	サヌカイト 両面刃部調整剝離 基部は折断か(打点みえない)
61	9	63	SRO10	石器	石核	長さ2.7 幅1.3 厚さ0.5	17.03	サヌカイト 左面下側面に擦痕
61	10	63	SRO1	石器	石核 (残核)	長さ3.3 幅0.8 厚さ0.6	10.26	サヌカイト 上端磨削面

箇号	遺物	出所	出土遺構 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	石材	備考	
61	11	63	SRI0	石器	使用痕のある 刮片	長さ2.2 幅3.3 厚さ0.7	848	サヌカイト	下端に研磨削面		
61	12	63	SRI0	石器	磨削石片	長さ(1.1) 幅2.5 厚さ1.3	(84.0)	磨基片岩	刃部欠損、両面に研磨痕、刮打痕わざりに弱る		
61	13	63	SRO2	石器	磨削石片	長さ(0.2) 幅4.4 厚さ2.4	(104.0)	磨基性片岩	全表面に磨痕、両面に研磨痕、刮打痕わざりに弱る		
61	14	63	II層	石器	磨削石片	長さ(1.2) 幅5.0 厚さ3.8	(422.0)	磨基片岩	大部に研磨、右側と側面に刮打痕、刮磨痕残る		
61	15	63	II層	石器	磨削石片	長さ(0.1) 幅4.6 厚さ2.0	(124.0)	磨基性片岩	研磨、調整削面・刮打痕残る		
61	16	63	II層	石器	磨削石片	長さ(7.3) 幅(5.4) 厚さ1.5	(87.0)		片面大部分に研磨痕、刃部他一面に研磨痕		
61	17	64	II層	石器	磨削石片	長さ17.0 幅5.4 厚さ3.8	515.0		真理?	全面に研磨痕、刃部他一面に研磨痕	
61	18	64	SRO2	石器	磨削石片 (未完成品)	長さ1.9 幅5.1 厚さ3.7	530.0	磨基性片岩	両面と側縁間に研磨痕、側面に研磨痕		
62	1	64	SRI01	石器	磨削石片 (未完成品)	長さ14.7 幅5.3 厚さ(3.8)	462.0	磨基性片岩	片面に部分的に研磨痕、下端削面		
62	2	64	SRI0	石器	磨削石片 (未完成品)	長さ(13.2) 幅7.0 厚さ5.3	(930.0)	磨基性片岩	左側・大部に研磨痕、右側・中央部に大きな剝離面、左側縁に削面、右側縁・刃部に調整削面		
62	3	64	II層	石器	磨削石片 (未完成品)	長さ(1.0) 幅6.6 厚さ4.1	(690.0)	磨基性片岩	全面に研磨面、刃部に調整削面、一部に研磨痕残る		
62	4	64	SRI0	石器	磨削石片 (未完成品)	長さ(1.86) 幅6.6 厚さ5.3	(1,400)	磨基性片岩	全面に研磨痕、部分的に研磨痕、刃部に研磨痕		
62	5	64	SRI01	石器	磨削石片 (未完成品)	長さ21.5 幅6.2 厚さ5.3	1,400	磨基性片岩	両面に大きな剝離面、側面に削面、刃部に調整削面		
62	6	65	SRI01	石器	磨削石片	長さ18.8 幅5.5 厚さ3.8	392.0	磨基性片岩	両面に研磨面する、全面に研磨痕、刃部に研磨痕や削面、研磨面として使用か?		
63	1	65	SRI0	石器	磨削石片 (未完成品)	長さ17.7 幅5.9 厚さ3.7	575.0	磨基性片岩	両面に研磨痕あり、刃部に研磨痕		
63	2	65	SRI0	石器	磨削石片	長さ13.7 幅6.0 厚さ4.5	(665.0)	磨基性片岩	刃部に調整削面、他は全面に敲打痕		
63	3	65	II層	石器	磨削石片	長さ(1.0) 幅4.1 厚さ2.5	(122.0)	真理?	片面削痕、片面削面、刃部欠損		
63	4	65	II層	石器	打削石片 (削面未完成?)	長さ(17.0) 幅7.1 厚さ5.1	(905.0)	磨基性片岩	両面に大きな剝離面、縁辺に研磨削面		
63	5	65	II層	石器	打削石片 (削面未完成?)	長さ(7.0) 幅4.4 厚さ2.1	(116.0)	磨基性片岩	片面中央部に研磨面、縁辺に調整削面、削打面		
63	6	65	II層	石器	石片 (未完成品)	長さ(12.3) 幅5.5 厚さ2.7	(164.0)	磨基性片岩	両面に研磨面、刃部に研磨削面、一部に研磨削面		
63	7	65	SRO2	石器	石片 (未完成品)	長さ13.3 幅5.3 厚さ3.3	238.0	磨基性片岩	両面に研磨面、刃部に研磨削面、研磨		
63	8	65	SRI0	石器	石片 (未完成品)	長さ16.2 幅4.2 厚さ3.1	(248.0)	磨基性片岩	両面大部分に研磨面、片面削面は研磨削面、刃部欠損		
64	1	65	SRI01	石器	打削石片	長さ(13.1) 幅2.2 厚さ5.5	705.0	磨基性片岩	片面に部分的に研磨面、縁辺に研磨削面		
64	2	66	II層	石器	打削石片	長さ20.8 幅6.6 厚さ2.8	525.0	磨基性片岩	大部が調整削面、刃部一部削面(使用痕)		
64	3	66	SRI0	石器	打削石片	長さ13.4 幅7.1 厚さ3.5	424.0	磨基性片岩	両面に大きな剝離面、刃部、側面に調整削面		
64	4	66	II層	石器	打削石片	長さ(13.9) 幅9.1 厚さ2.7	(515.0)	磨基性片岩	刃部削り・Y再調整、両面大きな剝離面		
64	5	66	SRI0	石器	鉈	長さ11.0 幅6.0 厚さ5.3	700.0		端部一方に打痕		
64	6	66	SRI0	石器	鉈	長さ12.8 幅11.6 厚さ4.3	690.0		全面平滑、使用痕が否か不明		
64	7	66	II層	石器	鉈	長さ10.1 幅12.4 厚さ5.8	1,200		全面平滑、中央部顯著な平滑		
65	1	67	II層	石器	鉈	長さ12.4 幅7.8 厚さ2.6	640.0		全面平滑、自然の可能性もあり		
65	2	67	SRO2	石器	鉈	長さ14.5 幅11.8 厚さ3.9	540.0	三面削石	両端部打ち欠き		
65	3	67	SRI0	石器	鉈石	長さ18.1 幅5.2 厚さ4.5	655.0		両端部に打痕		
65	4	67	SRI0	石器	鉈石	長さ16.9 幅15.9 厚さ5.9	1,150	三面削石	凹み3か所あり、全面滑らか		
弥生土器・土師器・須恵器											
箇号	遺物	出所	出土遺構 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調査・その他	
65	5	67	II層	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:にじ・黄褐色(10YR7/4) 内:にじ・青褐色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外:ミガキ、絞		
65	6	67	SRI0	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:青褐色(10YR7/4) 内:淡褐色(25YR7/4)	砂粒少量含む	外:洗面・青繩子文・羽状文(二枚貝模様) 内:ハバメ、ナデ		
65	7	67	II層	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:にじ・青褐色(10YR7/4) 内:にじ・暗褐色(5YR5/4)	砂粒少量含む	外:ハバメ、ナデ		
65	8	67	SRI01	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:青褐色(10YR7/4) 内:にじ・黄褐色(10YR7/4)	砂粒微量含む	外:ハバメ		
65	9	67	SRI0	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:にじ・黄褐色(10YR7/4) 内:にじ・黄褐色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外:大部白、ヘバヅキ洗面文、ハケ文		
65	10	67	SRI0	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:にじ・青褐色(10YR7/3) 内:灰褐色(10YR6/2)	砂粒少量含む	内:ハバメ、ナデ		
65	11	67	SRI0	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:にじ・黄褐色(10YR7/3) 内:灰褐色(10YR6/2)	砂粒少量含む	外:ヘバヅキ洗面文1条以上		
65	12	68	SRO2	弥生土器	壺	石見I-2様式	外:褐色(10YR6/4) 内:褐色(10YR6/4)	砂粒少々含む	内:ハバメ		
65	13	68	SRI0	弥生土器	壺	石見N-2様式	外:浅褐色(2.5Y7/4) 内:淡褐色(10YR6/2)	砂粒少量含む	外:ココナデ		
65	14	68	II層	弥生土器	壺?	石見N-2様式	外:にじ・黄褐色(10YR7/3) 内:にじ・黄褐色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外:ココナデ		
65	15	68	SRI01	弥生土器	底部	石見I様式	外:褐色(2.5Y6/4) 内:深褐色(7.5YR5/2)	砂粒多く含む	外:ハバメ、ナデ 内:ナデ		

所蔵 番号	物語 番号	出土地 名	出土層 位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・調整・その他
65	16	68	SRI0	弥生土器	無縫壺	石見II-1様式	口径(20.5)	外:にじ・黒褐色(1097/4) 内:にじ・黒褐色(1097/4)	砂粒少含む	外:口掛格子文・円周浮出・刻印庚寅3条 内:ナデ、ミガキ
65	17	68	SRI01	弥生土器	台付鉢?	石見IV-2式	口径(20.0)	外:灰褐色(1097/4) 内:灰褐色(1097/4)	砂粒多く含む	外:口掛格子文1条、彌部刺突文・巴紋11条以上 内:ナデ、ミガキ
65	18	68	SRI0	弥生土器	高环	石見IV-2様式	底径(18.1)	外:灰褐色(1098/4) 内:灰褐色(1098/4)	砂粒少含む	外:口掛格子文2条、彌部刺突文・巴紋11条以上 内:ナデ、ミガキ
65	19	68	SRI01	弥生土器	壺	石見V-1様式	口径(18.0)	外:灰褐色(1098/3) 内:灰褐色(1098/3)	砂粒多く含む	外:口掛格子文1条、彌部刺突文・クシ状工具 内:ハメテ、ナデ、ケズリ
65	20	68	SRI01	弥生土器	壺	石見V-1様式	口径(15.8)	外:灰褐色(1098/3) 内:灰褐色(1098/3)	砂粒少含む	外:口掛格子文3条、ナデ
65	21	68	SRI03	弥生土器	壺	石見V-3様式	口径(17.2)	外:灰褐色(1098/3) 内:にじ・黒褐色(1097/3)	砂粒少含む	外:口掛格子文13条 内:ミナディ、ズリ
65	22	68	SRI01	弥生土器	壺	石見V-2様式	口径(16.8)	外:褐褐色(1098/2) 内:灰褐色(1098/2)	砂粒多く含む	外:口掛格子文1条、彌部沈追1条 内:ミナディ、ズリ
65	23	68	II層	土師器	低脚升か	吉備時代初期 新潟県2	底径(4.4) 高さ(2.5)	外:灰褐色(1098/3) 内:灰褐色(1098/3)	砂粒少含む	外:ミナディ
65	24	68	II層	土師器	壺	吉備時代初期	口径(14.6)	外:灰褐色(1098/2) 内:灰褐色(1098/2)	砂粒少含む	外:ミナディ、ハメテ 内:ミナディ、ケズリ
65	25	68	SRI01	土師器	壺	吉備時代中期	口径(15.3)	外:にじ・黒褐色(1097/3) 内:にじ・黒褐色(1097/3)	砂粒少含む	外:ミナディ
66	1	68	II層	土師器	壺	I C b	口径(12.4)	外:灰褐色(1098/4) 内:灰褐色(1098/4)	砂粒少含む	外:ミナディ、ハメテ後ナデ 内:ハメテ、ナデ、ケズリ
66	2	68	II層	土師器	壺	I C b	口径(16.4)	外:褐褐色(1096/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒少含む	外:ミナディ
66	3	68	SRI01	土師器	壺	II B	口径(17.6)	外:にじ・黒褐色(1097/3) 内:にじ・黒褐色(1097/4)	砂粒少含む	外:ミナディ、ケズリ
66	4	68	II層	土師器	壺	II A a	口径(24.3)	外:にじ・黒褐色(1097/3) 内:灰褐色(1097/3)	砂粒少含む	外:ミナディ、ハメテ 内:ミナディ、ハメテ
66	5	68	II層	土師器	壺	II B	口径(22.0)	外:灰褐色(1097/4) 内:にじ・黒褐色(1097/4)	砂粒少含む	外:ミナディ、ナデ
66	6	68	II層	土師器	壺	II B	口径(25.2)	外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒多く含む	外:ミナディ、ズリ
66	7	68	II層	土師器	壺	II A a	口径(12.8)	外:にじ・黒褐色(1097/4) 内:にじ・黒褐色(1097/4)	砂粒少含む	外:ミナディ、ハメテ
66	8	68	SRI01	土師器	罐	II	口径(11.0) 高さ(1.2)	外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1096/6)	砂粒少含む	外:ミナディ
66	9	69	II層	土師器	小型壺			外:黑褐色(2.3Y3/1) 内:黑褐色(2.3Y3/1)	砂粒少含む	外:ミナディ 内:ケズリ
66	10	69	II層	土師器	罐	II	口径(16.2) 高さ(5.0)	外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒少含む	外:ミナディ、ミガキ 内:ハメテ、ナデ、平底
66	11	68	SRI02	土師器	高环	a 1		外:にじ・黒褐色(1097/4) 内:にじ・黒褐色(1097/4)	砂粒微含む	外:ミナディ 内:ミカカ
66	12	68	II層	土師器	高环	a 1		外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒微含む	外:ミナディ 内:ミカカ
66	13	69	II層	土師器	高环	a 2		外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒微含む	外:ミナディ 内:ミカカ
66	14	68	SRI02	土師器	高环	A b 1		外:褐褐色(1097/6) 内:にじ・黒褐色(1097/4)	砂粒少含む	外:ミナディ、ハメテ 内:ケズリ
66	15	69	SRI01	土師器	高环	A		外:灰褐色(3.7Y6/6) 内:明黄褐色(1097/6)	砂粒微含む	外:ハメテ 内:ケズリ
66	16	69	II層	土師器	高环	B b 2	底径(11.1)	外:灰褐色(1097/6) 内:灰褐色(1097/6)	砂粒少含む	外:ミナディ 内:ケズリ後ナデ
66	17	70	II層	土師器	高环	C c	底径(6.0)	外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒少含む	外:ハメテ 内:ミカカ
66	18	70	SRI04	土師器	高环	C C	底径(5.8)	外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒少含む	外:ミナディ 内:ミカカ
66	19	69	II層	土師器	土製支撑	底径(10.6)	外:灰褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒少含む	外:ミナディ 内:ケズリ	
66	20	69	II層	土師器	把手手	高3.5 直径3.8 厚さ1.4	口径(10.6)	外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒微含む	外:ケズリ 内:ハメテ
66	21	69	SRI03	土師器	把手手	高3.9 厚1.9		外:にじ・黒褐色(1097/4) 内:にじ・黒褐色(1097/4)	砂粒微含む	外:ナデ 内:ハメテ
66	22	69	II層	土師器	土製支撑	厚径10.3 厚さ1.4 × 4		外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒少含む	ナデ、施押庄底
66	23	69	SRI02	土師器	土製支撑	厚さ3.3 × 3		外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒微含む	ナデ、施押庄底
66	24	69	II層	土師器	壺	底径(3.72)		外:灰褐色(1098/6) 内:灰褐色(1098/6)	砂粒少含む	ナデ、ミナディ 内:ケズリ
66	25	69	SRI01	土師器	高环	a 2 厚さ3.2 直径3.4 × 1.5		外:褐褐色(1098/6) 内:褐褐色(1098/6)	砂粒微含む	ナデ
66	26	69	II層	土師器	製塔子器	厚さ0.8		外:褐褐色(1097/6) 内:褐褐色(1097/6)	砂粒少含む	外:ナデ 内:ナデ、布庄底
66	27	69	II層	土師器	製塔子器	厚さ1.0		外:灰褐色(1098/6) 内:灰褐色(1098/6)	砂粒多く含む	外:ナデ 内:ナデ、布庄底
66	28	69	SRI01	須恵器陶像	壺			外:灰褐色(1097/1) 内:灰褐色(1097/1)	砂粒微含む	外:平打テキサ 内:ハメテ後底 施押庄底
67	1	70	II層	須恵器	壺	I B b	口径(16.0) 高さ(4.0)	外:灰褐色(1097/5) 内:灰褐色(1097/5)	砂粒少含む	外:ミカカ 内:ミカカ
67	2	70	SRI01	須恵器	容器?	I C d		外:灰褐色(1097/5) 内:灰褐色(1097/5)	砂粒多く含む	外:ミカカ 内:ミカカ
67	3	70	SRI03	須恵器	壺	I B 平	底径(2.4)	外:灰褐色(1097/1) 内:灰褐色(1097/1)	砂粒少含む	外:ミカカ 内:ミカカ
67	4	70	II層	須恵器	壺	I		外:灰褐色(1097/5) 内:灰褐色(1097/5)	砂粒微含む	外:ヒラヘアツリ 内:当底
67	5	70	II層	須恵器	壺	I B 平		外:オリーブ色(5G6/1) 内:灰褐色(2.5Y9/1)	砂粒少含む	外:田舎ナデ 内:田舎ナデ
67	6	70	SRI03	須恵器	甕	I A a	口径(12.5) 高さ(3.1)	外:灰褐色(1097/5) 内:灰褐色(1097/5)	砂粒多く含む	外:ミカカ 内:ミカカ
67	7	70	II層	須恵器	甕	I B C	口径(11.8) 高さ(2.9)	外:灰褐色(1097/5) 内:灰褐色(1097/5)	砂粒微含む	外:ミカカ 内:ミカカ
67	8	70	II層	須恵器	甕	I C c	口径(14.0) 高さ(4.1)	外:灰褐色(1097/5) 内:灰褐色(1097/5)	砂粒多く含む	外:田舎ナデ 内:田舎ナデ

箇号	物語 番号	回収 番号	出土場所 部位	種別	番種	分類	法量(cm)	色調	地土	文様・模様・その他	
67	9	70	SR02	須恵器	坪	I C c	口径(12.2) 内:灰褐色(25Y7/2) 灰黄色(25Y7/2)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	10	70	II層	須恵器	坪	I C c	口径(2.2) 内:灰褐色(10Y5/1) 灰黄色(10Y5/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	蓋の可塑性もあり	
67	11	70	SR02	須恵器	坪	I B a	口径(12.2) 内:灰褐色(6/6) 灰黄色(6/6)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口縁むきに留	
67	12	70	SR01	須恵器	坪	I D c 丸	口径(11.6) 内:灰褐色(15Y6/6) 灰黄色(10Y9/2)	砂粒少量化合C 内:灰褐色(15Y6/6)	外:回転ナデ、圓筒へケタズリ 内:回転ナデ		
67	13	70	SR02	須恵器	坪	I 平	底径(5.2) 内:灰褐色(6/6)	砂粒多く含む	外:回転ナデ、へき切り 内:回転ナデ	内面微射状にシワ(当真庭?)	
67	14	70	II層	須恵器	坪	I 丸	底径(6.4) 内:灰褐色(6/6)	白色地少量化 含む	外:回転ナデ、圓筒へカ切後ナデ 内:回転ナデ		
67	15	70	SR01	須恵器	坪	I 丸	底径(6.8) 内:灰褐色(3Y6/1) 灰黄色(3Y6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、圓筒へケタズリ 内:回転ナデ	蓋の可塑性もあり	
67	16	70	II層	須恵器	坪	I 平	底径(6.8) 内:灰褐色(6/6)	砂粒多く含む	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	17	71	SR01	須恵器	塗	II A a	口径(8.3) つまみ径(1.2) 内:灰褐色(25Y6/1) 灰黄色(25Y6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、圓筒へラケズリ、宝珠つまり 内:回転ナデ、ナデ		
67	18	71	SR02	須恵器	塗	II A	口径(8.0) 内:灰褐色(2.5Y6/1) 灰黄色(2.5Y6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ		
67	19	71	II層	須恵器	塗	II B b	口径(17.0) 番高(3.3) つまみ径(5.8)	砂粒少量化 内:灰褐色(6/6)	砂粒多く含む	外:回転ナデ、ラハ切り、自然地 内:回転ナデ	輪状つまり
67	20	71	II層	須恵器	塗	II C	口径(12.6) 内:青灰色(5S5/1) 暗青灰色(5B4/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口縁部三角形につまみ出し	
67	21	71	II層	須恵器	塗	II c	底径(9.1) 内:灰褐色(3Y6/1) 灰黄色(3Y6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、熱土系ナデ 内:ナデ	汁の可塑性もあり	
67	22	71	II層	須恵器	坪	III B b	底径(8.0) 内:灰褐色(2.5Y6/1) 灰黄色(2.5Y6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ		
67	23	71	SR02	須恵器	坪	III A a	口径(15.2) 番高(1.3) 内:灰褐色(2.5Y7/2) 灰黄色(2.5Y7/2)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ、ナデ、ヘラ切り		
67	24	71	II層	須恵器	坪	IV B	底径(11.0) 内:灰褐色(2.5Y7/2) 灰黄色(2.5Y7/2)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	低い台面	
67	25	71	SR01	須恵器	坪	IV B	底径(10.8) 内:灰褐色(2.5Y7/2) 灰黄色(2.5Y7/2)	砂粒少量化	外:回転ナデ、圓筒へアリ 内:回転ナデ		
67	26	71	II層	須恵器	坪	IV B	底径(9.6) 内:灰褐色(2.5Y5/1)	砂粒多く含む	外:回転ナデ、へき切り 内:回転ナデ、ナデ	低い台面	
67	27	71	II層	須恵器	坪	IV B	底径(9.2) 内:灰褐色(2.5Y5/1) 灰黄色(2.5Y5/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、圓筒へアリ 内:回転ナデ		
67	28	71	SR01	須恵器	坪	IV B	底径(9.2) 内:灰褐色(2.5Y5/1) 灰黄色(2.5Y5/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、圓筒へアリ 内:回転ナデ		
67	29	71	II層	須恵器	坪	V	底径(6.6) 内:灰褐色(2.5Y7/1) 灰黄色(2.5Y7/1) 一灰色(NG5/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ		
67	30	71	SR01	須恵器	坪	C	底径(5.7) 内:灰褐色(2.5Y7/1) 灰黄色(2.5Y7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	31	71	II層	須恵器	坪	VI	底径(7.4) 内:灰褐色(2.5Y7/1) 灰黄色(2.5Y7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、圓筒へアリ 内:回転ナデ		
67	32	71	II層	須恵器	坪	VI	底径(5.5) 内:灰褐色(2.5Y7/1) 灰黄色(2.5Y7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、圓筒へアリ 内:回転ナデ		
67	33	71	II層	須恵器	坪	C	口径(12.4) 内:オーリーフ(2.5G2/4GY6/1) 灰褐色(2.5G2/4GY6/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	高い台面の無不明	
67	34	71	SR01	須恵器	坪	a	口径(16.0) 内:灰褐色(2.5Y5/4) 明褐色(2.5Y5/4)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ		
67	35	71	SR01	須恵器	坪	b	口径(11.0) 内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ、範囲直 内:回転ナデ		
67	36	71	II層	須恵器	礫		内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	細い溝等	
67	37	71	SR02	須恵器	礫		内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ、カキメ 内:回転ナデ		
67	38	71	II層	須恵器	高坪	Ⅱ A	底径(13.0) 内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	39	71	SR02	須恵器	高坪		底径(8.4) 内:灰褐色(10Y0/2) 灰黄色(10Y0/2)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	40	70	SR01	須恵器	坪(腰付)		底径(10.0) 内:灰褐色(2.5Y7/1) 灰黄色(2.5Y7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	41	71	II層	須恵器	高坪	Ⅱ B	底径(10.0) 内:灰褐色(2.5Y7/1) 灰黄色(2.5Y7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	42	71	SR01	須恵器	高坪	Ⅱ B	底径(9.0) 内:灰褐色(2.5Y7/1) 灰黄色(2.5Y7/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ		
67	43	71	SR01	須恵器	高坪	Ⅱ B	底径(11.4) 内:灰褐色(4/4)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ	腰端部玉状	
67	44	71	II層	須恵器	礫	口径(10.3) 内:灰褐色(3Y5/1) 灰黄色(3Y5/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ	口縁半周面		
67	45	71	II層	須恵器	礫	口径(11.0) 内:灰褐色(3Y5/1) 灰黄色(3Y5/1)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	腰部に斜行するツワ		
67	46	71	II層	須恵器	礫	口径(10.4) 内:灰褐色(8/6) 灰黄色(8/6)	砂粒少量化	外:回転ナデ、自然地 内:回転ナデ	腰端平行タクタキ		
67	47	71	SR01	須恵器	礫	口径(10.4) 内:灰褐色(6/5) 灰黄色(6/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	当て具縫 口縁彫刻状		
67	48	71	II層	須恵器	礫	口径(10.4) 内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口縁折り返し状		
67	49	71	II層	須恵器	礫	口径(10.4) 内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口縁玉様		
67	50	71	II層	須恵器	礫	口径(10.4) 内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口縁ナデ		
67	51	71	II層	須恵器	礫	口径(10.4) 内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	自然地		
67	52	71	SR03	須恵器	短縄壺		内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒多く含む	外:回転ナデ 内:回転ナデ	自然地	
67	53	71	SR04	須恵器	壺		内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒多く含む	外:回転ナデ 内:回転ナデ	自然地	
67	54	71	II層	須恵器	壺	内:灰褐色(5/5) 灰黄色(5/5)	砂粒少量化	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口部平坦		

所蔵 番号	遺物 番号	出土地 名	出土遺構 層位	種別	断面	分類	注意(cm)	色調	地土	文様・調整・その他
67	55	71	II層	須恵器	壺			外:青灰(0.96±1) 内:灰白(0.85±1)	砂粒少含む	外:褐色(状) 単位 10×11 条。沈縫2条 内:ナデナデ
67	56	71	SRO3	須恵器	円形罐	口徑(16.8)		外:灰白色(2.07±2) 内:灰白色(1.90±2)	砂粒少含微青 む	内:底面墨痕 部不明
67	57	71	SRO1	須恵器	壺	口徑(24.0)		外:灰(0.97±2) 内:灰白(0.97±2)	砂粒微量含む	外:底面墨痕 单色 内:ナデナデ 玉縁状の口縁
68	1	72	II層	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナデナデ 自然地 内:ナデナデ 口縁玉縁状
68	2	72	II層	須恵器	壺	口徑(19.6)		外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナデナデ、直縁子及タキ 内:ナデナデ、心円内周青 口縁玉縁状
68	3	72	II層	須恵器	圓口壺	口徑(16.0)		外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒微量含む	外:ナデナデ 内:ナデナデ 口沿半圓
68	4	72	II層	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.94±1)	砂粒多く含む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:内出筋(輪) 輪狀(ひし)、ナデ
68	5	72	II層	須恵器	壺	直徑(10.0)		外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナデナデ、ナデ 内:ナデナデ 自然地
68	6	72	II層	須恵器	長頸壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナデナデ、自然地 内:ナデナデ、自然地 沈縫間に斜縫行沈縫
68	7	72	SRO1	須恵器	壺	直徑(19.2)		外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタ高行タキナ、ナデ 内:ナタ高行タキナ、自然地
68	8	72	II層	須恵器	壺	直徑(7.1)		外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナデナデ、ナデ 内:ナデナデ、ナデ
68	9	73	SRO1	須恵器	壺	直徑(9.6)		外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナデナデ、ナデ 内:ナデナデ、ナデ
68	10	72	II層	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナデナデ 内:ナデナデ 自然地
68	11	72-74	II層	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナデナデ 内:ナデナデ、ナデ
68	12	72	SRO1	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒微量含む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮)、ナデ
68	13	73	SRO1	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮)、ナデ
68	14	72	SRO1	須恵器	壺	口徑(38.4)		外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮)、ナデ 沈縫間に斜縫行子文
68	15	72	SRO1	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
68	16	72	SRO1	須恵器	壺			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
68	17	74	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒多く含む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	1	73	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	2	73	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	3	74	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	4	73	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	5	73	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	6	74	SRO3	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	7	74	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
69	8	73	II層	須恵器	瓶			外:灰(0.95±1) 内:灰白(0.95±1)	砂粒少含青 む	外:ナタタキ(縮)、ナデ 内:ナタタキ(縮) 沈縫間に斜縫行子文
所蔵 番号	遺物 番号	出土地 名	出土遺構 層位	種別	断面	分類	注意(cm)	色調	地土	文様・調整・その他
70	1	75	II層	中国白磁	碗	口折口縁	口徑(16.5)	透明地	白色	12C 後半～13C 前半
70	2	75	II層	中国白磁	碗	口折口縁		透明地	灰白色	12C 後半～13C 前半
70	3	75	II層	中国白磁	皿	大窄前口縁	口徑(7.0)	透明地	白色	口部 13C 後半～14C 前半
70	4	75	II層	中国白磁	皿?	森田口群 直徑(4.2)		透明地	灰黄色	萬台内無縫 15C
70	5	75	II層	中国白磁	皿	大窄前口縁	直徑(5.0)	透明地	灰白色	内面縫 地面割削 13C 前半～14C 前半
70	6	75	II層	中国白磁	皿	森田口群	直徑(6.1)	透明地	白色	内:基盤薄葉文 基面延び 16C
70	7	75	II層	中国白磁	坪	森田口群	直徑(6.2)	透明地	灰白色	16C
70	8	75	II層	中国白磁	坪	森田口群		透明地	灰白色	16C
70	9	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	大窄前口縁		青磁地	灰白色	輪廓升文 13C 前半
70	10	75	II層	龍泉窯系青磁	坪	大窄前口縁	口徑(13.2)	青磁地	灰白色	輪廓升文 11C 後半～13C 前半
70	11	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	上田口	直徑(11.0)	青磁地	灰色	輪廓升文 破壊 16C
70	12	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	上田口	直徑(12.0)	青磁地	灰色	片瀬蓮文 14C 後半～15C 前半
70	13	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	上田口	直徑(12.4)	青磁地	灰色	露文、縮の連文 15C
70	14	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	上田口	直徑(12.7)	青磁地	灰白色	内:刻花文 萩台内無縫 16C
70	15	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	大窄前口縁	直徑(13.0)	青磁地	灰色	内:刻花文 13C 後半～13C 前半
70	16	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	上田口	直徑(13.0)	青磁地	灰白色	外:露文 14C 後半～15C 前半

器物	通号	国宝 登録 番号	出土遺構 部位	種別	各種	分類	量式(cx)	色調	胎土	文様・調整・その他
70	17	75	II層	龍泉窯系青磁	罐			青磁釉	灰素白色	内:人形手 15C
70	18	75	II層	龍泉窯系青磁	罐			青磁釉	灰白色	外:片割連文 内:印花文 喜台内鉄の目地剥 15C
70	19	75	II層	龍泉窯系青磁	罐	口径(16.0)	青磁釉	灰白色	内:印紋 15C	
70	20	75	II層	龍泉窯系青磁	罐			青磁釉	灰白色	喜台内鉄剥 15~16C
70	21	75	II層	龍泉窯系青磁	罐			青磁釉	灰白色	内:花文「瓶」 喜台内鉄の目地剥 15C
70	22	75	II層	龍泉窯系青磁	罐	上田E 罐	口径(15.0)	青磁釉	灰白色	15C
70	23	75	II層	龍泉窯系青磁	罐	上田B IV層?	直径(4.8)	青磁釉	灰黄色	喜台内無施 16C
70	24	75	II層	龍泉窯系青磁	环		口径(11.0)	青磁釉	灰色	唯口環 15C
70	25	75	II層	龍泉窯系青磁	葵花口	口径(13.0) 直径(5.0)	青磁釉	淡灰褐色	内:沈金文 底面鉄剥 外:量付無施 15C後半~16C	
70	26	75	II層	龍泉窯系青磁	盤	直径(9.4)	青磁釉	灰黃白色	蓮瓣文 線 喜台内鉄 喜台後期	
70	27	75	II層	龍泉窯系青磁	盤			青磁釉	淡灰褐色	内:模文 中世後期
70	28	75	II層	龍泉窯系青磁	盤			青磁釉	中世後期	
70	29	75	II層	漳州窯系青花	皿	小野81群	直径(7.0)	透明釉、青料	灰白色	外:模文、脚子文か 内:二重團線、草花文 16C前半
70	30	75	II層	景德鎮窯系 青花	罐	口径(13.0)	透明釉、青料	灰白色	外:二重團線、梅月文 内:二重團線 16C	
70	31	75	II層	漳州窯系青花	皿	JB-2	口径(15.0)	透明釉、青料	灰白色	内:くすれた文様あり 17C前半
70	32	75	II層	漳州窯系青花	碗	直径(14.4)	透明釉、青料	淡灰色	外:台内無施 内:二重團線、蛇の目地剥 16C後半~17C初	
70	33	75	II層	景德鎮窯系 青花	环	口径(7.2)	透明釉、青料	白色	外:草花文 内:圓紋 16C後半	
70	34	76	II層	景德鎮窯系 青花	罐		透明釉、青料	白色	内:二重團線 16 C後半	
70	35	76	II層	中国青磁	罐			青磁釉	淡灰黃色	詳細不明 銘文の可能性もあり
70	36	76	II層	中国陶器	耳壺			暗緑	灰褐色	外:毛打村、被柄 内:当興底、ナフ 中世前半
70	37	76	II層	朝鮮陶器	刷毛捺粉青瓦			透明釉	淡灰黃色	外:毛毛瓦 15C後半~16C前半
70	38	76	II層	朝鮮陶器	灰青沙器皿	直径(4.4)	灰青釉	灰黃色	外:表面鉄5点 内:目地3点以上 15C後半~16C前半	
71	1	76	II層	輸入?陶器	菅笠			暗緑	灰色	外:2丁、格子状引き 内:2丁、当興
71	2	76	II層	瀬戸美濃	鋸目大器	直径(8.0)	灰釉	灰黃褐色	外:田代糸引 内:うろこ状の節目 内:無施	
71	3	76	II層	瀬戸美濃	皿	直径(10.0)	外:にぶい黄褐色(10YR7/2) 内:にぶい黄褐色(10YR7/1)	灰素白色	外:白地赤絵 内:無施 内:無施	
71	4	76	II層	備前	瓶	N/A	内:にぶい黄褐色(10YR7/2) 内:にぶい黄褐色(10YR7/1)	砂粒少量含む	外:垂露字 单位1条 4C後半	
71	5	76	II層	備前	瓶	直径(12.0)	内:灰褐色(5YR5/2)	砂粒少量含む	備目1単位2条以上	
71	6	76	II層	瓦岡土器	咎炉	口径(11.0) 番高4.6 直径(9.8)	外:赤褐色(10YR4/6) 内:灰褐色(5YR6/2)	砂粒微量含む	外:朱線、露文等、5字文様 中世後半	
71	7	76	II層	防長與瓦岡土器	瓶	内:浅灰色(5YR8/4)	砂粒微量含む	外:ハケメ 中世後半		
71	8	76	II層	防長與瓦岡土器	瓶	内:灰褐色(10YR8/2)	砂粒微量含む	外:裏面 内:屋目1単位6条以上 中世後半		
71	9	76	II層	防長與?瓦岡土器	瓶	内:浅灰色(7.5YR8/2)	砂粒微量含む	外:にぶい褐色(5YR7/4) 内:灰褐色(10YR8/2)		
71	10	77	II層	瓦岡土器	瓶	口径(27.0)	内:灰褐色(7.5YR2/1)	砂粒微量含む	砂粒や多く含む 外:裏面	
71	11	76	II層	瓦岡土器	火鉢	内:褐色(5YR6/4) 内:褐色(5YR6/6)	砂粒微量含む	砂粒少なくない 灰褐色	外:火鉢、南花庄灰 内:ハケメ、垂露字	
71	12	77	II層	瓦岡土器	钵	内:灰色(5YR1/1)	砂粒微量含む	外:ミカモ 内:当興底、ハケメ 時期不明		
71	13	76	SARQ	瓦岡土器	钵	口径(24.0)	内:黃褐色(2.5YR8/2)	砂粒微量含む	指揮庄底 ハケメ 玉口縁 中世前半	
71	14	76	II層	瓦岡土器	火鉢	内:褐色(2.5YR8/2) 内:褐色(10GRT/2)	砂粒微量含む	砂粒微量含む 灰白色	ハケメ 舌端半	
71	15	74	II層	瓦岡土器	皿か	口径(22.0) 番高5.8 直径(19.0)	内:灰褐色(10YR7/2) 内:褐色(5YR6/2)	灰白色	外:ヘラケツリ 時期不明	
71	16	77	II層	土師器	环	口径(13.0)	内:浅灰色(10YR8/3) 内:浅灰色(10YR8/3)	砂粒少量含む	褐色系土師器	
71	17	77	II層	土師器	哥介皿	直径(6.1)	内:浅灰色(2.5YR8/6) 内:浅灰色(2.5YR8/6)	砂粒微量含む	外:白乳出切り 褐色系土師器	
71	18	77	II層	土師器	皿	口径(11.0)	内:浅灰色(10YR8/4) 内:浅灰色(10YR8/4)	砂粒微量含む	褐色系土師器	
71	19	77	II層	土師器	环	口径(13.0)	内:黄褐色(3.5YR8/0) 内:褐色(5YR7/6)	砂粒微量含む	褐色系土師器	
72	1	77	II層	土師器	环	口径(12.0)	内:灰褐色(10YR8/2) 内:にぶい褐色(10YR7/3)	砂粒少量含む	内:白乳土師器	
72	2	77	II層	土師器	环	口径(10.0)	内:灰褐色(2.5YR8/2)	砂粒微量含む	内:白乳土師器	
72	3	77	II層	土師器	环	内:灰褐色(2.5YR8/2)	内:灰褐色(10YR8/1)	砂粒微量含む	内:白乳土師器	
72	4	77	II層	土師器	环	口径(12.0) 番高4.0 直径(5.4)	内:浅灰色(2.5YR8/3) 内:褐色(2.5YR8/3)	砂粒微量含む	内:白乳土師器	
72	5	77	II層	肥前系磁器	皿	JB-1-g	直径(4.2)	灰褐色	外:有之露文、二重團線 内:見込みに「寿」 文字 銘題なし。施釉 食器アルミナ7 19C 初葉	

件名	遺物	出土地	出土遺物 部位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
72	6	77	II層	肥前系陶器	丸形壺	JB-1	口径(13.0) 底径(8.8)	灰須、透明釉	灰白色	外: 三重輪内: 圓窓 16世紀~160年代初期 伊万里
72	7	77	II層	肥前系陶器	壺	TB-1-d	底径(8.8)	灰須、透明釉	灰白色	外: 二重輪内: 丸形窓、裏窓鉢「大明成化年製」、唐草文、虎子
72	8	77	II層	肥前系陶器	壺	JB-2-k	底径(4.7)	灰須、透明釉	灰白色	内: 二重輪内: 虎子文、虎頭輪鉢 豊竹山房作
72	9	77	II層	肥前系陶器	丸形壺	JB-2-e	口径(22.0)	灰須、透明釉	灰白色	内: 二重輪内: 虎子文、虎頭輪鉢 1640~50 年代以前
72	10	77	SRO2	肥前系陶器	丸形壺	JB-5-a	底径(11.0)	透明釉	白色	外: 二重輪内: 芙蓉文、虎頭輪鉢 1650 年代末~1670 年代
72	11	74	II層	肥前系陶器	壺	JB-6-b	底径(2.8)	灰須、透明釉	灰白色	外: 单文文、虎頭輪鉢 17C 中頃
72	12	77	II層	肥前系陶器	瓶(丸形 水滴)	JB-19		透明釉、色絞(赤色顔料)	白色	外: 波瀾文 18C 代
72	13	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-1	底径(8.8)	灰須、透明釉	にぶい褐色	高台内無釉 1610~1650 年代
72	14	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-1-a	底径(8.1)	透明釉	灰黄色	豊竹山房 1670 年代
72	15	77	II層	肥前系陶器	壺	TB-1	口径(15.0)	铁輪	灰色	豊竹山房 1610~1650 年代
72	16	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-2-a	口径(13.8)	綠絞(水端入り)、透明釉	灰黄色	内野山北(後期タイプ) 17C 後葉
72	17	78	II層	肥前系陶器	壺	JB-2-a	口径(15.2) 底高(3.7) 底径(2.2)	灰須、透明釉	白色	豊竹アミナゾ内: 那須伊万里 1630~50 年代相当
72	18	78	II層	肥前系陶器	丸形壺	TB-2	口径(10.6) 底高(3.5) 底径(4.4)	灰須、铁輪	淡褐色	列: ケズリ内: 花文、虎頭輪鉢 1594~1610 年代
72	19	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-2-k	口径(14.4) 底高(3.5) 底径(4.8)	灰須、透明釉	灰色	内: 单文文、虎の目輪鉢 1610~1650 年代
72	20	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-2-d	底径(4.6)	透明釉	灰黄色	内: 三重輪内: 虎頭輪鉢 1610~1650 年代
72	21	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-2-b	口径(13.0) 底高(2.7) 底径(4.6)	灰須	暗褐色	内: 三重輪内: 虎頭輪鉢 1610~1650 年代
72	22	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-2-b	口径(15.0)	铁輪	にぶい褐色	内: 目録点 2 点 1600~1650 年代
72	23	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-2-b	底径(6.2)	灰須	にぶい褐色	内: 目録点 2 点 1610~1650 年代
72	24	78	II層	肥前系陶器	丸形壺	TB-2	口径(12.0) 底高(3.4) 底径(4.6)	淡褐色	内: 单花文、底鉢 2 点 高台内無釉	
72	25	78	II層	肥前系陶器	火入れ	TB-9	底径(7.1)	灰須、铁輪	暗褐色	那 3 方 内: 目録点 3 点 1650~1690 年代
73	1	78	II層	肥前系陶器	火鉢	TB-9		白化粧土に透明感、綠絞	にぶい褐色	口田田川 2 点、別荘文 土井本原指揮 1650~90 年代
73	2	78	II層	肥前系陶器	火入れ	TB-9	口径(15.4)	白化粧土に透明感、铁輪	灰褐色	二彩 17C 後葉~18C 前半代
73	3	78	II層	肥前系陶器	香炉	TB-9	口径(10.6)	透明釉	灰褐色	17C 後葉~18C 前半代
73	4	78	II層	肥前系陶器	香炉	TB-9		白化粧	褐色	二次焼成 17C 中葉~18C 前半代
73	5	78	II層	肥前系陶器	壺	TB-15		褐色	剣足隆雲 17C 前半代	
73	6	79	II層	肥前系陶器	香か煙	TB-15		外: 灰褐色(7YR5/2) 内: 灰褐色(7YR5/2)	にぶい褐色	周期不明
73	7	79	II層	肥前系陶器	鐵鉢	TB-29	口径(24.0)	铁輪	にぶい褐色	内: 目録点 1 点 17C 前半代
73	8	79	II層	肥前系陶器	香か煙	TB-15	底径(20.4)	铁輪	灰赤色	外: ハタケナガテ内: 鹿床庄造 内: 当初段落で消し
73	9	79	II層	陶器	香か煙	TB-15		外: にぶい黄褐色(10YR5/3) 内: 暗褐色(10YR5/3)	砂粒少量含む 暗褐色	外: ナフ、タクタク痕むかに残る 内: ナフ、当周段残

瓦・土製品

石製品

測定番号	遺物番号	回収番号	出土遺構位置	種別	各種	法量(cm)	重量(g)	備考
75	7	79	II層	石製品	砥石	長さ4.0 幅2.9 厚さ0.6	8.3	両面に削痕 石耕の転用か
75	8	79	II層	石製品	砥石	長さ3.9 幅2.3 厚さ0.3	3.5	全面研磨痕
75	9	79	II層	石製品	砥石	長さ3.2 幅1.5 厚さ0.6	19.7	側面に刃削痕か、削痕
75	10	79	II層	石製品	砥石	長さ5.3 幅4.5 厚さ3.1	95.0	4面使用
75	11	79	II層	石製品	石塊			輕石(三瓶山)
75	12	79	II層	石製品	不明			全面非常に滑らか
76	1	80	II層	石製品	石臼(上臼)	径(39.9) 厚さ12.5		両方形の段入口、携手孔残存
76	2	80	II層	石製品	茎臼(下臼)	径(37.0)		外: 横凹の削痕 内: 横凹、横凸の削痕
76	3	80	II層	石製品	石塊	長さ29.6 幅25.7 厚さ17.7		中央に孔、輕石(三瓶山)

銅製品

測定番号	遺物番号	回収番号	出土遺構位置	種別	名稱	法量(cm)	重量(g)	備考
75	13	86	II層	鍛鋼	□元口貫	径・孔・不明 厚さ(0.7)	0.14	
75	14	86	II層	鍛鋼	所率貫	径2.37×2.36 孔0.66×0.6 厚さ0.08	2.01	
75	15	86	2区 503	鍛鋼	所率透貫	径2.47×2.19 孔0.67×0.62 厚さ0.11	1.71	
75	16	86	II層	鍛鋼	□□透口	径・孔・不明 厚さ(0.11)	(0.63)	

鉄器

測定番号	遺物番号	回収番号	出土遺構位置	種別	各種	法量(cm)	重量(g)	備考
73	24	84	II層	鉄製品	■	長さ(8.1) 幅3.3 厚さ0.3	(36.0)	相葉形・平造
73	25	84	II層	鉄製品	小札	長さ(2.9) 幅2.8 厚さ0.3	(7.09)	丸2.2列
73	26	84	II層	鉄製品	■	長さ(3.3) 幅1.9 厚さ0.4	(7.0)	基部
73	27	84	II層	鉄製品	刀子	長さ(1.65) 幅2.0 厚さ0.4	(26.0)	圓内闊
74	1	84	II層	鉄製品	■	長さ(10.5) 幅3.9 厚さ0.3	(41.86)	刃断面方形 鉄製標造品か
74	2	84	II層	鉄製品	不明	長さ(4.2) 幅1.75 厚さ0.5	(13.0)	刃先端
74	3	84	II層	鉄製品	■	長さ7.9 幅4.7 厚さ0.5	(45.77)	圓弧形・平造
74	4	84	II層	鉄製品	■	長さ(13.3) 幅4.4 厚さ不明	(55.17)	相葉形・斜面不規
74	5	84	II層	鉄製品	■	長さ(4.8) 幅0.65 厚さ0.7	(9.0)	難基部
74	6	84	II層	鉄製品	■	長さ(5.3) 幅1.2 厚さ0.5	(18.0)	長楕錐・台形闊
74	7	84	II層	鉄製品	■	長さ(11.8) 幅0.8 厚さ0.65	(34.0)	錐子状・頸部欠損
74	8	84	II層	鉄製品	■	長さ(8.3) 幅1.2 厚さ1.0	(36.0)	刃部断面三日月形・身部長方形
74	9	85	II層	鉄製品	不明	長さ(11.5) 幅4.5 厚さ0.4	(132.0)	断面は長方形を呈し、断面2力所
74	10	85	II層	鉄製品	■	長さ5.8 幅1.5 厚さ0.4	(40.0)	折り返しあるいは鉄製標造品か
74	11	85	II層	鉄製品	板状鉄片	長さ(4.8) 幅1.6 厚さ0.4	(60.0)	粗状鉄片(折り曲げ)
74	12	85	II層	鉄製品	金具	長さ(2.8) 幅0.4 厚さ0.4	(19.0)	断面丸三方形
74	13	85	II層	鉄製品	金具	長さ1.7 幅4.4 厚さ0.45	(3.0)	断面丸三方形
74	14	85	II層	鉄製品	鍵錠	長さ2.9 幅1.6	(16.96)	中空 先端に孔有
74	15	80-85	II層	鉄素材	鍵掛	長さ6.6 幅1.1 厚さ0.8	(4.0)	両側面丸う ヒ鉤
74	16	85	II層	鉄製品	板状鉄片	長さ2.7 幅1.2 厚さ0.3	(6.0)	粗状鉄片の残片
74	17	85	II層	鍵合鍵達	鍵津	長さ1.9 幅1.3 厚さ0.9	(2.0)	鍵締度2 メタル鍵: 鉄化
74	18	85	II層	鉄製品	板状鉄片	長さ4.5 幅3.1 厚さ0.25	(18.0)	
74	19	85	II層	鉄製品	板状鉄片	長さ(3.3) 幅3.0 厚さ0.3	(24.0)	刃部なし 基部部幅広、鉄鍔か
74	20	85	II層	鉄製品	板状鉄片	長さ5.3 幅2.5 厚さ0.3	(30.0)	不規形
74	21	85	II層	鉄素材	鍵塊	長さ(7.3) 幅2.4 厚さ0.7	(222.0)	鍵締度か 磨き度6 メタル鍵H
74	22	85	II層	鉄素材	鍵塊	長さ5.5 幅2.2 厚さ0.7	(252.0)	鍵締度か 磨き度6 メタル鍵H
74	23	85	II層	鉄素材	鍵塊	長さ5.9 幅2.2 厚さ0.3	(166.0)	鍵締度か 磨き度5 メタル鍵: 鉄化
75	1	86	II層	鍵合鍵達	鍵津	長さ10.8 幅9.9 厚さ2.6	555.0	相間鑑泡津 鍵締度6 メタル鍵H 口頭面有 磨き度5 メタル鍵H
75	2	85	II層	鍵合鍵達	鍵津	長さ9.7 幅7.3 厚さ2.7	354.0	砂鉄製鍵津か 小型 口頭面有 磨き度4 メタル鍵H

件名	遺物 番号	印版 番号	出土遺構 部位	種別	器種	法面(cm)	重量(g)	備考
75	3	86	II層	鍛冶関連	鉄滓	長さ8.9 幅5.5 厚さ2.2	116.0	砂鉄製鉄滓 小型 磁導度5 メタル検H
75	4	85	II層	鍛冶関連	鉄滓	長さ11.7 幅8.3 厚さ4.5	378.0	鍛錬鐵滓か 小型 磁導度3 メタル検:銹化

羽口

件名	遺物 番号	印版 番号	出土遺構 部位	種別	器種	法面(cm)	重量(g)	備考
75	5	79	II層	鍛冶関連	羽口	長さ(5.0) 幅不明 厚さ1.5	30.0	ガラス質化
75	6	79	II層	鍛冶関連	羽口	長さ(5.4) 幅不明 厚さ1.1	13.0	ガラス質化

森原神田川遺跡

下ノ原地区

写真図版



SR10 出土遺物

白



1. 下ノ原地区 遠景（南上空から）



2. 下ノ原地区 遠景（北上空から）

図版 2



1. 下ノ原地区 全景（上空から）



2. 下ノ原地区 全景（南から）



1. SR01 (南西から)



2. SR01 土層 (北西から)



3. SR02・03・07 検出状況 (南東から)



1. SR02 完掘後（東から）



2. SR02-2 石積検出状況（西から）



3. SR02-3 石積検出状況（西から）



4. SR02・03 土層（南東から）



1. SR03 完掘後（東から）



2. SR04・05 完掘後（東から）



3. SR04 土層（東から）



4. SR05 土層（東から）

図版 6



1. SR10 完掘後（北から）



2. SR10 土層 1（北西から）



3. SR10 土層 2（北東から）



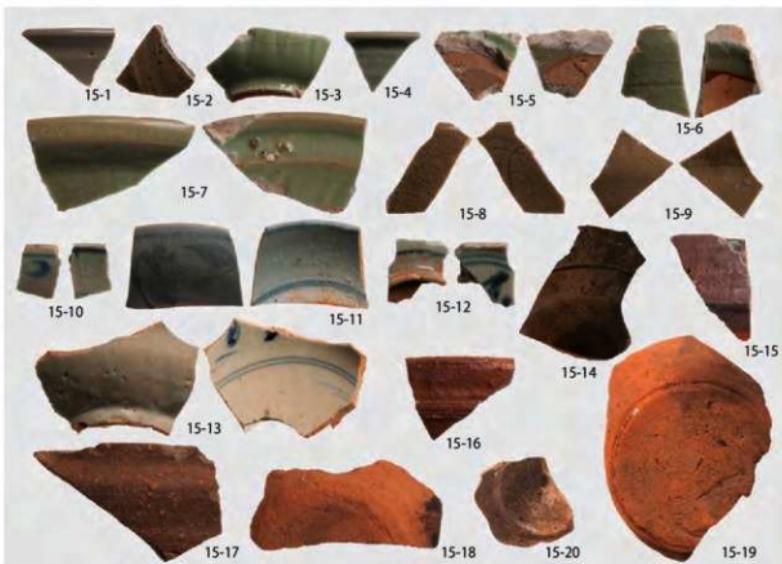
4. SR10 土層 3（北から）



5. SR10 掘削作業風景



6. 小学生による発掘体験（SR10 掘削作業）



1. SR01 出土遺物



2. SR01 出土遺物

図版8



1.SR02 出土遺物



2.SR02 出土遺物



1. SR02 出土遺物



2. SR02 出土遺物

图版 10



1. SR02 出土遗物



2. SR02 出土遗物



1. SR02 出土遺物



2. SR02 出土遺物



1.SR02 出土遗物



2.SR02・03 出土遗物



1. SR03 出土遺物



2. SR03 出土遺物

图版 14



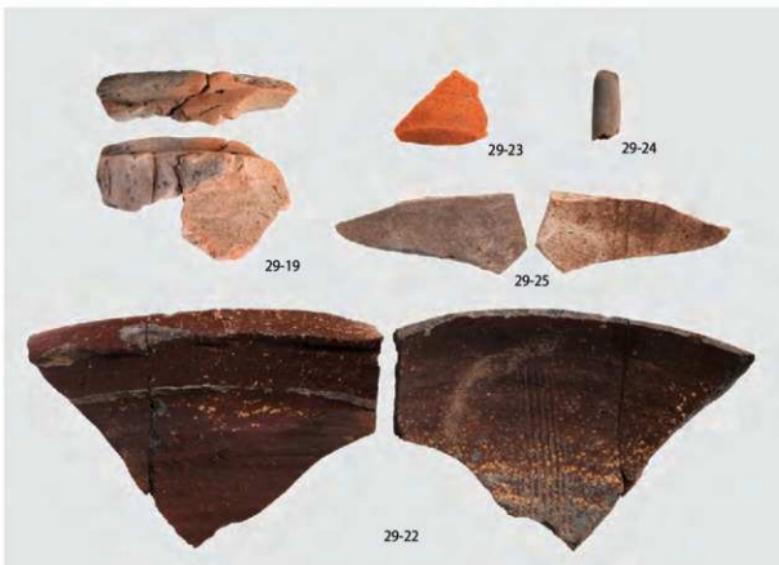
1. SR03 出土遺物



2. SR03 出土遺物



1. SR04・05・07 出土遺物

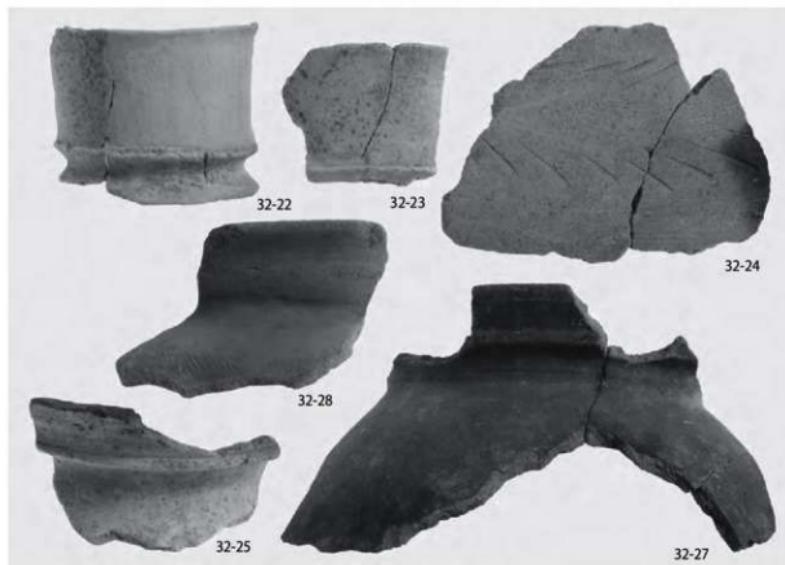


2. SR04・05・07 出土遺物

图版 16



1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物

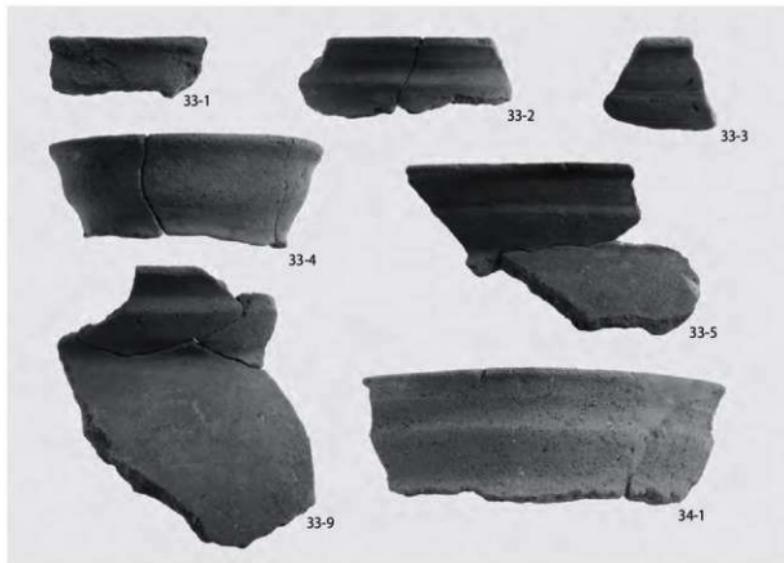


1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

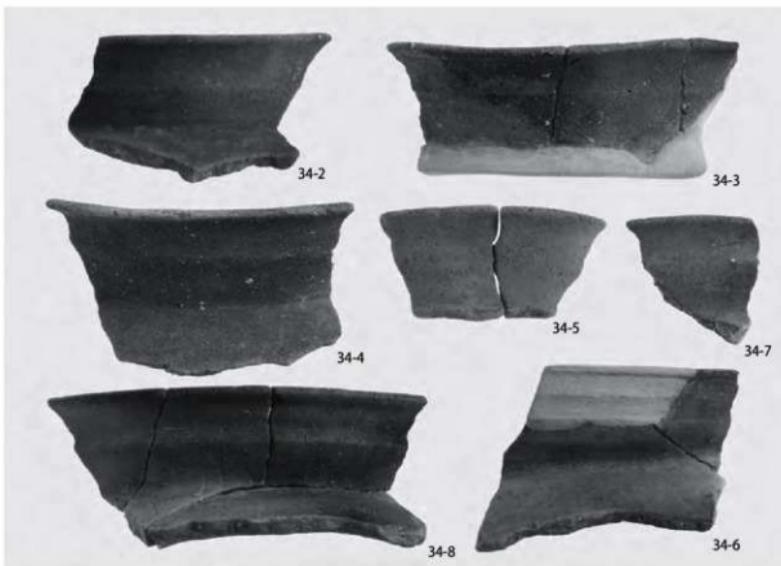
図版 18



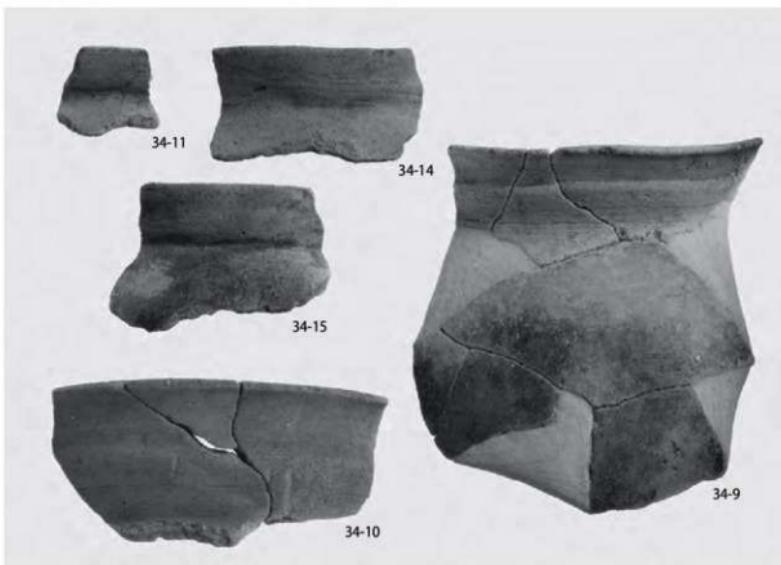
1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

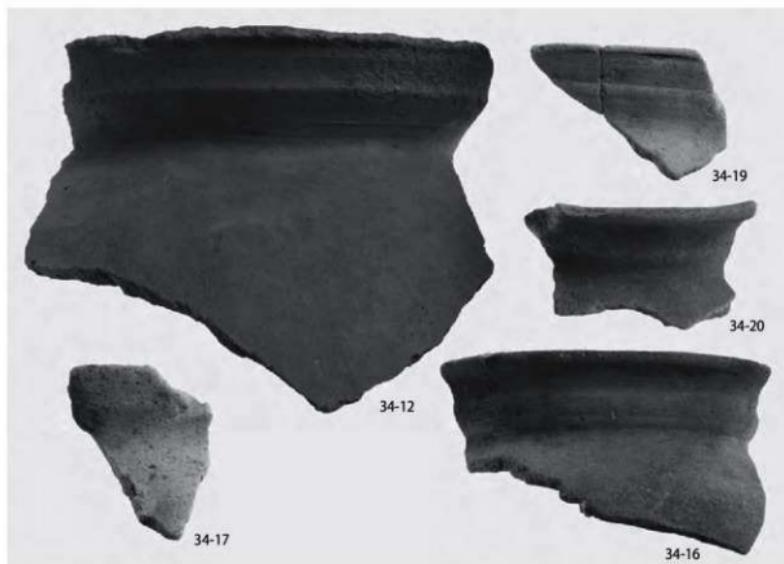


1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

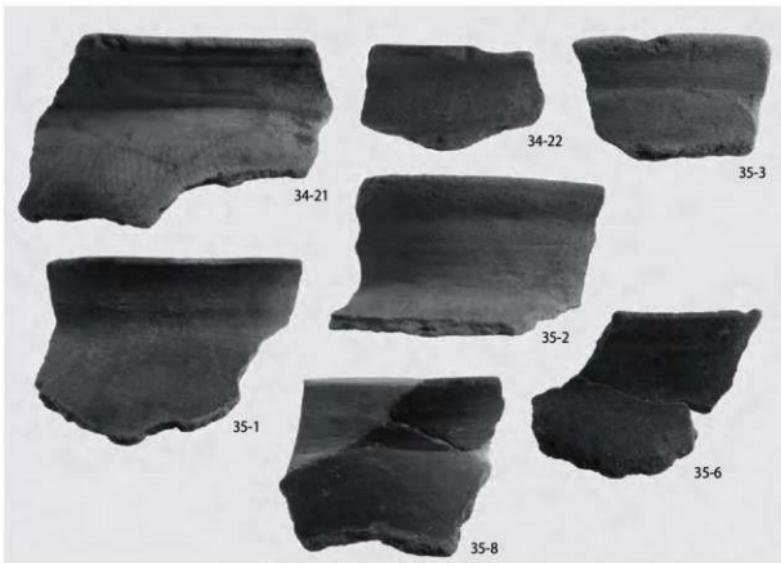
図版 20



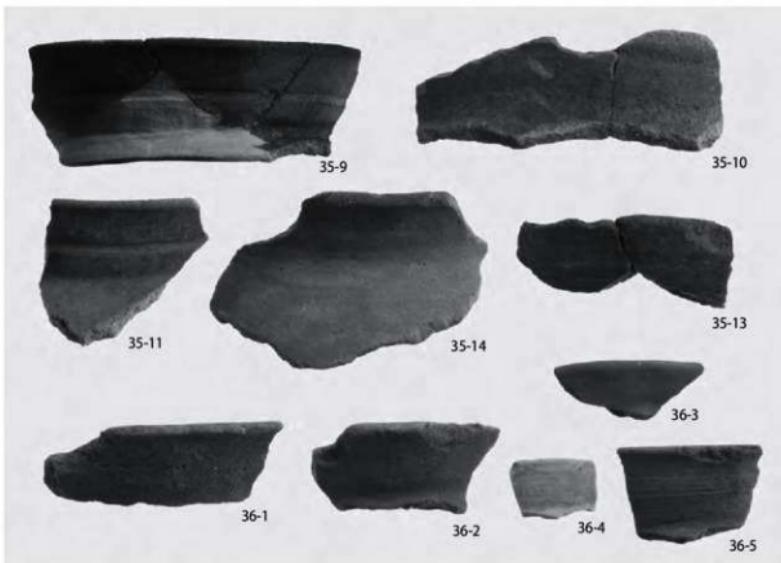
1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物

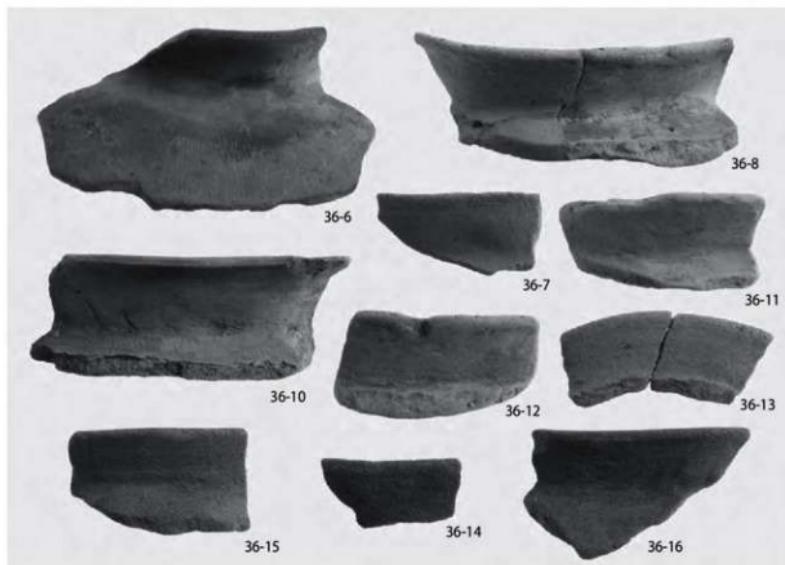


2. SR10 出土遺物

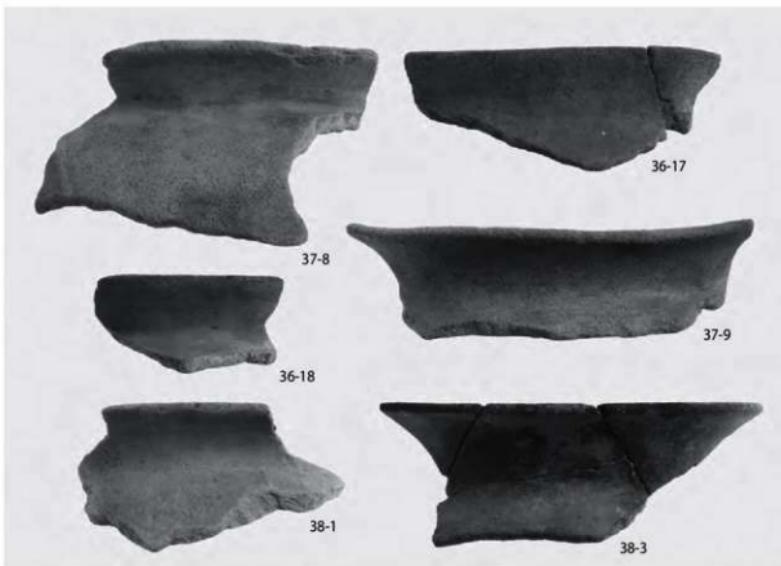
図版 22



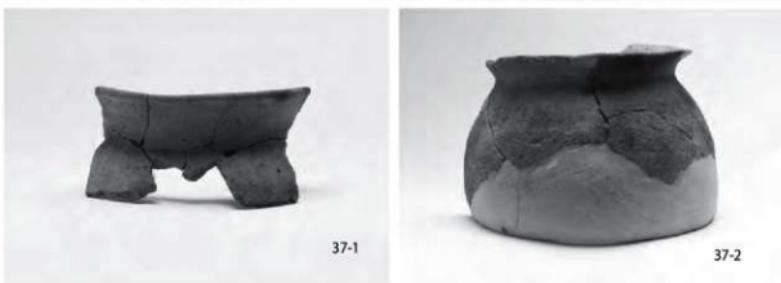
1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

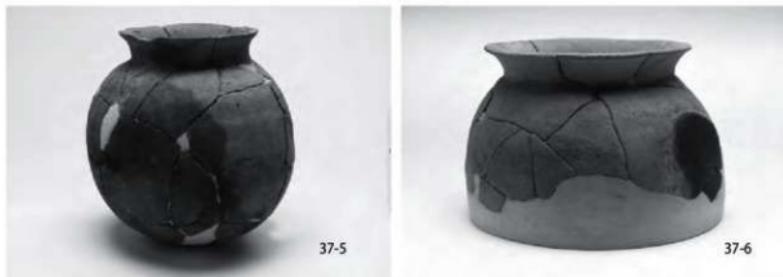


1. SR10 出土遺物

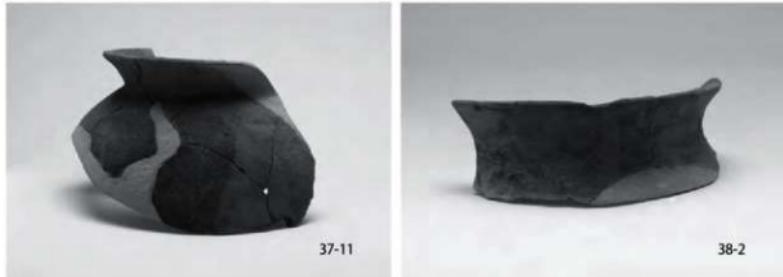


2. SR10 出土遺物

図版 24



1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物

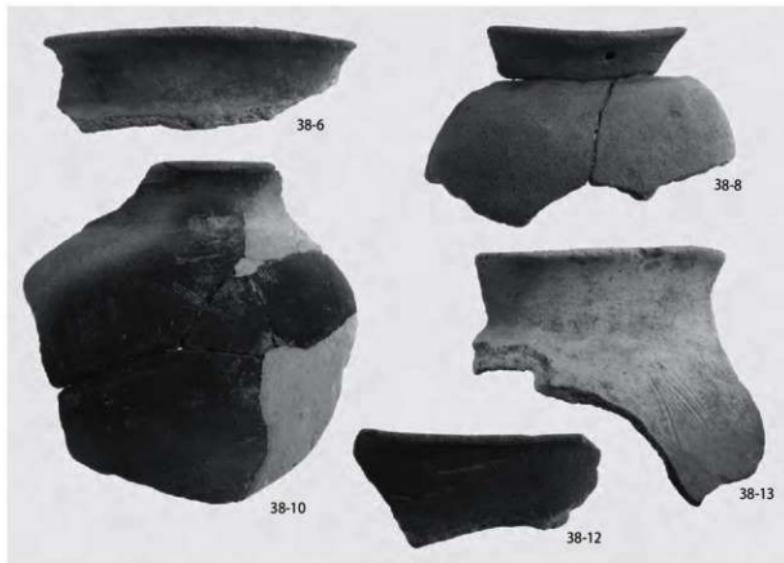


1. SR10 出土遺物

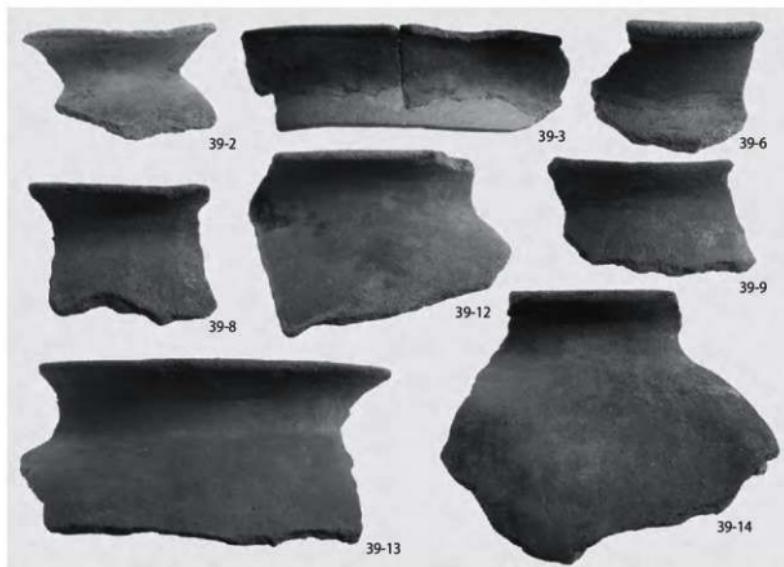


2. SR10 出土遺物

図版 26



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



39-1



39-4



39-5



39-7

1. SR10 出土遺物



39-10



39-11



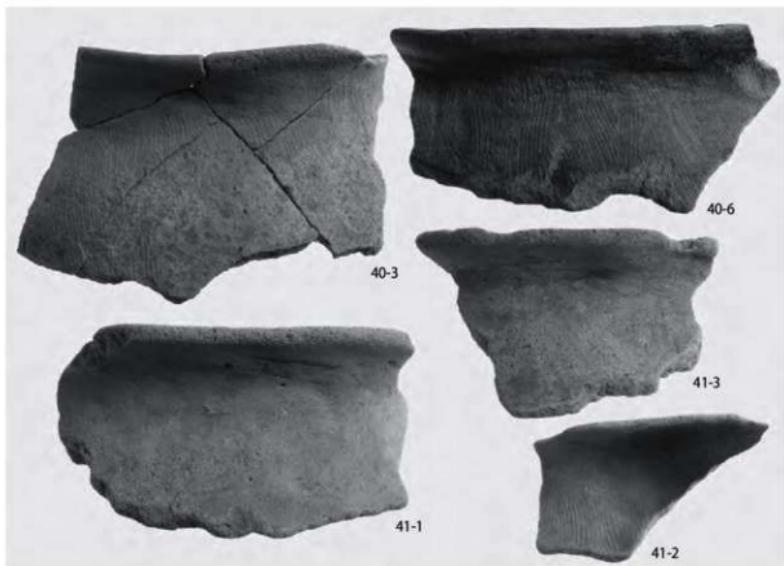
39-15



39-16

2. SR10 出土遺物

図版 28



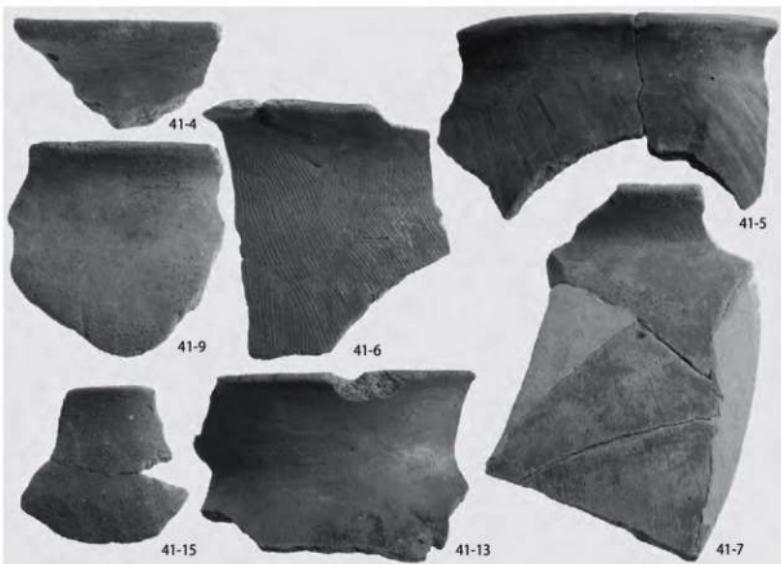
1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物

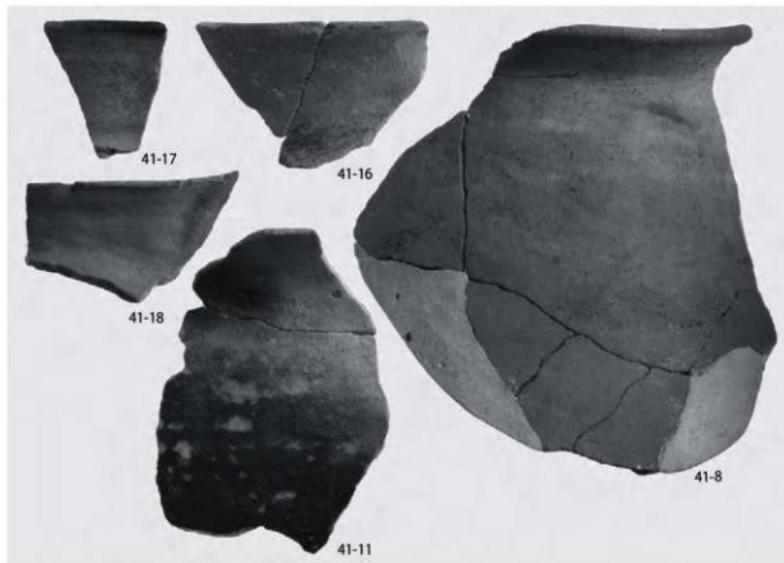


1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

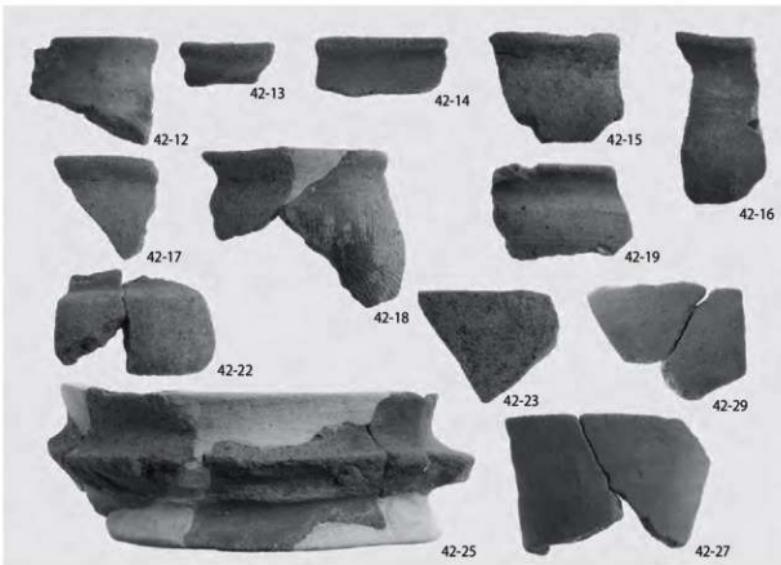
图版 30



1. SR10 出土遗物



2. SR10 出土遗物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

图版 32



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物

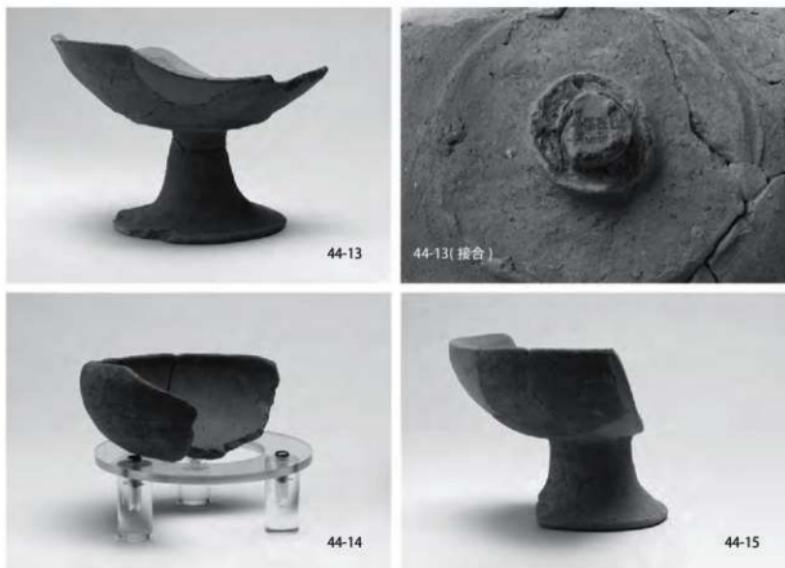


2.SR10 出土遺物

図版 34



1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物



44-16



44-17



44-18



44-19

1. SR10 出土遺物



44-20



44-21



44-22



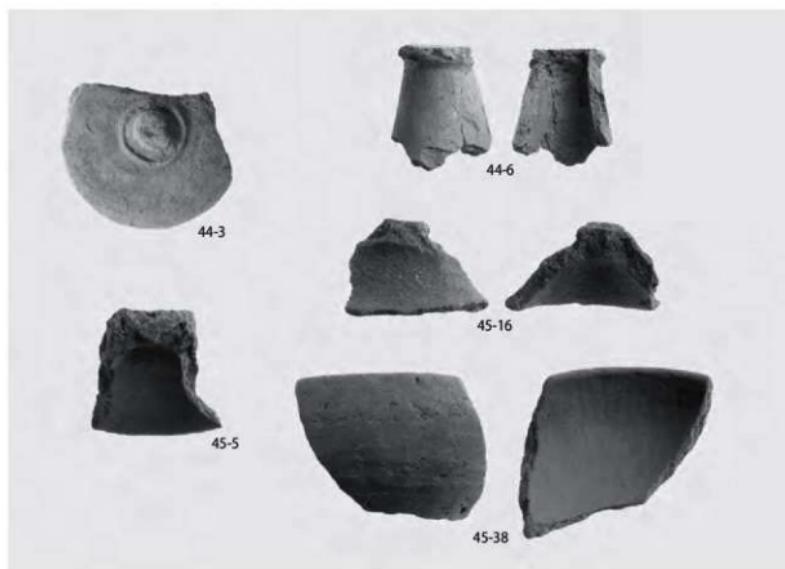
44-23

2. SR10 出土遺物

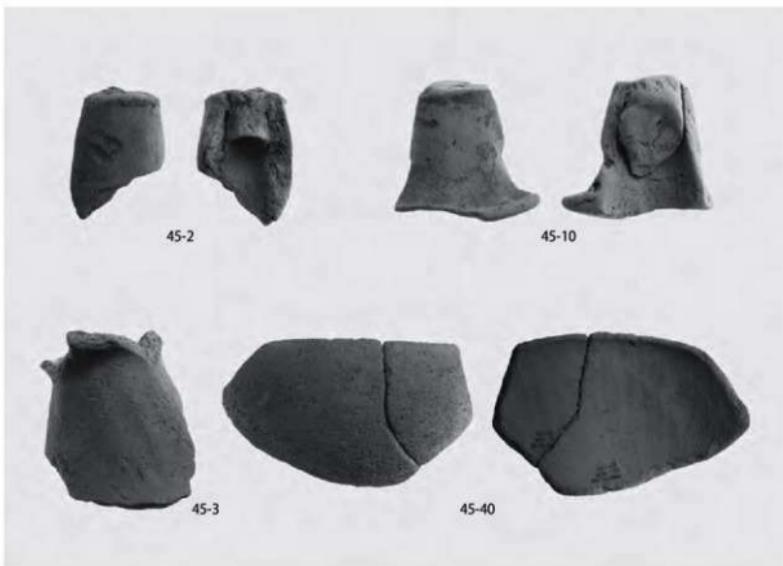
図版 36



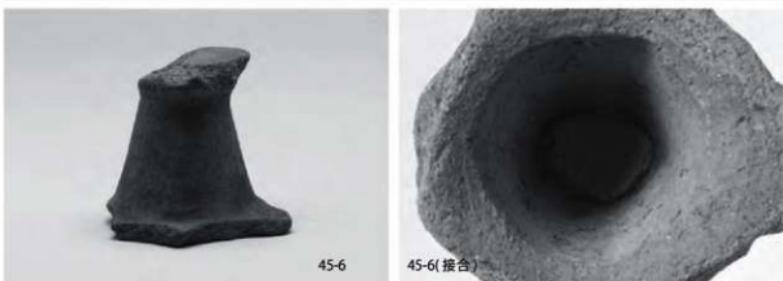
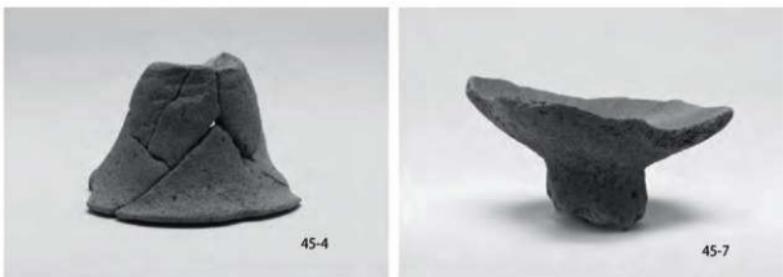
1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

図版 38



45-8



45-13



45-9



45-9(接合)

1.SR10 出土遺物



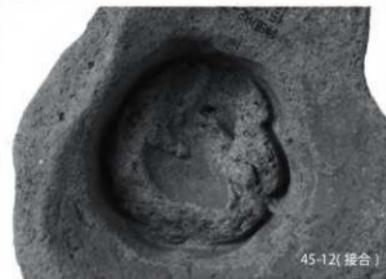
45-11



45-14



45-12



45-12(接合)

2.SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

图版 40



1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物

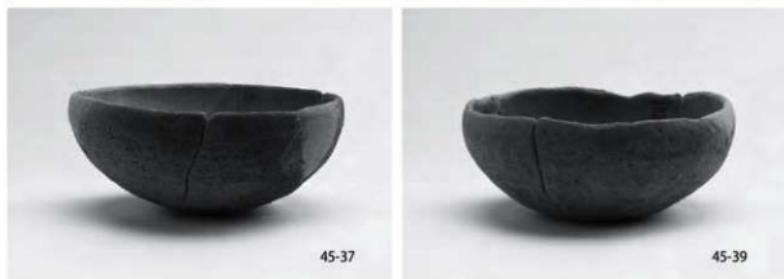


1. SR10 出土遺物

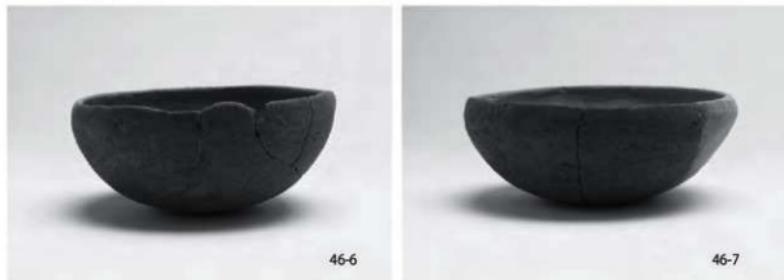
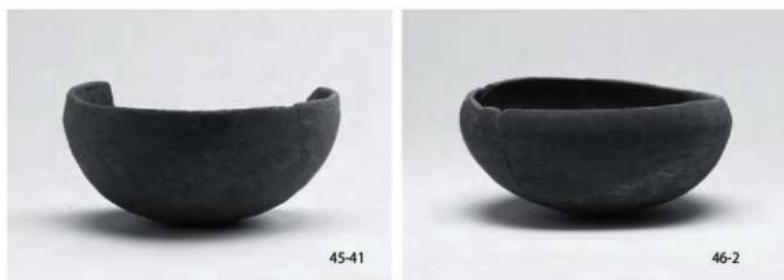


2. SR10 出土遺物

图版 42



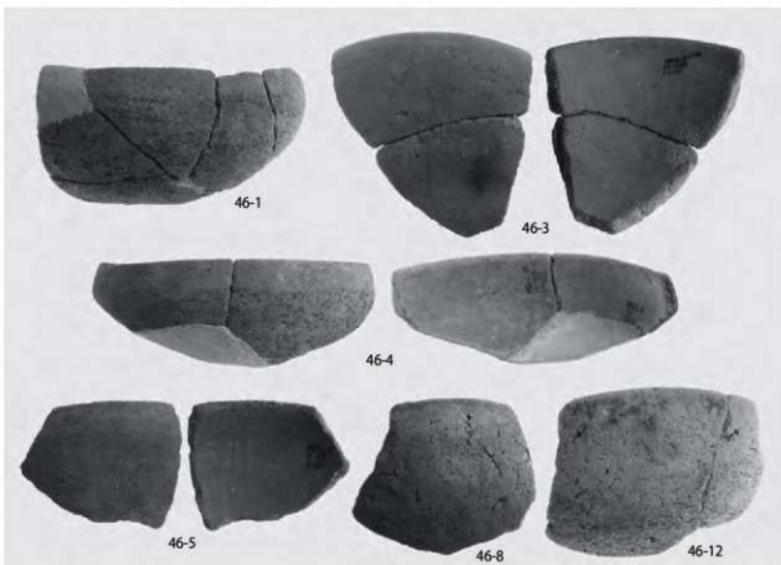
1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物

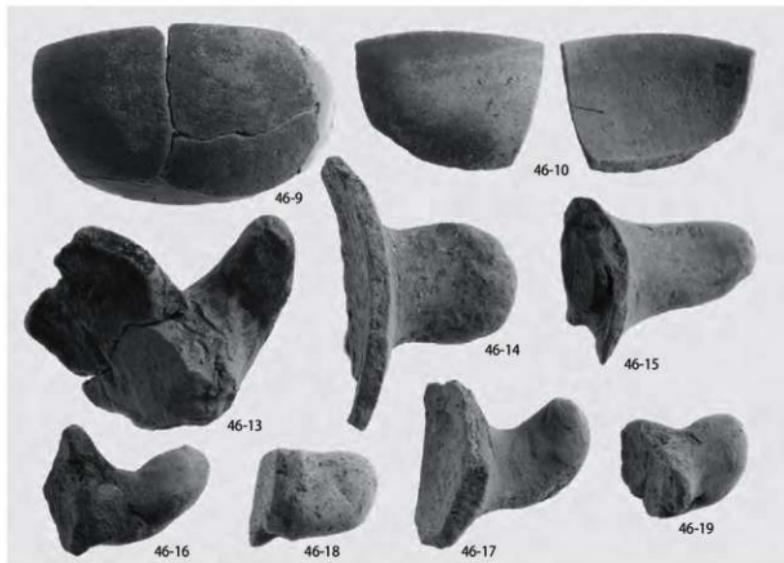


1. SR10 出土遺物

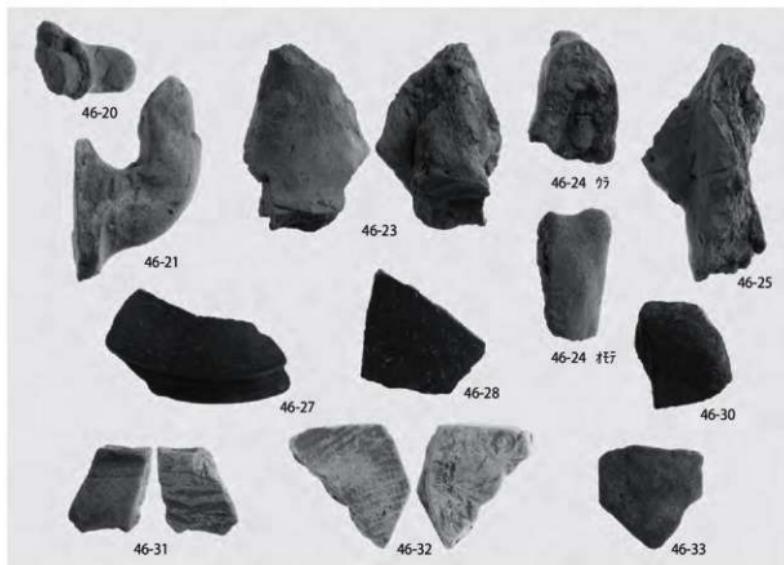


2. SR10 出土遺物

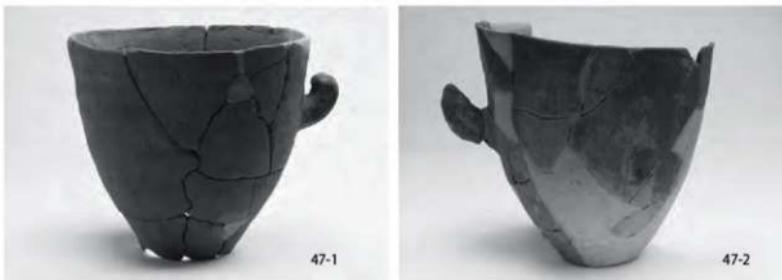
图版 44



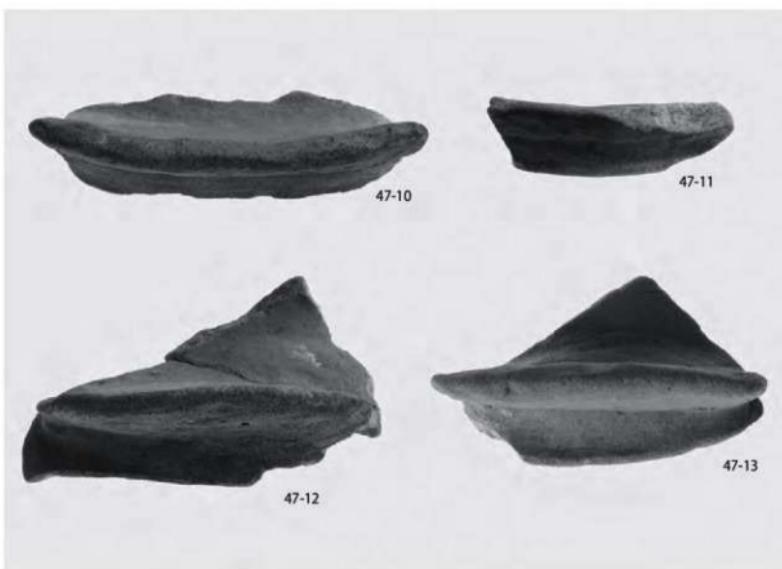
1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

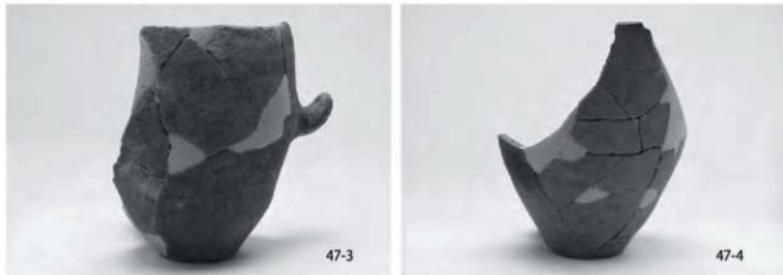


1. SR10 出土遺物



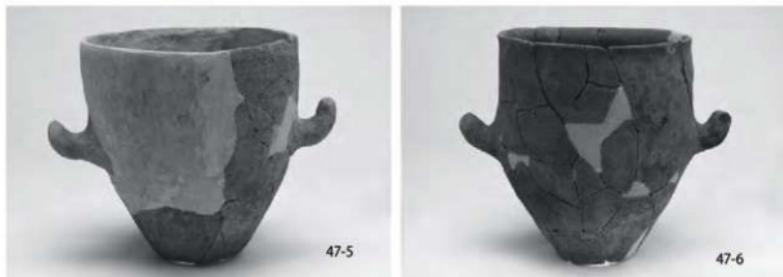
2. SR10 出土遺物

図版 46



47-3

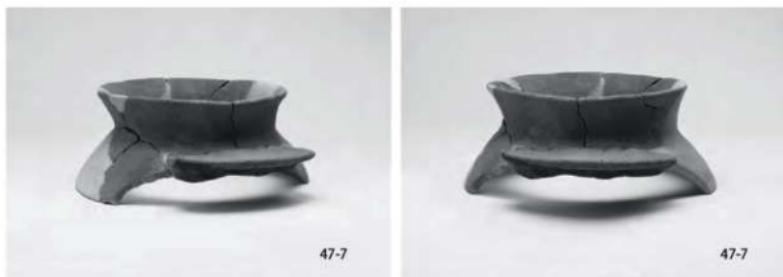
47-4



47-5

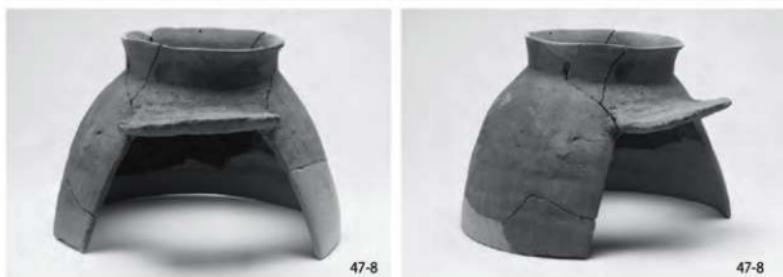
47-6

1.SR10 出土遺物



47-7

47-7



47-8

47-8

2.SR10 出土遺物

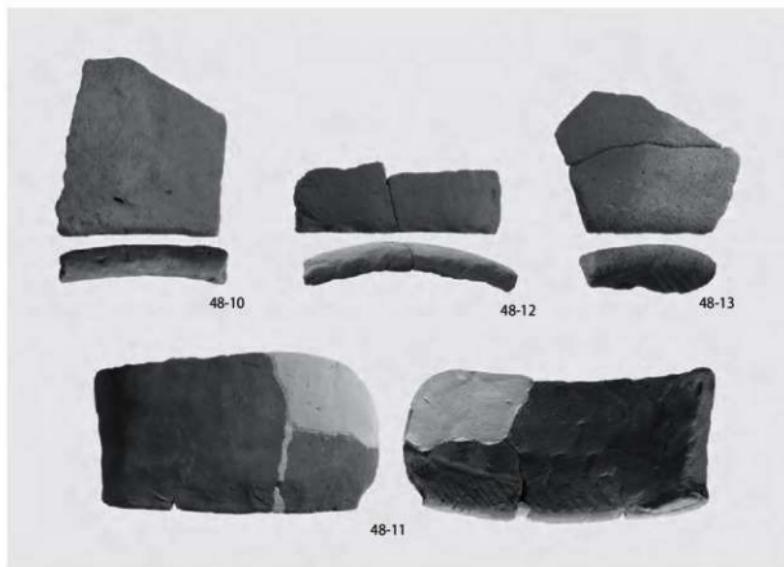


1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

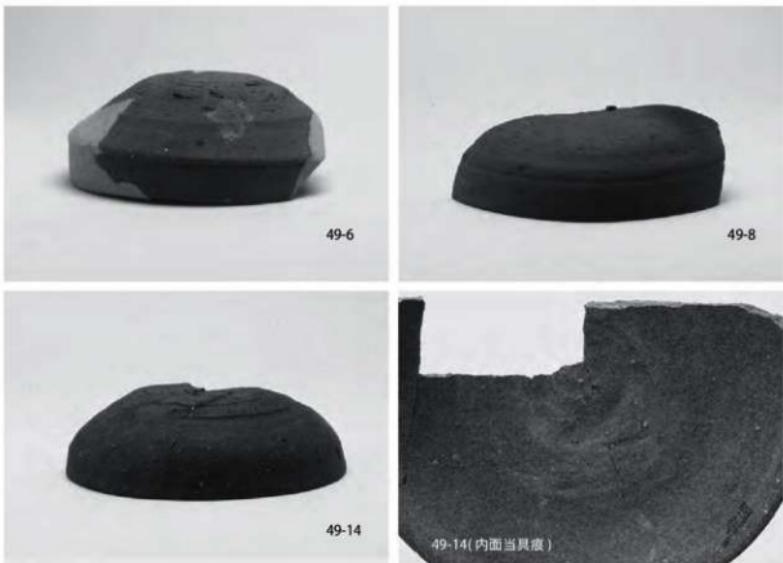
図版 48



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

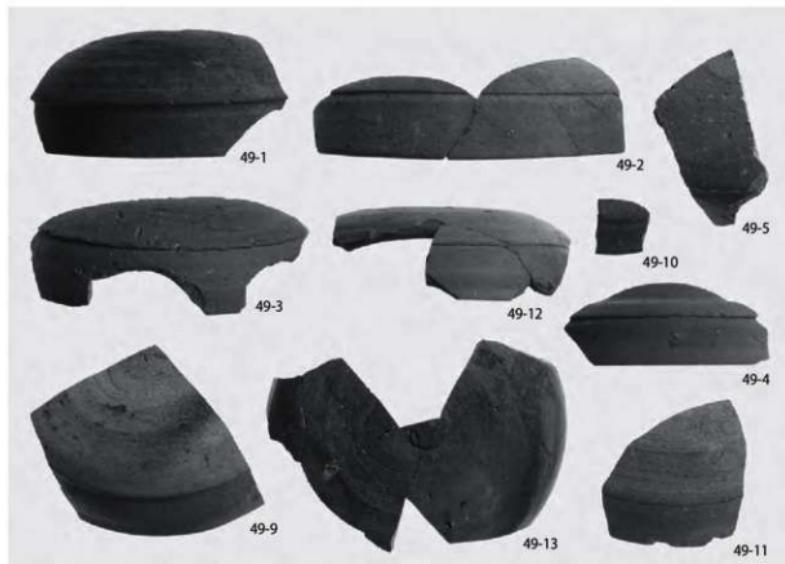


1. SR10 出土遺物

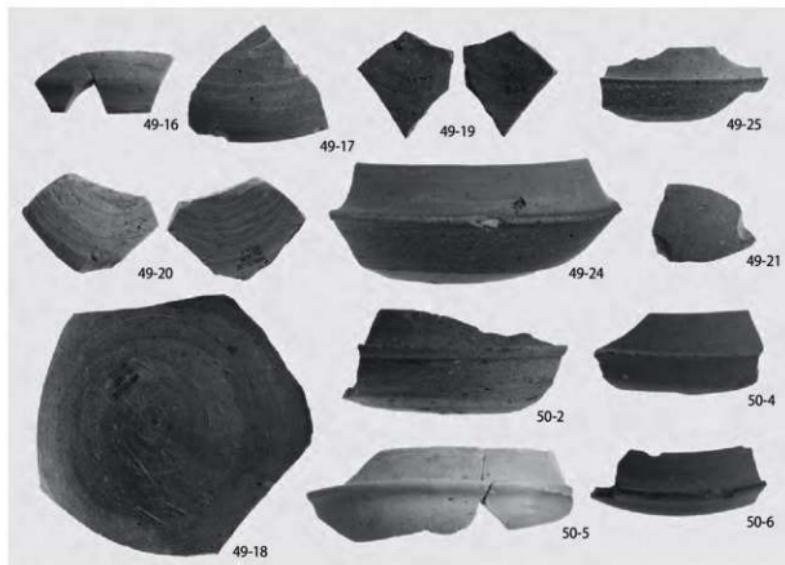


2. SR10 出土遺物

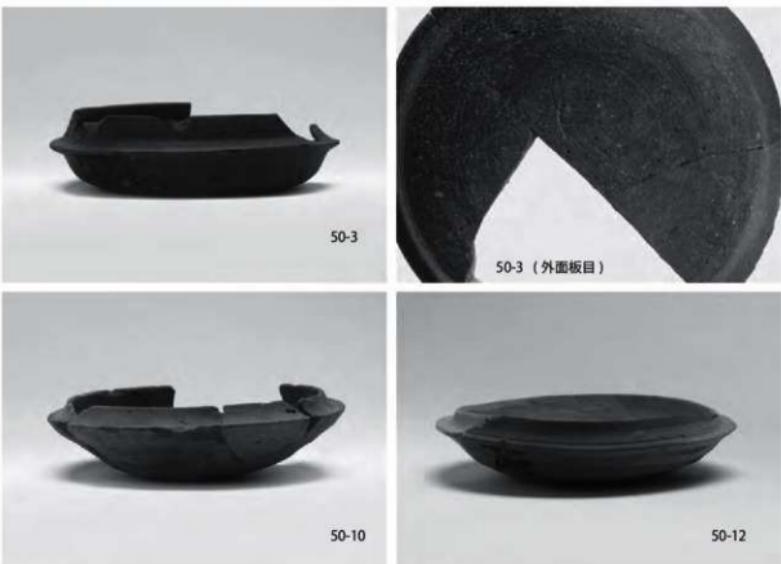
図版 50



1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

図版 52



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

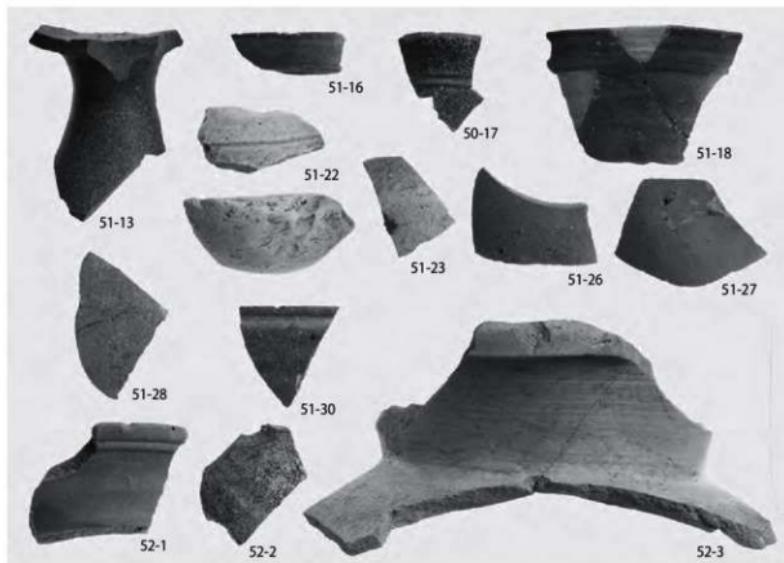


1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

図版 54



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

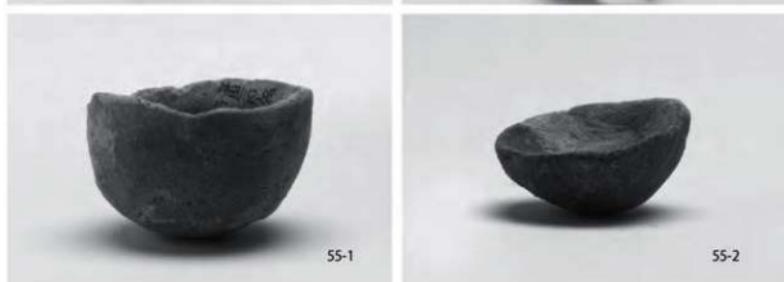
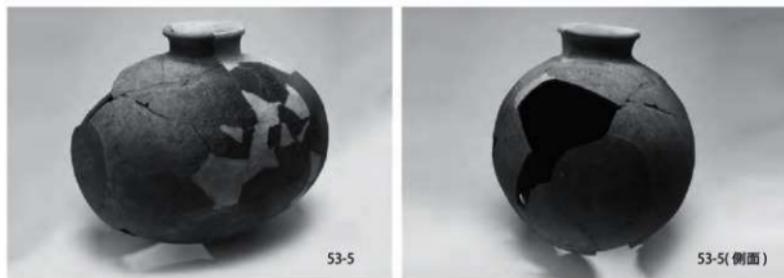


1. SR10 出土遺物

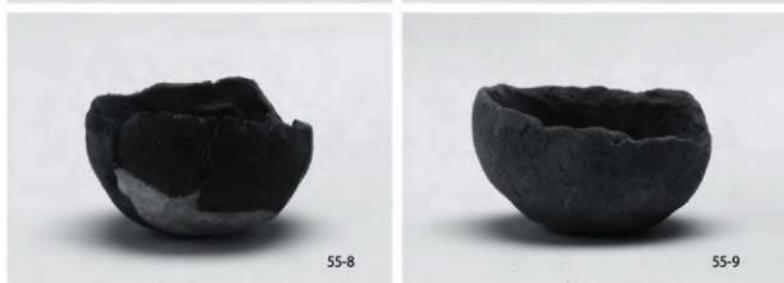
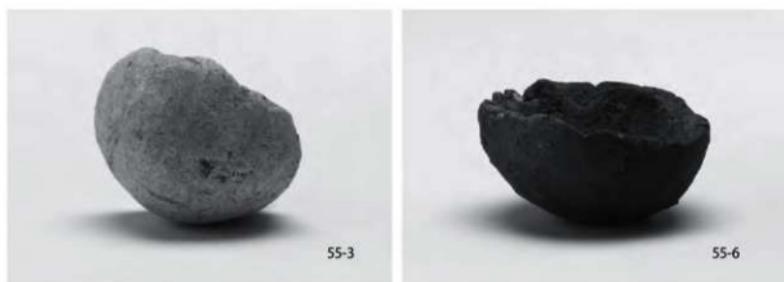


2. SR10 出土遺物

図版 56



1.SR10 出土遺物



2.SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

図版 58



55-20



55-21



55-25



55-27

1. SR10 出土遺物



55-29



55-30



54-31

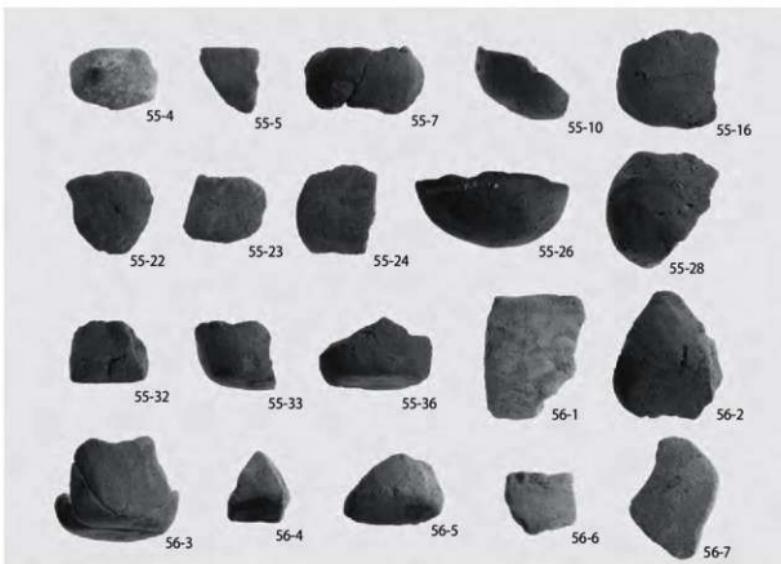


55-34

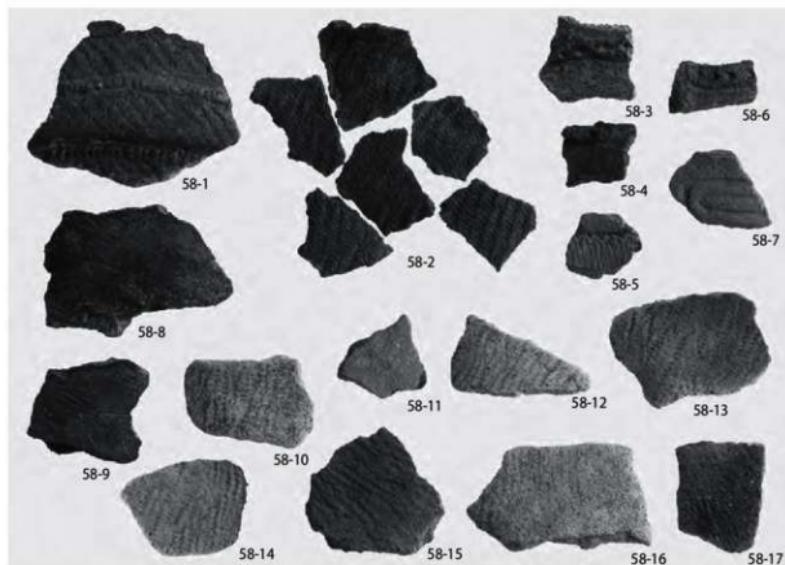
2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



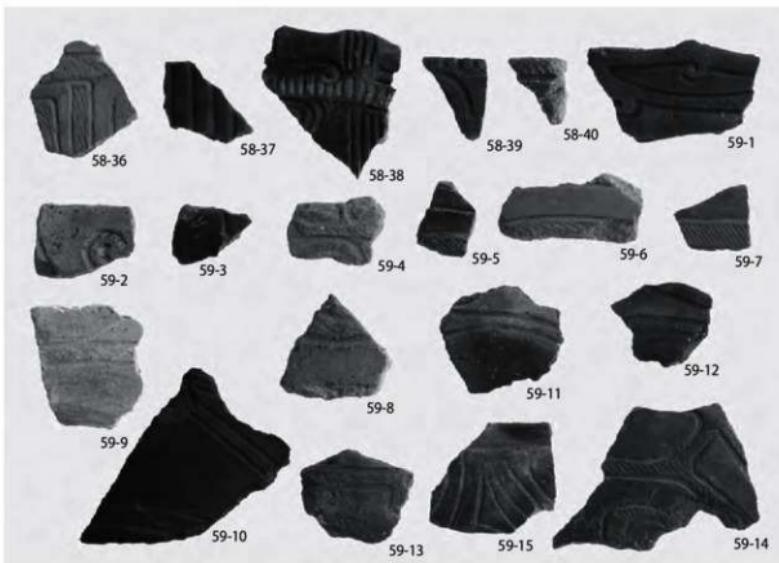
2. SR10 出土遺物



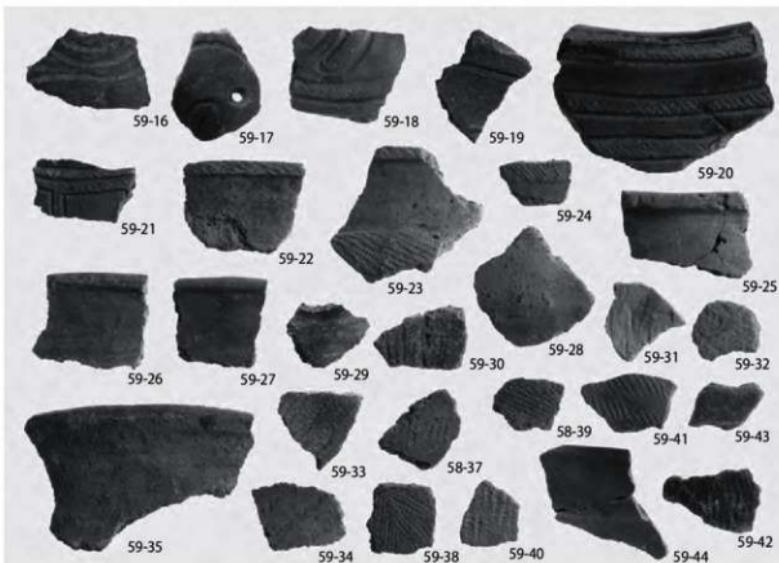
1. 遺構外出土遺物



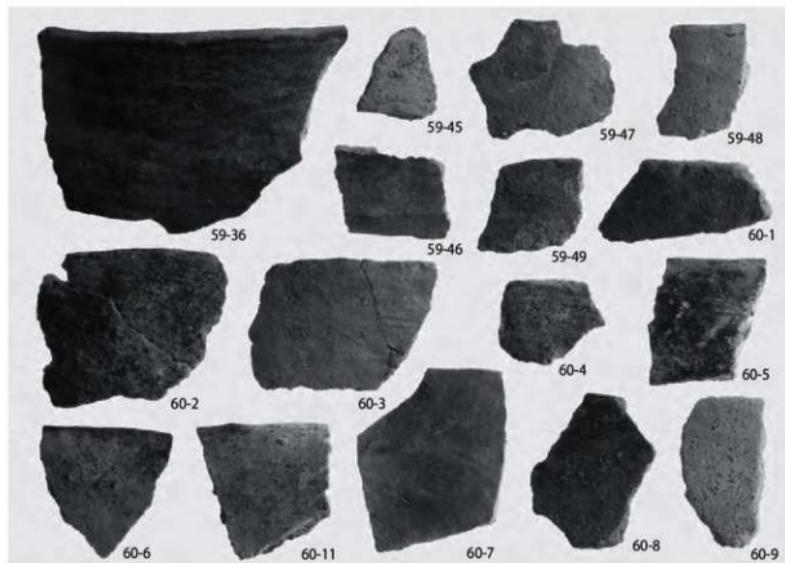
2. 遺構外出土遺物



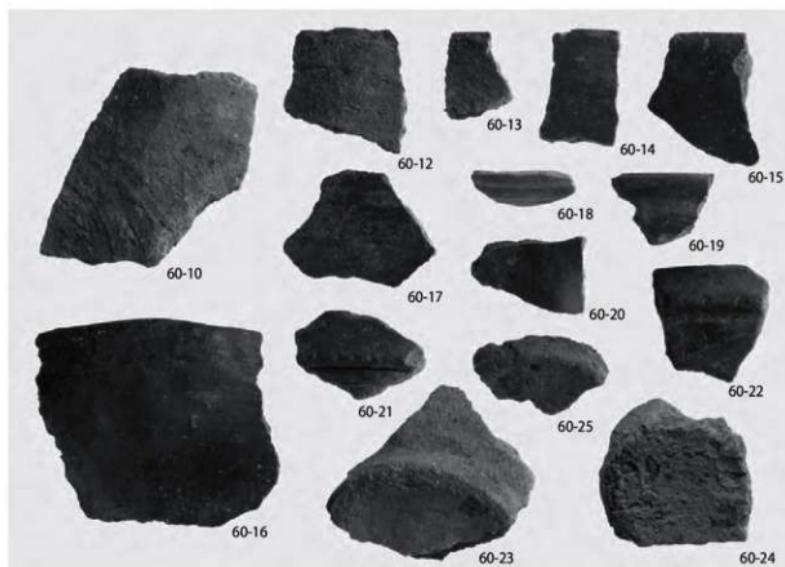
1. 遺構外出土遺物



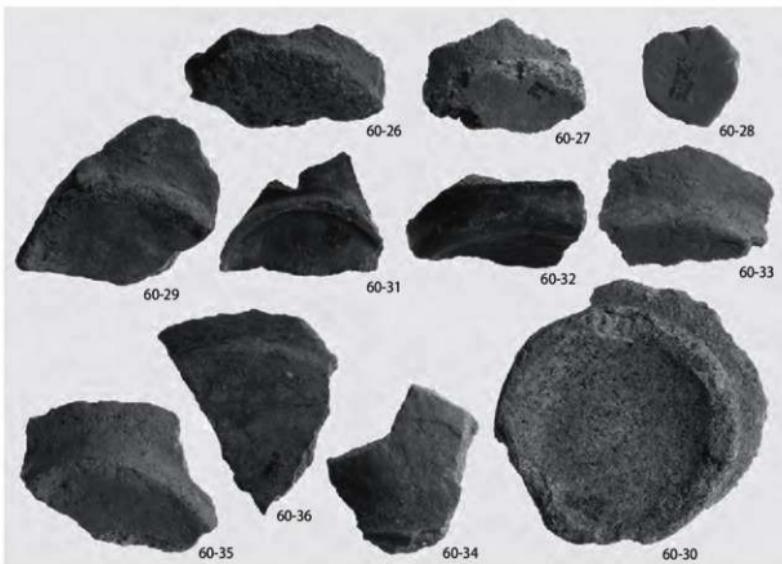
2. 遺構外出土遺物



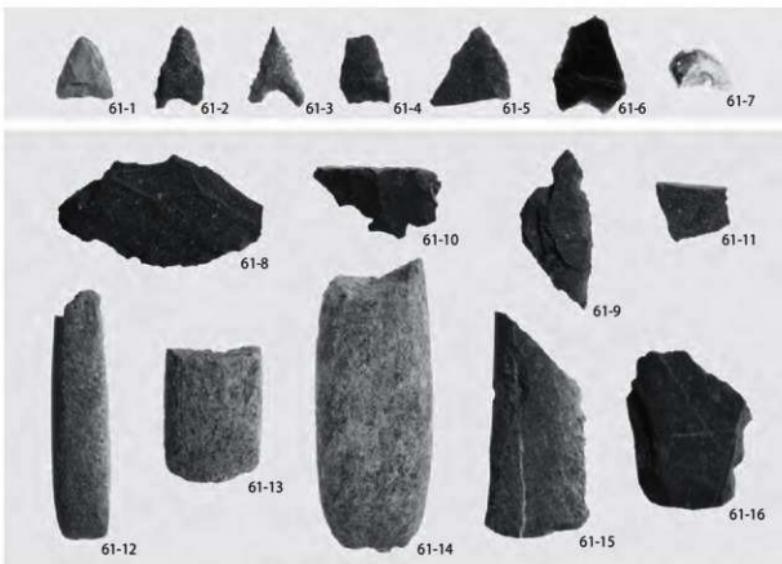
1. 遺構外出土遺物



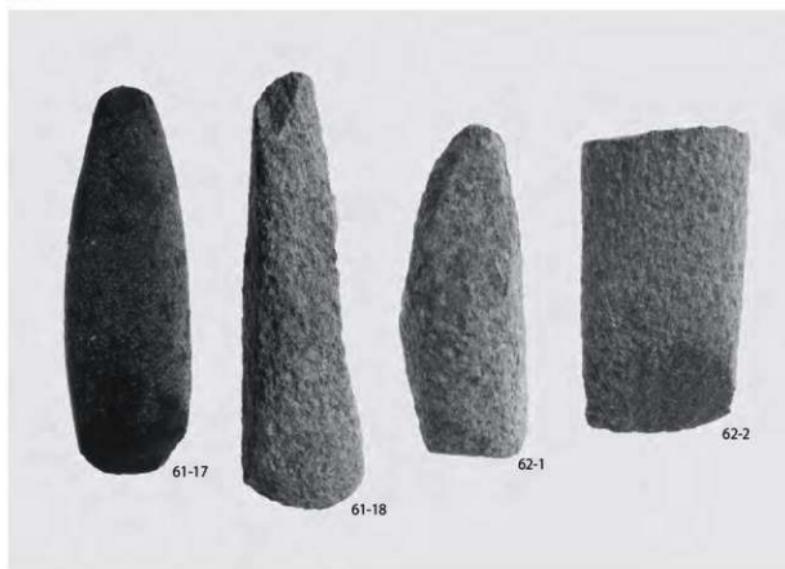
2. 遺構外出土遺物



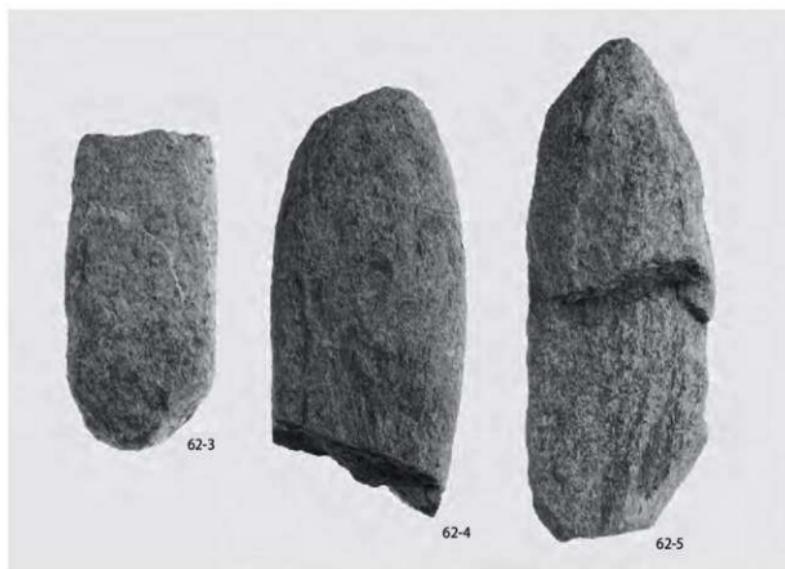
1. 遺構外出土遺物



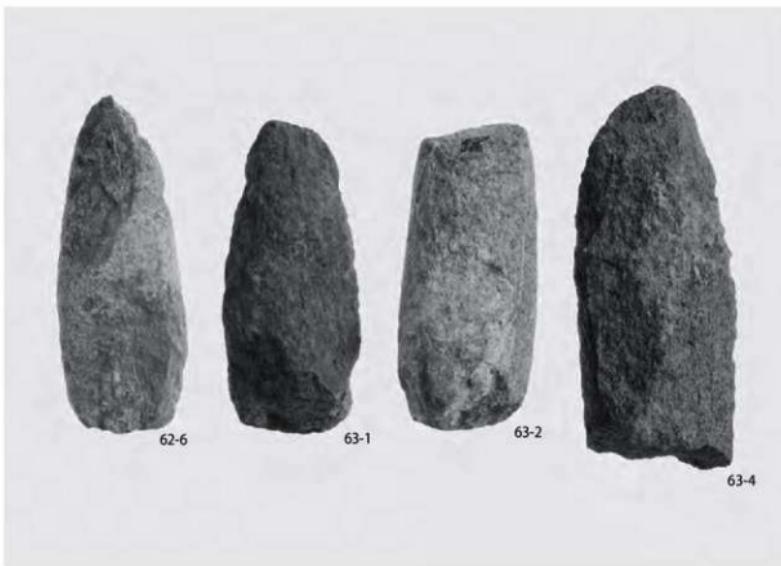
2. 遺構外出土遺物



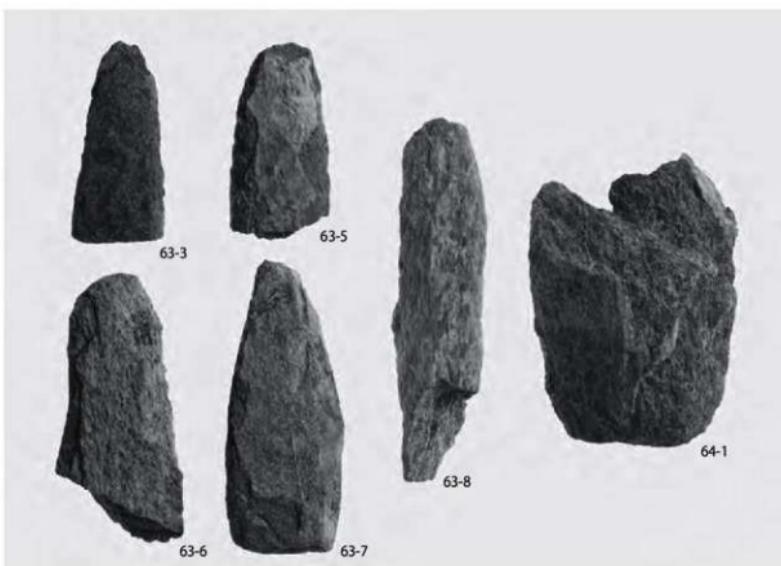
1. 遺構外出土遺物



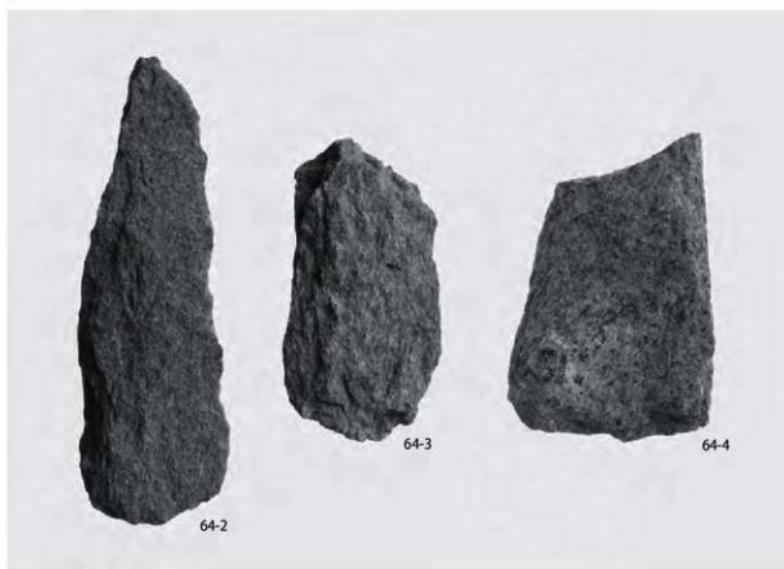
2. 遺構外出土遺物



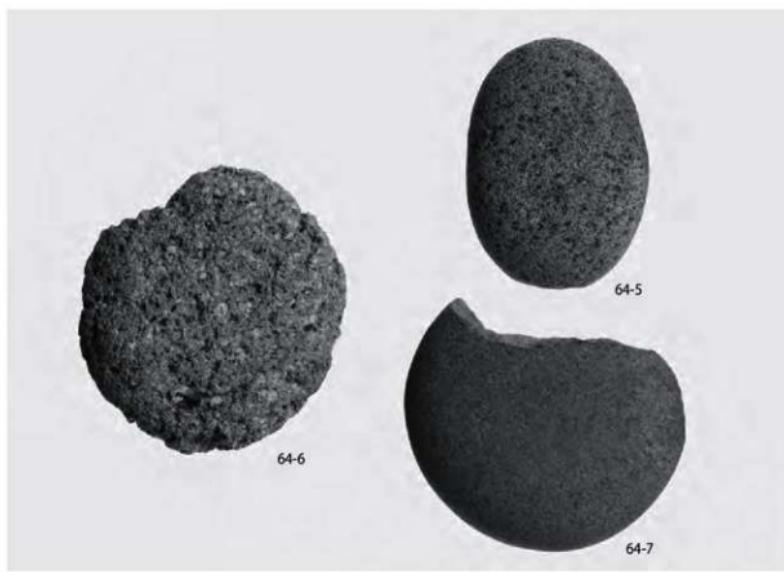
1. 遺構外出土遺物



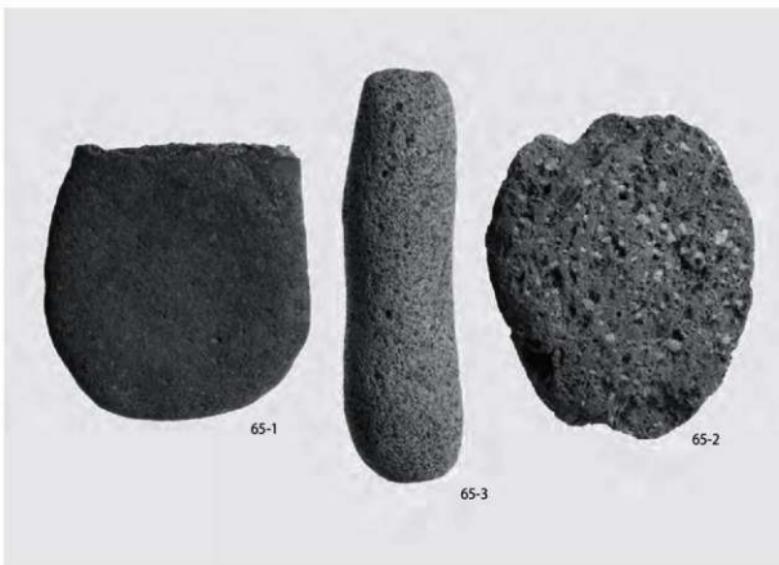
2. 遺構外出土遺物



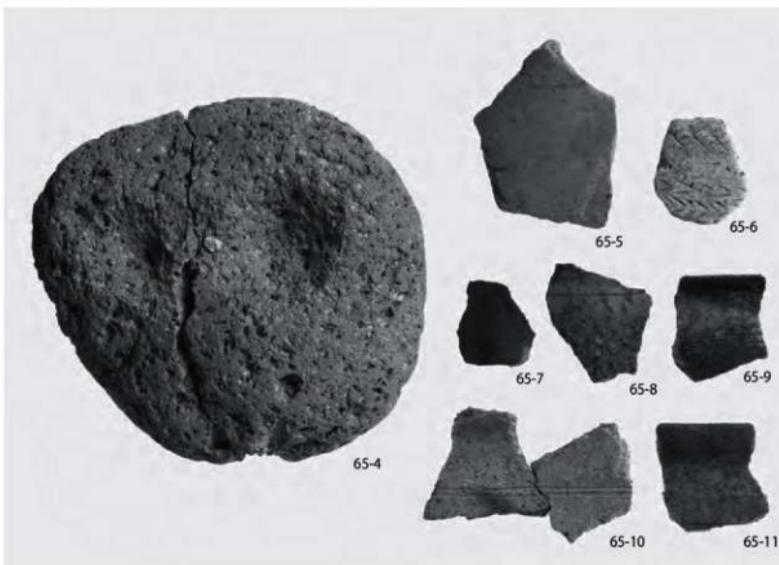
1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物

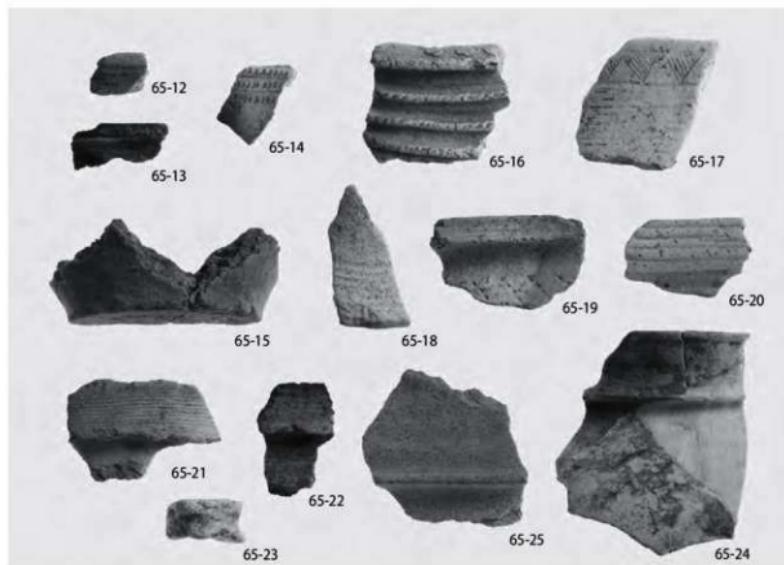


1. 遺構外出土遺物

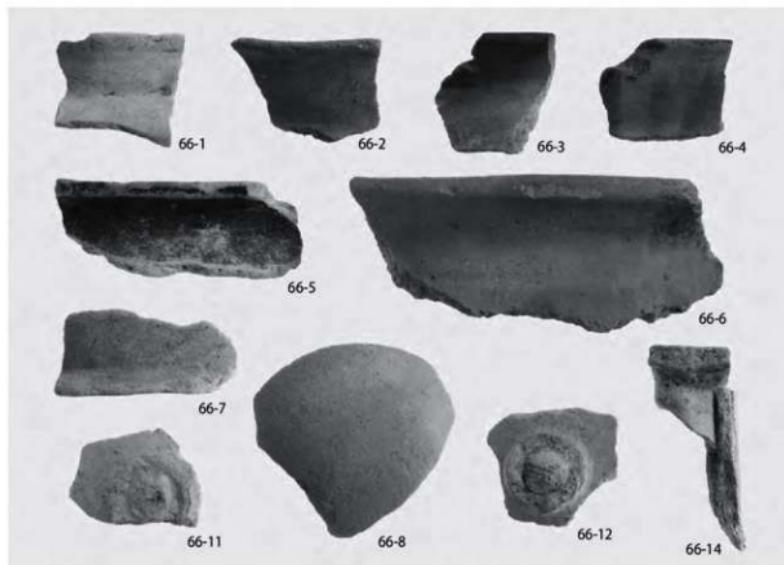


2. 遺構外出土遺物

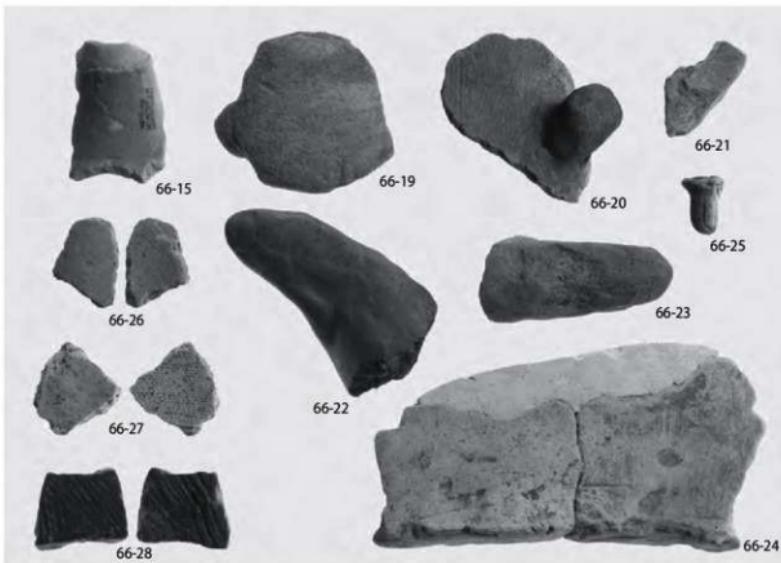
図版 68



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物

図版 70



66-17



66-18

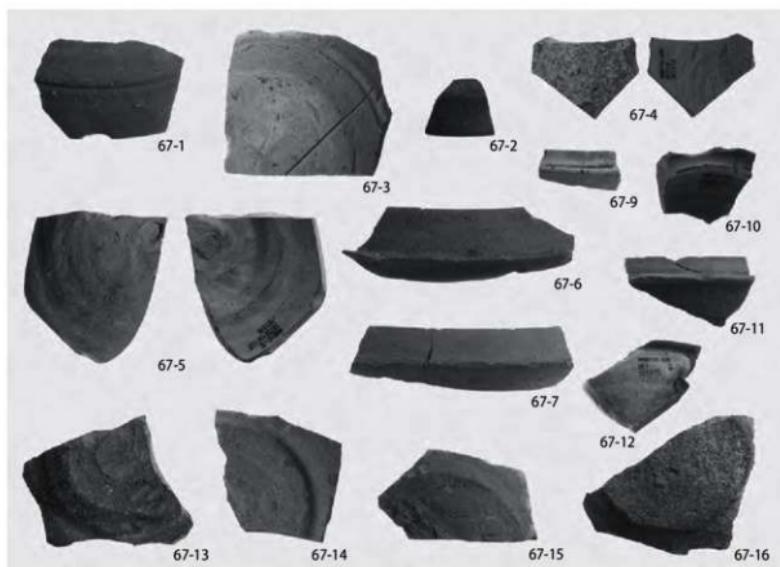


67-8

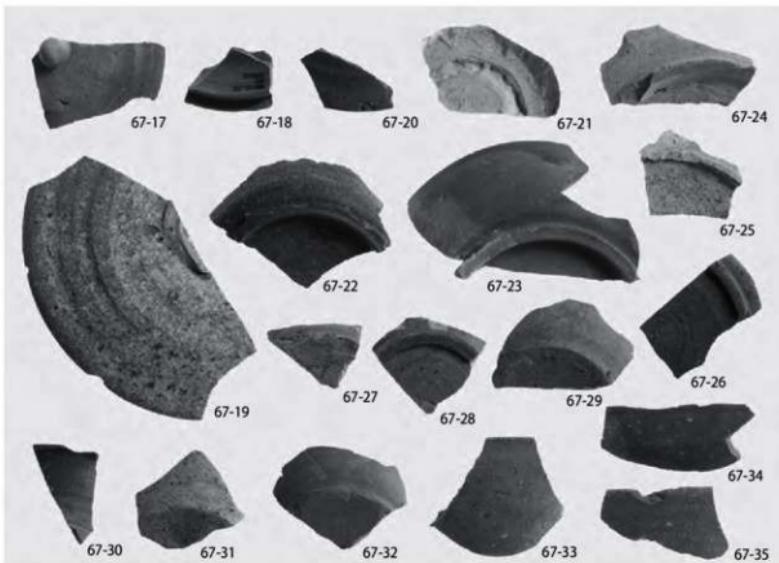


67-40

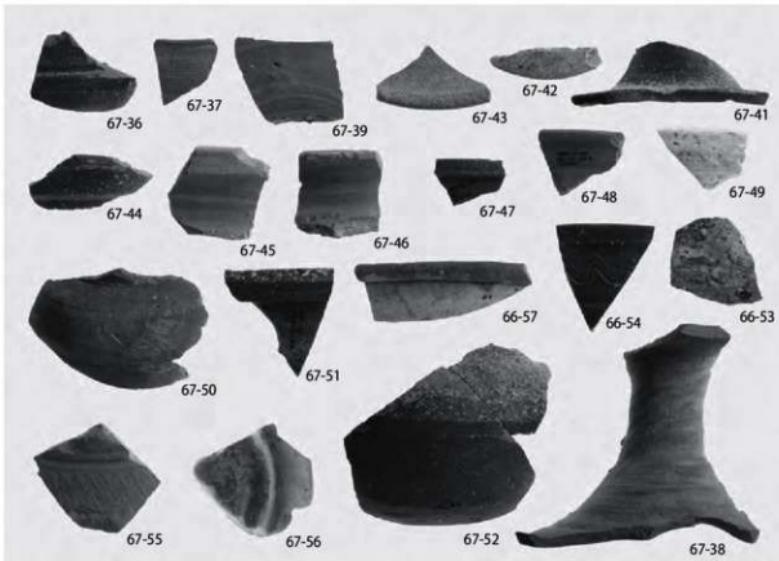
1. 遺構外出土遺物



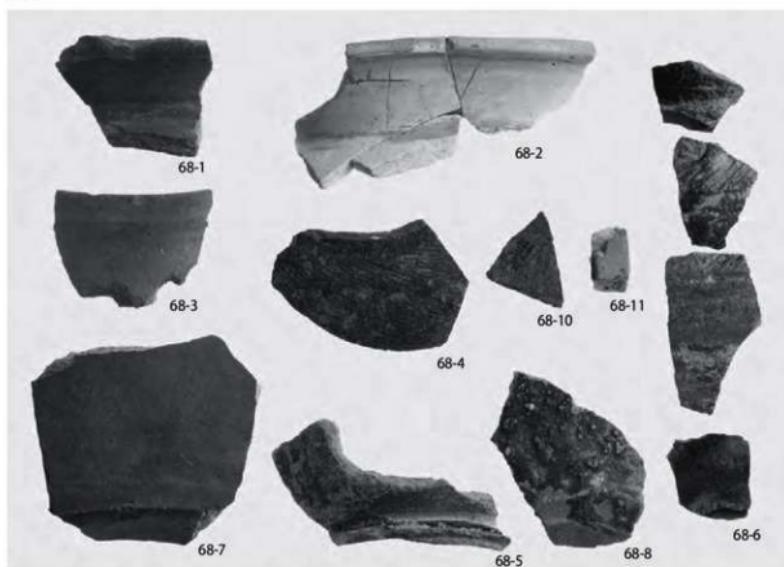
2. 遺構外出土遺物



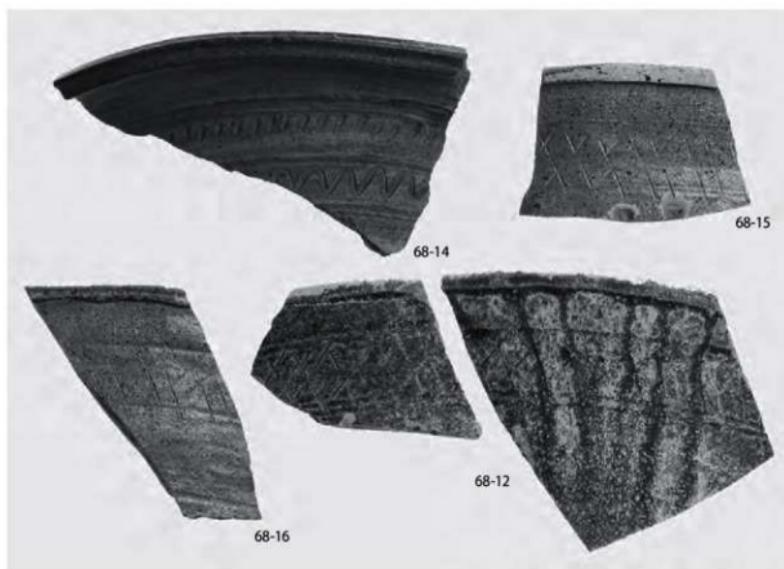
1. 遺構外出土遺物



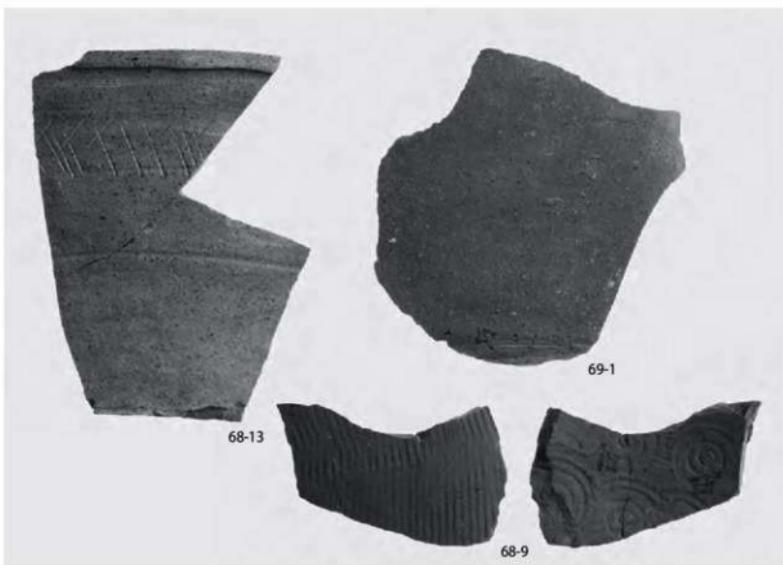
2. 遺構外出土遺物



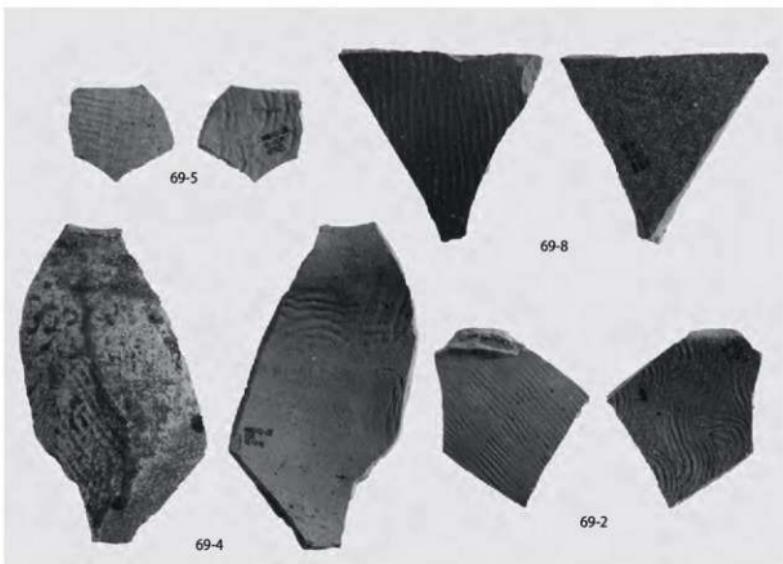
1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物

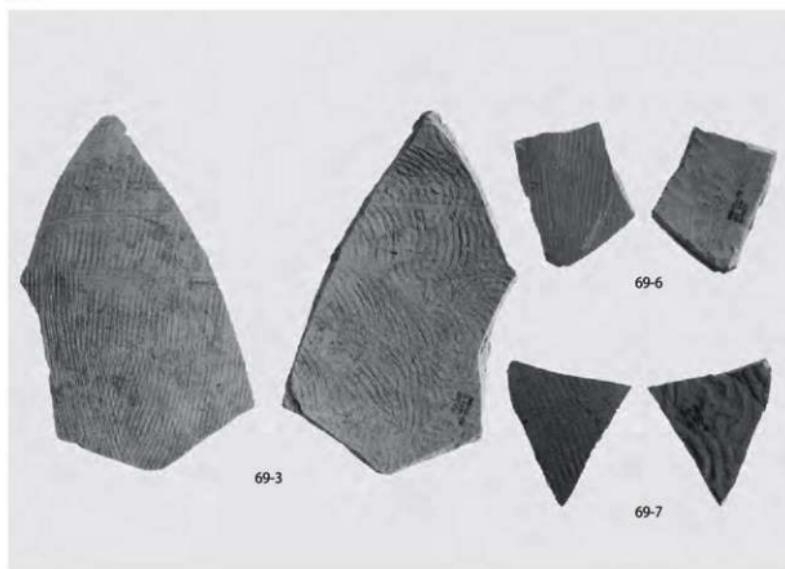


1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物

图版 74



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物

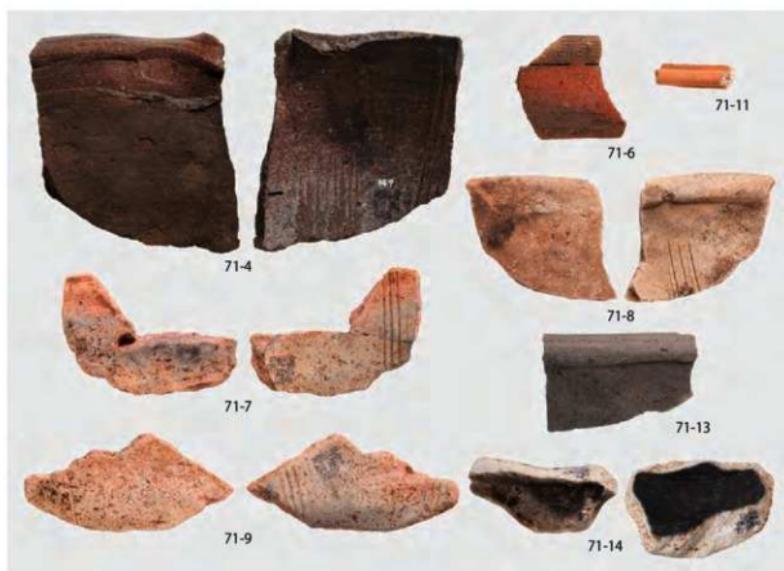


2. 遺構外出土遺物

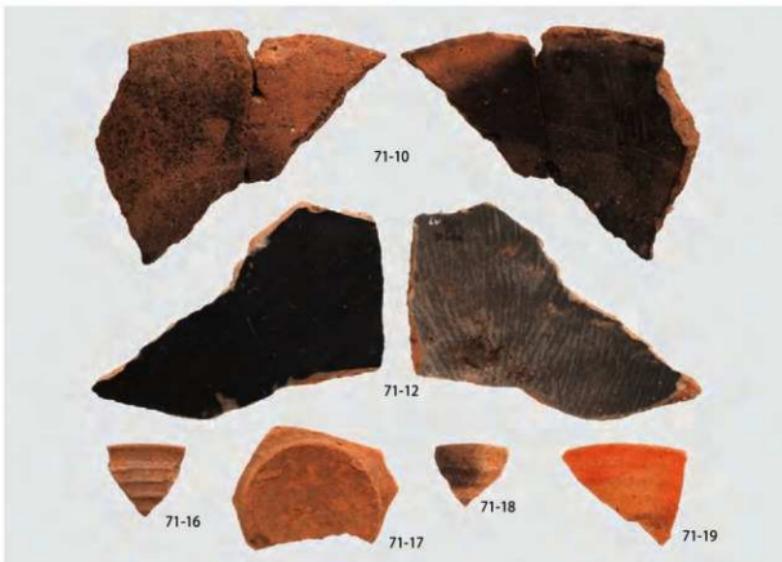
图版 76



1. 遗構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



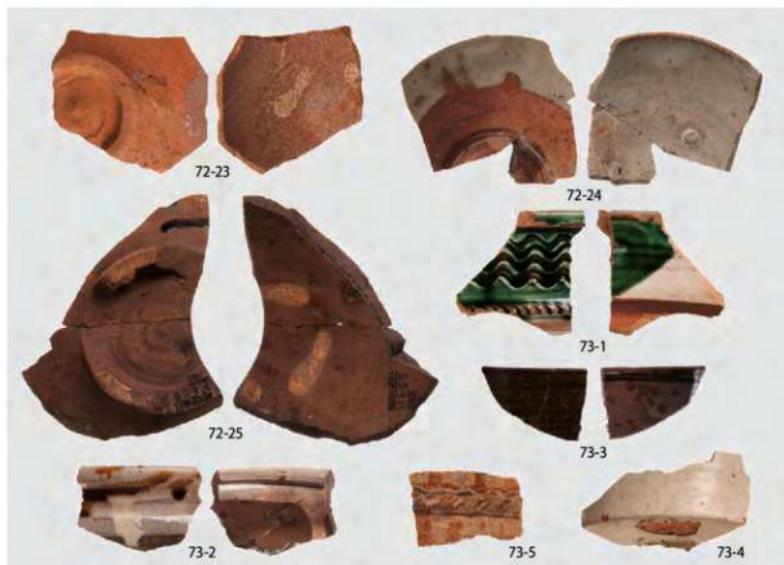
1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



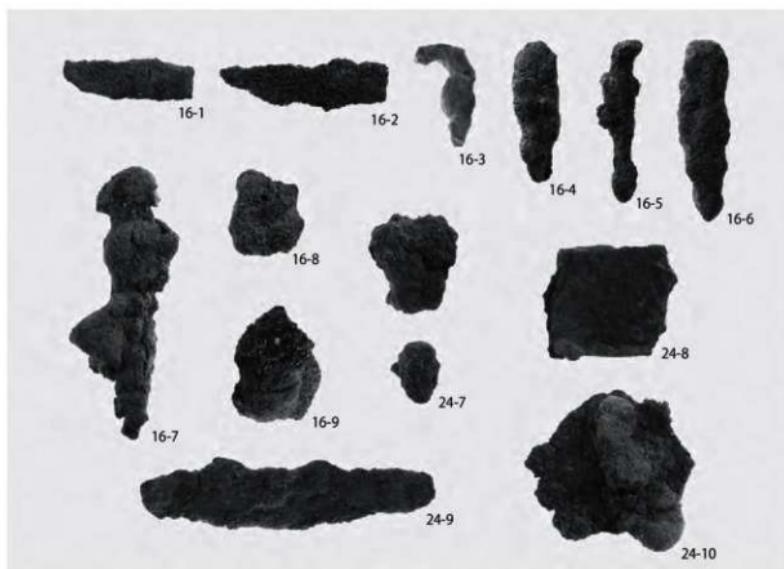
1. 遺構外出土遺物



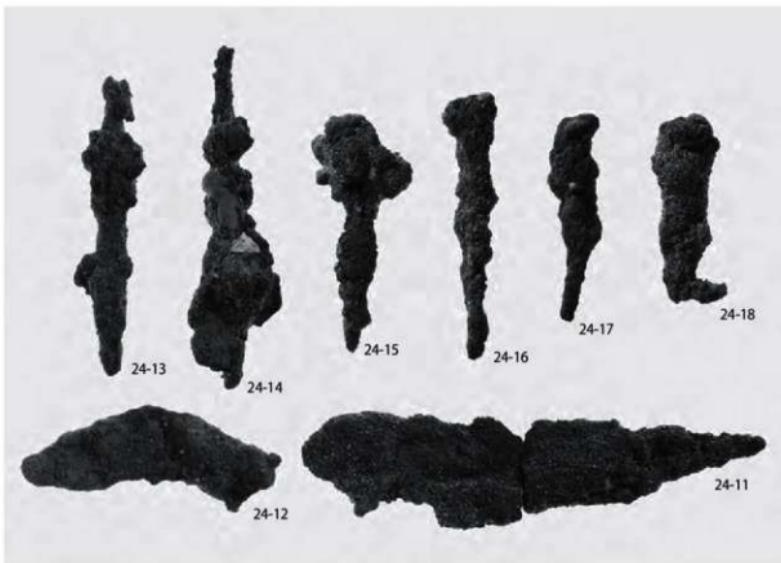
2. 遺構外出土遺物



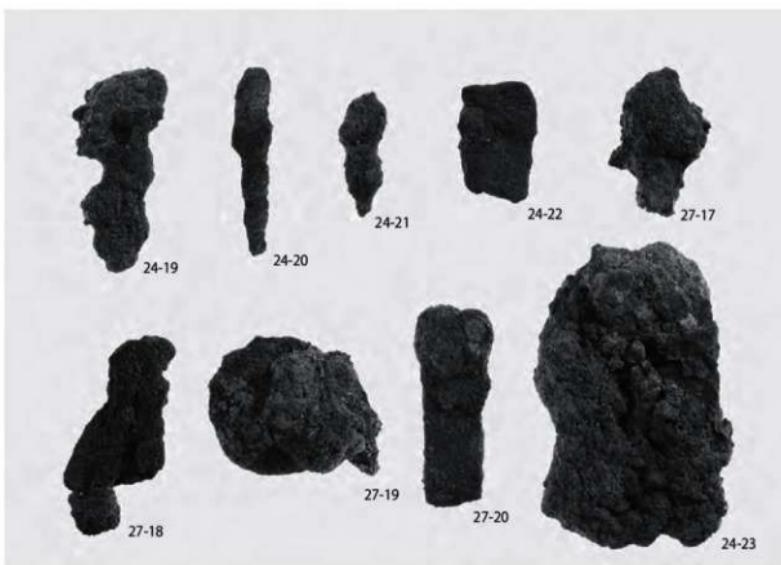
1. 遺構外出土遺物 / 鉄器集合 (鉄素材・未成品・小札)



2. SR01・02 出土遺物



1. SR02 出土遺物

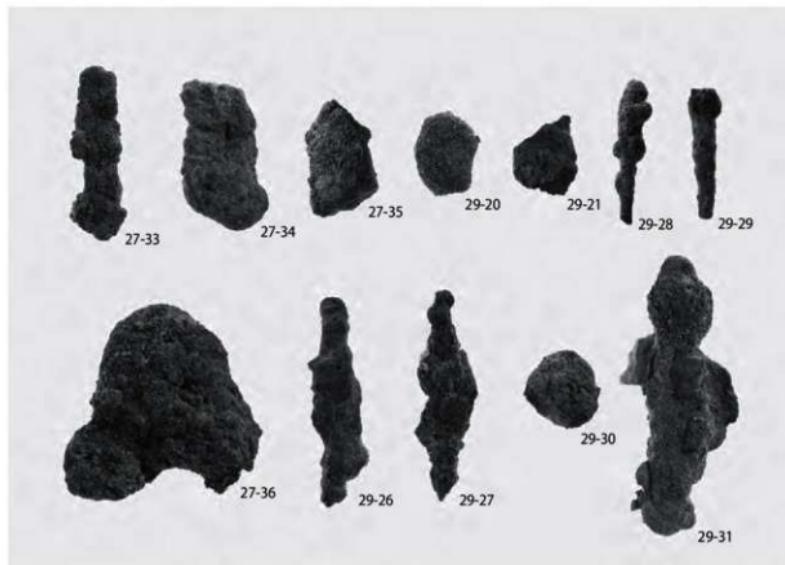


2. SR02・03 出土遺物

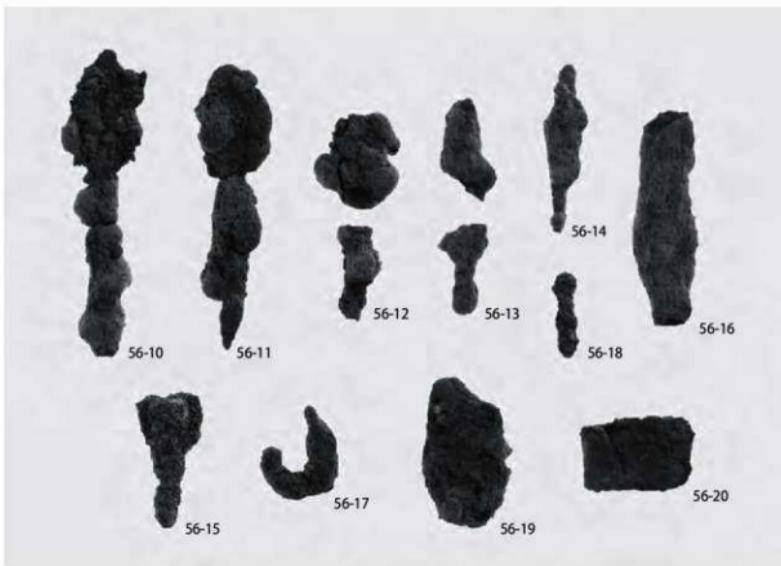
図版 82



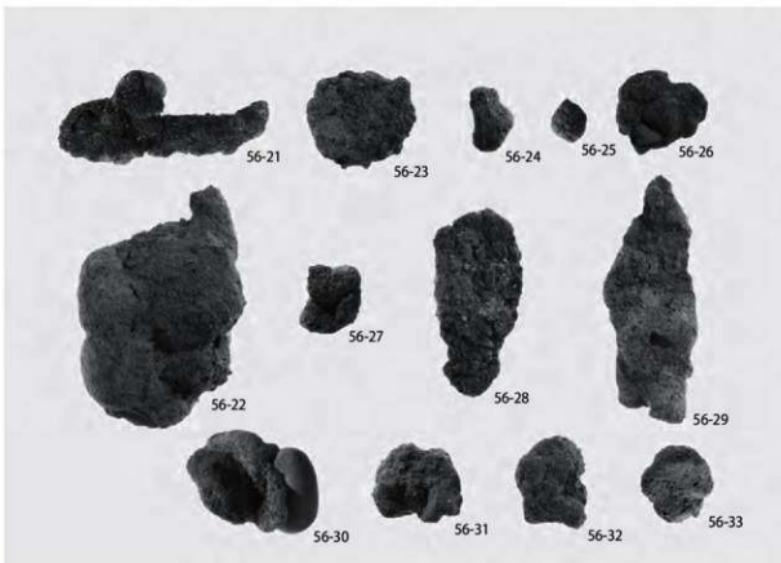
1. SR03 出土遺物



2. SR03・05・07 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物

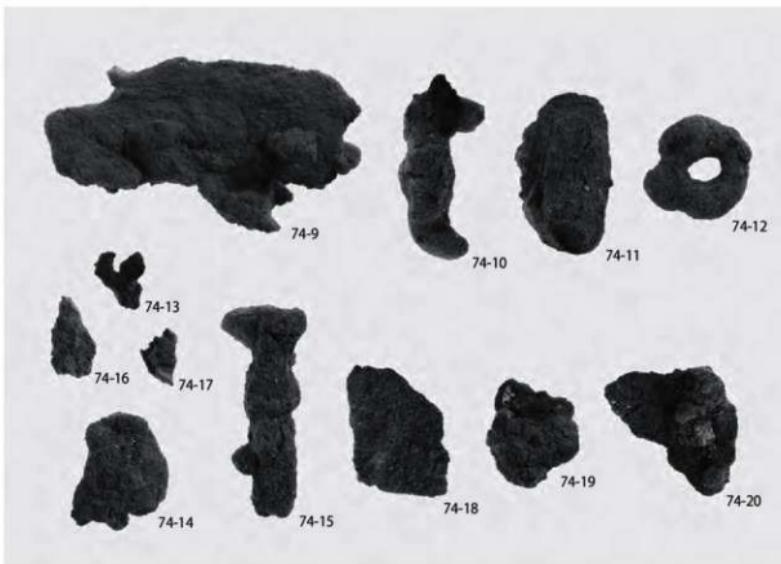
図版 84



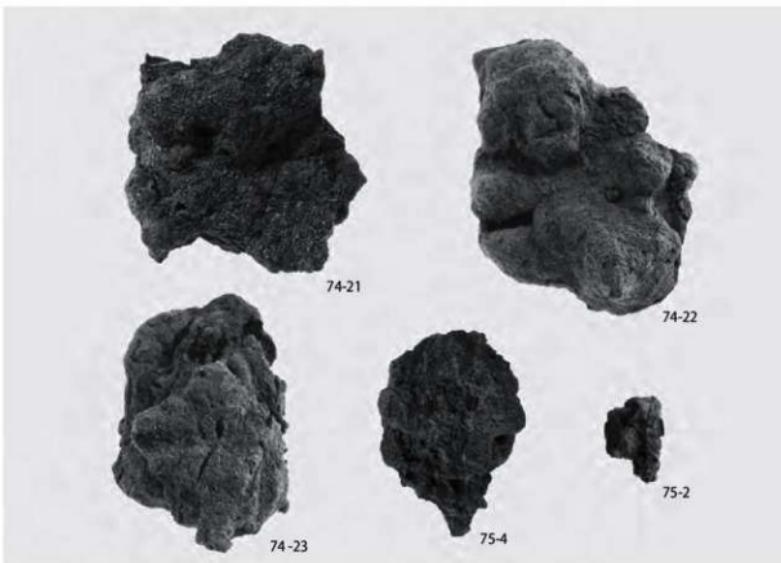
1. SR10 出土遺物



2. 遺構外出土遺物



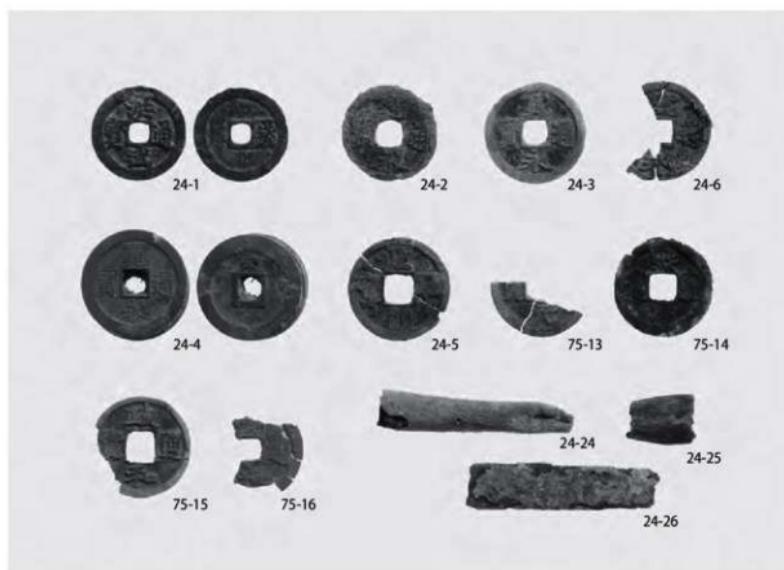
1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. SR02・遺構外出土遺物



2. SR02・遺構外出土遺物

報告書抄録

森原神田川遺跡下ノ原地区

**一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 3**

発行 2021年3月

発行者 島根県教育委員会

編集 島根県教育府埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地

電話 0852-36-8608

<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

印 刷 有限会社 伊藤印刷

〒 693-0006 島根県出雲市白枝町 423

電話 0853-23-3200

(見返し)

(見返し)

(白)

(裏表紙)